医療業績集2020

Medical Achievements

目　次

はじめに・理念・沿革 …… 1

愛仁会グループ施設紹介 …… 3

Ⅰ．千船病院
- 内科
  - 循環器内科 …… 7
  - 糖尿病内分泌内科 …… 8
  - 糖尿病・減量外科 …… 9
  - 消化器内科 …… 11
  - 脳卒中内科 …… 12
  - 腎臓内科 …… 13
  - 総合内科 …… 14
- 外科 …… 15
- 画像診断科 …… 16
- 病理診断科 …… 17
- 小児科 …… 19
- 整形外科・関節センター …… 21
- リハビリテーション科 …… 23
- 脳神経外科 …… 25
- 救急診療部 …… 26
- 泌尿器科 …… 27
- 皮膚科 …… 28
- 産婦人科 …… 29
- 眼科 …… 32
- 耳鼻咽喉科 …… 33
- 麻酔科 …… 34
- 愛仁会地域ケアセンター …… 35

Ⅱ．高槻病院
- 内科
  - 総合内科 …… 39
  - 呼吸器内科 …… 40
  - 消化器内科 …… 41
  - 循環器内科 …… 42
  - 糖尿病内分泌内科 …… 43
  - 血液内科 …… 44
  - 不整脈センター …… 45
  - 救急総合診療科 …… 46
  - 総合救急医療センター …… 47
  - 腎臓内科・血液浄化センター …… 48
  - 脳神経内科 …… 49
  - 精神科 …… 51
  - 病理診断科 …… 53
- 小児科・新生児小児科
  - 外来・小児病棟 …… 55
  - NICU・GCU …… 56
  - PICU …… 57
- 小児外科 …… 58
- ICU …… 60
- 外科
  - 呼吸器外科 …… 61
  - 心臓血管外科 …… 62
  - 消化器外科 …… 63
  - 乳腺外科 …… 65
- 脳神経外科 …… 67
- 小児脳神経外科 …… 68
- 整形外科・関節センター …… 69
- 泌尿器科 …… 70
- 腎移植科 …… 71
- 皮膚科 …… 72
- 形成外科 …… 73
- 産婦人科
  - 産科 …… 74
  - 婦人科 …… 75
- 眼科 …… 76
- 耳鼻いんこう科 …… 77
- 放射線診断科 …… 78
- 放射線治療科 …… 82
- 麻酔科 …… 83
- リハビリテーション科 …… 84

Ⅲ．愛仁会リハビリテーション病院
- 診療部総括 …… 89

Ⅳ．しんあい病院
- 診療部総括 …… 93

Ⅴ．しんあいクリニック
- しんあいクリニック …… 97

Ⅵ．明石医療センター
- 総合内科 …… 101
- 救急科 …… 103
- 呼吸器内科 …… 104
- 循環器内科 …… 106
- 消化器内科 …… 107
- 腎臓内科 …… 108

糖尿病・内分泌内科 …… 110
小児科 …… 112
放射線科 …… 114
病理診断科 …… 115
外科 …… 116
心臓血管外科 …… 118
呼吸器外科 …… 119
整形外科 …… 120
産婦人科 …… 121
麻酔科 …… 123
集中治療科 …… 125
医師卒後臨床研修 …… 126

Ⅶ．尼崎だいもつ病院
診療部総括（病棟，外来）…… 131

Ⅷ．井上病院
循環器内科 …… 135
腎臓内科 …… 136
糖尿病内科 …… 137
消化器内科 …… 138
透析内科 …… 139
外科 …… 140
心臓血管外科 …… 141
整形外科 …… 143
泌尿器科 …… 144
放射線科 …… 145
麻酔科 …… 146
リハビリテーション科 …… 147
リウマチ科 …… 148
眼科…… 149

Ⅸ．井上病院附属診療所
腎移植外来 …… 153

Ⅹ．井上診療所
井上診療所…… 157

統計総括 …… 161

外部研修・研究実績 …… 169

はじめに

本医療業績集は 2020 年 1 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日までの法人活動を対象とした業績報告である．

社会医療法人愛仁会 理念

1．広く社会のためにより良い医療サービスを提供し，健康で豊かな生活の増進に貢献する．
2．法人活動の成果は明日の医療の発展と福祉の向上に活用する．
3．地域社会との協調を深め，創意工夫をこらして法人の健全な発展を図る．
4．医療人としての使命を自覚し，学識・技術の研鑽と人間性の向上に努める．
5．自主性と和の精神を重んじ，法人に働く誇りと喜びを共にする．

モットー

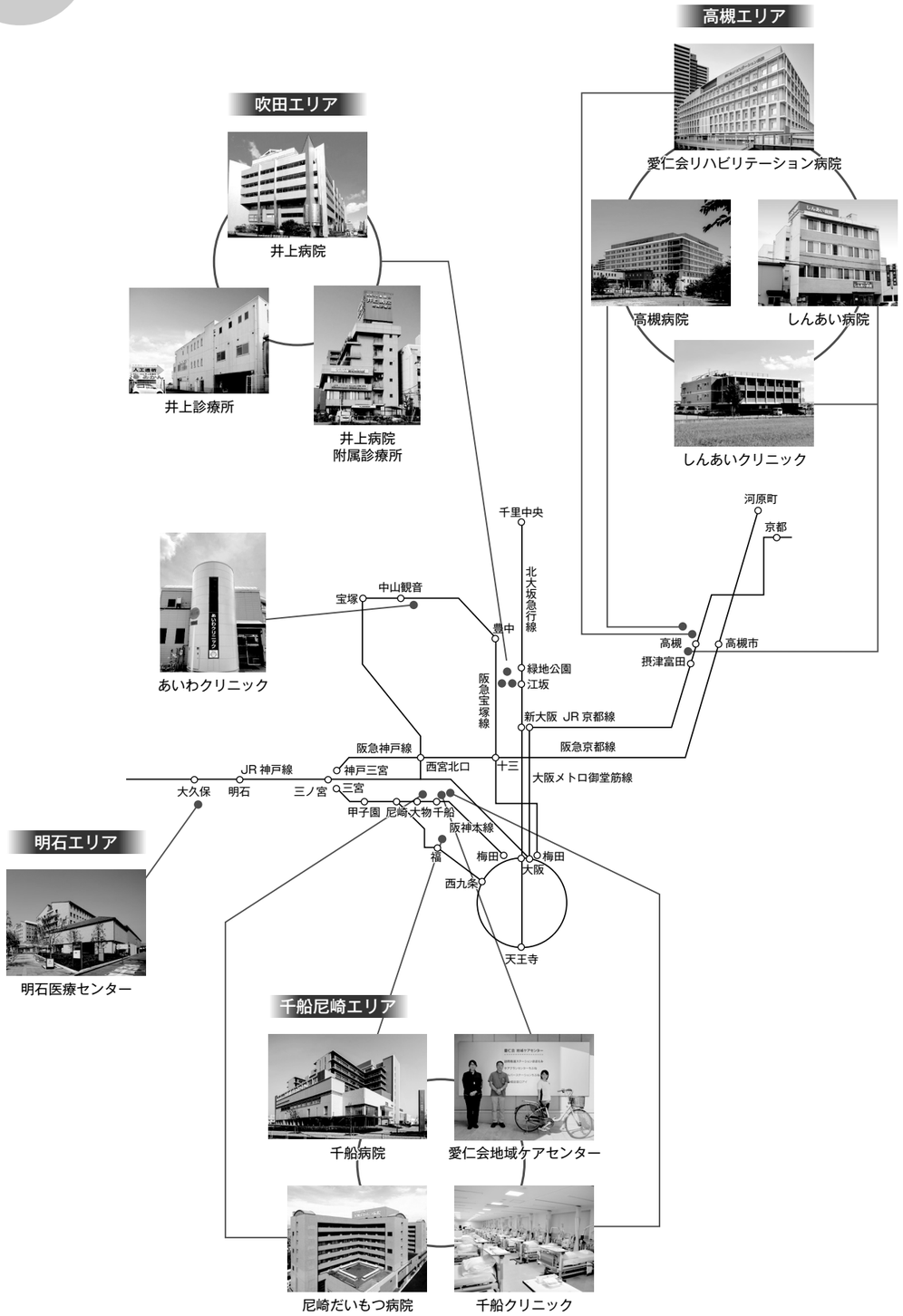
●貢献　●創意　●協調

沿革

1958年11月 1日　医療法人設立認可
1959年 1月11日　医療法人愛仁会千船診療所発足
1966年 5月 1日　千船病院開院（94床）
1971年 5月 2日　千船病院増築竣工開院（191床）
1977年 6月10日　本部事務局発足
11月 1日　高槻病院竣工開院（180床）
1980年 4月 1日　愛仁会看護専門学校開校
1982年 4月 1日　高槻病院新築移転開院（302床）
7月 1日　千船病院新築移転開院（292床）
1983年 4月 1日　理学診療科病院開院（186床）
1984年 9月 1日　杏和総合医学研究所設立
1985年 3月23日　竹中普久先生名誉理事長就任
4月 1日　中後勝先生理事長就任
1987年 3月18日　特定医療法人認可
8月 1日　高槻病院増築竣工開院（477床）
1989年 4月 1日　愛仁会新理念制定
1991年 4月 1日　本部事務局を愛仁会本部と名称変更
1995年 8月 1日　介護老人保健施設「ユーアイ」竣工（入所100名）
1996年 8月 1日　訪問看護ステーション「ほほえみ」設立
8月 1日　千船病院　開放型病院認可
1997年 4月 1日　愛仁会看護助産専門学校に改称（助産学科新設）
4月 1日　高槻病院　厚生省臨床研修指定病院に認可
5月13日　中後理事長「藍綬褒章」受章
9月 1日　介護老人保健施設「ケーアイ」竣工（入所100名）
12月 1日　高槻病院　開放型病院認可
1998年 2月 1日　訪問看護ステーション「スマイル」設立
2月 9日　千船病院　病院機能評価認定証交付
4月 1日　在宅介護支援センター「ケーアイ」設立
5月19日　高槻病院　病院機能評価認定証交付
1999年 1月26日　高槻病院　救急告示病院に認可
4月 1日　理学診療科病院，愛仁会リハビリテーション病院に名称変更
10月28日　社会福祉法人愛和会設立認可
2000年 4月 1日　ヘルパーステーションユーアイ，ケーアイ活動開始
5月15日　愛仁会リハビリテーション病院　病院機能評価認定証交付
10月 1日　社会福祉法人愛和会　複合福祉施設開設
2001年 1月26日　あいわ診療所開院
4月 1日　中後勝先生　会長就任
根岸宏邦先生　理事長就任
千船病院　厚生労働省臨床研修指定病院に認可
職員共済会「親愛会」発足
8月 4日　高槻病院　東館開設
10月 1日　高槻病院　総合周産期母子医療センター棟開設
2002年 1月10日　社会福祉法人豊中愛和会設立
5月13日　中後会長　勲四等瑞宝章受章
2003年 4月 1日　社会福祉法人豊中愛和会　総合福祉施設ローズコミュニティ・緑地開設
4月22日　本部保健福祉事業部 ISO9001取得
9月 9日　根岸理事長　救急医療功労者厚生労働大臣賞受賞
12月15日　高槻病院　病院機能評価更新認定
2004年 2月 1日　高槻病院，愛仁会リハビリテーション病院電子カルテシステム導入
2月16日　千船病院　病院機能評価更新認定
4月 1日　高槻あいわ保育園・あいわ児童館開設
杏和総合医学研究所　滅菌センター開設
7月 1日　千船病院附属千船クリニックス開院
千船病院，千船病院附属千船クリニックス電子カルテシステム導入
7月24日　愛仁会リハビリテーション病院日本リハビリテーション医学会研修病院認定
12月 1日　愛仁会千船在宅サービスセンター設立
2005年 5月15日　愛仁会リハビリテーション病院病院機能評価更新認定
7月30日　千船病院　全館改修工事終了
8月31日　特別医療法人認可
12月28日　高槻病院　地域医療支援病院認定
2006年 2月17日　根岸理事長，山門常務理事大阪府知事賞受賞
2月20日　愛仁会リハビリテーション病院病院機能評価付加機能（リハビリテーション機能）評価認定
4月 1日　高槻北地域包括支援センター，緑地地域包括支援センター設立
4月20日　本部　ISO9001取得
6月 1日　千船病院　7対1看護 承認
千船病院・高槻病院　NICU増床
7月 1日　ケアプランセンターケーアイ開設
7月29日　千船病院　人間ドック機能評価認定

2007年 4月 1日　根岸宏邦先生　会長就任
筒泉正春先生　理事長就任
9月29日　第1回　介護福祉施設合同業務改善成果発表会開催
10月 1日　愛仁会リハビリテーション病院増床（225床）
11月 8日　高槻病院　人間ドック機能評価認定
11月14日　千船病院　地域周産期母子医療センター認定
2008年 1月29日　千船病院　卒後臨床研修評価認定
2月 9日　千船病院　病院機能評価更新認定
4月 1日　愛仁会総合健康センター開設
長尾地域包括支援センター設立
4月11日　千船病院　消化器内視鏡センター開設
5月 1日　愛仁会総合健康センター附属デイサービスセンター開設
5月18日　高槻病院　病院機能評価更新認定
8月 2日　高槻病院　WHO・ユニセフ「赤ちゃんにやさしい病院（BFH）」認定
10月 5日　愛仁会グループ創立50周年記念大スポーツ大会開催（なみはやドーム）
11月 1日　愛仁会グループ創立50周年記念行事開催
2009年 1月 1日　特別・特定医療法人愛仁会から社会医療法人愛仁会に移行
3月30日　千船病院バースセンターリニューアルオープン
4月 1日　千船病院附属千船腎臓・透析クリニック開設
ユーアイデイサービスセンターなごみ開設
愛仁会本部学術部に国際課設置
5月31日　社会福祉法人豊中愛和会　多機能型事業所あすなろ　あすなろ麺，モンド・セレクション2009金賞受賞（2010年，2011年と3年連続金賞受賞）
10月 2日　「第11回フォーラム　医療の改善活動 in 大阪」筒泉理事長を大会長として運営を担当
11月16日　社会医療法人愛仁会　中期事業計画策定
12月 4日　明石医療センター　病院機能評価Ver.6認定
2010年 3月 5日　愛仁会リハビリテーション病院
病院機能評価更新認定
4月 1日　社会福祉法人豊中愛和会
ローズコミュニティ・豊中南開設
5月 8日　愛仁会看護助産専門学校　創立30周年記念行事開催
6月 5日　第1回愛仁会フォーラム開催
10月17日　社会福祉法人愛和会　10周年記念を祝う会開催
11月 6日　「第20回日本新生児看護学会学術集会」（於 神戸）高槻病院で運営を担当
2011年 1月 7日　愛仁会リハビリテーション病院
病院機能評価（リハビリテーション付加機能）更新認定
1月30日　第1回愛仁会グループ看護・介護学会開催
3月18日　フィリピン大学，フィリピン総合病院との人材交流プログラム開始
4月 1日　医療法人社団明石医療センター設立
7月 1日　愛仁会リハビリテーション病院
新築移転（MUSEたかつき）開院
9月 1日　ケアプランセンター愛仁会富田開設
10月25日　第3回　日中韓看護学会参加（於 ソウル）
2012年 1月 1日　ヘルパーステーション愛仁会富田開設
5月 1日　千船クリニックス　千船病院へ統合
5月19日　豊中愛和会　創立10周年記念行事開催
6月 1日　医療法人社団　明石医療センター，医療法人仁愛会　田畑胃腸病院と合併
8月29日　第1回愛仁会グループリハビリテーション部門学術大会開催
2013年 1月 1日　おかじま病院開院，介護付有料老人ホームスローライフおかじま開設
1月18日　千船病院　病院機能評価Ver.6認定
2月13日　第1回　愛仁会・神戸大学・フィリピン大学フィリピン総合病院国際会議開催
3月21日　医療法人社団　明石医療センター　特定医療法人　承認
4月 1日　社会福祉法人愛和会，社会福祉法人豊中愛和会を社会福祉法人愛和会として合併
4月 6日　愛仁会看護助産専門学校　新校舎移転，看護学科2クラス定員80名に
6月 7日　「第41回日本小児神経外科学会」（於 大阪）高槻病院　山崎麻美副院長を大会長として高槻病院で運営を担当
7月 1日　高槻病院院内保育園「にじっこ保育園」，愛仁会看護助産専門学校1階に新設開園
7月27日　明石医療センター南館オープン
許可病床数382床に増床
10月 1日　カーム尼崎健診プラザ開設
2014年 4月 1日　医療法人進愛会と合併
カーム尼崎健診プラザ健診事業開始
8月 1日　宝塚あいわ苑訪問看護ステーション開設
10月 1日　社会福祉法人ますみ会を承継
10月27日　高槻病院 新病院I期棟 開設
11月 1日　明石医療センターNICU稼動
12月 1日　高槻病院PICU開設
2015年 1月 1日　明石医療センター　社会医療法人認可
1月 7日　明石医療センター泌尿器科外来開設
3月31日　筒泉正春先生　理事長退任
4月 1日　内藤嘉之先生　理事長就任　→現在に至る
7月 3日　高槻病院不整脈センター開設
2016年 1月 4日　社会福祉法人愛和会（宝塚地区）にあいわ結愛ガーデン開設
4月 1日　社会医療法人愛仁会，社会医療法人明石医療センターと合併
尼崎だいもつ病院開設
10月23日　「第44回国際小児神経外科学会（ISPN2016）」（於 神戸）高槻病院　山崎麻美副院長を大会長として開催
2017年 2月 4日　第1回愛仁会学術大会開催
4月 1日　社会福祉法人ますみ会と合併
5月 8日　高槻病院 新病院Ⅱ期棟 開設
6月 1日　介護老人保健施設だいもつ，レジリエンスだいもつ開設
7月 1日　千船病院 新築移転 開院
7月20日　「第67回日本病院学会」（於 神戸）内藤嘉之理事長を大会長として開催
2018年 2月24日　「第11回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会」（於 大阪）愛仁会リハビリテーション病院　吉田和也院長を大会長として開催
3月31日　おかじま病院 閉院，杏和総合医学研究所 閉所
6月 1日　高槻病院新築Ⅲ期工事竣工 グランドオープン
8月　愛仁会地域ケアセンターに在宅事業（千船地区）を集約移転
2019年 4月 1日　特定医療法人蒼龍会と合併
社会福祉法人愛和会 宝塚地区
Waiwai コミュニティあいわ開設
6月 1日　あいわクリニック開設
2020年 7月　ベトナム・ドンア大学との国際業務提携締結

愛仁会グループ施設紹介



I

千船病院

7:1急性期病院
地域周産期母子医療センター
地域医療支援病院
大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関
MFICU/NICU·GCU/ICU
全292床

〒555-0034
大阪府大阪市西淀川区福町3丁目2番39号
TEL.06-6471-9541

院長　吉井勝彦

循環器内科

スタッフ紹介

2020年は3月末で松森佳子医員が非常勤となり，栗本浩行専攻医が退職したため，尾崎正憲副院長，板垣　毅主任部長，足立和正部長，濱田晶子医長，髙橋典子専攻医の常勤医5人の体制となった．

診療内容

循環器内科では，虚血性心疾患，心筋症，心臓弁膜症，二次性高血圧，不整脈疾患，閉塞性動脈硬化症，肺血栓塞栓症など循環器疾患一般について幅広く診療を行っている．外来診療では非侵襲的検査と必要に応じて侵襲的検査を組み合わせて行い，医学的根拠に基づいて治療方針を決定している．入院診療ではカテーテルによる心血管インターベンションに力を入れている．虚血性心疾患に対する冠動脈インターベンション（PCI），末梢動脈に対する血管内治療（EVT），頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション，徐脈性不整脈に対するペースメーカー植え込み術，静脈血栓塞栓症に対する下大静脈フィルター留置などが施行可能である．また急性心不全，重症心不全症例に対してICU/CCUでの集中治療が可能である．原発性アルドステロン症については局所的な副腎静脈採血（AVS）を行うことで原発巣の局在診断が可能となってきており，泌尿器科との連携で根治術へと繋げることが可能となっている．近年，画像診断として心臓MRIが注目されているが当科でも遅延造影，T1mapの撮像が可能であり，非侵襲的な診断補助手段として活用するようになり次第に件数が増えている．

教育面では，毎週定期的に病棟カンファレンス，英文論文抄読会，心エコーカンファレンス，アンギオカンファレンスを行い，研修医にも積極的に参加を促し，抄読会は英語論文の読解力を向上し，最新の循環器系研究の知識を得る場としている．

2020年のトピックス・実績

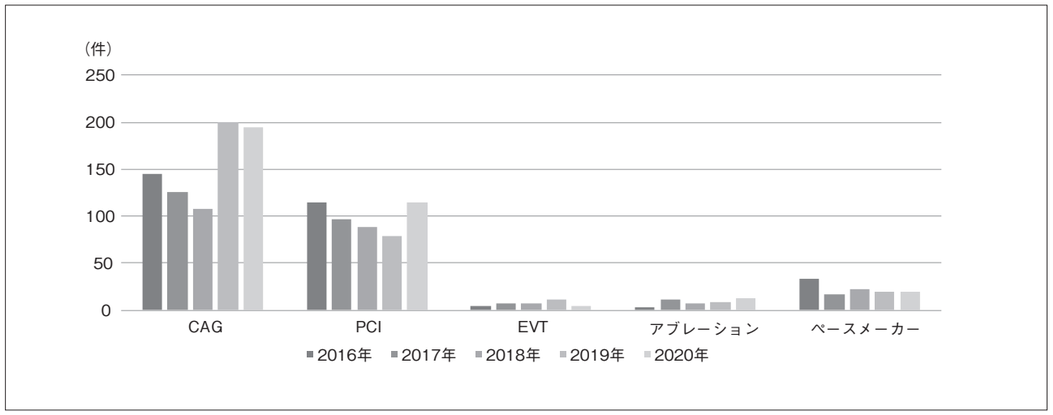
2020年は新型コロナウイルス感染症感染予防対策のため待機的検査，治療入院の制限が行われた．その影響で当科のカテーテル検査，治療も昨年より減少した．新たなトピックとしては，リードレスペースメーカー植え込みが可能となり，12月に1例目を無事に実施できた．心不全で入院した患者を対象として，多職種による心不全教室，心臓リハビリテーションを継続しており，心不全連携パスも完成した．

主な診療実績：冠動脈造影検査195件，PCI 111件，EVT 4件，アブレーション12件，ペースメーカー植え込み19件，IVCフィルター3件など

主な学術実績：第230回日本内科学会近畿地方会において症例報告を行った．

今後の展望

虚血性心疾患，心不全，不整脈などの心疾患をトータルで診療し，24時間のオンコール体制を維持して救急患者を積極的に受け入れていく．慢性心不全の地域連携パスが完成したので，今後近隣の医療機関と連携し普及させていく．



図．診療実績

糖尿病内分泌内科

スタッフ紹介

髙橋哲也　（主任部長，1989年卒）
中島進介　（医長，2008年卒）
佐藤洋幸　（医員，2013年卒）（2020年3月退職）
佐々木百合子（医員，2015年卒）
大島令子　（専攻医，2017年卒）

診療内容

2020年の専門外来の診療体制であるが，髙橋3単位，中島3単位，佐藤3単位を担当し，神戸大学糖尿病内分泌内科より4名の非常勤医師が派遣され，佐々木由佳医師が1単位，松山医師が2単位，他2名の医師が各1単位を担当した．甲状腺エコーについては引き続き井上病院大野副院長が4週に1回（0.25単位）を担当いただいた．また療養支援外来を糖尿病認定看護師の田中友香看護師が週1単位を担当した．

なお，大学の人事異動により2020年4月佐藤洋幸医師に代わり佐々木百合子医師が赴任，大島令子医師が2020年4月から産休となった．

また，肥満・糖尿病内分泌センターとして，減量外来（糖尿病・減量外科 北濵部長，4単位担当）での患者は遠方からの受診も多く，髙橋・中島が随時糖尿病内分泌内科での併診対応を行った．

病棟においては糖尿病（1型・2型・妊娠糖尿病）及び高度肥満症の教育入院，内分泌検査入院，外科系周術期，化学療法，ステロイド療法時などの血糖管理を中心に行った．当院のNST活動についても引き続き，栄養管理科，薬剤科，理学療法科でチームを構成し週1回のNST回診を行った．

2020年のトピックス・実績

2020年の実績は外来糖尿病患者1,766名，教育入院128名と前年と同様の結果であった．内分泌疾患においても主に外来となるが，甲状腺疾患897名，副甲状腺疾患16名，下垂体疾患53名，副腎疾患60名となっていた．減量・糖尿病外科の年間手術件数は合計86件で，術前・術後と糖尿病，内分泌疾患のある患者について当科で併診を行った．

当科及び糖尿病・減量外科と共同して学術活動を行ったが，新型コロナウイルス感染症の影響もあり当科が中心となった学会発表は5件であった．

今後の展望

糖尿病内分泌内科としては，特に2型糖尿病の治療の進歩により日常の診療も大きな変革期にかかっている．特にDPP=4阻害薬，GLP-1アナログ製剤の進歩，SGLT2阻害薬の登場などにより，従来の薬剤より確実な血糖降下が得られるだけでなく，糖尿病の合併症の抑制も期待される．2型糖尿病の診療も入院などの必要性が減少し，外来が教育・診療の中心となってくると思われる．

当科としても外来診療の充実がより必要であると考えている．糖尿病認定看護師，栄養管理科と連携し外来での教育指導などの在り方も見直し，外来診療の中で効率のよい，適した形にしていく必要があり，検討を進めている．

また，当科では肥満・糖尿病内分泌センターとして糖尿病・減量外科，栄養管理科，リハビリテーション科と強固な連携があり，肥満症の外来・手術件数も順調に増加しており，来期より睡眠時無呼吸症候群をはじめとする肥満・睡眠関連呼吸器障害を専門とする呼吸器内科が加わる予定である．肥満を中心とした糖尿病・内分泌の診療の幅をより広げることが期待される．

千船病院肥満・糖尿病内分泌センターのこれらの特徴を学会や研究会でアピールすることで，地域と関西の主要病院との連携，さらに大学との連携を深めていきたい．

糖尿病・減量外科（肥満・糖尿病内分泌センター）

スタッフ紹介

北濵誠一　（部長/センター長，2002年卒）

診療内容

2020年の外来診療体制では，月曜日午前の減量術後外来，午後の減量外来，金曜日の外科外来枠（担当北濵）は95%以上が減量若しくはGERD患者であり，4単位が減量・GERD関連の外来となっている．

減量外来では，栄養指導，運動療法，内服加療を行いながら手術適応のスクリーニングを行っている．糖尿病内分泌内科と密に連携の上，主に外来で2次性肥満の否定，周術期の血糖管理を行い，重症例や遠方の場合には積極的に教育入院を行った．減量チームコアメンバーによる減量カンファレンスを毎週，減量外来を円滑に行うための減量外来カンファレンスは月に1回，ICUとのカンファレンスは外科と合同で週1回行っている．

高度肥満症に伴う11の合併疾患に対しては関連各科や減量チームスタッフ，看護部等の協力を得ながら“All 千船”で診療に当たっているが，これを実現するに当たり減量コーディネーターの果たす役割は年々大きくなっている．

またGERD診療ガイドラインが近々改定される予定であるが，内科的治療抵抗性の胃食道逆流症に対しては，粘膜障害の明らかでないNERDにおいても積極的に24時間pHインピーダンスモニタリングを行い，中津済生会病院とも連携して食道内圧検査も実施の上で総合的に手術適応を判断している．

2020年のトピックス・実績

①(i) 手術件数，新型コロナウイルス感染症がまん延している中での対応，在院日数削減の試み

緊急事態宣言の際には速やかに手術を延期し，減量外来，栄養指導とも積極的に電話再診を行うことで可能な限り患者ニーズに応え，宣言明けのスムーズな手術加療へ繋げた．結果として手術件数は86件（前年比126%）と順調に増加した．減量総手術件数は250例となり，外来延べ患者数は1,675名と年々増加傾向にあるが，減量コーディネーターによる検査オーダーのセット化，テンプレート作成等により診療介助事務員の業務効率の大幅な改善がなされ，比較的スムーズな運営が可能となった．

減量手術を行う病院においても，入院自体の制限や，麻酔科による手術制限などにより手術の目処が立たない病院が多くなったが，当科では術前後入院期間を可能な限り短縮することで看護部の負担をできる限り軽減しつつ，重症化リスクを複数抱える病的肥満症患者のニーズに応じる方針とした．減量術後平均在院日数は2016年の手術開始当初は4.9日であったが，クリニカルパスの遵守，スタッフの尽力もあり，困難症例のお断りが皆無であるにもかかわらず2020年には約30%の短縮が可能となり，3.5日まで減少した．手術の安全性についても論文化し示すことが出来た（後述）．

(ii) 聖路加国際病院への技術支援

新たに減量手術を導入するに当たり，当院への技術協力依頼があり，講演及び手術見学の受け入れを行った．栄養科による講義はオンラインで行った．

②科名変更

糖尿病に対する外科治療の存在を一般の患者へ知っていただくことをねらいとして科の名称を減量・糖尿病外科から糖尿病・減量外科へと変更した．徐々にではあるが糖尿病を手術で治療したい，若しくは発症を予防したいという患者さんの来院が増加傾向である．

③学術面での業績

(i) 学会評議員への就任

日本では肥満症に関する学会は2つあるが，双方の学会の評議員へ選出された．日本肥満学会の外科系評議員は現在4名のみであり，今後も本邦における肥満症治療の進歩に貢献していきたい．

(ii) 第10回近畿肥満外科治療研究会の開催

半年に一度持ち回りで開催する，主に実臨床に役立つことを目的とした研究会である．2年前より世話人に推薦されたが，記念すべき第10回は北濵が当番世話人となり新型コロナウイルス感染症がまん延している中で初めてオンラインでの開催となった．糖尿病内分泌内科中島進介先生による周術期の糖尿病管理，共同研究を行っている神戸大学循環器内科吉田尚文先生による腸内細菌の話題，神戸大学小川 渉教授による特別講演と，内容が濃く興味を引くものであったこともあり，全国から肥満症治療では大御所の先生方の参加を含め123名と過去最大（例年の3倍）の盛会となり，ディスカッションも大いに盛り上がった．

(iii) 日本循環器内科学会総会　指定講演

夏に行われた日本循環器学会でのインターナショナルセッションでのディベートに指名され，「It's time to

consider bariatric surgery in Japanese patients（日本人患者に対しても減量手術を考慮するときが来た）」というタイトルで，減量手術のメリットについて英語でのプレゼンテーションを行った．慎重を要するという立場で発表されたコロンビア大学の循環器内科医とディベートを行い，討論後のvotingでは減量手術に賛成する医師の数はやや増加した．最近になり循環器内科からの紹介例が増加傾向にあるが，日本でも心疾患や肥満低換気症候群などのハイリスク症例については施設の習熟度に応じて徐々に適応拡大していく必要があると考えている．

(iv) 論文

「医学のあゆみ」肥満特集号への寄稿依頼があり「肥満に対する手術の実際」という題で，これまでの当院での減量・代謝改善手術184例についての手術成績を報告した．一般市中病院の単施設からの報告としては本邦では最大規模の症例数の和文論文となった．輸血を要する術後出血や縫合不全など緊急手術を要する合併症はなく，安全に手術を行えており，減量チームをはじめ関係各部署の協力もあり，良好な体重減少，血糖コントロールが得られていることを報告した．減量手術関連の英文論文は当センターから2本目となるが，神戸大学循環器内科吉田尚文先生との共著で減量手術前後での代謝産物の網羅的解析についての報告を行った．

(v) まとめ

2020年の当センターによる減量・代謝改善手術にまつわる学会発表は13件，座長2件，論文2本となった．

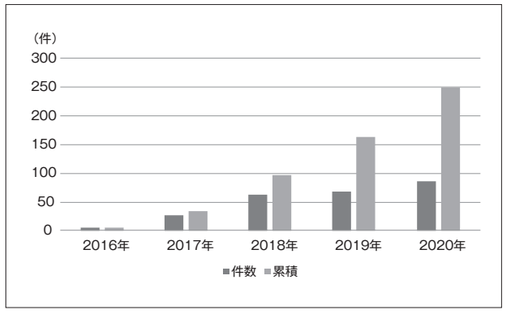
今後の展望

2021年には京都大学病院，神戸大学病院，聖路加国際病院への手術導入支援，それ以外に導入を希望する複数の施設から指導依頼を受けている．主に進行した糖尿病に対する術式である先進医療のスリーブバイパスを行うための施設基準を満たすこととなり，導入に向け準備中である．また，当院ではスリーブ術後のGERDに対する修正胃バイパス術を全国でも多く手掛けており，同術式について依頼原稿を執筆中である．

当院ではBMI80を超える患者もチーム医療で安全に加療してきたが，肥満低換気症候群や心不全合併例など更なる超ハイリスク症例の紹介が増えつつある．このような重症例は手術症例数の少ない大学病院などでは対応が難しいのが現状であり，当院が本邦に先駆けて症例を蓄積していく責を担っている．このような経緯もあり2021年には睡眠時無呼吸症候群など肥満呼吸関連障害を専門とする医師の参画を予定しており，更なる手術適応の拡大，安全性の担保に繋げたい．また，産業医や企業との連携を構築し，未受診の高度肥満症/SAS患者を受診に繋げ，肥満症をコントロールしつつ“All 千船”の各専門科へ紹介を行い，患者数の増加に貢献し院内の横の繋がりを更に強化していきたい．

手術ではなく内視鏡デバイスを用いた内視鏡的スリーブ状胃切除（ESG）の立ち上げを先駆けて当院で希望する消化器内科医の参画も見込んでおり，治療選択肢の増加を図りつつ大学との連携も加速させていきたい．

新型コロナウイルス感染症がまん延している中で手術や教育入院の制限が断続的に続いていくと予想されるが，高度肥満症や糖尿病は重症化のリスクファクターとされており，入院前からの患者教育の徹底，手術当日からの早期リハビリを徹底し術後在院日数を極力減少させることで病床数や看護の負担を最低限とさせる方針を徹底していく予定である．



図．手術実績

消化器内科

スタッフ紹介

船津英司（1998年卒）
　日本内科学会総合内科専門医
　日本消化器内視鏡学会指導医・専門医
　日本消化器病学会指導医・専門医
　日本肝臓学会認定肝臓専門医
　日本膵臓学会指導医
那賀川　峻（2007年卒）
　日本内科学会総合内科専門医
　日本消化器内視鏡学会専門医
　日本消化器病学会専門医
　日本膵臓学会指導医
板東正貴（2012年卒）
　日本内科学会認定医
　日本消化器病学会専門医
羽鳥広隆（2013年卒）
　日本内科学会認定医
　日本消化器病学会専門医
名方勇介（2015年卒）
　日本内科学会認定医
南條　望（2017年卒）
西川浩介（2017年卒）
瀧本　将（2018年卒）

診療内容

船津は消化器内科主任部長として消化器疾患の診療全般の統括に当たり，他常勤医の技術指導・診療支援も行っている．また消化器内視鏡センター長として看護部及び技術部放射線技師との連携をとりながら，内視鏡センターの運営・統括を行っている．那賀川は消化器内科医長として，船津とともに後進の消化器内科医師の技術指導・診療支援を行いつつ，学会発表の指導にも尽力している．板東・羽鳥・名方は一連の消化器内視鏡技術を習得し，通常検査業務を主力としてこなしつつ，より高度な技術習得を目指し日々修練に励んでいる．南條・西川・瀧本は後期レジデントとして日々消化器内科疾患の検査・診療において研鑽を積んでいる．診療体制は月曜日から金曜日の午前・午後に消化器専門外来を開設し，検査業務として月曜日から金曜日までの午前は上部消化管内視鏡検査・腹部超音波検査を行い，月曜日から木曜日までの午後に下部消化管内視鏡検査を行っている．胆膵内視鏡検査は月曜日から金曜日の午後に行っている．休日夜間診療は，オンコール体制にて消化器系救急疾患に緊急対応している．紹介患者に関しては，全て消化器科専門医が初療に当たり，緊急を要する症例に対しては，救急外来にて迅速な診断・処置を行っている．

2020年のトピックス・実績

2020年は4月より名方が後期レジデントからスタッフとなり，内科専門医プログラムに沿って西川が高槻病院に異動となり，瀧本が明石医療センターから異動となっている．新型コロナウイルス感染症の蔓延により，外来受診者及び内視鏡件数の減少を認めているが，胆道系疾患などの消化器救急症例は増加しており，胆膵関連処置は例年どおりの件数を維持している．消化器診療以外に院内発熱外来や新型コロナウイルス感染症入院診療に協力している．学会活動は，消化器病学会近畿支部例会に2題の発表を行っている．年2回の愛仁会消化器カンファレンスは対面での開催が困難であり，今期は中断している．

今後の展望

今後も苦痛の少ない内視鏡検査，超音波内視鏡検査などの専門的な内視鏡検査を提供していくことで，地域の中で特殊性をもった消化器診療を広げていく．また症例蓄積を利用した学会報告を行っていくことにより，紹介患者の増加・地域医療への更なる貢献を実現していきたい．

表．内視鏡検査実績

（単位：件）

上部消化管内視鏡検査総数	3,283
胃癌検診	62
超音波内視鏡	243
ポリープ切除	8
ESD	22
止血術	57
静脈瘤	70
PEG	20
ステント・拡張術	28
異物除去	17

下部消化管内視鏡検査総数	1,812
ポリープ切除	611
ESD	16
止血術	51
ステント・拡張術	3

胆膵関連検査総数	320
EST	115
採石 / 砕石術	130
EBD	72
EMS	10
膵管ドレナージ	19
EUS 下ドレナージ	13
PTCD	7
PTGBA・PTGBD	24

脳卒中内科

スタッフ紹介

主任部長　瀧本　裕（1997年卒）
日本内科学会内科認定医・総合内科専門医
厚労省認定認知症サポート医
日本認知症予防学会専門医
日本救急医学会認定 infection control doctor
日本プライマリ・ケア連合学会近畿地区代議員

診療内容

①外来
毎週火曜日午後（もの忘れ外来），水曜日午前（脳卒中外来），木曜日午後（脳卒中外来）の枠を担当している．
②入院
主に脳梗塞の診療をしているが，めまいやしびれ，中枢神経感染症の治療に当たることも多く，救急部，耳鼻科，脳神経外科と共同診療することもある．西淀川区脳卒中地域連携パスを早い時期から導入しており，回復期リハ病院転院へのシームレスな運用に力を入れている．2019年度は当院と後送病院の担当者（医師，リハ科，MSW）にて3か月に1度定例会議を開いていたが，2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により会議開催ができず，書面にて情報を共有し地域医療・他職種連携を行った．
③嚥下造影（VF）検査・嚥下回診
リハ科（言語聴覚士）と協同し，毎週水曜日にVF検査を行っている．近隣の施設（介護老人保健施設など）からの依頼件数は新型コロナウイルス感染症の影響により減少傾向となった．また，嚥下チームを組織し，隔週木曜日には入院患者を対象にした嚥下回診を行っている．2019年度に引き続きVE検査を用いた回診方法を検討中であったが，今後は耳鼻科が主に担当することになる．
④もの忘れ外来
言語聴覚士による神経心理検査とVSRAD（脳MRIによる海馬傍回体積測定），SPECT（脳血流IMP）などを行い，認知症診断を行っている．当院はSPECTが施行可能な点で非常に有利な環境であり，特にレビー小体型認知症の鑑別が容易である．認知症専門チームで診療することから，疾患そのものだけではなく，福祉サービス導入などの環境調整もきめ細かくサポートしている．このように，当科はハード面・ソフト面からも認知症診療に絶対的な自信がある．さらに，瀧本は認知症サポート医として大阪市認知症初期集中支援推進事業である陽だまり西淀川チームの主要メンバーとして関わっており，行政面でも活躍の場を広げている．2020年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり，初診患者はやや減少した．
⑤認知症サポートチーム（DST）
認知症による行動・心理症状やせん妄の発症により，身体疾患の治療への影響が見込まれる患者に対し，専門知識を有した多職種（医師，認定看護師，リハビリ科，薬剤師，栄養士，MSW）がチームとなり，週1回から週2回（火・木曜日）に病棟ラウンドを増やし実施した．介入件数も668件（前年比120%）と増加した．急性期病院としては国内でも有数の院内デイケア（通称：福ちゃん），認知症に悩む本人や介護者のための相談会（通称：すみれの会）について，2020年は新型コロナウイルス感染症の影響で開催できなかった．

2020年のトピックス・実績

①2020年の実績を表に示す．
②DST活動を院内に留まらず，エリア単位で行った．
③院内デイケア，認知症相談会が新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった．

今後の展望

①主任部長の異動により，後任の医師がいなくなるため，脳卒中診療は主に脳神経外科が担当することになる．
②地域として需要のあるもの忘れ外来は継続して行い，地域の活動も継続する．
③院内デイケアは新型コロナウイルス感染症の影響が改善すれば再開を検討している．認知症相談会に関しては主任部長不在のため終了となる．

表．実績

（単位：件）

	症例	件数
脳梗塞（入院）	アテローム性脳血栓症	18件
	ラクナ梗塞	8件
	脳塞栓症	3件
	TIA	0件
	分類不能	5件
認知症（外来）	アルツハイマー型	54件
	脳血管性	12件
	レビー小体型	4件
	前頭側頭葉変性型	2件
	分類不能	7件

腎臓内科

スタッフ紹介

金　鐘一　：日本透析医学会専門医・指導医，日本内科学会認定医・総合内科専門医，日本病院総合診療医学会専門医，千船クリニック所長
中西昌平　：日本透析医学会専門医・指導医，日本腎臓学会専門医・指導医，日本内科学会認定医・総合内科専門医
服部英明　：日本透析医学会専門医，日本腎臓学会専門医，日本内科学会認定医
宇高千恵　：日本透析医学会専門医，日本腎臓学会専門医，日本内科学会認定医・総合内科専門医
齊藤　慶　：日本透析医学会専門医，日本腎臓学会専門医，日本内科学会認定医
高木泰尚　：後期研修医（2020年3月退職）
山本真有佳：後期研修医

診療内容

腎炎・ネフローゼ症候群，電解質異常，急性腎障害，慢性腎不全，急性血液浄化などを中心に入院加療を行っている．今年は慢性腎臓病とその合併症，腎炎・ネフローゼ症候群，電解質異常が増加した．血液透析室では入院患者の血液透析と，腹膜透析血液透析併用患者の血液透析，腹水濃縮還流などを行っている．ICUと隣接している利点を生かし，重症患者はICUにて血液透析を行っている．従来は入院患者のみであったが，今年は合併症の多い血液透析患者も少数であるが外来維持透析を開始した．
腎センター外来では，血尿など境界領域の紹介例，腎移植患者やドナー，内シャント造設準備中の患者などの診療を腎臓内科と泌尿器科が共同で行っている．紹介患者数，腎移植外来数とも増加傾向である．
金所長により透析患者の内シャント不全に対する経皮的血管形成術（PTA）を行っている．
また腎センター専属ナースにて血液透析・腹膜透析や腎移植外来の介助を行っている．腎看護外来（腎不全保存期の患者の生活指導，透析療法選択，透析導入のサポート，腎移植の紹介）や腹膜透析患者の退院前・退院後家庭訪問を行っている．

2020年のトピックス・実績

腹膜透析の自動腹膜灌流用装置を「かぐや」に変更した．インターネット接続による遠隔操作ができるようになり，日々の血圧や除水量などが把握できるようになった．操作・処方設定を臨床工学技士が担当するようになり，医師・看護師・臨床工学技士の円滑な連携がとれるようになっている．
日本腎臓学会西部学術大会にて「急性妊娠脂肪肝に伴う尿崩症に対し帝王切開・大量補液で改善した１例」を山本真有佳が発表した．

今後の展望

千船病院での通院維持透析患者は，腹膜透析離脱後に腹膜炎の予防・管理が必要な患者又は血液透析と腹膜透析併用の患者に限っていたが，千船クリニックの移転を見据え，千船病院でも通院の維持透析患者を増やしつつある．

表１．入院実績

（単位：件）

	2018年度	2019年度	2020年
CKDとその合併症	30	49	62
腎炎・ネフローゼ症候群	20	22	44
電解質異常	40	29	49
教育入院	2	1	0
膠原病	1	4	2
血管炎とその合併症	10	3	7
血液透析導入	33	26	24
血液透析の合併症	46	47	50
腹膜透析導入	2	2	6
腹膜透析の合併症	8	2	3
腎生検	7	19	15
PET検査	3	3	5
PTA	53	59	59
内シャント造設術	32	32	18
腹膜透析カテーテル留置	1	2	3

※2020年のみ年報の対象期間が1月1日～12月31日

表２．血液透析実績

	2019年度	2020年
総透析回数（回）	1,450	1,479
透析回数月平均（回）	120.8	123
導入患者数（人）	26	24
死亡患者数（人）	10	13

	2019年度	2020年
持続血液濾過（回）	18	14
エンドトキシン吸着療法（回）	2	0
顆粒球吸着療法（回）	0	10
血漿交換（回）	0	1
腹水濾過濃縮再静注療法（回）	29	17

※2020年のみ年報の対象期間が1月1日～12月31日

総合内科

スタッフ紹介

二宮幸三
　日本内科学会　総合内科専門医・指導医
　日本循環器学会　専門医・指導医
　日本動脈硬化学会　動脈硬化専門医・指導医
　日本病院総合診療医学会　認定医
藤田芳正
　日本内科学会　総合内科専門医・指導医
　日本腎臓学会　専門医
　ICD
依藤兼太郎
　日本内科学会　認定内科医
宮井佑也
　内科専攻医
黒川　晟
　内科専攻医

2020年4月より，新たに内科専攻医の宮井佑也医師と黒川　晟医師が着任した．

診療内容

総合内科外来は，午前は2診体制，午後は1診体制で行っている．主として各内科系の若手医師が対応している．また，別枠で総合内科専門外来を藤田医師が行っている．診療内容は主に初診を受け持ち，必要により専門診療科に振り分けている．当科でフォローできる患者や完結できる場合はそのまま継続診療もしている．

2020年のトピックス・実績

総合内科外来の患者数は，18,922人で，1日平均78.0人であった．入院患者数は，年間311人であり，疾患別にみると呼吸器系疾患89人（28.6%），新型コロナウイルス感染症51人（16.4%），循環器系疾患39人（12.5%），腎尿路生殖器系の疾患24人（7.7%），内分泌・栄養及び代謝疾患17人（5.5%），損傷・中毒など外因の影響15人（4.8%），新生物13人（4.2%），皮膚及び皮下組織の疾患11人（3.5%），その他35人（11.3%）であり，多岐に渡った．

学術活動として，学会活動については日本内科学会に1演題発表した．また日本病院総合診療医学会雑誌に1編の論文が採用された．

また，若手医師の教育については，藤田医師により内科全般の疾患と感染症診療をテーマに毎週1～2回定期的な勉強会を行っている．

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療について

大阪府内でも2月下旬より新型コロナウイルス感染症の急激な流行をみるようになった．そのため，3月11日より一般外来と分離した発熱外来（後に臨時外来と名称変更）を開設し，全ての発熱患者の初期対応を行うようにした．新型コロナウイルス感染症患者の減少に合わせて6月にいったん閉鎖したが，再び患者が増加したため8月3日より再開した．12月より診療・検査医療機関として地域発熱外来を開設し，地域の発熱患者を積極的に受け入れた．

入院対応では，4月18日に最初の患者を受け入れた．5月11日より軽症・中等症の新型コロナウイルス感染症患者受け入れ病院として7床を運用した．6月15日に病床を返還したが再び患者数が増加したため，7月17日より3床で運用再開し，8月3日より7床運用となった．第三波の到来の時は11月30日に13床まで増床し対応に当たった．

今後の展望

今後も入院患者は多疾患を有する高齢患者や感染症の疾患を中心に増やしていきたい．また，新型コロナウイルス感染症については終息までまだまだ時間がかかるようであり，対応を継続していく．

また，初期研修医など若手医師の教育・育成も引き続き当科で行い，更に実習やカンファレンスを継続する予定である．

表1．
臨時外来患者数

（単位：人）

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
患者数	68	258	126	114	0	67	43	49	90	115	930

表2.
新型コロナウイルス感染症入院患者数

（単位：人）

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
患者数	0	1	3	0	2	13	6	8	15	26	74

外　科

スタッフ紹介

向井友一郎（副院長）
山元康義（主任部長）
北濵誠一（部長）
松尾辰朗（部長）（2020年10月31日　退職）
大浦康宏（医長）
桃野鉄平（医長）
三原俊彦
田中聡志
松下和子（2020年5月26日　退職）

診療内容

血管外科の松尾が9月に退職し，軌道に乗りつつあった下肢静脈瘤の手術等の血管外科症例は減ることとなった．

下半期，9月から高槻病院外科専門医プログラムで後期研修医として3年目研修中の田中が6か月間の研修を当院外科にて行った．

2020年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症対応のため5，6月は緊急性のない良性疾患の手術等は延期せざるを得なかったため症例数は半減し，その後もICUが新型コロナウイルス感染症対応で入室できないなど，患者を選択しないといけないという逆境の中で前年同様の手術症例数が維持できたのは，BCPに基づき，情勢を見ながら細かに運営を変更するなど臨機応変に対応してくれた全てのスタッフのおかげであり，この場を借りて感謝させていただきたい．

手術の内容としては呼吸器外科15例，血管外科76例，乳腺50例，消化器一般517例，小児外科30例と多岐にわたり相変わらずのよろず外科である．

日本内視鏡外科学会の技術認定医の大浦の赴任により大腸がん，鼠径ヘルニアはほぼ全てが鏡視下手術となり，鏡視下手術症例は前年の304例から347例と順調に増加した．

肥満減量手術は順調に症例を積み重ね西日本での地位を揺るぎないものにしている．

課題であった先進医療としての減量手術としてのバイパス手術の施設認定も得ることができ，こちらも症例数を増やしている．軌道に乗り始めた逆流性食道炎の手術症例も徐々に増えており，北濵は本術式で日本内視鏡外科学会の技術認定を取得し，ますますの飛躍が期待できる．

学会活動に関しても，新型コロナウイルス感染症が流行している中，減量外科を中心に，5件の全国学会発表と2本の論文発表を行った．

今後の展望

まだまだトンネルの出口が見えない新型コロナウイルス感染症と共存しながら手術症例を増やすための方策が必要である．

従来からの救急症例の積極的な受け入れ体制の強化と，症例数の増加は継続しての課題である．

大浦の消化器外科専門医取得にてダビンチ手術の運用が可能となり，次年は直腸癌症例でのダビンチ手術を開始予定としている．

また地域のがん支援病院としてがん地域連携パスの運用も開始することができたので，これを起点にがん手術症例の増加を図る予定である．

表．4年間の手術症例数の推移

（単位：件）

	呼吸器	血管外科	消化器・一般	乳腺	頭頸部	小児外科	合計
2017年度 NCD登録症例数	17	4	419	46	137	27	650
2018年度 NCD登録症例数	14	5	498	70	132	34	753
2019年度 NCD登録症例数	16	94	467	43	126	28	774
2020年 NCD登録症例数	13	76	479	50	138	30	786

※2020年のみ年報の対象期間が1月1日～12月31日

画像診断科

スタッフ紹介

常勤医師　主任部長　田中　豊
　　部　　長　前田哲雄
非常勤医師　放射線科医師　2名（隔週で土曜日あるいは日曜日に読影）

診療体制

2020年は田中　豊主任部長，前田哲雄部長の常勤医師2名と非常勤医師2名の診療体制になった．

活動内容

Ⅰ．読影
MRI，CT，RI，消化管透視などの読影を行っている．
ドック胃透視・胸部の読影．
Ⅱ．血管造影，IVR
肝癌のTACEやUAEなどの婦人科疾患のIVRを行っている．
Ⅲ．外科とのマンモグラフィカンファレンス，産婦人科・病理診断科との婦人科病理
カンファレンスは新型コロナウイルス感染症対策で中止になっている．

今後の展望

新病院移転後，CTとMRI装置が各々2台体制になり，予約待ちの短縮や迅速な緊急検査に対応できている．また，前年度比ではMRI検査は前年比較でやや減少している．
CT検査数はここ3年増加している．
RI検査数の減少数は大きく，何らかの対応が必要と思われる．
オープン検査に関しては，病診連携を強化し，地域の画像センターとしての役割を果たしていかなくてはならない．CT・MRIは以前と同様に土曜日にオープン検査のために対応している．

表１．診療体制

	月	火	水	木	金
午前	読影 血管造影	読影	読影	読影	読影 血管造影
午後	読影	読影	読影	読影	読影

表２．過去3年の主な検査件数

（単位：件）

検査名		総件数
MRI	2020年	6,405
	2019年度	6,680
	2018年度	6,276
CT	2020年	14,565
	2019年度	14,036
	2018年度	13,617
腹部血管造影検査	2020年	30
	2019年度	35
	2018年度	31
核医学検査	2020年	513
	2019年度	590
	2018年度	607

※2020年のみ年報の対象期間が1月1日～12月31日

病理診断科

スタッフ紹介

医師：
主任部長　名方保夫
（病理専門医，1980年卒，2004年７月着任）
部長　八十嶋　仁
（病理専門医，1979年卒，2014年４月着任）
医長　渡邊隆弘
（病理専門医，2009年卒，2019年４月着任）
臨床検査技師：常勤５名
伏見翔一郎（国際細胞検査士），
佐藤　圭（国際細胞検査士），
木下佳乃（細胞検査士），
玉岡紗矢佳（国際細胞検査士），
井上弘規（細胞検査士）

診断内容

病理診断科（病理検査室）の主たる業務は，病理組織診断，術中迅速病理組織診断，細胞診断，術中迅速細胞診断及び病理解剖である．病理組織診は，生検及び手術標本診断に分類される．生検では腫瘍性か非腫瘍性か，良性か悪性かの判定が，今後の患者の治療方針決定に重要である．手術標本診断は，腫瘍（特に悪性）において重要であり，その組織型の最終診断，切除標本における深達度，脈管侵襲の有無，切除断端における腫瘍細胞の有無及びリンパ節転移の有無などが，今後の治療方針決定の一助となり得る．術中迅速病理診断は，良性あるいは悪性の判定，リンパ節転移の有無及び切除断端の決定を短時間で標本を作製診断し，術中における治療方針決定の一助となり得る．さらに細胞診断及び術中迅速細胞診断は，組織診断との併用や，組織採取が困難な部位（穿刺細胞診）あるいは体腔液診断に重要な場合が多い．病理解剖は，医師の卒前及び卒後の医学教育や今後の臨床医学の発展に多大の貢献をもたらすものであり，当科の業務としては極めて重要な位置付けにある．
なお，CPCは原則として月に1度，午後5時30分より開催され，活発な論議も展開され，特に臨床研修医の卒後医学教育に役立っている．

2020年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言によって5月の病理診断件数は例年の半分程度に落ち込んだものの（各項目の2020年実績は，表1～3を参照），臨床各診療科，臨床検査部門，事務部門，看護部門の支援協力により7月以降は例年の水準に回復し，2020年病理診断科及び病理検査室の業務は比較的円滑に遂行された．剖検数も，解剖前にTRC検査導入し，万全の感染対策の上で施行することで，前年度の水準を維持した．
今年は緊急事態宣言が発令されて以降，カンファレンスの開催は見送られてきたが，万全の感染対策を施し，かつ感染状況を見極めた上でCPC及び阪神病理症例検討会は不定期に開催された．

今後の展望

当院では，新型コロナウイルス感染症流行の収束，医師数の増加に伴い，病理組織・細胞診断数の増加が予想されるので，迅速かつ正確な病理組織診断，病理細胞診断が遂行されるよう，臨床検査技師スタッフと協力して更に努力を重ねたい．
今後は田中智洋検査科科長の下，臨床検査部門とも密に連携しながら，迅速な業務の遂行に努めたい．
なお，2020年4月から，兵庫医科大学病院病理診断科（主任教授：廣田誠一先生）から吉田 誠先生が非常勤医師として当科に着任され，毎週火曜日午前に御診療いただいている．活発な人的交流による，更なる病理組織・細胞診断の精度向上が期待される．
最後に，卒前卒後の医学教育及び今後の臨床医学の発展のために，病理解剖を御承諾された御遺族の御篤志に深甚なる敬意を表するとともに，多忙な臨床の場において病理解剖の承諾を得るべく努力された診療部スタッフに謝意を述べたい．

表１．病理組織診断・術中迅速診断件数

（単位：件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
病理組織診断	376	355	459	314	217	352	412	357	414	433	405	413
術中迅速組織	3	5	5	2	3	10	3	2	5	2	3	5
術中迅速細胞診	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

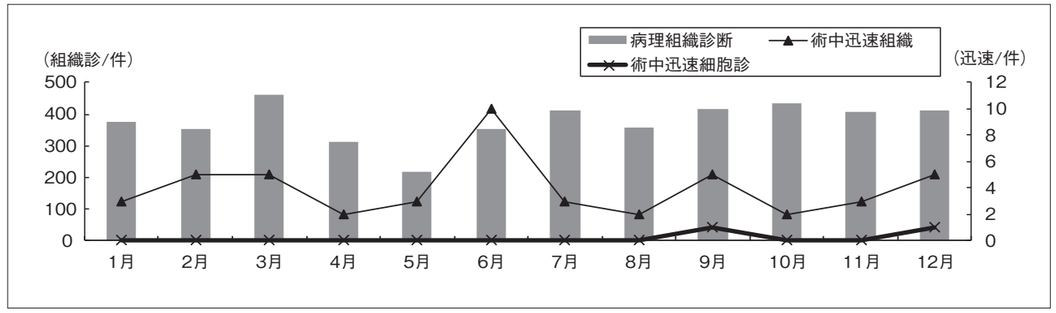


表２．細胞診件数

（単位：件・率）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
細胞診件数	429	414	588	320	354	493	488	444	503	490	462	528
陽性数	62	40	50	36	45	63	36	53	45	32	42	62
陽性率	14.5%	9.7%	8.5%	11.3%	12.7%	12.8%	7.4%	11.9%	8.9%	6.5%	9.1%	11.7%

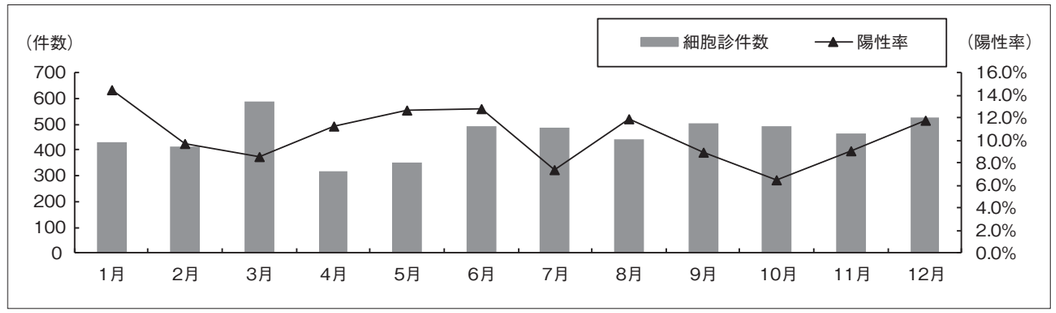
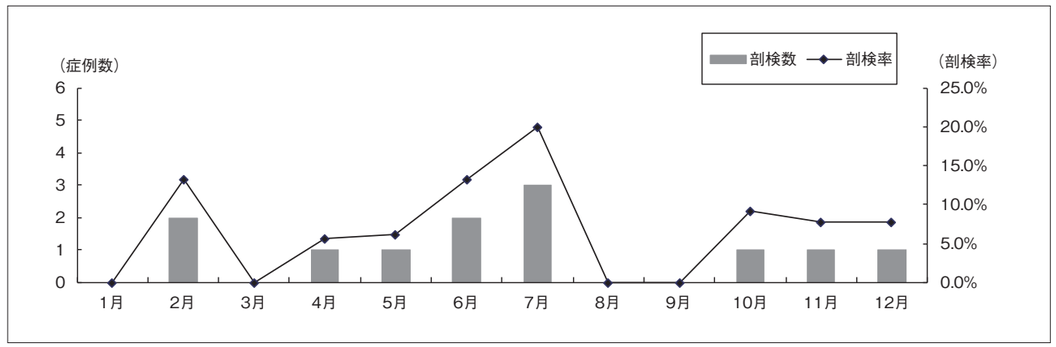


表３．病理解剖数と剖検率

（単位：件・率）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
剖検数	0	2	0	1	1	2	3	0	0	1	1	1
剖検率	0.0%	13.3%	0.0%	5.6%	6.3%	13.3%	20.0%	0.0%	0.0%	9.1%	7.7%	7.7%



小　児　科

スタッフ紹介

2020年の人事異動として，当院で初期研修を行った横山陽子医師，桝田千晶医師，福田祥直医師が当院の小児科後期研修プログラムにて，兵庫県立こども病院より横田知之医師，神戸大学附属病院より木原沙紀医師が，4月にスタッフとして加わった．一方，下村真由美医師が宝塚市立病院へ，東口素子医師が京都府立医科大学附属病院へ，角谷哲基医師，河野一誠医師は，各自の小児科後期研修プログラムに沿い，関連施設での研修のため，3月末に異動された．2020年のスタッフは，吉井勝彦（1984年卒），西野昌光（1978年卒），牟禮岳男（2002年卒），横田知之（2004年卒），水野洋介（2006年卒），木原沙紀（2007年卒），藤坂方葉（2009年卒），榎本真由子（2011年卒），甲斐智彦（2013年卒），古林真佐美（2013年卒），井上翔太（2013年卒），住吉倫卓（2014年卒），武田紗季（2016年卒），山本香織（2017年卒），福田拓弥（2017年卒），川村　葵（2017年卒），横山陽子（2018年卒），桝田千晶（2018年卒），福田祥直（2018年卒）の19名であった．

診療内容・実績

（外来診療）

午前は一般診察を行い，午後は一般診察に併行して，予防接種，乳児健診，神経外来，発達外来，腎外来，アレルギー外来，心臓外来，内分泌代謝外来，肥満外来などの特殊専門外来を実施した．アレルギー外来は西野医師に加え，2020年より榎本医師，井上医師も担当した．神経外来は牟禮医師が担当した．近年の子どもの肥満に対応するため，2020年より肥満外来を開設し，藤坂医師が担当した．心臓外来は，国立循環器病研究センター医師を，内分泌代謝外来は，兵庫医科大学小児科学の竹島泰弘教授を，腎外来は，神戸大学附属病院医師を招聘し，診療を行った．本年もシナジス外来，家族への感染症情報提供を継続した．表1に月別一日平均外来数，表2に月別時間外外来総患者数を示す．新型コロナウイルス感染症流行の影響を受け，外来患者数の減少を認めた．

（新生児センター）

当院の分娩数（生産）は過去3年間，1729，1810，2086例と，近隣の分娩施設の閉鎖に伴い，徐々に増加を認めている．新生児センターへの入院数もそれを反映して1,006，1,048，1,235例と増加傾向だった．一方，1,500g未満の極低出生体重児，2,500g未満の低出生体重児の入院数は横這いだった．死亡例は2例であった．表3に2020年の新生児センターの保育成績を示す．以前より行っていた近隣の産科施設も参加可能な新生児蘇生講習会は新型コロナウイルス感染症流行の影響を受け，頻度を縮小せざるを得なかった．

（一般病棟）

表4に一般病棟の疾患別入院数を示す．入院数は364例であり，2020年は顕著な減少を認めた．新型コロナウイルス感染症の流行に伴う生活環境の変化が，入院症例の疾患種別や入院数に大きな影響を与えていた．外来/救急搬送/紹介という入院経路は，それぞれ215例（56%）/79例（20%）/92例（24%）であり，新型コロナウイルス感染症の流行はあったが，入院経路は同様の傾向だった．西野医師の指導下に，2020年より当院でも入院にて食物負荷試験を開始した．その結果，食物負荷試験目的の入院数は延べ7例と徐々に増加してきている．2020年後半より徐々に入院数は増加傾向となっているが，まだまだ厳しい状況が続いており，今後も感染症の動向に注意して診療を行っていく．本年は死亡症例はなかった．

（レスパイト事業）

大阪市より依頼があり，2019年4月より大阪市重症心身障がい児者等医療型短期入所事業の実施機関として，重症児の短期入所対応を開始した．しかし，新型コロナウイルス感染症の流行の影響で，受け入れの停止を必要とした時期があった．このため，2020年の短期入所受け入れは延べ14名にとどまった．

2020年のトピックス

2020年は新型コロナウイルス感染症流行の影響を受け，従来受け入れていた神戸大学医学部5年次，6年次，兵庫医科大学6年次の病院実習も制限を受けざるを得なかった．その制限中でも，多くの学生が当院の小児科研修を志して初期研修病院として選択してくれていることは，小児科の対応に好意が得られていると考えている．今後も丁寧な対応を行っていきたい．加えて，当院は新専門医制度での小児科専門研修プログラムの基幹病院に認定されている．新型コロナウイルス感染症がまん延している中で多くの病院小児科が新規スタッフの受け入れを制限している中，当院では小児科専攻医1年目，2年目の医師を各3名ずつ受け入れた．小児科研修施設として小児科専攻医の研修の場を確保することが重要であり，

地域の開業医への訪問を通じて，紹介症例の維持に努めた．本年度も，Web参加が中心であるが，日本小児科学会兵庫県地方会，日本周産期新生児医学会，日本新生児成育医学会などでの学会活動を行った．

今後の展望

当院では小児科研修を志す初期研修医も多く，初期研修時に将来の小児科医像を想像できるような研修を心掛けていく．また，小児科専門医の研修施設でもあることから，症例確保が重要な課題となる．そのため，スタッフ数の維持による精力的な医療活動と教育に当たる指導医の充実を図っていく．加えて，小児科専門研修プログラムでは，論文の作成が必須であるため，学術活動の幅を広げていくことが必要と考えられる．

表１．月別一日平均外来患者数（2020年1月～2020年12月）

（単位：名）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
患者数	94	88	65	43	47	53	70	64	70	72	75	75

表２．月別時間外外来患者数（2020年1月～2020年12月）

（単位：名）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
患者数	227	163	86	28	53	60	90	81	90	84	74	54

表３．新生児センター入院数（2020年1月～2020年12月）

（単位：件）

出生体重（g）	入院数	院内出生	緊急母体搬送	院外出生	人工換気数	転院数	死亡数	死亡率(%)
～499	2	2	0	0	2	2	1	50
500～999	12	11	3	1	11	2	0	0
1,000～1,499	16	16	4	0	14	0	0	0
1,500～1,999	41	39	7	2	25	0	0	0
2,000～2,499	154	153	7	1	24	2	1	0.6
2,500～	1,010	995	0	15	80	8	0	0
計	1,235	1,216	21	19	156	14	2	0.2

表４．一般病棟入院数（2020年1月～2020年12月）

（単位：件）

呼吸器疾患		感染症	
気管支炎 （RSV 3, hMPV 3）	23	インフルエンザ	3
肺炎・気管支肺炎 （hMPV 2, マイコプラズマ 4, 肺炎球菌 3）	20	ヘルパンギーナ	2
細気管支炎・喘息性気管支炎 （RSV 5, hMPV 2） 気管支喘息	12	突発性発疹	4
急性扁桃炎・咽頭炎 （アデノ 4, 溶連菌 2）	15	伝染性単核球症	3
急性中耳炎	6	COVID	2
急性上気道炎	10	水痘	1
誤嚥性肺炎	1	伝染性膿痂疹	2
消化器疾患		蜂窩織炎	1
感染性胃腸炎 （ノロ 3, ロタ 3, サルモネラ 2, カンピロバクター 3, 大腸菌 1）	26	菌血症	2
腸重積症	3	深頸部膿瘍・化膿性リンパ節炎	3
急性虫垂炎	5	骨髄炎・関節炎	3
腸管膜リンパ節炎	3	血球貪食症候群	1
総胆管拡張症	1	新生児・乳児発熱	15
腸回転異常症	4	代謝・内分泌疾患	
ヒルシュスプルング病	1	周期性嘔吐症・アセトン血性嘔吐症	5
潰瘍性大腸炎	1	ケトン性低血糖症	5
胆汁性嘔吐	1	1型糖尿病	4
便秘症	1	尿崩症	1
神経系疾患		ミトコンドリア病	4
熱性けいれん （Flu 9, 突発疹 9, RSV 1, アデノ 2, カンピロバクター 1, マイコプラズマ 1）	56	その他	
てんかん・無熱性けいれん	6	川崎病	18
胃腸炎関連痙攣	1	アナフィラキシー	15
頭部外傷・脳震盪	5	免疫性血小板減少性紫斑病	1
脳動静脈奇形	1	IgA血管炎	1
血管迷走神経性失神	2	異物誤飲	2
片頭痛	1	薬物中毒	4
脊髄腫瘍	1	哺乳不良	1
腎泌尿器疾患		薬疹	1
尿路感染症	28	熱中症	1
ネフローゼ症候群	3	新生児黄疸	2
		ALTE	2
		骨折	1
		シェーグレン症候群	1
		ミルクアレルギー	1
		蕁麻疹	2
		検査入院	
		低身長精査	5
		食物負荷試験	7
		検査鎮静後	1
		合計	364

整形外科・関節センター

スタッフ紹介

常勤医師
・松田　茂（1997年卒　リハビリテーション科部長）
・鄭　克真（2002年卒 整形外科部長，関節センター長）
・蓑田正也（2007年卒　医長）
・加藤　領（2015年卒　後期レジデント）
非常勤医師
・生田健明（2013年卒　神戸大学大学院）
・仲野春樹（1998年卒 大阪医大リハビリテーション科）
初期研修医
・石村颯貴（2019年卒）
・尾上雲花（2019年卒）

それぞれの専門分野を活かして専門外来診療を設定し，地域医療に尽力している．後期レジデントは十分な臨床の経験と知識・技術を研鑽できるような環境を整備し，臨床研究と発表を行うように指導している．

整形外科志望の初期研修医2名が在籍し，整形外科領域の救急・外来・手術診療の研修を積んだ．

診療内容

①外来診療

初診を含め全て予約制としている．紹介患者専用予約枠を確保し，地域の医療機関からの患者紹介を円滑に行えるよう努めている．紹介患者数も順調に増加している．また，各スタッフの専門性を活用し，関節センター（鄭医師），小児整形外科（蓑田医師），リウマチ（松田医師）の専門外来を行い地域への浸透が進んでいる．

②手術

2019年度で初めて年間700件を超え，2020年は798件と増加した．また，人工関節手術に関してナビゲーションシステムを導入し精度の高い手術を提供している．

③病棟診療

主に7階西病棟を利用し，毎日医師数名による回診を行っている．病棟看護師は整形外科患者が持つ特有の病識や病態を理解し看護に努めている．担当する理学療法士と定期的なディスカッションを行い，患者個別の治療計画を立てている．

2020年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い，その対応に追われる年であった．1回目の緊急事態宣言が発出された4月までは人工関節や外傷手術件数ともに順調な実績であったが，5月には不要不急な手術を控えること，何よりも手術業務に必要な手袋やガウン，マスクなどの資材確保困難により，人工関節手術をほぼキャンセル若しくは延期とした．6月以降も入院中の面会制限が継続したことなど，患者が強く希望する場合に限り手術加療を施行した．

①人工関節手術

ナビゲーションシステムの利用により術中の様々な条件でのデータ収集が可能であり，臨床研究や学会発表に繋がっている．2017年に年間100件を超えた以降増加傾向であったが，上述のとおり新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い手術希望の紹介を含めた受診は低迷したものの，前年件数を維持できた（2011年：64件，2013年：92件，2015年：97件，2017年：103件，2018年：130件，2019年：134件，2020年：134件）．例年行っている人工関節置換術後患者で構成する患者会（健歩の会）のレクリエーションは中止せざるを得なかった．多くのコメディカルの協力の下，手術患者向けのしおりを作成活用し，病棟でのビデオリハビリ時間を設けるなど，今後に繋がる手術術後ケアに注力し満足度向上を目的とした活動に努めた．また，webを用いた地域医療機関への講演会開催や，ラジオやウェブテレビなどの出演による広報活動を行い，人工関節手術を中心とした業務の拡充活動に尽力している．

②大腿骨近位部骨折に対する院内外の連携

当院では大腿骨近位部骨折を「高齢者の単なる骨折」としてではなく，「骨折を有している高齢患者の一疾患」であるという概念の下，多職種連携アプローチに取り組んできた．2018年度より本格始動し，手術待機平均日数の短縮，入院日数の短縮に繋がっている．当科では平均待機日数は1.5日未満を維持している．

一方，前年から準備を重ねてきた「地域連携パス」を開始した．当院での骨折に対する加療と併行した骨粗鬆症治療の開始と転院先での加療継続により対側の近位部骨折や他の骨粗鬆症性骨折の予防に努めている．術後の日常生活動作など必要な情報を連携する医療機関へ提供し地域近隣医療機関との連携，病診・病病連携を強化した．回復期リハビリ病院への転院を円滑に行い，術後の急性期入院期間の短縮が実現できている．

③研修医への指導

初期研修医への教育指導の一環として，「スキルアッ

プログラム」と称し当科主導で研修医の指導を月に1度行っている．診療材料メーカー協力の下，模擬皮膚を用いた縫合の練習や整形外科手術のワークショップを行うことで初期研修医の技術向上の一助となるだけでなくコミュニケーションの向上となるよう努めている．

整形外科志望の研修医には外来診療からIC，手術業務まで後期研修に向けた実臨床の研鑽を積めるように指導した．加えて学術活動も併行して行い，日本人工関節学会での発表に繋がった．

今後の展望

①大腿骨近位部骨折における術後管理連携の拡充

大腿骨近位部骨折患者を「骨折を有している高齢患者の一疾患」として捉え，院内の内科医師との連携強化をより一層行う．本骨折を罹患した高齢者において約3〜4割に何らかの術後合併症を発症するといわれている．入院以降より内科医師の全身管理介入を依頼し，より術後合併症の軽減に努めたい．

②近隣医療機関や院内職員との連携強化

当院での人工関節手術業務の拡充はひとえに近隣医療機関からのご紹介や当院で手術を受けた患者の高い満足による口コミによると考えている．ICTを用いた病診連携システムを構築し，近隣医療機関と患者相談や情報の共有が可能である．今後，院内外での科を超えた患者の紹介・逆紹介を更に積極的に行い大阪市内での病病連携の拡充を目指したい．

加えて，院内職員間での当科の業務内容を共有することで，人に勧められるような自信「Chibune PRIDE」を持った医療の提供を目指す．

③初期研修医，後期レジデントの教育

初期研修医への教育指導の更なる充実はもとより，当科の魅力を紹介しリクルートも積極的に行いたい．慢性期疾患を基礎として，急性期疾患に十分対応できるように指導したい．その上で学術活動を支援し，大学関連病院の一関連施設として教育機関の役割も果たしていきたい．

表．2020年手術実績

（単位：件）

手術名			件数
関節センター手術	人工関節置換術（134）	TKA（人工膝関節）	111
		THA（人工股関節）	23
	関節鏡視下手術，スポーツ手術		36
大腿骨近位部骨折（HF）（154）	大腿骨頚部骨折	人工骨頭置換術	43
		骨折観血的手術	34
	大腿骨転子部骨折	骨折観血的手術	77
		外傷手術（HF以外）	343
		上肢手術	51
		リウマチ	0
		下肢手術	34
		小児	32
		その他	14
合計			798

リハビリテーション科

スタッフ紹介

＜医師＞松田　茂

＜理学療法士＞

村田尚寛

神谷亮平（2020年4月愛仁会リハビリテーション病院へ異動）

北浦重孝　井上健太　氏内康友　福里　環

鹿田麻理香　成原智子

山本惠造（2020年12月退職）

増田純輝　佐伯静香　藤井真央　乙骨麻美

佐々木 愛（2020年7月老健ユーアイへ異動）

椎葉勇生　白岩梨紗　小宗英貴　松尾　舞

水野雄太　橋口鈴香　南山智弘　岩本賢弥

竹内　紬　橋本一希

＜作業療法士＞

安西直人　中西ひかる　水野紀恵　藤山美佳

村上智美

＜言語聴覚士＞

加納瑞恵　廣木沙織　岩本舞子

岡田有弥子　小西茉里奈

診療内容

1）入院患者のリハビリテーション

2）外来患者のリハビリテーション

3）多職種連携（チーム医療）の実施

緩和ケアチーム・認知症ケアチーム・嚥下回診・退院支援チーム・栄養サポートチーム

4）訪問リハビリテーション

2020年のトピックス・実績

2020年活動実績を表示する（図表1〜3）．

2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により昨年度より活動が10%減少となった．一方で2020年より言語聴覚士の呼吸器の算定が可能となった．学会発表もWEBとなったが積極的に行っており，第37回日本肥満症治療学会学術集会，第26回日本心臓リハビリテーション学術集会，第18回日本神経系理学療法学会学術大会，第2回生涯学習研修集会，第50回日本人工関節学会にて演題発表を行った．また臨床チーム（整形外科・肥満糖尿病・認知症・心大血管・ウィメンズヘルス）を立ち上げ，当院でのエビデンスの確立や研究発表に取り組んだ．

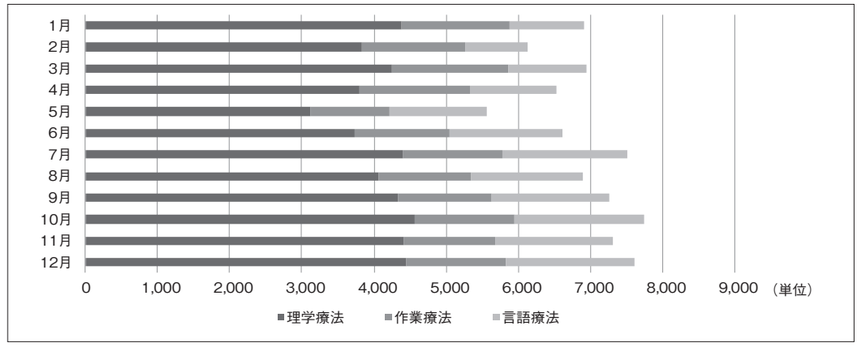
今後の展望

急性期病院のリハビリテーション科の役割として，今まで以上に早期介入，早期退院への取り組みが必要とされている．理学療法・作業療法・言語聴覚療法の3職種がチームとしての活動と臨床チームをより発展させ，早期退院や退院後の生活の安定に繋げていきたい．また，急性期から在宅へ幅広いニーズに対応できるよう，それぞれの専門性を高め，技術の向上に努める．

図表１．リハビリテーション科活動実績

（単位：件）

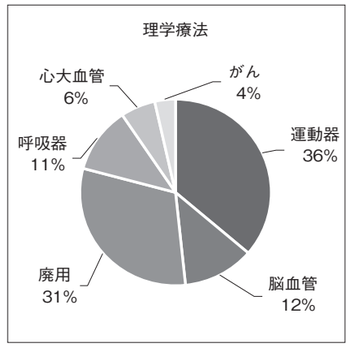
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
理学療法	4,384	3,836	4,253	3,797	3,117	3,727	4,398	4,072	4,333	4,561	4,413	4,452	4,112
作業療法	1,489	1,421	1,612	1,526	1,099	1,315	1,383	1,278	1,290	1,390	1,271	1,381	1,371
言語療法	1,037	872	1,078	1,212	1,347	1,564	1,734	1,550	1,636	1,788	1,624	1,784	1,436
合計	6,910	6,129	6,943	6,535	5,563	6,606	7,515	6,900	7,259	7,739	7,308	7,617	6,919

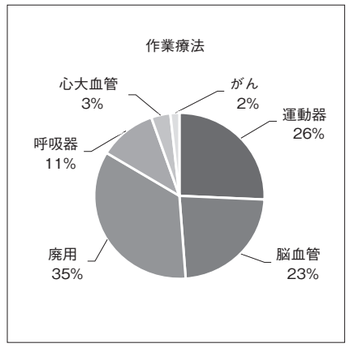


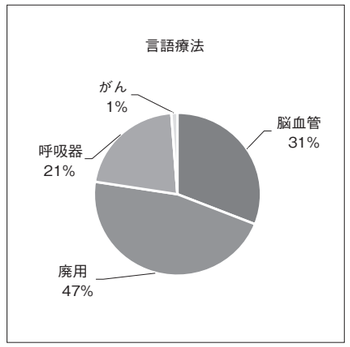
図表２．疾患別リハビリテーション内訳

（単位：件）

	運動器	脳血管	廃用	呼吸器	心大血管	がん
理学療法	11,224	3,742	9,544	3,544	1,824	1,086
作業療法	3,053	2,745	4,136	1,305	433	203
言語療法	—	3,323	4,980	2,291	—	125



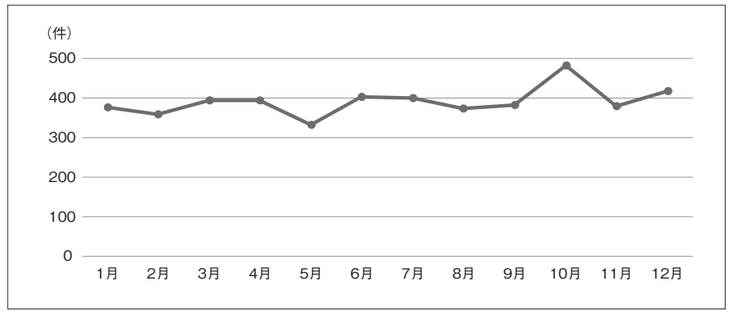




図表３．訪問リハビリテーション活動実績

（単位：件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
実績	375	358	395	395	333	403	400	373	383	483	379	419	4,696



脳神経外科

スタッフ紹介

部長　朝田雅博（1973年卒）
日本脳神経外科学会専門医
医長　榊原史啓（2006年卒）
日本脳神経外科学会専門医，脳卒中学会専門医・指導医，脳神経血管内治療学会専門医

診療内容

2020年4月から榊原史啓先生が常勤医として当科に赴任，2021年4月には澤村 壮先生が赴任予定であり，脳神経外科の常勤医は3名体制となる．現在，兵庫医科大学脳神経外科からの応援を得て，当直は週6日（日曜日以外）行っており，専門外来についてはそれぞれ，脊椎外科を陰山博人先生（火曜日），小児脳神経外科・脳腫瘍を阪本大輔先生（水曜日）に，大学より出向で担当していただいている．

急性期脳主幹動脈閉塞症例については，大学との連携で drip & ship システムを確立している．また脊椎手術症例については，専門外来を通じて大学に紹介している．

2020年のトピックス・実績

救命医や内科医に協力いただき，脳卒中症例を24時間体制で受け入れている．2020年の脳卒中症例は，脳梗塞が82名（tPA 13件，Drip & Ship 6件），脳出血が22名（開頭血腫除去術 3件），くも膜下出血が12名（開頭クリッピング術 6件，コイル塞栓術 4件）であった．2021年からは，日本脳卒中学会より一次脳卒中センターの認定を受け，それに伴い脳卒中ホットラインも開設予定である．

手術件数は前年度の48件から1.5倍増加した．脳血管内治療に関しては，兵庫医科大学より指導医である蔵本要二先生をお呼びし，緊急での対応も行っている．

今後の展望

西淀川区唯一の総合病院脳神経外科として，外来診療及び救急医療を通して，患者一人ひとりに対して質が高く優しい医療を提供し，地域医療に貢献していく．また，24時間365日脳卒中患者を受け入れ，t-PA 静注療法を含む急性期診療を行える一次脳卒中センターとして，西大阪の脳卒中医療を支えていく．院外では引き続き兵庫医科大学脳神経外科と緊密に連携を取り，院内では他の診療科や看護師，リハビリスタッフといった多くの職種と円滑なチームワークを形成し，脳卒中診療体制を築いていく．

これまでに当科で初期研修を積んだ先生方が数名，兵庫医科大学脳神経外科に入局した実績もあり，今後も大学と連携しながら，若手の先生方の勧誘を行っていく．また，今後彼らが当科のスタッフとして本院に戻りたいと思えるような，やりがいのある職場を作っていきたい．

表．2020年実績

（単位：件）

		2020年
脳血管障害	脳内出血	3
	くも膜下出血	6
	未破裂脳動脈瘤	2
	頸動脈内膜剥離術	0
	バイパス術	3
	血管内手術	10
脳腫瘍	髄膜腫	2
	神経膠腫	3
	転移性脳腫瘍	3
	海綿状血管腫	1
脊髄脊椎	頸椎前方固定	2
	頸椎椎弓形成術	1
	腰椎椎弓切除術	1
機能外科	水頭症	18
	神経血管減圧術	0
頭部外傷	急性硬膜下出血	3
	急性硬膜外出血	0
	慢性硬膜下血腫	13
その他		3
合計		74

救急診療部

スタッフ紹介

主任部長：林　敏雅
　救急科専門医
医長：山下公子
　救急科専門医
　産婦人科専門医，社会医学系専門医
　日本 DMAT 隊員，JICA 国際緊急援助隊隊員

診療内容

2011年4月に救急診療部として診療が始まった．2012年1月には救急科専門医指定施設に認定された．同年4月からは救急医2名による診療体制となったが，2016年には再び救急医1名となり，2018年より救急医2名による診療となった．院内にはもう1名救急専門医がおり，院内の常勤の救急専門医は3名となる．主たる診療は，日勤帯の救急搬送，外傷，一般外来受診予定であった患者が外来で緊急性が高いと判断された場合の対応，院内の急変への対応も行っている．ER 方式で行っており当科で初療を行った後に専門医の加療，若しくは入院加療が必要な場合には該当科への引き継ぎを行っている．

2020年のトピックス・実績

コロナ禍に伴い，救急搬送件数は減少している．これは大阪市全体の搬送件数の減少に影響しているものと思われる．一方で，救急搬送からの入院数に関しては救急医が赴任以降，最高値となっており，入院率は上昇していることから，救急センターで対応している搬送患者層の重症化が認められている．

救急医は平日日勤での対応が主となっており，夜間帯は各科からの当直医師による診療となっているが，内科医師，外科系医師の強力な協力体制，体制強化による影響が考えられる．

今後の展望

一般外来での受診と異なり，救急を受診する患者は，緊急的案な対応が必要となることが多い．多くの受診を望むことは不適切なことではあるが，4月より一次脳卒中センターの開設，外科系当直体制の更なる強化が行われる予定であり，専門医不在によるお断り症例の減少を図り，地域のニーズに合わせて，今後も積極的な受け入れを行っていきたい．

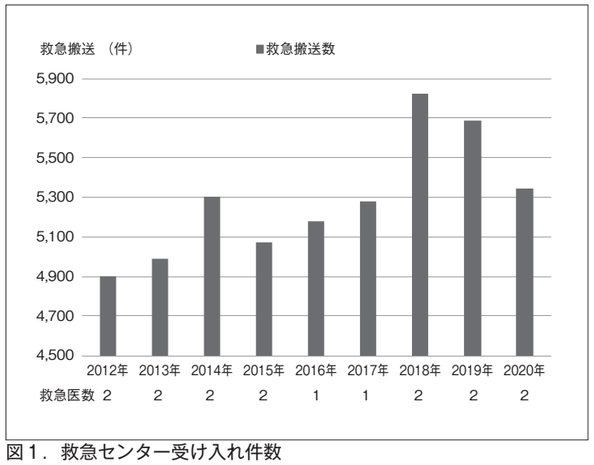


図１．救急センター受け入れ件数

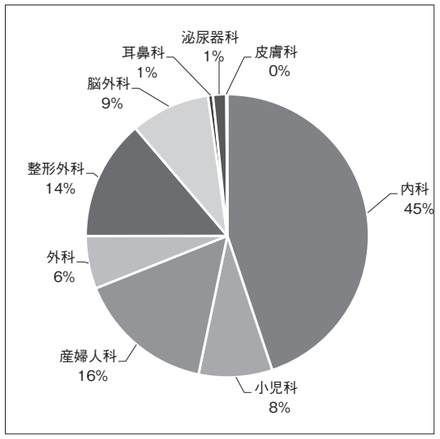


図２．搬送科別割合

泌尿器科

スタッフ紹介

常勤医師　部長　　川口理作
主任部長（副院長）　樋口喜英
医長　　楊　東益
医員　　新開康弘
非常勤医師　（2020年12月31日退職）新開裕佳子
　　（2021年1月1日着任予定）野島道生

診療内容

腹腔鏡手術数（副腎腫瘍，腎癌，腎盂尿管癌，尿膜管摘除）は例年どおりであった．ロボット支援腎部分切除は3症例，腹腔鏡下膀胱全摘は2症例であった．小児泌尿器領域では院内紹介と周辺開業医からの紹介も増えている．腎不全外科領域のシャント手術は血管外科（明石医療センター医師外来手術）への症例集約に伴い減少した．昨年の生体腎移植手術は0症例で，新型コロナウイルス感染症の影響のため2021年4月以降に再設定となったが，移植を含めた腎代替療法の相談は増えている．ロボット支援前立腺手術は症例数20例を超え，維持している．スタッフの時間を有効に活用し，尿路結石症例を中心とした感染症（排尿障害含む）の近隣からの診療要請には素早く丁寧に対応しており，新型コロナウイルス感染症に翻弄された年ではあったが，泌尿器科の業績は良好である．

2020年のトピックス・実績

・楊　腹腔鏡技術認定医取得
・新開　Davinci Certificate取得

接触式前立腺レーザー蒸散術は，周術期の血尿や合併症が少なく，安全性を確保維持し，症例を重ねることができている．

腹腔鏡下膀胱全摘術は，他施設からの応援をいただき実施し，合併症なく症例を重ねている．

生体腎移植は，2019年1月（親子間）と9月（夫婦間）に実施し，術後拒絶反応も認めず移植腎機能も良好で安定．2016年11月に施行した当院初の生体腎移植（夫婦間）は，BKウイルス腎症を呈したが治療によりCr1.6まで腎機能は回復．移植が始まり4年経過，3症例は良好に経過．

排尿障害は，前述の前立腺レーザー治療に加えて，肥満患者の排尿機能に関するデータ集計を行っている．

経尿道的尿管結石除去術は，2020年はTULだけで96例とこの数年増加傾向である．ESWLは減少したが適応は少数維持できた．

小児泌尿器科領域の様々な疾患への対応は，保存的治療に加え手術治療も積極的に行っている．

表．主要手術実績

（単位：件）

手術症例数	2020年	手術症例数	2020年
生体腎移植術	0	体外衝撃波破砕術	15
腹膜透析カテーテル留置	2	経尿道的尿管砕石術	96
腹腔鏡下副腎摘出術	1	経尿道的膀胱結石砕石術	10
腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	7	陰嚢水腫根治術	9
腹腔鏡下腎部分切除術	2	停留精巣固定術	9
ロボット支援下腹腔鏡下腎部分切除術	3	精巣捻転手術	2
膀胱全摘・尿路変向術	3	膀胱尿管逆流手術	2
経尿道的膀胱腫瘍切除術	54	腎盂形成術	2
ロボット支援下前立腺全摘除術	22	尿道下裂形成手術	2
経尿道的前立腺レーザー蒸散術	17		

今後の展望

・2021年4月から外来業務の効率化を図る必要があり，そのため泌尿器科スタッフの時間配分と連携体制の再構築を行い，診療の安全性と質維持が重要となる．
・新型コロナウイルス感染症の状況に病院運営が大きく左右されるため，機器整備については不透明であるが，泌尿器科として千船病院内における信頼を維持し，病院の業績に貢献し，臨床業務の確実で安心感のある対応を行うことに注力する．
・適応疾患への実施による腹腔鏡手術件数の増加．
・ロボット支援手術（前立腺・腎臓）実施症例数の増加．
・腎センターの有効な活用による腎不全診療の質の向上．
・レーザー前立腺蒸散術の手術件数増加．
・尿路結石に対するレーザー治療の利便性の向上．
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術の実施維持．
・ロボット支援腎盂形成術の実施．（術式追加目標）

皮　膚　科

スタッフ紹介

常勤医師：松本いづみ

診療内容

外来診療：
・皮膚科一般
・病棟依頼診察
・褥瘡回診
・小手術
・ダーモスコピーによる非侵襲的検査・診断
・男性型脱毛症に対するプロペシア（自費）の処方入院診療：
・帯状疱疹，蜂窩織炎，褥瘡等

集学的治療の必要な悪性疾患，紫外線照射装置による検査・治療が必要な場合は，他院へ紹介している．

今後の展望

新型コロナウイルス感染症の影響か，外来患者数が減少した．次年は，少しでも回復するよう努めたい．

表．外来診療体制

	月	火	水	木	金
午前	松本	松本	松本	松本	松本
午後	松本	検査・外来手術	褥瘡委員会（第3水曜日）	褥瘡回診	松本

産 婦 人 科

スタッフ紹介

本山　覚　1977年卒，名誉院長
・専門：婦人科腫瘍，周産期，性感染症，女性漢方
　吉田茂樹　1990年卒，副院長・部長
・専門：婦人科悪性腫瘍，内視鏡技術認定医，骨盤臓器脱，周産期，日本がん治療認定医機構・がん治療認定医，同機構・暫定指導医
　岡田十三　1994年卒，周産期センター長・主任部長
・専門：周産期，産婦人科，産婦人科救急，子宮鏡手術
　村越　誉　1996年卒，先端医療分野主任部長
・専門：婦人科悪性腫瘍，周産期，胎児超音波検査，子宮筋腫，内視鏡技術認定医，がん治療認定医
　稲垣美恵子　1997年卒，女性科主任部長
・専門：生殖内分泌，内視鏡技術認定医，周産期，日本頭痛学会認定専門医，がん治療認定医
　安田立子　1998年卒，産科主任部長
・専門：周産期，婦人科一般，骨盤臓器脱，腹腔鏡手術，マンモグラフィー読影，がん治療認定医
　大木規義　1998年卒，婦人科主任部長
・専門：婦人科悪性腫瘍，内視鏡技術認定医，周産期，がん治療認定医

以下　専門：周産期，婦人科一般　各病院6か月出向

城　道久	2006年卒	医長	10月採用
山崎　亮	2015年卒	医長	
細川雅代	2014年卒	医員	
加嶋洋子	2016年卒	医員	明石医療センター
小川紋奈	2017年卒	医員	大阪母子医療センター
嶋村卓人	2017年卒	医員	明石医療センター
田邉　文	2017年卒	医員	甲南医療センター 明石医療センター
田中美喜歩	2017年卒	医員	恵寿総合病院
北井沙和	2017年卒	医員	淡路医療センター
北口智美	2017年卒	医員	明石医療センター 西神戸医療センター
中川公平	2017年卒	医員	
杉野祥代	2017年卒	医員	明石医療センター
荻本圭祐	2018年卒	医員	高槻病院
小倉直子	2018年卒	医員	甲南医療センター
河谷春那	2018年卒	医員	甲南医療センター
北　采加	2018年卒	医員	大阪母子医療センター
三木玲奈	2019年卒	医員	加古川中央市民病院 高槻病院
苔原つばさ	2020年卒	医員	加古川中央市民病院
徳永詩音	2020年卒	医員	淀川キリスト教病院 国立循環器病センター
二木ひとみ	2020年卒	医員	
荒木裕子	2020年卒	医員	淀川キリスト教病院
胡　脩平	2020年卒	医員	高槻病院
小川史子	2020年卒	医員	製鉄記念病院
瀧川　若	2020年卒	医員	高槻病院
大和奈津子	2020年卒	医員	国立循環器病センター

診療体制並びに活動目標

連携施設出向中の後期研修医を除き，産婦人科医師20名（名誉院長1名・部長6名，医長1名，医員2名，後期研修医10名）の体制で，産科・婦人科の全領域をカバーしている．大阪府地域周産期母子医療センター指定により，活発に同センター運営を行い母体搬送に対応するとともに，大阪府産婦人科一次救急医療ネットワークにおいて府下産婦人科一次救急（年間約1,100台）の半数を超える約650台の救急車を受け入れ，地域産婦人科救急の要として日々努力している（厚生労働省 HP 産婦人科救急 DPC 患者数 全国2位）．

2020年のトピックス・実績

尼崎総合医療センター開院の影響を受け，一時的に減少していた分娩件数は急速に回復し2018年1,776件，2019年1,846件，2020年2,122件と連続して過去最高分娩件数を達成し（図1），それに伴い産科手術実績（手術点数）も増加した（図2）．特に2019年度は分娩取り扱い数で，大阪府下第1位，全国順位 第9位を達成した（表1）．24時間対応の無痛分娩を開始し，今後更なる分娩数の増加を目指す．

一方，手術実績は新型コロナウイルス感染症による手術数制限にもかかわらず，手術件数は前年度並（1,315件→1,306件），手術点数ベースで過去最高の実績（2019年3,918万点→2020年4,007万点）を達成した（図2）．4名の産婦人科内視鏡技術認定医が中心となり，鏡視下手術件数（522件→554件）が今期も増加したことが大きく寄与したものと考える．

特に婦人科領域において，より先進的な医療への取り組みを継続しており，da Vinci Xi を用いた婦人科ロボット手術件数は，大阪市立総合医療センターに次いで大阪

府下第2位，全国第8位（表2　Intuitive Surgical 社提供）となった．

これら産科並びに婦人科を合わせた産婦人科領域 病院別年間 DPC 入院患者数（厚生労働省 HP 最新データ）で，全国12位1,960名を達成した（表3）．

また当院産婦人科は，『新専門医制度・産婦人科研修プログラムにおける基幹施設』に認定されており，2020年新たに8名の後期研修医を採用した（全国11位・表4）．これら多数の後期研修医採用を背景に，明石医療センターに2名，高槻病院に2名の後期研修医を派遣し，両病院の産婦人科運営をサポートしている．

臨床成果の学術成果への記録活動も積極的に行っており，これら多数の専攻医の学会発表も積極的に行っている．

今後の展望

年間分娩取り扱い件数は2019年1,846件と大阪府下第1位，全国順位第9位を達成したが，2020年には更にこれを上回る2,122件を数えた（表3）．24時間対応可能な無痛分娩の導入により，大阪府における無痛分娩のメッカとなることを目指し，年間分娩数2,200件を目標に，更なる分娩数増加を目指す．

一方婦人科領域では，5名の内視鏡技術認定医を中心に，最新型「da Vinci Xi」を用いたロボット手術を積極的に行い，今後更なる婦人科手術件数の増加に貢献できるものと考えられる．

産婦人科救急医療，産科分娩件数，da Vinci Xi を含めた婦人科手術件数，並びに新専門医制度における基幹施設としての研修医獲得人数，これら産婦人科の全ての分野において全国10指に入る病院を目指す．

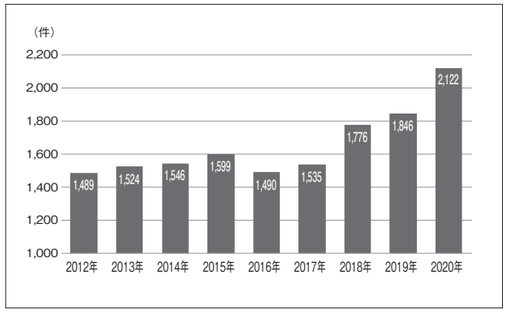


図1．千船病院産婦人科　年間分娩件数の推移

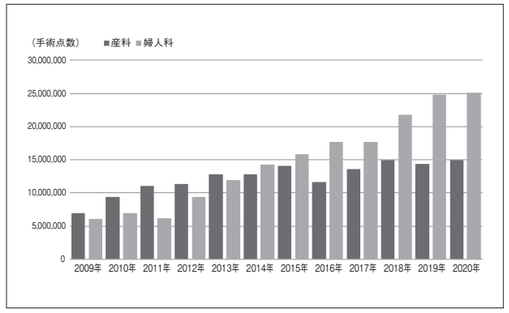


図2．千船病院産婦人科　手術実績（手術点数）の年次推移

表1．全国分娩件数（2019年度データ　最新）

（単位：件）

全国順位	施設名	所在地	分娩数
1位	福田病院	熊本	3,682
2位	総合母子保健センター愛育病院	東京	2,906
3位	日本赤十字社医療センター	東京	2,879
4位	愛和病院	埼玉	2,807
5位	恵愛病院	埼玉	2,764
6位	賛育会堀病院	神奈川	2,575
7位	国立成育医療研究センター	東京	2,239
8位	鈴木病院	愛知	1,951
9位	社会医療法人愛仁会千船病院	大阪	1,895
10位	葛飾赤十字産院	東京	1,804
11位	菅原病院	埼玉	1,793
12位	東京衛生病院	東京	1,754
13位	小阪産病院	大阪	1,736
14位	大阪母子医療センター	大阪	1,715
15位	札幌マタニティウィメンズ	北海道	1,689
16位	足立病院	京都	1,671
17位	母と子の上田病院	兵庫	1,664
18位	永井マザーズホスピタル	埼玉	1,549
19位	戸田中央産院	埼玉	1,533
20位	聖路加国際病院	東京	1,523

表2．婦人科da Vinci Xi手術実施件数/全国順位
（全58施設）Intuitive Surgical社提供

（単位：件）

全国順位	施設名	2020年症例数
1位	倉敷成人病センター	208
2位	大阪市立総合医療センター	124
3位	山梨県立中央病院	110
4位	豊橋市民病院	105
5位	藤田医科大学病院	79
6位	三重大学病院	78
7位	東京女子医科大学附属病院	71
8位	千船病院	63
9位	川崎医科大学附属病院	54
10位	石川県立中央病院	52
11位	帯広厚生病院	48
12位	国立国際医療研究センター病院	45
13位	日本生命病院	43
14位	東京女子医科大学附属病院	41
15位	東京医大	41

表3．厚生労働省データ
産婦人科領域DPC入院数/全国順位（最新）

（単位：件）

全国順位	施設名	DPC入院数
1位	福田病院	3,453
2位	倉敷成人病センター	2,688
3位	公益財団法人　がん研究会　有明病院	2,319
4位	慶應義塾大学病院	2,272
5位	大阪医科大学附属病院	2,075
6位	名古屋第一赤十字病院	2,048
7位	国立大学法人三重大学医学部附属病院	2,027
8位	東京大学医学部附属病院	2,015
9位	順天堂大学医学部附属順天堂医院	2,002
10位	埼玉医科大学　総合医療センター	1,993
11位	自治医科大学附属病院	1,985
12位	社会医療法人愛仁会千船病院	1,960
13位	国立大学法人京都大学医学部附属病院	1,953
14位	手稲渓仁会病院	1,945
15位	大阪市立大学医学部附属病院	1,916

表4．新専門医制度2020年　産婦人科後期研修医採用人数/全国順位（産婦人科領域基幹施設全156施設）

（単位：名）

全国順位	基幹施設名	都道府県	応募者数	定員数	充足率
1位	東京大学医学部附属病院	東京都	19	30	63%
2位	昭和大学病院	東京都	17	17	100%
3位	九州大学病院	福岡県	15	20	75%
4位	筑波大学附属病院	茨城県	13	15	87%
	大阪大学医学部附属病院	大阪府	13	18	72%
6位	慶應義塾大学病院	東京都	12	15	80%
7位	三重大学医学部附属病院	三重県	11	10	110%
8位	京都大学医学部附属病院	京都府	10	26	38%
9位	東北大学病院	宮城県	9	20	45%
	名古屋大学医学部附属病院	愛知県	9	25	36%
11位	札幌医科大学附属病院	北海道	8	10	80%
	東京慈恵会医科大学附属病院	東京都	8	20	40%
	東京女子医科大学病院	東京都	8	10	80%
	社会医療法人愛仁会千船病院	大阪府	8	8	100%
	鹿児島大学病院	鹿児島県	8	15	53%
15位	福島県立医科大学	福島県	7	10	70%
	自治医科大学附属病院	栃木県	7	12	58%
	杏林大学医学部付属病院	東京都	7	12	58%
	東京都立多摩総合医療センター	東京都	7	8	88%
	岡山大学病院	岡山県	7	8	88%

眼　科

スタッフ紹介

主任部長　中村礼恵
非 常 勤　中村　誠，今井尚徳，三木明子，高野史生，
　　中鉢亜弥

診療内容

外来では，一般眼科，小児眼科の診療を主に行っている．また，月に一度緑内障の専門外来も行っている．

手術は，白内障手術，緑内障手術，外眼部手術を行っている．また，全身麻酔下にて小児の霰粒腫等の手術も行っている．

抗VEGF薬の硝子体注射も開始している．

今後の展望

硝子体手術のできる環境を少しずつ整えて，手術件数を増やしていきたい．また，斜視手術等に対応できるようにしていきたい．

表．手術件数

（単位：件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
手術件数	4	3	8	5	0	4	0	4	6	6	12	12

耳鼻咽喉科

スタッフ紹介

常 勤 医 師　伊集院隆宏
　　奥西真帆
　　鞆津匡宏
非常勤医師　原田倫子

診療体制

耳鼻咽喉科外来担当医表参照（表1）．

活動内容

診療体制は昨年と特に変わっていない．伊集院，鞆津が外来及び病棟，手術等の診療を，奥西は外来診療を主に行っている．原田医師は水曜日午前中の外来診察のみ担当いただいている．

新型コロナウイルス感染症の大流行で昨年4月初旬より延期を与儀なくされていた当科待機手術も昨年の7月から再開したが，その後も繰り返す流行でたびたび延期を与儀なくされている．もうしばらく同様の状況が続くと思われるが，状況に応じ臨機応変に対処していくほかないと考える．

今後の展望

引き続き近隣の開業医及び高次機能病院との，より丁寧な病診連携を行っていきたいと考えている．

表1．外来担当医表

	月	火	水	木	金
午前	伊集院	伊集院	原田・手術	伊集院	奥西
	奥西	奥西		奥西	鞆津
午後	検査・外来手術 （完全予約制） 補聴器外来	検査・外来手術 （完全予約制） 補聴器外来	手術	検査・外来手術 （完全予約制）	検査・外来手術 （完全予約制）

表2．手術状況（2020年1月1日～2020年12月31日）

（単位：件）

手術名		件数	手術名		件数
耳科領域	鼓膜チューブ留置	11	喉頭・気管・食道領域	喉頭良性腫瘍摘出術	0
鼻・副鼻腔領域	その他	1		音声機能改善手術	1
	鼻中隔矯正術	9		気管切開術	1
	内視鏡下鼻副鼻腔手術	10		その他	0
	下鼻甲介手術	16	顔面・頸部領域	甲状腺良性腫瘍摘出術	1
	内視鏡下鼻性髄液漏閉鎖術	1		耳下腺良性腫瘍摘出術	0
	その他	0		頸部良性腫瘍・嚢胞摘出術	0
口腔・咽頭領域	口蓋扁桃摘出術（アデノイド切除術含む）	31		その他（リンパ節生検含む）	3
	咽後膿瘍切開排膿術	1			
	舌・口腔・咽頭腫瘍摘出術	1			
	その他	3	合計（件）		90

麻　酔　科

スタッフ紹介

1. 常勤医
   主任部長　上北郁男（2002年卒，専門医・指導医）
   （2020年9月退職）
   部長　河野克彬（1967年卒，専門医・指導医）
   部長　魚川礼子（1998年卒，専門医・指導医）
   医長　角　千里（2005年卒，専門医・指導医）
   医長　星野和夫（2007年卒，専門医・指導医）
   医長　大山泰幸（2008年卒，専門医）
   医員　金岡由起（2014年卒）
   医員　小川夏美（2020年10月入職）
   大阪医科大学麻酔科専門研修プログラム
   清水定典（2016年卒，専攻医）
2. 非常勤医
   八木俊浩（認定医）
   足立　智（専門医）
   他

診療内容

手術麻酔
無痛分娩
ICU管理
月曜日から金曜日の午前：術前外来
火曜日と木曜日の午後：無痛分娩外来
火曜日の午後：無痛分娩オンライン相談と無痛分娩教室
水曜日の午後：ペインクリニック外来

2020年のトピックス・実績

（論文）

Yoshida T, Sumi C, Uba T, Miyata H, Umegaki T, Kamibayashi T. A rare case of atropine-resistant bradycardia following sugammadex administration. JA Clin Rep 2020;6:18. doi: 10.1186/s40981-020-00326-7.

魚川礼子：産科麻酔における合併症と急変対応．日本産科婦人科学会雑誌 2020;72:1759-63.

魚川礼子：無痛分娩の麻酔合併症 総論．ペリネイタルケア 2020;39:1171-3.

魚川礼子：無痛分娩の麻酔合併症 致死的合併症．ペリネイタルケア 2020;39:1174-7.

（学会発表）

魚川礼子：産科麻酔における合併症と急変対応．医会・学会共同企画「生涯研修プログラム」「無痛分娩における安全管理体制の構築のために」第72回日本産科婦人科学会 WEB 2020/4/23

魚川礼子：無痛分娩医療の導入．日本周産期麻酔科学会第1回周産期麻酔科学会セミナー WEB 2020/8/8

角　千里，福井有華，阪本幸世，上林卓彦：心タンポナーデを契機に診断された右心房原発血管肉腫の麻酔経験．第25回心臓血管麻酔学会 WEB 2020/9/20

山田真唯子，魚川礼子，星野和夫，大山泰幸，金岡由起，河野克彬：覚せい剤中毒の妊婦における全身麻酔の経験．第40回日本臨床麻酔学会 WEB 2020/11/6

（講習）

魚川礼子：無痛分娩導入．広島市民病院講演 広島市 2020/10/16

魚川礼子：無痛分娩セミナー．メディカ出版セミナー 2020/2/23

魚川礼子：J-CIEMELS公認講習会．向日市 インストラクター 2020/1/26

今後の展望

安全で快適で無駄のない麻酔診療と手術部運営を目指したい．無痛分娩についても，安全で快適で無駄のない鎮痛を提供したい．

初期研修医や専攻医への教育についても，更に充実させたい．

愛仁会地域ケアセンター

スタッフ紹介

訪問診療：
　医師　北　智之，石村恵美
　看護師2名，事務2名
訪問看護ステーションほほえみ：
　看護師21名，理学療法士4名，事務1名
ケアプランセンター千船病院：介護支援専門員7名
ヘルパーステーションちぶね：介護福祉士6名，
　事務1名
総合相談窓口アイ：看護師1名

業務内容

「私たちは在宅医療と介護を通じ，希望する場所で，患者さまとそのご家族が安心して有意義に過ごせる地域社会を目指します」という理念の下，各職種の専門性を活かし，緊密な連携を通して，自宅で過ごすことを望む人への包括的なサポートを行っている．

2020年のトピックス・実績

訪問診療は独力では通院困難な方に対して疾患の診療や医療機器の管理などを通して，家で過ごすための種々のサポートを行っている．原疾患としては各種がん，認知症，末期心不全，非代償性肝硬変など多岐に渡っている．また，在宅療養支援診療所として，24時間365日体制で緊急往診に対応している．特に在宅看取りに力を入れており，看取りに至るまでのプロセスを大切にし，家で過ごせてよかったと思っていただける心の通った寄り添う医療を心掛けている．訪問看護は，昨年に続き機能強化型訪問看護ステーションとして，小児，難病等の重度利用者受入体制強化を図った．ヘルパーステーションちぶねは人員体制の見直しを図り，ケアプランセンター千船病院は在宅看取りの体制強化を図り，次年度よりターミナルケアマネジメント加算の算定が可能となった．

今後の展望

在宅医療，在宅介護は今後ますます需要が増えていくことが予想される．患者及び利用者数が増えたとしても質を落とさずに，きめ細かい対応を24時間365日し続けるために，理念をしっかりと共有した意識の高いスタッフを確保し，教育体制やカンファレンス等を充実させ，活き活きと，one team として和を尊びつつ働くことのできる環境作りに取り組む必要がある．

同時に，法人内外の機関や施設との関係強化を一層進め（多職種連携），ICTの積極的な活用，人材の柔軟な活用，在宅サービスの形に適したシステム作りなど，非効率な在宅サービスの中において様々な工夫を凝らし，病気ではなく人・家族・地域をみるという在宅医療及び在宅介護の奥深さを追求していきたい．

表1．訪問診療実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
外来患者数(名)	331	309	349	356	343	343	339	332	330	321	321	362	336.3	4,036
医業収入(円)	9,736,690	9,352,550	10,029,400	10,659,620	10,452,945	11,514,530	11,096,200	10,484,100	10,262,440	10,233,220	10,721,630	11,546,010	10,507,445	126,089,335

表2．訪問看護実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
延人数(名)	1,574	1,493	1,569	1,585	1,449	1,578	1,675	1,576	1,748	1,631	1,603	1,707	1,599.0	19,188
件数(件)	192	197	193	192	193	202	202	205	204	203	211	207	200.1	2,401
収入(円)	15,091,986	14,714,756	15,163,289	15,003,222	13,913,120	15,208,739	16,131,482	15,157,200	16,540,742	15,416,070	15,261,449	16,088,462	15,307,543	183,690,517

表3．ヘルパーステーションちぶね実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
件数(件)	722	719	813	872	825	838	851	809	753	738	751	873	797.0	9,564
収入(円)	2,576,212	2,590,568	2,907,810	3,078,609	2,965,606	2,976,864	2,952,396	2,821,299	2,656,674	2,577,786	2,652,692	3,046,901	2,816,951	33,803,417

表4．ケアプランセンター千船病院実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
件数(件)	257	260	259	264	270	267	269	270	276	272	271	265	266.7	3,200
収入(円)	3,635,880	4,186,606	4,119,035	4,276,783	4,430,590	4,348,316	4,408,952	4,401,136	4,583,456	4,471,302	4,495,146	4,470,566	4,318,981	51,827,768

※2020年5月1日よりケアプランセンターちぶねと統合

Ⅱ

高　槻　病　院

7:1急性期病院
総合周産期母子医療センター
小児救命救急センター
地域医療支援病院
JMIP（外国人患者受入れ医療機関認証制度）認証医療機関
大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関
ICU·PICU·SCU/MFICU·NICU·GCU
全477床

〒569-1192
大阪府高槻市古曽部町1丁目3番13号
TEL.072-681-3801

院長　髙岡秀幸

総合内科

スタッフ紹介（2020年12月31日現在）

主任部長：筒泉貴彦
医　　長：濵田　治，笹木　晋，世戸博之
医　　員：恒光綾子，井上聖也
専 攻 医：加藤裕紀子，鶴田慧司郎，廣田功平
看 護 師：向井拓也，高石絵美，小林達也

診療内容

外来：総合内科は高槻病院の初診外来を担当しており，種々の症状を呈する患者の初期評価を行っている．病態や疾病に合わせて総合内科での対応を継続して行うか，あるいは専門医の評価及び加療が必要であるかを判断する．再診外来では主に初診外来で対応した患者の加療が短期間である際のフォローアップ，あるいは総合内科に入院されていた患者の退院後の複数回のフォローアップに利用している．いずれも病態が安定した際は極力かかりつけ医に患者をお返しするようにしており，急性期病院と開業医との良好な関係を維持できるように努力している．すなわち開業医からのご紹介に対しては依頼内容に対して真摯に対応し，問題が解決したら患者をお返しすることで高槻市の中枢病院としての役割を果たすことを目指している．

入院：一般外来及び救急外来からの急性期疾患が入院患者の多くを占めている．高齢者において頻度の高い誤嚥性肺炎，尿路感染症，複数の病態が関与する食欲不振や衰弱（Failure to thrive）症例が多いが，不明熱，多関節炎などの診断に難渋する症例も相談されるケースが増加している．基本的に入院依頼のあった症例については特殊な理由がない限り全例受け入れており，必要に応じて専門科と協力の上診療を行う．予定入院とは異なり，緊急性を伴う病態が多いが柔軟な対応を心掛けている．入院チームは科内3チームで構成されており，日替わりで入院の対応を行っている．各チームは1名の指導医，2名の後期研修医，初期研修医1～2名及び診療看護師で構成されている．診療看護師も診療に関与しており，看護師としての側面から患者の診療の質の向上に大きく役立っている．初年度に引き続き，高齢患者の種々の病態の対応を行っていることに加えて非高齢患者の重症例や膠原病疾患の頻度も増加してきている．2018年度より整形外科疾患であり大腿骨近位部骨折及び椎体骨折に対する診療を，当科を主科として整形外科と協力して行うことが開始されている．欧米ではOrthopedic Co-Management（OCM）と呼ばれており，整形外科の病態以外の種々の内科疾患，周術期管理，安全な退院のための準備などを包括的に診療することで患者への診療の質の向上を目指して行っている．高齢患者のニーズに即しているためか，1年を通じた入院患者数は1,000名以上と年々増加傾向であり，昨年度同様，他科の外来及び入院患者のコンサルテーションも随時行っている．

教育：若手医師及び看護師への教育面においても役立つべく，毎朝のカンファレンスや回診時の教育セッション，看護師勉強会において尽力している．

2020年のトピックス・実績

訪問診療：高齢社会に伴い外来受診が困難な症例，終の棲家として自宅を選択するも依然として医療のニーズがある症例に対して総合内科主体の訪問診療をしんあい病院で始動しており患者数は順調に増加している．更なる拡大を目指していく．

今後の展望

高齢社会である本邦においてはますます種々の病態をバランスよく診療する総合内科医にニーズが高まることが予想される．高槻病院，訪問診療での診療を継続的に行っていき，社会への貢献を行う．また総合内科のニーズや功績，臨床研究を通じて発表することも引き続き積極的に行っていく．

呼吸器内科

スタッフ紹介

船田泰弘　（1995年卒，主任部長）
上領　博　（1999年卒，部長）2020年3月まで
中村美保　（2002年卒，医長）
松村佳乃子（2009年卒，医長）2020年4月から
山田　潤　（2014年卒，医員）2020年3月まで
小濱みずき（2013年卒，医員）
福井崇文　（2014年卒，医員）
岡本真理子（2015年卒，専攻医）
吉村遼佑　（2015年卒，専攻医）
岩本夏彦　（2015年卒，専攻医）2020年4月から

診療内容

肺炎，喘息，COPDなどのcommon diseaseを始め，肺癌の集学的治療，重症呼吸不全患者の集学的治療，チーム医療で取り組む慢性呼吸器疾患など幅広い診療を行っている．診療体制は従来どおり屋根瓦方式のチーム制（2チーム制）で診療及び初期研修医・専攻医の指導を行った．

2020年のトピックス・実績

今年から新型コロナウイルス感染症の患者（軽症・中等症）の入院の受け入れを開始した．

今年の入院患者数は延べ787名（昨年度893名）であった．入院患者の内訳は，新型コロナウイルス感染症 30，肺炎・気管支肺炎115，誤嚥性肺炎49，結核10，肺膿瘍13，胸部悪性腫瘍235（非小細胞肺癌194，小細胞肺癌28，悪性胸膜中皮腫7，胸腺癌1，その他5），気管支喘息19，COPD 増悪33，間質性肺疾患73，気胸36，血痰・喀血3，胸水貯留13，膿胸14などであった．肺癌と肺炎（誤嚥性肺炎含む）で半数を占める点は昨年までと同様であるが，喘息と COPD 増悪が減少した．死亡退院は72例でうち剖検は4例であった．入院検査は終夜睡眠ポリグラフィ（PSG）49，気管支鏡検査41（外来検査125；総計166），局所麻酔下胸腔鏡検査1であった．気管支鏡検査，PSG ともに昨年よりも減少した．喘息，COPD 増悪や検査入院の減少には新型コロナウイルス感染症の蔓延の影響があったと考えられる．なお，今年も呼吸器内科・外科・放射線治療科・病理診断科・メディカルスタッフが参加する肺癌キャンサーボード及び，骨転移ボードを毎月開催した．

今後の展望

2020年は新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響があり，全入院患者数と気管支鏡及びPSGの検査入院が減少した．

2021年は新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを継続しながら，新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響を受けにくい肺悪性腫瘍患者のリクルートに力を入れ，実績を伸ばしたい．

表．2020年の延べ入院患者数と転帰（　）内は昨年度

（単位：名）

	患者数	死亡		患者数	死亡
呼吸器感染症			呼吸器悪性腫瘍		
新型コロナウイルス感染症	30	0	非小細胞肺癌	194(170)	18(29)
肺炎・気管支肺炎			小細胞肺癌	28(63)	3(4)
細菌性肺炎	109(145)	6(8)	悪性胸膜中皮腫/胸腺癌	7(3)/1(1)	1(0)/0(1)
ウイルス性肺炎	2(2)		閉塞性肺疾患		
レジオネラ肺炎	1(2)		気管支喘息	19(37)	0(1)
ニューモシスチス肺炎	3(3)	1(0)	COPD増悪	33(41)	4(5)
誤嚥性肺炎	49(36)	10(4)	気胸	36(46)【手術(22)】	1(0)
結核/非結核性抗酸菌症	10(7)/5(2)	2(1)	胸水	13(18)	0(1)
肺膿瘍	13(8)		気管支拡張症	0(4)	
膿胸	14(14)	0(1)	血痰・喀血	3(1)	
間質性肺疾患			血管炎・肺胞出血	4(3)	
肺線維症・非特異性間質性肺炎	41(42)	16(9)	肺塞栓症	0(0)	
特発性器質化肺炎	18(12)	4(0)			
過敏性肺臓炎	2(8)		その他	82(91)	7(12)
薬剤性肺炎	4(7)	0(1)	検査入院		
放射線肺臓炎症	2(0)		終夜睡眠ポリグラフィ検査	49(54)	
慢性好酸球性肺炎	2(1)		気管支鏡検査	41(64)【入外合計125(215)】	
膠原病関連間質性肺炎	3(5)		局所麻酔下胸腔鏡検査	1(1)	

消化器内科

スタッフ紹介

中島卓利　（1985年卒　主任部長）
長谷川和範（1995年卒　部長）
大須賀達也（1997年卒　部長）
角山沙織　（2004年卒　医長）
澤井寛明　（2005年卒　医長）
小川浩史　（2007年卒　医長）
鍋嶋克敏　（2010年卒　医長）
谷本直紀　（2012年卒　医員）
池内愛実　（2013年卒　医員）
石田亮介　（2016年卒　専攻医）
西川浩介　（2017年卒　専攻医）
石原美﨑　（2018年卒　専攻医）
伊藤裕貴　（2018年卒　専攻医）
金丸薫子　（2018年卒　専攻医）
増田祥子　（2018年卒　専攻医）　計15人

診療内容

消化管や肝胆膵など広範で，また良性から悪性疾患など多岐にわたる消化器領域の疾患に対し，弱点の少ない診療体制を構築している．消化器内科初診外来を3人の部長で担当し，救急外来や地域の医療機関と密接に連携し，オープン検査などで内視鏡検査の積極的な受け入れを行い，より専門的な検査治療を目指している．

2020年のトピックス・実績

診療実績を下記の表にまとめた．入院は，診療パスの利用や MSW，リハビリの早期介入，病棟カンファレンスを行い，平均在院日数の短縮を維持できている．胆道系疾患の増加もあり，入院平均単価は上昇傾向である．化学療法は入院から外来通院への移行が進んでおり，外来平均単価は上昇傾向である．内視鏡関連では，新型コロナウイルス感染症流行による影響で4月，5月の件数が特に落ち込み，上部・下部消化管内視鏡検査数は低下した．一方で，感染対策を講じながら，内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）は安定して行うことができ，内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）の件数も著明に増加した．処置用ダブルバルーン内視鏡（EI-580BT）の導入で胃全摘後症例の ERCP にも問題なく対応できている．超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）も安定して施行しており，超音波内視鏡下胆道ドレナージ術も行っている．

今後の展望

来季も専攻医のローテーションは継続していく．4月より石原美﨑が明石医療センターに，金丸薫子が千船病院に，10月より増田祥子が甲南医療センターに，それぞれ1年間の予定で異動し，西川浩介が千船病院に戻る．4月より高槻病院で初期研修を終了した岩本陽菜と影山達也が，千船病院から南條　望（5年目）が加わる．日本専門医機構からのシーリングが決定し，今後は法人内病院や連携病院との協力が必要となるだろう．

かつて当科の入院患者の上位を占めていた誤嚥性肺炎，尿路感染症は，総合内科の開設以来ほぼ担当することはなくなり，より消化器に特化した診療を行うことが可能となった．化学療法の入院から通院加療への移行，内視鏡治療の外来治療への移行，入院期間の短縮化で，総入院数，新入院数とも減少傾向にある中で，消化器疾患の新規患者の集患が引き続き課題である．高度急性期病院ならではの専門的かつ迅速な診療を必要とする症例や，併存疾患，問題点を有する症例にも幅広く対応することが求められており，質の高い消化器診療を行うことで地域医療に貢献していきたい．

表1．診療活動実績

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年
新入院(人)	1,605	1,504	1,456	1,486
入院平均単価(円)	48,882	51,539	51,000	58,196
平均在院日数(日)	12	11	11	11
外来延べ患者数(月平均)(人)	1,638	1,478	1,537	1,431
平均単価(円)	20,467	23,089	24,208	26,452
化学療法(外来)(件)	700	902	1,007	809
化学療法(入院)(件)	296	229	190	119

※2020年のみ年報の対象期間が1月1日～12月31日

表2．内視鏡活動実績

（単位：件）

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年
総数(うち治療)	6,496 (1,452)	6,216 (1,303)	6,302 (1,367)	6,008 (1,381)
上部(うち治療)	3,602 (269)	3,567 (268)	3,537 (249)	3,355 (313)
下部(うち治療)	2,620 (933)	2,410 (804)	2,484 (855)	2,301 (839)
ERCP関連(うち治療)	274 (254)	239 (231)	281 (263)	352 (229)
超音波内視鏡	146	166	188	170
EUS-FNA	27	33	35	43
ESD(食道・胃・大腸)	67	88	73	78

※2020年のみ年報の対象期間が1月1日～12月31日

循環器内科

スタッフ紹介

髙岡秀幸　（1986年卒）
中島健爾　（2002年卒）
村井直樹　（2003年卒）
松寺　亮　（2006年卒）
佐野浩之　（2008年卒）
安部博昭　（1992年卒）
佐々木　諭（2010年卒）
湯口　賢　（2010年卒）
田中友望　（2014年卒）（～2020年4月）
上村航也　（2015年卒）
神末真由　（2016年卒）
片平龍太郎（2017年卒）　　計12名

診療内容

入院患者は，主に救急外来からの直接入院や近隣医療機関からの外来紹介である．治療内容は，冠動脈インターベンション（PCI），下肢動脈形成術（EVT），救急心不全加療を主軸にしている．本年より循環器ホットラインを開設し，日勤帯は救急総合診療科の稲本医師，増田医師のご協力をいただき，24時間体制で開業医から直接電話を受けられるように対応し，近隣開業医からの紹介数増加を図っている．また，平日は従来の内科当直に加えて循環器内科当直を立てて，夜間救急患者の受け入れを強化している．

2020年のトピックス・実績

昨年に引き続き，当院循環器内科への入職を希望する若手医師の数は安定しているが，本年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり発表機会が減少しており，積極的に発表回数を増やしていきたい．冠動脈インターベンション（PCI）は243件と昨年に引き続き減少傾向であるが，ロータブレーター治療は23件，DCAは8件，エキシマレーザー治療は28件と様々なdeviceを駆使し最適な医療を提供している．末梢動脈インターベンションのうち下肢EVTは71件と昨年を維持している．冠動脈造影検査（CAG）に関しては，従来の橈骨動脈穿刺に加え，より低侵襲な橈骨動脈穿刺遠位橈骨動脈アプローチ（distal radial approach：DRA）を開始した．また，心臓血管外科ご協力の下補助循環用ポンプカテーテル（IMPELLA）を導入した．緊急カテーテルにおいては，院内iPhoneのメッセージで緊急カテーテルグループを作成し，円滑な情報共有ができるようになった．非侵襲的検査については，経胸壁心エコー図検査7,535件，経食道心エコー図検査232件，頚動脈エコー1,089件，その他血管エコー1,200件と安定している．これまで糖尿病教育入院患者の負荷心電図検査についてマスターWでは様々な限界（下肢筋力低下患者，負荷不十分など）があったため，トレッドミル負荷心電図検査に代替することとした．

今後の展望

これまで主軸であった待機的冠動脈インターベンション（PCI）は手術適応（機能的な虚血の証明が必須）などから引き続き全国的に減少することが予想される．近隣開業医はもちろんのこと，茨木周辺の医療機関とも連携を図り症例数を確保したいと考えている．また，今後重要視されるのは急性冠症候群であり，緊急カテーテルの質を他部署と連携し高めていきたい．これからもいっそう心臓血管外科，不整脈内科とともにハートチームとして相互関係の強化を図り，患者の共有化を目指していきたいと考えている．

糖尿病内分泌内科

スタッフ紹介

3月までは陳 慶祥（1995年卒 主任部長），平賀千尋（2013年卒 医員）の2名体制であったが，4月に吉田健一（2007年卒 医長）と岡 亜希子（2011年卒 医員）が着任し，4名体制となった．

診療内容

糖尿病及び内分泌全般を主な対象としつつ，陳は病棟での初期研修医指導から一歩引いて，外来及びマネージメントに徹した．吉田，岡，平賀が病棟での患者対応及び初期研修医の指導，他科からの血糖及び内分泌のコンサルトを引き受けている．吉田は内分泌専門医として内分泌負荷試験入院のマネージメント及びNST回診も行っている．外来では腎移植患者の糖尿病診療や産婦人科との連携での妊娠糖尿病や糖尿病合併妊娠の管理も行っている．1型糖尿病患者においてインスリン強化療法でコントロール困難な患者に積極的にCSII（持続インスリン皮下注入）療法を導入している．血糖変動の激しい患者はFGM（Flash Glucose Monitoring）を用いてインスリンの微調整を行っている．NST委員会の下部組織である医師，看護師，栄養士，薬剤師，臨床検査技師，理学療法士，事務員からなる「糖尿病ケアチーム」が2か月に1回糖尿病教育入院，外来糖尿病患者に関するミーティングを行っている．山下みどり糖尿病看護認定看護師が，糖尿病看護外来にて，糖尿病性腎症進展予防の指導，妊娠関連の糖尿病患者の指導，外来インスリン導入，CSII患者の療養指導，FGMの指導などを行っている．糖尿病足病変の患者の拾い上げを行い，外科外来に開設された「フットケア外来」にも加わり，足のケアや療養指導を行っている．診療支援科が中心となって糖尿病患者友の会（よもぎの会）のサポートを行っているが，新型コロナウイルス感染症の影響で，よもぎの会は休会となっている．内分泌疾患が疑われる患者は，入院にて内分泌負荷試験を行い，詳細な病態解析を行っている．

2020年のトピックス・実績

学会発表は糖尿病関連3題，内分泌関連1題であった．そのうち研修医が2題筆頭者として発表した．外来糖尿病管理患者は1,540名（うち1型糖尿病133名，2型糖尿病1,324名，妊娠糖尿病66名）であった．総数（特に2型糖尿病と妊娠糖尿病）がかなり増加している．入院患者は232名（パス入院57名）とかなり増加している．CSII療法は44名の患者が導入中であり，昨年より減少している．内分泌疾患の入院患者は50名（間脳・下垂体疾患10名，甲状腺疾患5名，カルシウム代謝異常1名，副腎疾患34名）と昨年よりも更に増加している．特に原発性アルドステロン症の紹介入院が増えており，放射線科の協力の下行われている副腎静脈サンプリングも9件で，地域において内分泌学会教育認定施設であるという認識が高まりつつある．外来では甲状腺穿刺細胞診検査77件と減少している．

また，実績の数字には表せないが，外科系や産婦人科の血糖コントロールの併診も当科が引き受けており，周術期の血糖管理に貢献している．

吉田の着任，平賀の糖尿病専門医試験合格で糖尿病専門医数が3名（指導医1名），内分泌専門医数2名（指導医2名）になった．

今後の展望

神戸大学糖尿病内分泌内科医局より2名常勤医師の派遣でようやく4名体制となった．ますます当地域の糖尿病及び内分泌の拠点である期待を背負い，地域からの紹介患者の受け入れ，病院全体からの血糖コントロール及び内分泌疾患のコンサルトを積極的に受ける．

同時に地域連携のため，血糖コントロールの安定した患者の逆紹介を更に進め，入院の必要な患者の紹介を増やし，入院患者増に繋げたい．

産婦人科との連携による妊娠糖尿病，糖尿病合併妊娠，妊娠合併甲状腺疾患診療の強化，糖尿病患者の定期的な合併症精査による血管病変の早期発見により，虚血性心疾患，脳血管疾患，下肢閉塞性動脈硬化性疾患の新規患者の掘り起こしにも努め，他科との連携を強めたい．引き続き学会発表の件数を増加させ，研修医にも積極的に学会発表をさせたい．2017年4月1日より内分泌学会認定教育施設となり，糖尿病専門医とともに内分泌専門医も取得可能な施設となった点を強調し，後期研修医の獲得に努めたい．

血液内科

スタッフ紹介

岡本雅司（1993年卒）
　日本血液学会認定血液専門医
　日本内科学会総合内科専門医

診療体制

火曜日
　血液内科専門外来
月～金曜日
　骨髄穿刺・生検
　化学療法
　病棟回診・処置

活動内容及びトピックス

腫瘍性疾患（白血病・悪性リンパ腫・骨髄腫・骨髄異形成症候群・骨髄増殖性疾患など），免疫性疾患（再生不良性貧血・免疫性血小板減少性紫斑病など），血栓・出血性疾患（血友病・抗リン脂質抗体症候群など）といった幅広い領域の血液疾患を診療している．造血幹細胞移植や若年者の急性白血病など，当院の設備上の問題で高度な無菌管理を要する疾患の治療はできないため，これらの患者に対しては，整備の整った施設を紹介している．高齢の患者が多くなっていることと，疾患の専門性の高さから，他院への転院に時間が掛かり，どうしても入院日数が長くなる傾向にある．

今後の展望

可能であれば造血幹細胞移植を施行したいと考えている．自家末梢血幹細胞移植が施行可能になると，より若年の患者を診ることができ，患者数が増加することが見込める．非専門的な疾患から造血幹細胞移植まで幅広い血管疾患を診療してきた．その経験をいかしていきたい．

不整脈センター

スタッフ紹介

山城荒平：副院長，不整脈センター長
坂田憲祐：医長
田中友望：医員
黒田奈巳：非常勤

診療内容

不整脈専門外来を月・火・水・金曜日の午前及び，月・木曜日の午後に行っている．また，水曜日にデバイスチェックの外来を行っている．

不整脈に対するカテーテルアブレーション治療を月曜日から金曜日に，ペースメーカーなどデバイスの植え込みを適宜行っている．

患者向けにオンライン相談，医師向けに心電図オンライン相談を開始し，好評である．

2020年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症の影響で遠方からの紹介患者は減少し，症例数は微減したが，コンスタントに症例を紹介していただいている．

新型コロナウイルス感染症がまん延している中においても，感染対策を施し，CACAF（大阪高槻心房細動カテーテルアブレーションライブデモンストレーション）をハイブリッド開催で施行し，例年より多い400名以上の参加者に視聴していただき，新型コロナウイルス感染者を出すことなく，成功裏に開催できた．他院では困難な症例に対してカテーテルアブレーションを施行できる特徴を生かして，和歌山県からヘリコプターで転院してきた50代致死的心室頻拍ストーム症例を救命し得た．

下大静脈閉塞や側弯症などで下大静脈からのアクセス困難例に対するリモートマグネティックナビゲーションシステムを用いた上大静脈アプローチを確立した．このため，遠方からの紹介が続いている．

今後の展望

あらゆる不整脈に対応できる利点を生かして，より遠方からの紹介患者が増えるように広報活動を行う．

外来，病棟，カテ室の看護師が病棟所属のナースで統一され，初診から入院，退院までシームレスな看護が可能となった．患者が安心して治療できるシステムを強固にしていく．

新型コロナウイルス感染症時代にふさわしい無症状患者の院内持ち込み防止に配慮した，しっかりとした感染対策を施した侵襲的治療を行い，予後を改善する高度治療を継続する．

患者が安心して治療を受け，入院生活を送れる環境を整備していく．

表．不整脈治療（2020年）

（単位：例）

カテーテルアブレーション（心筋焼灼術）	379例
マグネティックナビゲーションを用いたアブレーション	86例
心房細動に対するアブレーション	278例
心室性不整脈に対するアブレーション	31例
その他の疾患に対するアブレーション	69例
デバイス植込み	66例
徐脈用ペースメーカー（新規）	32例
徐脈用ペースメーカー（交換）	8例
植込み型除細動器	4例
心不全用両心室ペースメーカー	2例
心不全用両心室ペーシング機能付植込み型除細動器	2例

救急総合診療科

スタッフ紹介

稲本真也（1992年卒　主任部長）
増田　茂（1999年卒　医長）　（2020年4月着任）
豊島千絵（2013年卒　医員）　（2020年5月着任）

診療内容

当科は2019年に発足した総合救急医療センターの内科部門として平日日勤帯の救急診療を担っている．軽症から重症まで幅広い患者の受け入れを行っており，入院が必要な場合は当該診療科に治療を依頼している．

2020年のトピックス・実績

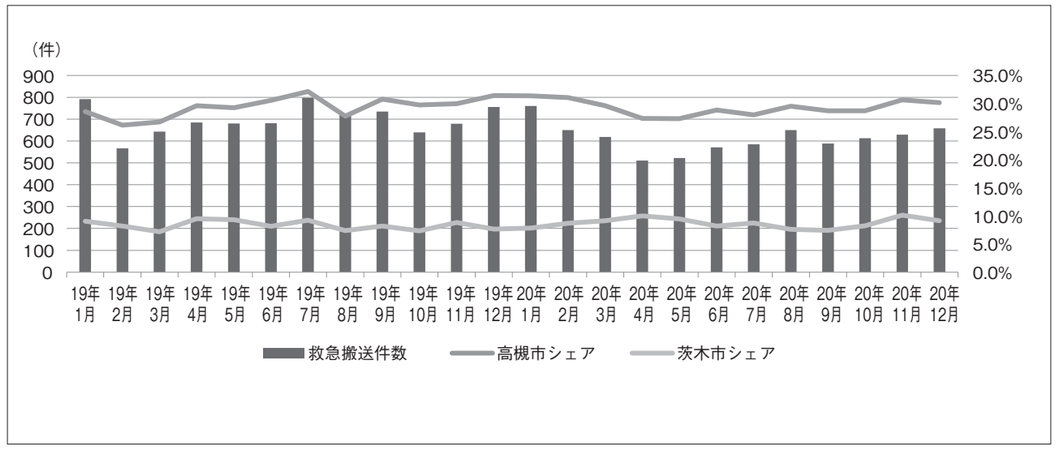
2020年は新型コロナウイルス感染症流行の影響を大きく受けた．パンデミックの初期には全国的に広がった受診抑制の動きを反映して三島医療圏の救急搬送数が大幅に減少，当院の救急受け入れ件数も低下した．この傾向は一年を通じて続き，結果として年度当たりの救急搬送数は2019年度の85%にとどまった．一方で下図のとおり三島医療圏での救急搬送全体におけるシェアは低下しなかった．

パンデミックの初期では詳細不明の新興感染症患者を診察可能な場所が高槻病院で救急センターのみであった．このため発熱患者，風邪症状の患者，保健所からのPCR検査依頼を全て当科で担当せざるを得なかった．徒歩で来院する患者も多く，救急搬送の減少にもかかわらず救急外来の現場は多忙を極め，残念ながら不応需の症例も一時的に増加した．一方で多数の発熱患者に感染対策を講じつつ救急外来を円滑に運用するノウハウを得られたのは収穫であった．

今後の展望

2021年1月にはプレハブ診察室を建て，発熱外来を発足する．当科も運用に深く関与し，多数の患者の診療を行う予定である．

2021年から救急受け入れの円滑化と重症患者受け入れの増加を目的に当科と急性期外科を一体的に運用することとなり，両診療科は新たに救急科として再スタートを切ることとなる．新型コロナウイルス感染症がまん延している中は今後もしばらく続くと思われるが，昨年の経験の蓄積を生かして一層地域医療に貢献するとともに，更なる重症患者受け入れのための体制構築に取り組んでいきたい．



図．救急搬送数と，高槻消防及び茨木消防の搬送に占める当院のシェアの推移

総合救急医療センター

スタッフ紹介

センター長：秋元　寛（1983年卒）（2019年4月着任）
主任部長（副院長）：稲本真也（1992年卒）
（2019年4月着任）
医長：橘髙弘忠（2003年卒）（2019年4月着任）
医長：増田　茂（2000年卒）（2020年4月着任）
医員：豊島千絵（2012年卒）（2020年5月着任）
初期研修医：2名

業務内容

高槻病院総合救急医療センターは3つの診療の柱を持っている．成人の内因性救急である救急総合診療科，外因性救急である急性期外科，そして小児全般の救急である小児救命救急センターである．また当センターは研修医の救急領域の研修の場として重要な位置を占めており，常に2名の研修医が交代で在籍している．

担当する医師は，小児救命救急センターは小児科，小児外科，小児脳神経外科が主に担当し，成人救急については救急医，循環器内科専門医，研修医が担当している．その他，院内の各診療科が連携し，迅速な対応を行っている．脳卒中，急性冠症候群，急性腹症，消化管出血，外傷など重症救急にも可能な限り対応できるよう，しっかりとした体制を整えている．

2020年のトピックス・実績

年々救急車搬送が増加しており，2019年には8,500件近い救急搬送があったものの，新型コロナウイルス感染症が流行してからは受診控えもあり，約1,000件減少した．また発熱患者を診察する院内体制が整っていなかったため，発熱患者は全て救急センターで診察することになり，隔離可能な限られた救急診療ベッドをフル回転させながら「断らない救急」の維持に努めたが，救急を断る件数が増加した．2020年11月から発熱外来を設置し，発熱患者が救急センターに集中しないように対策を取ったが，第3波，第4波では対応しきれない発熱患者が押し寄せたため救急医療がひっ迫した．

今後の展望

今後も新型コロナウイルス感染症との戦いが続くが，高槻市の救急医療体制を崩すことなく，円滑な救急医療の提供に寄与したい．

腎臓内科・血液浄化センター

スタッフ紹介

髙橋利和（1994年卒）：
日本腎臓学会腎臓専門医・指導医
日本透析医学会透析専門医・指導医
日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医
徳島大学臨床教授，大阪医科薬科大学臨床教育教授
黒川直基（2017年卒）：
後期研修医（2020年3月退職）

診療内容

腎炎・ネフローゼ，透析導入などの入院受け入れを随時行っている．腎生検は検査日を火曜日午後とした．

人工透析科：2017年6月から高槻病院3階へ移転．25床で運用している．

重症患者に対してはICUにて血液透析や特殊血液浄化を行った．

2020年のトピックス・実績

1）腎炎，ネフローゼを中心とした腎疾患の治療と末期腎不全の加療が入院患者の中心であった．
2）大阪医科薬科大学との腎臓内科症例検討会は感染対策のため2020年は休止した．
3）末期腎不全・透析に至る前の慢性腎臓病の段階での生活指導や病気に対する理解を深めることを目的とした腎臓病教育指導外来を2011年度から開始．対象患者をCKDstageIIまで拡大し，今年は計78件行った．新型コロナウイルス感染症の影響により減少したが，影響は軽微だった．また，腎臓病療法指導士の資格取得のための研修施設に2020年も指定された．
4）各教育・施設認定に関する活動
　2011年度から髙橋が徳島大学臨床教授となり，徳島大学の学生の学外教育の受け入れを行っている．また，2015年度から大阪医科薬科大学臨床教育教授となり，大阪医科大学6年生の学外実習も行うようになった．昨年に引き続き大阪医科大学泌尿器科後期研修医に対する腎不全教育目的で透析室への受け入れを行った．
5）透析室としての活動
　2017年6月に愛仁会リハビリテーション病院から高槻病院へ透析室が移転し，25床の透析室として運用．
　LDLアフェレーシス，LCAP，PMA等の特殊血液浄化も昨年同様積極的に行っている（表参照）．
　2020年は41名の透析導入を行った．新型コロナウイルス感染症の影響はなく，昨年度よりも増加した．
　また，急性期病院の透析室としての活動に力を入れ，2020年は延べ283名の入院透析を行った．入院透析依頼に関しての応需率は100%を達成した．
6）地域での活動
　慢性腎臓病の啓発及びCKDネットワークの構築のため大阪医科薬科大学と協力し，Web形式を中心に各方面への講演活動を行った．

今後の展望

当医療圏での腎臓内科の需要に対し専門医が不足している状況が続いている．今年は，大阪医科大学泌尿器科・腎臓内科と定期的なカンファレンスや会合は行えなかったが，しっかり連携を取っていきたい．

三島医療圏における透析クリニックとは有機的に連携がとれており，今後更に深化させていきたい．

表．特殊血液浄化件数

（単位：件）

GMA	PMX	CRRT	CART	PE
2	1	139	10	4

脳神経内科

スタッフ紹介

松下達生（1990年卒　主任部長）
日本内科学会　認定内科医・指導医
日本神経学会　専門医・指導医・代議員
日本頭痛学会　専門医
立花久嗣（2006年卒　医長）
日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医
日本神経学会　専門医・指導医
日本脳卒中学会　専門医
日本認知症学会　専門医・指導医
清家尚彦（2007年卒　医長）（2020年3月31日退職）
日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医
日本神経学会　専門医・指導医
解剖資格

診療内容

専門医2名体制で，月曜日から金曜日まで火曜日を除き午前は初診，紹介及び再診外来（月・水・金曜日：松下，木曜日：立花），午後は週4日（月・水・金曜日：松下，木曜日：立花）の再診外来，また水・木曜日午前は神戸大学からの非常勤医の応援を得て2診体制での診療を行っている．立花は第2，4火曜日午後に認知症外来を，松下は引き続き第3火曜日午後に千船病院での外来診療を行っている．

筋・神経生検や針筋電図など侵襲検査を主に火・木曜日午後に行い，火曜日午前は病棟カンファレンス，午後にはリハビリテーション科とともに臨床カンファレンスを行っている．

2020年のトピックス・実績

スタッフ数は2名のままで固定しているが，外来患者数は初診373名，再診5,648名の計6,021名であった．入院患者数は248名で，主な疾患では脳血管障害168，パーキンソン病や多系統萎縮症，認知症など変性疾患が22，てんかん関連が80，筋疾患8，神経感染症10，ギランバレーや多発性硬化症など神経免疫疾患15などであった．

脳血管障害については，超急性期のt-PA治療を含めた急性期治療はSCUで行い，慢性期は地域連携パスにのっとりかかりつけ医での継続加療を依頼するが，合併症など複雑な例については当科外来にて一次・二次予防治療を継続し，また機能障害について適宜リハビリテーション科と連携し経時評価しつつ治療を行い，頸動脈高度狭窄など観血治療適応症例は脳神経外科へ血管内治療等を依頼している．医師会主導型脳卒中地域連携パスの利用件数も維持している．パーキンソン病を中心とした神経変性疾患，特に特定疾患対象患者の外来患者数は，地域の高齢化を反映し引き続き増加傾向にあるが，てんかんとともにエリアの多くを担当し，三島地区の治療の要として活動している．大阪医科薬科大学脳神経内科，当科，藍野病院と近隣四医師会，歯科医師会，薬剤師会と保健所，地域包括センターなどによる三島圏域難病医療ネットワークにおいて，パーキンソン病類縁疾患やALSほか指定難病に対する基幹施設として地域連携を進めている．また愛仁会リハビリテーション病院と連携し，パーキンソン病入院リハビリプログラムがあり，今後も利用者数を増やしていきたい．てんかん患者は近年社会的注目が集まっているが，近隣に担当科が依然寡少であり，他地域からの紹介や小児科からのcarry over例などを含めて救急からの入院，外来数とも増加しており，検査部生理検査部門の迅速な対応を得て診療に当たっている．立花による認知症外来では治験も行っているが，認知症は当地域も高齢化とともにAD始めDLB，SD，VDなど増加傾向にあり，ますます需要は高まると予想される．錐体外路症状など隋伴症状を呈する例については，PD，DLBなどの鑑別診断にRI検査が有用視され診断基準にも組み込まれているが，当院では設備がなく行えないものは近隣施設での協力を得つつ診断，治療に専門性を発揮できるよう努めている．また松下は頭痛学会専門医でネット上サイトを見ての来院者も増加している．

今後の展望

学会専門医2名体制は変わらないが，引き続き日本神経学会准教育施設認定を維持し，神経疾患の診療，教育に努める．また新たな治療手段が一般化してきた脳血管障害，認知症，てんかんや，新ガイドラインの下，新規薬剤が増えてきているパーキンソン病始め神経変性疾患，てんかん，免疫性感染性神経疾患などの担当領域において，更に専門性，先端

性を高めていく．三島圏域に脳神経内科常勤の急性期病院が依然として少なく，特に高齢化に伴い増加していく変性疾患等，専門的治療を要する分野では今後も基幹施設として当圏域での診療の中心的役割が求められており，応じるべく引き続き努めていく．また生活習慣病の増加から脳血管疾患の増加，特にtPA症例の更なる増加も見込まれ，地域連携パスを通じ病診連携による近隣地域への逆紹介数の増加を目指したい．

精　神　科

スタッフ紹介

2020年のスタッフは，杉林 稔主任部長，伊藤晴子医長，井上由香医長，家田麻紗医長，島田 稔医師（週半日非常勤）．

公認心理師は常勤4名（小寺智子，鈴木佳子，山本百合子，房岡 茜）．

診療内容

(1) 外来診療の継続．
(2) コンサルテーション・リエゾン活動の継続．
(3) 精神科リエゾンチームの継続的活動．
(4) 認知症ケアチームの活動開始．
(5) 緩和ケアチームへの継続的参加．
(6) 関連施設（ケーアイ）への週に1回の出向を継続．
(7) 高槻市の認知症対策連携強化事業の嘱託医を継続．
(8) 医師卒後研修における精神科の必修化に伴い，当院所属の臨床研修医全員に1か月，若しくはそれ以上の精神科研修指導．

2020年のトピックス・実績

・外来

2020年の初診患者数（院内他科からの紹介を含む）は499名［前年435名］であった．そのうち，院内他科からの紹介患者数は313名（62.7%）［前年256名（58.9%）］であった．

他病院・医院からの紹介患者は168名（33.7%）［前年166名（38.2%）］であった．

疾患別の患者数は，表1のとおりである．

・入院

精神科主科での入院治療は行っていない．

身体疾患を持つ患者に対する心理的ケアについて，他科の医師や看護スタッフの相談に乗り，連携して治療に当たるコンサルテーション・リエゾン活動を随時行い，精神科リエゾンチームによる介入を積極的に行った．

・認知症ケアチーム活動

週1回の定期回診により各病棟での認知症ケアの向上に努めている．

・その他

精神科リエゾンチームと臨床研修医指導については，家田医長を中心として常勤スタッフにて活動した．

緩和ケアチームについては，チーム員として伊藤医長が参加した．

認知症については，通常の精神科外来での対応に加えて，介護老人保健施設ケーアイでのコンサルテーション・リエゾン活動，高槻市の認知症対策連携強化事業の嘱託医を井上医長が担当した．

・心理療法，心理検査

2020年の心理士による心理療法は1,011件［前年1,397件］，心理検査は33件［前年58件］であった．患者の様々な心理的問題に対し，カウンセリング等を行った．NICU，周産期センター，小児センターでの心理ケアにも取り組み，心理士による訪床と随時カンファレンスを行った（表2～4）．

今後の展望

今後も他科との連携を深めながら，活発な臨床活動を展開していきたい．

表1．精神科外来新患疾患分布

（単位：名）

	2018年度	2019年度	2020年
器質性症状性精神障害			
認知症(アルツハイマー型,血管型,等)	92	107	117
軽度認知障害	26	30	29
せん妄	60	53	68
器質性精神障害	18	8	15
症状性精神障害	3	0	0
その他	1	0	0
精神作用物質使用による精神及び行動の障害			
アルコール依存症	5	10	8
薬物依存症	0	1	1
統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害			
統合失調症（近縁疾患を含む）	11	20	11
妄想性障害	1	3	5
気分（感情）障害			
単極性うつ病	22	34	39
双極性障害（そううつ病）	3	5	7
単極性そう病	1	0	0
神経症性，ストレス関連性及び身体表現性障害			
不安神経症（パニック障害）	22	27	16
社会不安障害	0	1	20
恐怖症	0	0	1
心気症	0	1	1
強迫神経症	3	0	0
心因反応・適応障害	40	59	77
解離性障害	1	3	4
身体表現性障害（不定愁訴群を含む）	5	13	11
摂食障害	1	3	3
睡眠障害	12	20	20
人格障害	0	2	3
小児科領域			
発達障害	3	6	6
注意及び破壊的行動障害	2	1	4
摂食障害	0	0	0
心因反応，神経症	5	0	0
その他	5	7	5
その他			
心身症	2	0	0
その他	2	0	10
相談のみ(認知症を心配して受診した例含む)	6	10	1
精神疾患なし（同上）	9	11	17
合計	361	435	499

表3．精神科外来・心理新規ケース

（単位：件）

	2017年	2018年	2019年	2020年
精神作用物質使用による精神及び行動の障害				
アルコール依存	0	0	0	1
薬物依存	0	0	0	0
大量服薬後	0	0	0	0
統合失調症型障害	0	1	0	1
気分・感情障害				
単極性うつ病	5	3	12	2
単極性うつ病（産褥）	1	0	0	1
双極性障害	4	5	3	7
神経症性,ストレス関連障害及び身体表現性障害				
不安神経症	13	8	12	5
強迫神経症	2	4	2	0
心因反応・適応障害	23	14	23	16
解離性障害	0	0	2	1
身体表現性障害	10	4	10	1
摂食障害	1	3	1	2
人格障害	4	2	8	0
発達障害	3	5	6	2
知的障害	3	3	0	1
脳機能不全	2	0	0	0
小児科領域				
神経症	4	2	1	0
心身症	1	0	1	0
心因反応	3	4	1	1
発達障害（疑い）	3	0	0	0
知的障害	0	1	0	0
不登校・引きこもり	1	2	0	1
非行	0	0	0	0
抜毛	0	0	0	0
吃音	0	0	0	0
緘黙	0	0	0	0
大量服薬後	1	0	0	0
家族相談	0	0	0	0
計（うち再初回）	84 (11)	61 (1)	82 (33)	42 (0)

表2．臨床心理活動報

（単位：件）

	新規ケース	精神科カウンセリング	心理検査	オープン検査	小児科発達検査	小児カウンセリング	小児脳外三角頭蓋心理検査
1月	5	117	6	0	21	3	1
2月	4	107	8	0	19	3	1
3月	2	102	4	0	23	1	2
4月	3	91	3	0	16	2	2
5月	3	97	6	0	15	1	1
6月	3	104	7	0	19	4	0
7月	2	115	3	0	28	3	3
8月	5	102	2	0	24	2	1
9月	4	123	3	0	23	2	3
10月	3	124	3	0	18	7	2
11月	3	121	4	0	19	4	5
12月	2	134	2	0	14	2	1
合計	39	1,337	51	0	239	34	22

その他
- 千船病院出向（小寺/毎月曜）
- 精神科リエゾンチーム回診参加（毎火曜15時～16時）
- プレネイタルサポートチーム会議参加（第1木曜13時）
- NICU/GCU退院調整カンファレンス（隔週火曜11時）
- 小児在宅支援チーム会議（毎金曜13時～14時）
- 実習生受け入れ（10月～奈良女子大学大学院　毎週木曜（集中実習1月）全17日）
- 第2回愛仁会公認心理師研修会（7月）
- 法人内ケース相談開始（4月～/10月～　愛仁会リハビリテーション病院・明石医療センター各1名）
- 小児科自費カウンセリング2,000円/30分　2021年1月～
- 業務改善⑦「極低出生体重児の小学校生活を支えよう！～学齢期での発達検査の実施録を整えよう」銀賞

表4．周産期センター面接延べ件数

（単位：件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
産科/N/G	98	105	111	105	77	93	81	87	73	109	72	92	1,103
小児病棟	35	37	16	45	32	18	28	23	20	29	30	17	330
合計	133	142	127	150	109	111	109	110	93	138	102	109	1,433

病理診断科

スタッフ紹介

常勤医師：3名
　伊倉義弘　（病理専門医研修指導医，細胞診指導医）
　大久保貴子（病理専門医研修指導医，細胞診指導医）
　岩井泰博　（病理専門医研修指導医，細胞診指導医）
非常勤医師：4名（全員が病理専門医）
検査技師：6名（うちサイトスクリーナー5名）
事務職員：1名

診療内容

病理科の業務は組織・細胞標本の診断と剖検とで構成される．主に病理標本の顕微鏡観察所見に基づいて，患者様の治療方針を決定する重要な病理診断を行っている．患者様が不幸にして亡くなられた場合には剖検を行い，臨床診断と治療が適切であったか否かを検証する．いずれも病院が提供する医療の質の維持に関わる重要な業務であり，スタッフはその重責に応えるべく，外部評価機関のサーベイへの参加などを通じて日々研鑽を積んでいる．

常勤医師3名に加え，4名の非常勤医師と，サイトスクリーナー5名を含む6名の病理検査技師で構成される診断チームが，迅速かつ質の高い病理・細胞診断，病理解剖症例の詳細な検討，臨床科カンファレンスへの参加，積極的な研究活動支援を目標に掲げ，精力的に取り組んでいる．なお細胞診については，今や標準技術となった liquid-based cytology（LBC）を昨年度ようやく導入し，更なる診断クオリティーの向上が期待される．

2020年のトピックス・実績

1）組織診断件数：5,206件（図1）
2）術中迅速診断件数：136件（図2）
3）細胞診断件数：5,848件（図3）
4）剖検数（剖検率）：6例（1.9%）（図4）

当院は新専門医制度の病理研修基幹・連携施設に認定され，独自の専門研修プログラムを持つ一方で，大学病院をはじめとする複数施設の病理診断科と協力し，病理医育成に取り組んでいる．本年も新たに関西医科大学と連携を取り交わし，剖検症例の検討を中心に専攻医教育の一部を引き受けており，全国的な病理医不足解消に多少なりとも貢献できていると実感している．

今後の展望

当院では全面的な事務支援を受けることにより，他施設に先駆けて全症例のバーチャルスライド化を行い，既に外科系診療科においては日々の診療に必要不可欠なツールとなっている．教育・研究における利用価値も非常に高く，診療以外を目的とした使用への，有償・無償での機器提供も積極的に考えていきたい．

新型コロナウイルス感染症での教訓から，あらゆる業種において，テレワークへの移行が推奨されている．医療の中では病理部門はそのような労働形態にも比較的馴染むのではと考えられ，現在，試行錯誤しながらも企画具体化の途上にある．

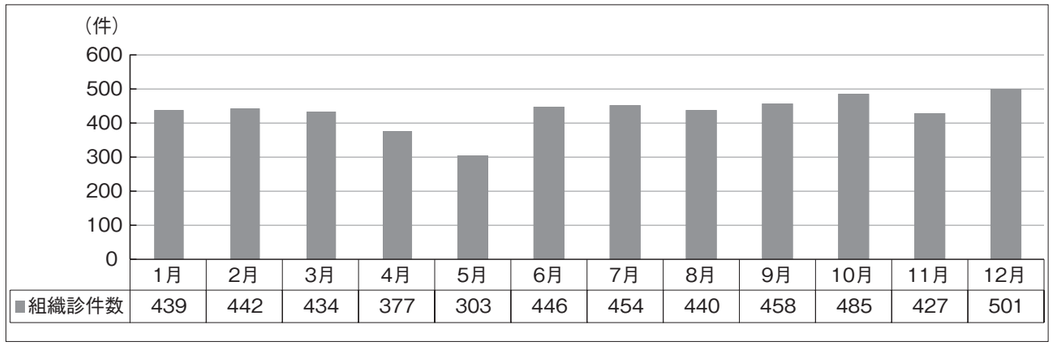


図1．組織診断件数

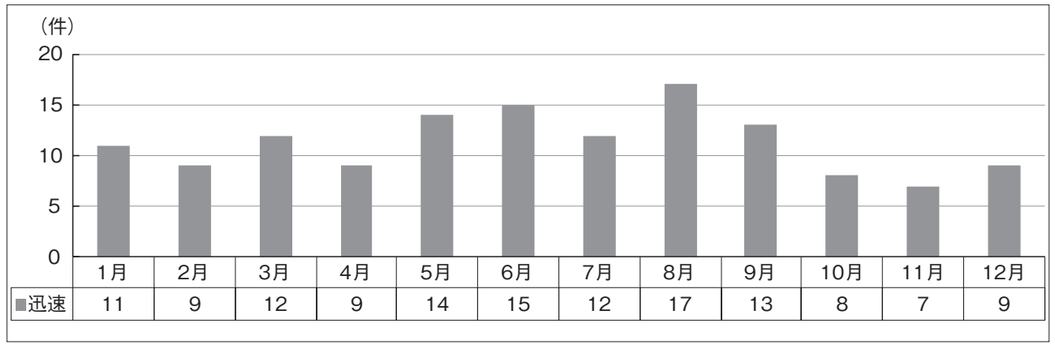


図2．迅速診断件数

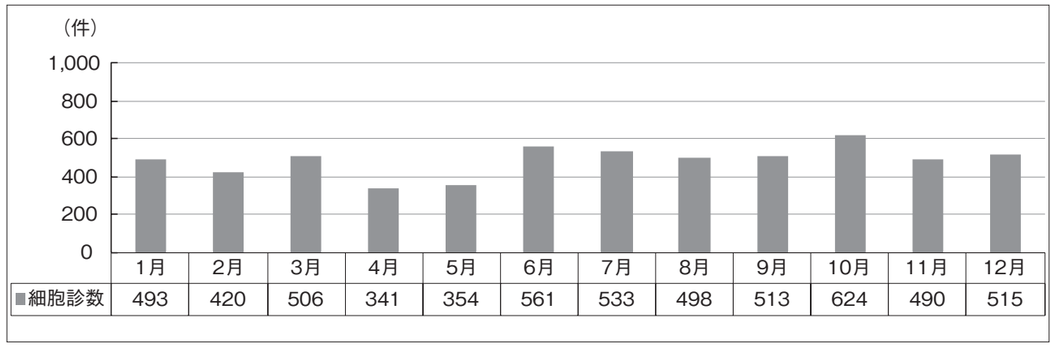


図3．細胞診断件数

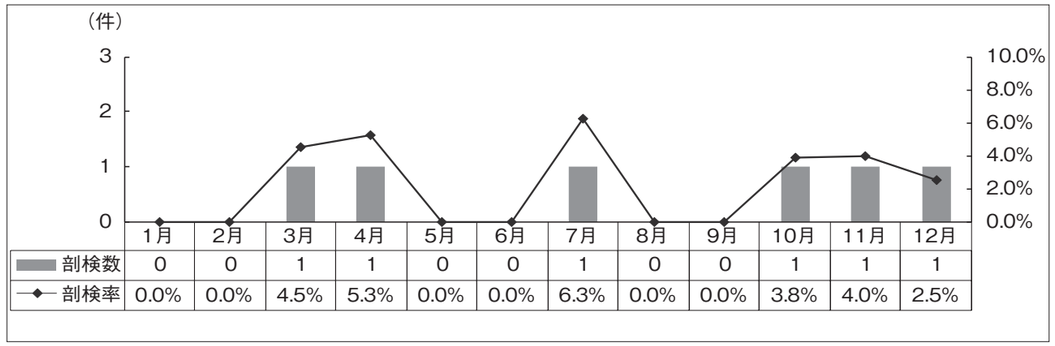


図4．剖検数・剖検率

小児科・新生児小児科（外来・小児病棟）

スタッフ紹介

2020年は34名で診療に当たった．

診療内容

外来は午前一般診療を3～4診体制で行い，午後は専門外来，乳児健診，予防接種を主に行っている．専門外来は当院スタッフのみならず他大学・施設スタッフとの連携を行い，アレルギー外来，心臓外来，神経外来，腎臓外来，内分泌・代謝外来，発達相談外来，在宅ケア外来を開設している．時間外，救急診療では，外傷も含めた二次，三次救急疾患の受け入れを断ることなく対応する体制を整えている．

小児病棟は初期研修医・後期研修医・指導医で構成する主治医グループ制をとり，日々の診療のみならず，プレゼンテーション，学会発表，論文作成などの教育も精力的に行っている．研修医の指導を目的とした朝，夕のカンファレンスや，部長・医長病棟回診，週1回の長期入院患者のカンファレンスを行い，情報共有を行っている．その他看護師向けの勉強会や研修医向けの勉強会，英文論文の抄読会も定期的に開催している．当科は医学生の見学者も多く，熱心に対応している．

2020年のトピックス・実績

外来延べ患者数は27,759名であり，時間外患者は2,900名であった．入院患者数は1,961名で，日勤帯の入院患者数は1,280名，時間外入院患者数は681名であった．他院からの紹介患者数は1,674名であり，そのうち入院した患者数は571名であった．新型コロナウイルス感染症の影響で小児の市中感染が減少し，例年に比べ患者数は減少した．外来で行っていた経口免疫療法を含めたアレルギー負荷試験を入院管理としたため入院疾患最多となった．

今後の展望

2017年度より小児センター（病棟），小児科外来は新病院での運営が始まった．小児センターでは個室が増加し，感染隔離も徹底して行えるようになった．モニター設備もより一層充実し，厳密な管理を要する重症患者も併設するPICUと連携して受け入れ可能である．

感染症を中心とした入院以外にも，アレルギー・内分泌負荷試験，心臓・腹部超音波検査，心臓カテーテル検査，排尿時膀胱造影検査，MRI，ビデオ脳波検査といった専門性の高い疾患に対する入院検査の更なる充実も図っていく．

表．主な入院主病名

（単位：件）

主な入院疾患名	2019年度件数	2020年件数
アレルギー負荷試験	145	671
ウイルス性肺炎/細菌性肺炎	299	118
腎炎/腎盂腎炎	70	114
痙攣	149	86
小児喘息	132	77
ウイルス性腸炎/細菌性腸炎	158	76
川崎病	71	63
急性上気道炎/中耳炎	149	61
頭部打撲/脳振盪	20	61
てんかん発作/重積	51	52
インフルエンザA/B	53	33
心疾患（心臓カテーテル検査･治療を含む）	34	31
低血糖	24	31
頭蓋骨骨折/頭蓋内出血	38	27
アナフィラキシー	29	26
低身長症	25	26
新生児黄疸	29	25
虫垂炎	16	21
脳炎/脳症	20	20
頭部以外の骨折/外傷	26	19
呼吸不全	18	19
熱傷	14	16
IgA血管炎/紫斑病	18	14
腎尿路系の先天奇形		13
RSウイルス肺炎	101	12
ケトン血性嘔吐症	22	12
リンパ節炎	18	12
腸重積症	29	11
蜂窩織炎	17	9
糖尿病	12	8
急性薬物中毒	5	6
哺乳不全	5	6
突発性発疹症		6
睡眠時無呼吸	8	5
イレウス	5	5
気道内/消化管異物	2	5
心身症	1	5

※2020年のみ年報の対象期間が1月1日～12月31日

NICU・GCU

スタッフ紹介

2020年の新生児専任医師は9名，後期研修医3～4名，初期研修医1～2名である．専任医師は全員小児科学会専門医を取得しており，更に上級医は周産期新生児専門医も取得している．専任スタッフはそれぞれが何らかのサブスペシャリティーを持っており，総合的な新生児医療のスキルUPはもちろんであるが，それぞれのサブスペシャリティーをいかしたより高度な新生児医療を提供できるように研鑽を積んでいる．後期研修医には将来新生児医療の道に積極的に進みたいと思ってもらえるような経験やサポートを行って，未来の新生児医療の担い手の育成を行っている．

診療内容

現在NICU21床，GCU27床で運営している．当直は2名体制で行っており，院内出生児のみならず，院外からの搬送入院に対しても，迅速に対応できるような態勢をとっている．朝の回診は看護師や理学療法士，臨床心理士，NICU薬剤師などコメディカルとともに患者の情報共有や，治療方針についてディスカッションを行い，夕方は主にNICUの重症児について医師のみの回診を行っている．またあらゆる新生児疾患に対応すべく，小児外科・小児脳神経外科疾患・先天性心疾患についても常時即応体制にあり，PICUとの連携により，ECMOや血液浄化・透析などが必要な症例の受け入れも行っている．また近年，胎児診断技術の向上によって，様々な疾患が胎児期よりわかるようになってきた．しかし，診断後にその分娩計画や児の治療計画，両親の心的面のサポートなどへの体制は十分ではない．このような胎児診断がされた胎児・両親を病院の総力を挙げてサポートするために，2012年より「プレネイタルサポートチーム」が発足した．

産科・新生児科・小児外科・小児脳神経外科による診療部と各部門の看護師，SW，心理士，理学療法士などによる多職種カンファレンスを行っており，各部署での情報共有や診療方針についてディスカッションを行っている．

2020年のトピックス・実績

2020年を振り返ると，実績面では497名の入院数で，うち出生体重が1,000g 未満の超低出生体重児は25名，1,500g 未満の極低出生体重児は45名と，どちらもこの数年で大きな増減はなかった（図1）．入院経路は緊急母体搬送からの入院数が105名，新生児搬送数も98名でともに大きな変化はなかった（図2）．トピックスとしては，死亡症例は3名のみであったことで，重症の新生児仮死の症例や極めて重症の先天異常の児であった．この数年の課題である超早産児の重症の壊死性腸炎の発症もなかった．また外科手術を行った症例は21名で腹壁破裂や横隔膜ヘルニア，食道閉鎖症など重症の外科症例や脊髄髄膜瘤などの脳外科疾患，動脈管閉鎖術が含まれていた．

今後の展望

今日の周産期医療の発展に伴い，合併症なく退院できる重症例が増加している．しかし入院中の母子分離がその後の発達へ影響を与えることや，NICU退院児に対する虐待などの問題が生じてきているのが現状である．そのような問題に対応すべく，2017年からNICUでは日本では初めての完全個室管理を行える11床のベッドを稼働して3年が経過し，ようやく家族が自宅で過ごせるような環境で集中治療を提供するということが安全にできるようになってきた．今後も高槻病院では集中治療の質を落とすことなく，家族が家族として過ごすことができるような環境の提供と家族全体のサポートを更に実践していき，日本の新生児医療の先駆けとしての取り組みを行っていく．

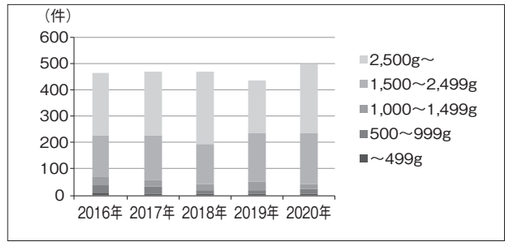


図1．出生体重別入院数の変化

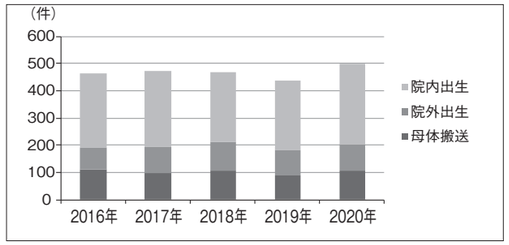


図2．経路別入院数の変化

PICU

スタッフ紹介

起塚，大西，篠本が専従医として原則的にPICU内に常駐している．

業務内容

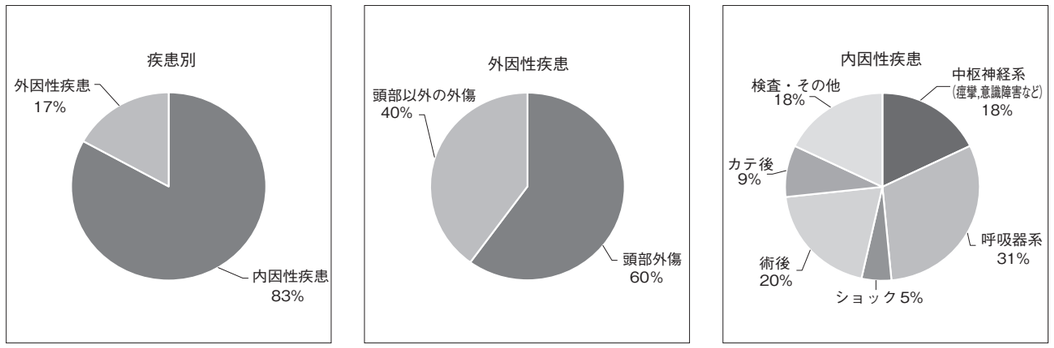
重症小児の集中治療を内因性/外因性にかかわらず対応している．

2020年のトピックス・実績

2020年の入室者は373例で昨年度の419例と比較すると11% の減少となった．疾患別の内訳では，肺炎，脳症，感染といった内因性疾患が308例（83%），外傷，異物誤嚥などの外因性疾患が65例（17%）であり，例年と比較すると外因性疾患の比率に増加傾向を認めた．外因性疾患の総数が増加したことに加えて，内因性疾患の総数が減少したことが外因性の比率が増加した要因となった．内因性疾患の内訳では気道呼吸器系疾患と神経疾患が多い傾向は例年と同様であった．特殊治療では気管挿管例を39例，脳保護療法を20例に施行していた．患者総数が減少したにもかかわらず，これらの特殊治療施行例が増加したことから，重症症例の入室率の増加が伺える．

今後の展望

本年は新型コロナウイルス感染症の大流行の影響を受けた1年であった．当科では大阪府下の新型コロナウイルス感染症関連の重症小児を2例受けることを前提に準備をしたが，結果的には小児では重症症例は発生しなかったため，中等症症例や看護度の高い症例を積極的に受け入れる結果となった．また，新型コロナウイルス感染症以外の内因性疾患症例の入室が少なかったことがPICU全体の入室数が例年に比較して減少した最大の要因と推察された．しかし，このような状況においても近隣施設からの重症症例のご紹介によって多くの重症症例を経験することができた．



図．PICU入室患者の疾患分類

表．PICU入室者総数の推移

（単位：件）

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
入室患者総数	390	352	329	411	419	373

（単位：件）

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
気管挿管（術後除く）	28	35	24	27	24	39
CRRT	1	3	5	1	1	1
PE	1	4	5	2	2	1
ECMO	1	2	3	1	0	0
脳保護	13	11	18	8	16	20
ICP	2	5	3	4	2	3

小児外科

スタッフ紹介

2020年の小児外科は小児外科主任部長 津川二郎（日本小児外科学会指導医・専門医），小児外科部長 久松千恵子（日本小児外科学会指導医・専門医），小児外科部長 西島栄治（日本小児外科学会指導医・専門医），小児外科医長 服部健吾（日本小児外科学会専門医）の4名のスタッフ及び後期研修医 高成田祐希の5名体制で診療を行った．津川は4月から兵庫県立こども病院小児外科へ異動した．4月からは久松が小児外科主任部長に着任した．

診療内容

日本小児外科学会認定施設であり，小児外科医療における高次医療機関として365日24時間小児外科患者を受け入れ，診療を行っている．診療内容は小児の胸部（肺・横隔膜・胸壁）や腹部（消化管・肝胆膵・腹壁）疾患，泌尿生殖器疾患，新生児外科疾患，気道外科疾患，固形腫瘍など多岐にわたり，その他外傷や異物誤嚥・誤飲などの救急疾患についても対応している．

外来診療はスタッフを中心に交代で月曜日，水曜日，木曜日，金曜日の午前診を，水曜日，木曜日，金曜日は午後にも学童を中心とした外来診療を行っている．金曜日の午前診では西島部長が小児排泄・便秘外来を行っている．この外来では皮膚・排泄ケア認定看護師とともに習慣性慢性便秘症や二分脊椎症に伴う管理困難な便秘に対して排泄管理・指導を行っている．病棟では毎朝8時からPICUでの小児科，小児脳神経外科，小児麻酔科との合同カンファレンスを行い，その後に小児センター，NICU，GCUの総回診を行っている．入院症例の定期手術日は月曜日，火曜日，木曜日，金曜日で，日帰り手術を火曜日，木曜日，金曜日の午前に行っている．診療時間外は2名体制で24時間オンコール体制をとっており，常時患者の受け入れ及び緊急手術が施行できる体制となっている．

2020年のトピックス・実績

表に2020年の手術症例，新生児手術症例の内容を示す．総手術数及び新生児外科手術症例は，2019年と比べて減少した．減少の主な原因は，新型コロナウイルス感染症がまん延している中の受診控えによる地域医療施設からの紹介の減少や出生数の低下などが考えられる．鼠径ヘルニア根治術は78例で2019年より3割ほど減少し，そのうち鏡視下手術の割合は80%で前年度と比べ同程度であった．他の胸部・腹部疾患に対しても鏡視下手術や臍などを利用した傷跡が目立たない整容性を意識した手術の導入に積極的に取り組み，患者の早期回復や疼痛の緩和に繋がっている．急性虫垂炎は29例で全例腹腔鏡下手術を行った．新生児外科手術は18例で，2019年度より25%減少した．2019年に引き続き小児泌尿器科疾患である膀胱尿管逆流症に対する外科的治療（内視鏡下Deflux注入療法，Cohen手術）を行い，少しずつであるが手術症例数も増えつつある．Cohen手術は従来開腹手術であったが，低侵襲手術として腹腔鏡下（気膀胱下）手術が開発され，当科でも導入した．また重症心身障害児（者）に対する医療にも取り組み，気管切開や胃瘻造設術，誤嚥性肺炎に対する喉頭気管分離術などの手術件数は増加傾向にある．小児のみならず，成人診療科からの紹介症例に対しても喉頭気管分離術を行い，いずれもQOLの向上に繋がっている．

当科では開設当初から小児気道疾患に対する検査や治療に力を入れており他府県からの紹介も多い．近年では声門下腔狭窄症の難治症例に対するpartial cricotracheal resection（PCTR）手術に取り組み，気管切開カニューレの抜管困難症の治療に成功している．2020年は4例のPCTR手術を行い，治療中1例を除く3例でカニューレの抜管に成功した．

今後の展望

当院は小児医療に強く，小児関連診療科（小児科，新生児科，小児集中治療科，小児外科，小児脳神経外科，小児麻酔科）や多職種がチーム一体となって治療に取り組んでいるのが強みだと思われる．小児医療の充実を院外にアピールして新生児・小児外科症例の増加に繋げたい．手術症例については治療対象となるこどもの苦痛や負担の軽減を図るべく，今後も低侵襲手術や創部が目立たない術式の可能性を追究していきたい．小児気道疾患についても引き続き積極的に治療に取り組んでいく．特に声門下腔狭窄症に関しては治療のゴールである気管切開からの抜管を目指したい．

日本小児外科学会認定施設として豊富な症例を生かして小児外科専門医の育成に力を入れており，初期・後期研修医の研修や小児外科に興味がある医学生の見学を積極的に受け入れていく方針である．

表．2020年手術症例

（単位：例）

手術	手術症例数	新生児手術症例数
横隔膜ヘルニア，弛緩症手術	3	1
膿胸手術	0	
気胸手術	4	
肺葉切除術	1	
気管形成術（喉頭気管形成術含む）	4	
動脈管開存症手術	5	3
漏斗胸手術	1	
喉頭気管分離術	2	
喉頭気管食道裂手術	2	
腕頭動脈離断術	0	
気管切開術	7	
食道閉鎖症根治術	2	1
気管食道瘻離断術	1	1
噴門形成術	4	
幽門筋切開術	1	
十二指腸閉鎖症手術	2	2
腸閉鎖症手術	1	1
腸回転異常症手術	2	
新生児消化管穿孔，壊死性腸炎手術	0	
イレウス手術	2	1
小腸切除術	2	
メッケル憩室切除術	3	2
人工肛門造設術	1	1
胃・腸瘻造設術	5	1
胃瘻・腸瘻・人工肛門閉鎖術	3	
腸重積症（観血的整復）	1	
虫垂切除術	29	
Hirschsprung病根治術	1	
直腸生検術	1	
中間位・高位鎖肛手術	2	
低位鎖肛手術	3	2
痔瘻・痔核手術	0	
胆道閉鎖症手術	0	
胆道拡張症手術	0	
鼠径ヘルニア手術	78	
卵巣捻転・卵巣腫瘍摘出手術	2	
停留精巣手術	10	
精巣捻転手術	4	
精巣静脈瘤手術	2	
包茎手術	1	
膀胱尿管逆流症手術	5	
尿膜管遺残症手術	2	
臍帯ヘルニア・腹壁破裂手術	1	1
腹壁瘢痕ヘルニア手術	3	
臍ヘルニア手術	27	
仙骨前脂肪腫摘出術	1	
リンパ管腫硬化療法	2	
リンパ管腫摘出術	2	
副耳切除術	0	
耳前瘻孔摘出手術	2	
舌小帯切離手術	1	
気管支鏡検査，処置	57	
消化管内視鏡（上部・下部）検査，処置	12	
ブロビアックカテーテル挿入・抜去術	3	
その他	48	1
総症例数	358	18

ICU

スタッフ紹介

部長：岡　隆紀
心臓血管外科専門医（心臓血管外科専門医認定機構），日本外科学会指導医・認定医，日本胸部外科学会認定医，日本外科学会外科専門医

診療内容

毎日（土日祝日除く）：ICU回診・カンファレンス

2020年のトピックス・実績

毎朝8時半から医師（髙岡院長・欅副院長・大北センター長も含め）・看護師・臨床工学技士・理学療法士・薬剤師・栄養士・事務職員で回診を行い，患者の治療方針について検討を行っている．

現体制も7年目を迎え，“高槻病院の最後の砦”の役割も周知されてきたようである．2020年は新型コロナウイルス感染症の重症例も大阪府内のベッド状況次第で対応することもあり，レベルの高い集中治療を提供できるようになっている．スタッフのモチベーションも高く，all for the patientを合言葉に日々研鑽している．

今後の展望

スタッフ教育，特に日本集中治療学会総会への参加・発表，研修医・新人看護師の教育の充実を図りたい．

呼吸器外科

スタッフ紹介

主任部長：椎名祥隆（1986年卒）
日本外科学会専門医
日本外科学会指導医
胸部外科学会指導医
日本呼吸器外科学会専門医
医員：西岡祐希（2014年卒）
日本外科学会専門医

診療体制

日本呼吸器外科学会認定施設修練施設
外来：月曜日（午後）椎名・西岡
水曜日（午前）椎名・西岡
手術：予定手術は火曜日と木曜日に行い，緊急手術は随時行っている．
病棟：呼吸器外科病棟は7階南病棟で，症例によってはICUで術後管理を行った．

2020年のトピックス・実績

気胸手術の改良・リインフォースの使用：気胸手術は肺嚢胞を自動縫合器で切除し閉鎖するが，ステイプル部分からリークを来すことがある．また，術後再発することもある．そのためステイプル部分が特殊シート（ポリグリコール酸シート）で被覆された自動縫合器を用いて手術を行った．その結果は良好で術後再発は有意に減少した．そして，その治療成績は昨年の日本胸部外科学会学術集会で発表された．

神戸大学呼吸器外科の連携施設である住友病院や済生会中津病院の医師の手術応援により，これまで神戸大学医学部附属病院へ紹介していた重症な肺癌症例を当院で手術することができた．しかし，新型コロナウイルス感染症流行の影響により手術数が前年と比較して8月頃から減少した．

呼吸器・縦隔領域の悪性腫瘍に対しては，今後も大阪府がん診療拠点病院として呼吸器内科・呼吸器外科・放射線腫瘍科がこれまで以上に良好に連携し，効率的で専門化された治療を行う．

今後の展望

心疾患合併症例や呼吸機能低下を伴う肺癌手術症例が多かった．高齢者症例には多くの併存疾患があるので，術前評価として「運動能力・PS」「呼吸機能」「心機能」「併存疾患の管理・治療」が引き続き重要と考えている．

高齢者手術の基本方針
(1) 低侵襲手術
キズが小さな手術（胸腔鏡手術）と，症例に応じて肺切除量も少ない手術（縮小手術）を施行している．今後も肺悪性腫瘍手術は可及的に完全胸腔鏡下手術で行う．
(2) 包括的なリハビリ
肺切除後に呼吸機能は更に低下する上に，術前から併存疾患を有する症例が多いので外科手術のみでは良好な成績を出すことはできない．従って，呼吸器外科領域でも呼吸だけでなく包括的なリハビリが重要かつ有用である．低侵襲手術と優れたリハビリを今年も行い，的確な術後評価を継続していく必要があると考えている．
(3) 心臓・大血管に浸潤する肺悪性腫瘍
このような難易度の高い手術も心臓血管外科の協力の下に当科で手術を行っていく．

表．手術数

（単位：例）

疾患名	例数
肺悪性腫瘍手術	37
肺切除	3
自然気胸	16
術後気胸	1
巨大肺嚢胞	1
血胸	2
縦隔腫瘍	5
胸壁腫瘍	4
膿胸	5
胸腔鏡下生検	1
試験開胸	2
生検	3
計	80

心臓血管外科

スタッフ紹介

心臓大血管センター　センター長：大北　裕

日本外科学会専門医，日本胸部外科学会理事長，日本外科学会指導医，代議員，日本循環器学会専門医，評議員，日本脈管学会特別会員，日本血管外科学会名誉会員，日本心臓血管外科学会特別会員，日本心臓血管外科専門医認定機構委員，日本冠動脈外科学会評議員，日本心臓血管外科手術データベース機構委員，The Society of Thoracic Surgeon: Member (1996-), The European Association for Cardio - Thoracic Surgery: Member (1996-), The International Society of Cardiovascular Surgery: Member(1994-), American Heart Association Fellow in the Council in Cardiovascular Surgery (2002-), American Association for Thoracic Surgery: Member (1999-), Asian Society for Cardio-Thoracic Surgery: Council (2011-)

主任部長：岡　隆紀

心臓血管外科専門医（心臓血管外科専門医認定機構），日本外科学会指導医・認定医，日本胸部外科学会認定医，日本外科学会外科専門医，ヨーロッパ胸部外科学会正会員

部　　長：常深孝太郎

心臓血管外科専門医（心臓血管外科専門医認定機構・修練指導者），日本外科学会外科専門医，日本外科学会指導医・認定医，日本心臓リハビリテーション学会指導士，日本脈管学会専門医，日本血管外科学会血管内治療医

専　攻　医：川端　良（2020年9月まで）
　　久保沙羅（2020年10月から）

診療看護師：金田伸哉（2020年4月から）

診療内容

成人心臓疾患・大血管（胸～腹部の動脈）疾患・末梢血管（手足の動脈）疾患・静脈疾患など．

2020年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症がまん延している中で2020年5月以降は手術件数の減少が見られた．

しかしながら大北センター長のもとに日本全国から難易度の高い手術依頼は一定数あり，存在感は発揮できたかと思われる．

特に大動脈弁の自己弁温存手術は日本トップクラスの症例数・成績を誇っている．

今後の展望

心臓血管疾患をオールラウンドにこなしていき，地域の方のニーズと期待に応えていきたい．

研修医教育にも力を注ぎたい．

消化器外科

スタッフ紹介

常務理事：家永徹也
主任部長：川﨑健太郎
部　　長：岡﨑太郎
医　　長：大和田善之，細野雅義
専 攻 医：徳原佳織，中西　崇

診療体制

外来：一般外来は，月曜日から金曜日までの午前診として9時から12時まで，火曜日は午後診も行っている．専門外来として，火曜日から金曜日の午前ないしは午後に適宜ストーマ外来を行っている．

病棟：6階東病棟の24床が割り当てられている．毎朝8時40分から回診，火曜日の16時から全体回診を行っている．大手術や重症例は3階のICUで管理している．

手術：予定手術は月曜日から金曜日まで行っている．緊急手術に対しては24時間体制で対応している．

2020年のトピックス・実績

消化器悪性及び良性疾患に対する外科治療を主として担当している．手術件数は616件であった．

・腹腔鏡手術

腹腔鏡手術を積極的に導入し，食道，胃，大腸，胆嚢，虫垂，ヘルニア，腸閉塞，消化管バイパス術などにも行い，幅広く対応している．症例によっては更なる整容性を目指したReduced Ports Surgeryも取り入れている．腹腔鏡手術実施件数は，2015年度は約190件であったが，2020年は約388件と飛躍的に増加している．

・消化管悪性疾患に対する治療

診療ガイドラインに準拠して治療方針を決定している．手術は基本的に鏡視下手術を行っている．進行癌には術前や術後に化学療法を加えることにより生存率の向上を目指している．

食道癌には進行癌であっても，全例腹臥位鏡視下手術を行っている．積極的に三領域郭清の手術を行う．

胃癌は，早期癌はもとより進行癌に対しても腹腔鏡手術で対応している．幽門輪温存などの機能温存も行っている．

大腸癌も大部分を腹腔鏡手術で対応している．下部直腸癌に対しては可能な限り肛門を温存するために，（場合により一時的回腸瘻造設）超低位前方切除術を，進行度を考慮して選択している．肝転移や肺転移に対しては，切除可能であれば切除を第一選択とし，切除できない場合には化学療法を行っている．

・肝胆膵悪性疾患に対する治療

肝癌，膵癌，及び胆道癌は悪性度が高く予後不良であるが，消化器内科や放射線診断科とも連携し，予後向上のために集学的治療を積極的に展開している．局所進行癌においても血管合併切除，他臓器合併切除を行って切除率を高めている．非切除例に対しては，基本的に放射線療法，化学療法を各科と連携して行い症状緩和に努めるが，腫瘍縮小が得られれば切除へのコンバージョンも検討している．

・良性疾患に対する治療

胆嚢結石症や急性胆嚢炎も腹腔鏡で全例行っている．炎症の軽いものにはReduced Ports Surgeryを導入している．

急性虫垂炎は基本的に腹腔鏡で対応している．虫垂周囲膿瘍形成を伴う急性虫垂炎に対しては，侵襲を減らすため待機的腹腔鏡下虫垂切除術（IA）を導入している．2020年は急性虫垂炎の98%（65/66）を腹腔鏡で行った．

鼠径ヘルニア，腹壁瘢痕ヘルニアも全麻可能症例には腹腔鏡で対応している．2020年は鼠径ヘルニアの83%（101/122）を腹腔鏡で行った．

今後の展望

・消化器外科診療のレベルアップ

地域医療支援病院，がん診療拠点病院の認定を受ける急性期病院では，救急診療，がん診療が消化器外科診療の2本柱となる．現在，高槻病院が三島医療圏救急医療の一翼を担っていることからも，現在の緊急手術対応体制を維持しつつ，術後生存率や在宅復帰率の向上に努めていきたい．また，がん診療においては現在の消化器内科，放射線診断科，病理診断科との効率的な連携を維持しながら，治療方針の標準化と治療水準の向上をこれまで同様に目指していく．今後の外科診療は一層の高度な専門性と高い治療成績が求められることが予想され，高槻病院消化器外科は今後も三島医療圏での確固たる地位確立を目指す．

表．手術実績

（単位：件）

臓器	疾患	術式	開腹	腹腔鏡下	小計
食道	食道癌・その他		0	1	1
胃	胃癌	幽門側胃切除術	10	26	36
		胃全摘術	2	0	2
		その他	0	1	1
	その他（GIST含む）	胃部分切除術	4	7	11
結腸	結腸癌		14	45	59
	その他		2	0	2
	虫垂炎		1	65	66
直腸	直腸癌		7	18	25
	その他		0	0	0
肛門	痔核・痔瘻・肛門周囲膿瘍		27	0	27
	その他		7	0	7
肝	原発性若しくは転移性肝癌		4	0	4
	肝嚢胞		1	3	4
胆嚢	胆石症，総胆管結石		2	96	98
	胆嚢癌		3	0	3
胆管			4	0	4
膵臓	膵癌	膵頭十二指腸切除術	7	0	7
		膵体尾部切除	2	0	2
	その他		1	0	1
小腸	イレウス，腫瘍他		5	12	17
その他	鼡径/大腿ヘルニア		21	101	122
	腹壁瘢痕/臍ヘルニア		2	10	12
	汎発性腹膜炎		5	0	5
	人工肛門造設術		11	0	11
	CVポート造設術		62	0	62
	その他		24	3	27
合　計			228	388	616

乳腺外科

スタッフ紹介

常 勤 医：三成善光，家永徹也
非常勤医：下山京子，吉川勝広

診療体制又は活動目標

週2日（月曜日 / 午前，火曜日 / 午前・午後）を手術日とし，週3～4例の乳癌手術を行う体制を整えている．

週1回（木曜日午後）を乳腺生検検査日に充て，ステレオタクティック吸引式針生検（マンモトーム生検），針生検（VAB，CNB），吸引細胞診を行っている．

外来は常勤医による週4日・6コマの外来，非常勤医による週3日・3コマの外来を行っている．

活動内容及びトピックス

当科では乳腺疾患全般に対して診療を行っており，乳癌については検診から検診精査，乳癌の診断，初期治療，再発治療，及び緩和ケアを行っている．医療の質の向上，医療の均てん化が重要であり，ガイドラインに基づき，データやエビデンスに基づく標準的な診療を行うよう心掛けている．

乳癌の診断については，デジタルマンモグラフィー装置，乳房超音波検査，MRI や CT などの画像検査や，穿刺吸引細胞診，CNB，エコーガイド下 VAB，ステレオタクティックマンモトーム生検装置などの生検デバイスを駆使し，的確に病変部を描出，把握し，低侵襲に確定診断までができるようにしている．また乳癌診療においては診断の段階で，腫瘍の状況（大きさ，リンパ節転移の有無），臨床病理学的な検索による癌の悪性度，性質（Intrinsic subtype）等を把握し，より有効な治療法を検討している．腫瘍の状態や患者の状況によっては術前療法を行い，腫瘍の縮小，down staging を行ってから，根治手術に繋げるようにしている．手術については整容性，低侵襲性を考慮した乳房温存手術はもとより，cN0 症例に対してはセンチネルリンパ節生検により腋窩郭清省略を行い，更に非浸潤癌症例に対してはセンチネルリンパ節生検そのものの省略も行い，術後の腕のリンパ浮腫の発生の低減を図っている．昨年は全乳癌手術症例98例中，84例にセンチネルリンパ節生検を行った．近年では乳癌の根治性のみならず，整容性も重要となってきている．2013年からは乳癌に対して，乳房全切除後にブレスト・インプラントを用いた乳房再建が保険診療の適応となっており，当科でも乳房切除が必要となる乳癌症例において，乳房再建が適切にできるように，形成外科と協力している．さらに早期の乳癌に対しては，二次再建だけでなく一次（同時）再建も行える体制を整えている．

術後の補助療法や，再発治療においては多数の新薬（分子標的薬，免疫チェックポイント阻害薬等）が登場し，治療が多彩となるとともに，複雑となってきた．加えて，患者と医療者の協働意思決定（Shared decision making）が求められるようになってきており，患者が適切な治療法を選択できるようにデータやエビデンスを情報提供し，患者の状況や腫瘍の状態，悪性度を考慮して，より良い治療法を提案できるよう心掛けている．

乳癌診療においても多様化，複雑化する診療に対して，多職種の参画によるチーム医療が重要となってきている．当科でも多職種からなる高槻乳癌臨床支援チームで定期的な乳腺カンファレンスを行い，症例検討を行っている．近年のがん診療では，通常の診療に加え，がんリハビリテーションや，心のケア（サイコオンコロジー）などが求められてきており，外科医，放射線科医，形成外科医，精神科医，薬剤師，看護師，理学療法士，臨床心理士などの多くの専門職との連携を図っている．

来期方針・抱負又は将来展望

検診の普及や診断技術の向上による早期乳癌の増加などにより，乳癌の治療成績の向上に加えて，より侵襲の少ない手術，患者のQOLを重視した治療を行うよう努める．また，若年齢層の乳癌患者に対しては，若年女性の抱える社会的な要因（妊孕性保持，授乳期乳癌，就労支援）に対しても配慮していく．

また，がんゲノム医療が徐々に普及してきており，今後，がん遺伝子に関わる診療が重要性を増してきている．乳癌領域では遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）が知られているが，2019年，当院は遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設の施設認定を取得しており，遺伝診療センターと協力し，遺伝性乳癌卵巣癌症候群の診療に当たる．また昨年，遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）に対する予防的乳房切除術も保険適応となっており，当科はその要件を整えている．患者とよく相談の上，患側の乳癌の治療とともに健側の予防的乳房切除術も行う．

地域連携は診療を幅広く行うために重要で，地域診療

所との連携が必要である．従来，乳癌患者に対して地域連携パスを用いて診療連携を行ってきたが，今後も引き続き，病院，診療所間の連続したきめの細かい診療を行えるよう取り組んでいく．

表．乳腺外科手術件数

（単位：件）

術式		症例数
乳房悪性腫瘍手術	乳房温存手術	44
	乳房切除術	54
	小計 （うちセンチネルリンパ節生検）	98 （84）
乳房良性腫瘍手術	乳房腫瘍切除術	11
CVポート造設・抜去術		46
その他（リンパ節生検等）		2
手術合計		157

脳神経外科

スタッフ紹介

前野和重
有田英之
川本有輝
中村夏樹

診療内容

外　　来　月曜日～金曜日・午前
専門外来　水曜日・午後　脊椎脊髄専門外来
　　木曜日・午前　脳血管内専門外来
　　木曜日・午後　脳腫瘍専門外来
検　　査　月曜日・木曜日
手　　術　木曜日
病　　棟　8階東病棟　SCU

2020年のトピックス・実績

2020年も引き続き2人の後期研修医を大阪大学から受け入れることができた．川本先生は小児脳外科を中心に臨床を行い，中村先生に脳外科の中心的な後期研修医として働いてもらった．今年は新型コロナウイルス感染症の影響で救急患者の受入制限や手術制限があり，年度開始から手術件数や入院患者は停滞していた．しかし秋以後は手術症例も持ち直すことができ，2020年手術件数は148件であった．前年から若干ではあるが増加することができた．脳卒中患者も増加している．これも地域から当院への信頼を得ることができたためと考えている．日本脳卒中学会から一次脳卒中センターに認定されたことが実績に繋がったと判断している．引き続き臨床成績を上げていきたい．さらに脊椎脊髄，脳血管内，脳腫瘍の専門外来とSCU（脳卒中専門ケアセンター）について地域の人達へ更なるアピールを続けていく．

今後の展望

現在，当科の臨床診療は安定期に入ったと思われる．更なる発展のために教育・研究に力を入れていきたい．研修医・看護師の教育を積極的に行い，未来に向けた活気ある診療体制を構築しなければならない．同時に学会発表，論文投稿を行い社会的に認知も広めていく必要がある．さらに周囲からの期待・信頼を勝ち得るためにも，確実に診療実績を積み上げることが必要である．急性期病院としての生き残りをかけるため，これまで以上に積極的に脳卒中・頭部外傷などの脳外科救急に取り組み，地域医療の充実に貢献したい．今後は重症意識障害の患者の受け入れ件数を増やしていきたい．24時間体制での診察加療を継続して急性期高度専門病院として体制を整えていく．

表．手術実績

（単位：件）

主な項目	手術数
脳腫瘍	14
開頭クリッピング術	9
脳血管内手術	5
ステント留置術	8
開頭血腫除去術	4
慢性硬膜下血腫洗浄ドレナージ術	40

総手術件数	148

小児脳神経外科

スタッフ紹介

原田敦子（1996年新潟大学医学部卒業）
宇津木玲奈（2016年神戸大学医学部卒業）
（2020年3月退職，脳神経外科と併任）
川本有輝（2017年大阪大学医学部卒業）
（2020年4月着任，脳神経外科と併任）

診療内容

脳神経外科の中で，子どもの中枢性疾患全てを取り扱う診療科であるが，日本で小児神経外科を標榜する医療機関は，子ども病院を除くとまだ数か所しかない．当院は大阪府最大の総合周産期母子医療センターであり，全国でもトップの周産期医療を担っている．そうした中，小児脳神経外科は2012年4月に開設され，2021年3月で丸9年経過する．北摂，京滋での小児脳神経外科の拠点病院としての役割を果たすだけでなく，臨床的・学術的な質の向上にも努めている．

2020年のトピックス・実績

開設当初より，小児頭部外傷の受け入れを小児科と連携して24時間体制で行ってきた．2014年にPICUが開設されたことにより，重症小児頭部外傷への対応も可能となった．2018年11月には小児救命救急センターの認定を受けたため，頭部外傷が以前にもまして増加している．手術や低体温療法などの超急性期治療から亜急性期リハビリテーション，在宅復帰へとシームレスな対応を行っている．

2015年に開設した「赤ちゃんの頭の形外来」は軌道に乗り，2020年12月現在までに394例の頭位性斜頭に対してヘルメット治療を行った．それに伴い，頭蓋変形を主訴とした頭蓋骨縫合早期癒合症の手術症例が増加しており，本年は16例の手術加療を行った．頭蓋骨縫合早期癒合症の症例の中には，顔面や手指の疾患を合併することが多いため，2016年10月より大阪医科大学形成外科 上田晃一教授，市立奈良病院再建形成外科 久徳茂雄先生の協力体制の下，治療に当たっている．

本年は脳神経外科とともに，大阪大学脳神経外科の研修プログラムに在籍する後期研修医を2名受け入れ，指導を行った．

今後の展望

前任の故山崎麻美先生がライフワークとされていた児童虐待，胎児診断については，どちらも医師の責任と裁量を問われる分野であるが，今後も小児科，新生児科，産婦人科と協力しながら，山崎先生の御遺志を継いで取り組んでいきたい．二分脊椎症の症例が増加しているため，二分脊椎外来の開設を予定している．

表．手術実績内訳

（単位：例）

分類	疾患	術式	件数
先天性疾患	水頭症・くも膜嚢胞	シャント再建・抜去術	14
		脳室腹腔シャント術	9
		脳室ドレナージ術	7
		内視鏡手術	4
		嚢胞腹腔シャント術	1
	二分脊椎・二分頭蓋	脊髄脂肪腫摘出術	7
		係留解除術	2
		先天性皮膚洞摘出術	2
		頭蓋形成術	1
		脳瘤修復術	1
	頭蓋縫合早期癒合症	頭蓋形成術	13
		骨延長術	3
		骨延長器抜去術	2
		骨延長器切断術	1
腫瘍	脳腫瘍	脳腫瘍摘出術	1
	頭皮下腫瘍	頭皮下腫瘍摘出術	2
外傷	硬膜外血腫	開頭血腫除去術	3
	硬膜下血腫	硬膜下腹腔シャント術	5
		硬膜下血腫ドレナージ術	3
		開頭血腫除去術	1
		硬膜下シャント抜去術	1
	陥没骨折	陥没骨折修復術	1
血管障害	脳動静脈瘻	血管内手術	1
	モヤモヤ病	バイパス術	1
感染	硬膜下膿瘍	硬膜下膿瘍洗浄術	5
	脳膿瘍	脳膿瘍ドレナージ術	2
計			93

整形外科・関節センター

スタッフ紹介

コンサルタント（スタッフ医師）4名
平中崇文（1988年卒主任部長）人工膝関節・関節鏡
岡本剛治（1992年卒部長）脊椎外科
藤代高明（1997年卒部長）人工股関節
置村健二郎（2013年卒医員）膝関節鏡・スポーツ医学
レジデント（研修医）5名
重本理花（2013年卒），荒木祥太郎（2014年卒），岡田亮（2015年卒），名古竜平（2013年卒）（2020年9月退職），下薗涼太が神戸大学卒後研修として勤務した．

診療内容

1. 人工膝関節（関節センター）
総手術症例数，部分人工関節手術症例数ともに国内トップクラスの症例数である．昨年は年間400例超えを達成した．
2. 人工股関節（関節センター）
手術数が増加しており，年間ほぼ100例に到達した．人工股関節の手術数は近隣地域では最も多い．
3. 脊椎外科
手術症例数は順調に増加し，年間100例に到達した．高槻の診療圏では最大の入院患者数となっている．
4. 再生細胞
脂肪組織由来再生幹細胞治療（ADRC）を用いた膝軟骨再生医療を行っている．2017年10月以来2020年12月末までで79例に施行した．うち股関節が2症例である．
5. 医工連携
人工関節用レトラクター，指用レトラクター，アキレス腱縫合糸など多くの製品を開発した．

2020年のトピックス・実績

1. Youtubeチャンネル開設
関節センターのYoutubeチャンネルを開設した．現在まで登録者数1,700名，合計15万ビューと好評である．また動画がきっかけで受診する方が多いばかりでなく，紹介受診でも動画を視聴している方が多く，今後注力すべき部分であると実感している．
2. 脊髄損傷再生医療
脊髄損傷に対する再生医療を愛仁会リハビリテーション病院と共同で開始した．2020年は3例を行い，いずれも効果が認められている．
3. 海外交流
新型コロナウイルス感染症流行のため海外交流の機会はほぼないが，台湾の医師向けのセミナーを3回，タイの医師向けのセミナーを1回行った．
4. 学術活動
新型コロナウイルス感染症のために，学会活動は減少している．しかし，近年学会発表より英文雑誌投稿に注力している．2020年は合計17編の英文論文がpublishされ，最新のimpact factorの合計は昨年33.937に達した．
5. 総合内科との共同治療
大腿骨近位部骨折，脊椎圧迫骨折を，総合内科主治医の全身管理，整形外科医執刀とお互いの特徴を生かした取り組みを行っており，有効に機能している．

今後の展望

1. 脊椎外科センター開設
年々増加しつつある脊椎外科を，内外にアピールして確固たるものとし，後進の受け入れとなるべく設立を予定している．
2. 人工関節手術ロボットの導入
人工膝関節手術ロボットROSAの導入を行い，より正確で再現性の高い手術を行う．治療の先進性をアピールする．
3. 外国人患者の受け入れ
新型コロナウイルス感染症流行の収束後のために，海外患者，特に中国からの患者を受け入れる準備を整える．すでにYoutubeチャンネルの中国語翻訳版を仲介業者を通じて中国に広めている．
4. 外国人医師の研修受け入れ
当院は外国人医師修練施設に認定されている．海外からの研修医を積極的に受け入れる予定である．

泌尿器科

スタッフ紹介

・主任部長　石梅貴信
　出身大学：大阪医科大学（1997年卒）
　専門分野：泌尿器科一般・排尿機能
　学会など：日本泌尿器科学会　専門医・指導医
　　大阪医科大学泌尿器科臨床准教授
・専攻医　加納陽祐（2020年9月退職）
　出身大学：大阪医科大学（2015年卒）
・専攻医　岡部知太（2020年10月着任）
　出身大学：大阪医科大学（2017年卒）
・専攻医　寺本昌司（2020年10月着任）
　出身大学：大阪医科大学（2017年卒）
・非常勤医師　濱田修史
・非常勤医師　小山耕平
・非常勤医師　枝川　右
・非常勤医師　反田直希

診療内容

泌尿器科では，泌尿器科領域でのがん治療，尿路結石治療，排尿障害及び尿路感染の治療を行っている．外来診療はこれまでと同様，毎日（月～金曜日）診療を行い，予約なしの患者も可能な限り対応している．緊急対応が必要な症例に関しても，救急科と連携を行いながら対応している．入院診療においては患者に負担の少ない腹腔鏡を積極的に取り入れ，早期の回復を目指して診療を行っている．

尿路結石に関しては，負担の少ない体外衝撃波結石破砕と内視鏡下破砕術（結石除去効果が高いレーザー結石破砕装置を使用）を使い分けることで，より適切な加療を行っている．

また，大阪医科大学泌尿器科と連携を取り，同院で行っている膀胱癌に対する膀胱温存治療症例に対する内視鏡手術も積極的に行っている．

2020年のトピックス・実績

尿路結石手術（体外衝撃波結石破砕，内視鏡下破砕）件数の増加を認め，近隣からの紹介数が増えてきている．

前立腺癌に対する治療方法である強度変調放射線治療（IMRT：Intensity Modulated Radiation Therapy）が再開され，限局性前立腺癌の治療選択が増えることとなった．

今後の展望

常勤医師が3名体制となることで，より丁寧な診療を心掛ける一方で，これまで難しかった症例も対応できるようになる．また，以前より目標としている診療における患者のニーズに応えられるようにする．

今後は，特に尿路結石，前立腺癌患者の増加が顕著であり，治療の選択肢も増えたことによって患者の希望にあった治療ができるよう努力する．

表．診療実績

（単位：件）

術式	件数	術式	件数
TURBT	167	前立腺生検	135
ESWL	144	腎瘻造設術	15
TUR-P	17	膀胱瘻造設術	2
TUC	2	尿管切石術	1
f-TUL	47	尿道腫瘍切除術	1
TUL	15	尿道狭窄拡張術	1
尿管ステント留置，抜去	312	腹腔鏡下副腎摘除術	1
精巣摘出術	4	腹腔鏡下腎摘除術	18
陰嚢水腫根治術	7	包茎手術	5

腎移植科

スタッフ紹介

客野宮治：腎移植医，1979年大阪大学医学部医学科卒業，泌尿器科専門医，同指導医，日本移植学会移植認定医，日本臨床腎移植学会認定医

診療内容

現在，週5日1診の腎移植患者対象の外来診療を客野，高原史郎（関西メディカル病院），今村亮一（大阪大学），阿部豊文（大阪大学）が行っている．

また，腎移植患者の検査入院，急性疾患発病時の入院治療を担当している．

表．腎移植科統計

（単位：件）

月平均外来数	203
年間入院数	57
年間手術件数	60

2020年のトピックス・実績

現在，外来にてレシピエント199名とそのドナーの方の腎機能維持並びに健康管理を担当している．

昨年1年間で大阪大学泌尿器科より12名の移植後の新患を受け入れた．

死亡された方は0名で，透析再導入になった方は0名であった．

残りの患者数の変化は転居・転院に伴うものである．

今後の展望

当院での腎移植開始を目指している．

皮　膚　科

スタッフ紹介

杉山茉莉子　2014年卒　（2020年3月退職）
笹瀬玲奈　2017年卒　（2020年4月入職）
菊澤亜夕子　2007年卒　（2020年3月退職）
山田はるひ　2016年卒　（2020年4月入職）
瀬戸英伸　1984年卒

診療内容

【外来】
1日平均外来患者数:50人←55人（2019）←55人（2018）
紹介患者数 :638人←680人（2019）←761人（2018）
生物学的製剤導入 :14人←13人（2019）
アレルギー検査 :30件←55件（2019）
【入院】
入院患者数 :84人←94人（2019）←118人（2018）
病棟依頼 :1,075件←1,019件（2019）←863件（2018）
往診 :379件←402件（2019）←240件（2018）
褥瘡回診 :331件←251件（2019）（毎週月曜日）
【手術】
手術件数（手術室）:
167件←161件（2019）←222件（2018）
手術総件数（手術室＋外来処置室）:
357件←348件（2019）←305件（2018）
悪性腫瘍摘出術 :40件←43件（2019）←26件（2018）
有茎皮弁・植皮術 :9件←11件（2019）←12件（2018）
全身麻酔：4件←6件（2019）←17件（2018）

2020年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症の影響で外来患者，入院患者ともに例年より減少した．手術室での手術は，3月～5月は制限したため減少したが，その分を外来処置室で補い，結果として総手術数は増加した．2020年12月から，経口JAK阻害薬であるバリシチニブ（オルミネント）が，アトピー性皮膚炎に適応追加となった．12年ぶりとなるアトピー性皮膚炎の内服治療薬の出現で，アトピー性皮膚炎の治療の幅が更に広がった．
・入院患者内訳（表1）
・皮膚科の手術（表2）
・皮膚良性腫瘍（表3）
・皮膚悪性腫瘍（表4）

今後の展望

今期は若い医師の教育を最重要視して診療を行ってきた. 来期は, キャリアを積んだスタッフが加わることもあり，難易度の高い手術に積極的に取り組んでいきたい.

表1．入院患者内訳

（単位：人）

細菌感染症	
蜂窩織炎	27
丹毒	3
壊死性筋膜炎	0
その他	2
ウイルス感染症	
帯状疱疹	21
水痘	1
カポジ水痘様発疹症	0
皮膚良性腫瘍	10
皮膚悪性腫瘍	4
中毒疹・薬疹	1
皮膚潰瘍・褥瘡・足壊疽	9
天疱瘡・類天疱瘡	2
湿疹皮膚炎	1
蕁麻疹・アナフィラキシー	0
紅斑症（EEM EN)	2
血管炎	1
合　計	84

表2．皮膚科の手術

（単位：件）

良性腫瘍摘出術	209
悪性腫瘍摘出術	40
皮膚生検術	73
有茎皮弁作成術	5
遊離植皮術	4
デブリードマン	10
フェノール法	16
合　計	357

表3．皮膚良性腫瘍

（単位：件）

母斑細胞性母斑など	33
粉瘤など	59
脂漏性角化症	32
線維腫など	21
皮膚付属器腫瘍	21
脂肪腫など	15
血管腫など	14
日光角化症	7
その他	19
合　計	221

表4．皮膚悪性腫瘍

（単位：件）

基底細胞癌	18
有棘細胞癌	9
ボーエン病	8
パジェット病	1
転移性皮膚癌	2
その他	2
合　計	40

形 成 外 科

スタッフ紹介

常勤医：黒川憲史
東野えりか

診療内容

常勤医2名で診察を行っている．外来は，月・火・木・金曜日の午前中，水曜日は午後に初診を受け入れている．手術は，月曜日午後に主に全身麻酔を要するもの，水曜日午前中に局所麻酔を要するものを行っている．

2020年のトピックス・実績

2020年の実績を表1，2に示す．また，日本形成外科学会教育関連施設に認定されている．

今後の展望

従前どおり，適切な形成外科的な治療や手術を提供し，必要に応じて関連施設との連携をとり，良好な協力体制を維持していく．

表1．形成外科新患者数・入院患者数・手術件数

形成外科新患者数	594名	形成外科手術件数	入院手術	全身麻酔	82 件
形成外科入院患者数（重複入院は除く）	125名			腰麻・伝達麻酔	0 件
				局所麻酔・その他*	43 件
			外来手術	全身麻酔	0 件
				腰麻・伝達麻酔	0 件
				局所麻酔・その他*	152 件

＊その他：無麻酔や分類不明

表2．手術内容区分

（単位：件）

疾患大分類手技数	入院手術			外来手術			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	24		6			73	103
先天異常	16		0			2	18
腫瘍	22		27			64	113
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	8		2			5	15
難治性潰瘍	7		4			7	18
炎症・変性疾患	0		2			1	3
美容（手術）	0		0			0	0
その他	5		2			0	7
Extra レーザー治療	0		0			0	0
大分類計	82	0	43	0	0	152	277

産　科

スタッフ紹介

小辻文和　：1971年卒　部長
大石哲也　：1983年卒　主任部長
中後　聡　：1988年卒　総合周産期母子医療センター長
加藤大樹　：2005年卒　医長
德田妃里　：2007年卒　医長
柴田貴司　：2007年卒　医長
細野佐代子：2008年卒　医員
西川茂樹　：2011年卒　医員
福岡泰教　：2012年卒　医員
飯塚德昭　：2013年卒　医員
菅田佳奈　：2014年卒　医員
産婦人科の常勤スタッフは以上11名であった．

診療内容

入院病床はMFICU6床を含め計54床で運用し，OGCS基幹病院，大阪北地区の産婦人科一次救急体制の中心である．通常の帝王切開は全てMFICU内に設置された産科専用手術室で行い，緊急時は病院到着後20分以内に児を出産できる．外来は専門外来制とし，業務を効率化して午前3診，午後2診体制とした．病棟は，2チームによるチーム診療制を採用し，円滑な運営のみならず教育面でも効果を発揮している．

2020年のトピックス・実績

分娩総数は減少傾向であるが，本年も大阪府内の緊急母体搬送の受入数は1位で，240件であった．一方，近隣施設へのback transferは83件で，周囲の医療施設から大きな信頼を勝ち得ている．また，大阪コロナフォローアップセンターから依頼された10名余りの新型コロナウイルス感染症感染妊婦を受け入れ，大阪府の新型コロナウイルス感染症対策に貢献した．

2020年は，日本産科婦人科学会の英文雑誌であるJOGRに4本の論文を掲載（1本は掲載予定）することができ，研究業績は好調な1年であった．

働き方改革を見据え，数年前から業務の効率化を進めており，本年も産科当直は翌朝から，MFICU当直は午後から帰宅することを実現している．

2020年から千船病院所属の専攻医が2名，6か月交替で定期的に当院で研修を行っており，全員素晴らしいパフォーマンスを発揮されている．千船病院産婦人科関係者のご尽力に，この紙面をお借りして，心より感謝を申し述べたい．

今後の展望

新型コロナウイルス感染症感染拡大による社会の変化や，来るべき働き方改革に対応すべく，法人間の他施設とも交流しながら，「人員確保」，「業績向上」，「指導施設としての教育の質の担保」，「スタッフのQOLの改善」の相反する困難な課題の解決に，覚悟を持って臨みたい．

表．実績

（単位：件）

項目	件数
分娩件数（母の数，死産を含む）	1,027
帝王切開数（帝王切開率　38.0%）	390
緊急帝王切開	188
腹膜外帝王切開	31
子宮底部横切開	13
妊娠子宮全摘数（産褥期を含む）	6
子宮頸管縫縮術数	55
緊急母体搬送数	240
Back transfer症例数	83
妊娠28週未満の早産	18
胎児異常	34
FGR	57
多胎	61
切迫早産	140
前置胎盤	14
常位胎盤早期剥離	10
妊娠高血圧症候群	77
糖尿病合併妊娠（妊娠糖尿病含む）	88

婦　人　科

スタッフ紹介

産科とは区別せず千船病院から後期研修医2名の応援を6か月ずつ受けて13名で業務に当たった．

2020年の診療内容とトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症による受診控えの影響により，前半は症例数が減少したが，後半は盛り返すことができた．

①手術数は横ばい．

②産科母体搬送の増加に伴い，婦人科症例も重症例や手術困難例が増加している．悪性腫瘍では高齢化と重症化により手術症例より放射線治療例が増加している．

今後の展望・目標

腹腔鏡専門医取得が喫緊の課題である．

多くのスタッフが精度の高い手術手技を持つに至り，全体的にレベルアップした．研修医にも正確に伝承していくことを目指す．

骨盤臓器脱手術で培った技術を生かし，腟式手術を増やし，腹腔鏡手術とともに低侵襲手術を増加させることにより手術数の回復を目指す．

婦人科腫瘍専門医（現在1名），細胞診専門医（3名），がん治療認定医（6名）取得を継続して努力する．

表1．良性疾患手術

（単位：件）

	2017年	2018年	2019年	2020年
腹式単純子宮全摘術	53	53	64	59
開腹子宮筋腫核出術	18	21	11	15
開腹良性卵巣腫瘍手術	22	26	17	20
開腹子宮外妊娠手術・卵管切除術	7	7	8	8
骨盤臓器脱手術	56	50	40	41
腹腔鏡手術	98	104	96	98
TCR	20	15	23	30
その他	7	6	6	7
計	281	282	265	278

表2．内視鏡手術

（単位：件）

		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
腹腔鏡	卵巣腫瘍手術	83	65	64	41	49
	子宮筋腫核出術	3	3	2	1	0
	子宮外妊娠	19	10	15	15	15
	TLH	23	20	23	39	34
TCR		13	20	15	23	30

表3．悪性腫瘍関連手術

（単位：件）

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮膣部円錐切除（LEEP）	44	32	38	26	38
子宮頚がん手術	8	6	6	6	7
子宮体がん手術	12	13	16	18	13
卵巣がん手術	16	14	21	25	18
その他	2	2	2	1	2
計	82	67	83	76	78

表4．婦人科悪性腫瘍

（単位：件）

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
子宮頚癌					
CIN3・AIS	35	27	43	25	35
Ⅰ期	9	14	7	3	7
Ⅱ	1	2	2	3	2
Ⅲ	0	1	1	4	2
Ⅳ	0	1	1	1	2
計	45	45	54	36	48
子宮体癌					
AEH	1	0	2	1	2
Ⅰ期	5	8	9	15	11
Ⅱ	3	0	2	2	1
Ⅲ	1	4	6	2	1
Ⅳ	3	1	2	0	0
計	13	13	21	20	15
卵巣癌					
Ⅰ期	7	9	6	13	11
Ⅱ	1	0	4	0	0
Ⅲ	6	6	7	9	7
Ⅳ	2	5	3	4	3
計	16	20	20	26	21

眼　科

スタッフ紹介

医　　師：清水一弘・宮本麻起子・奥田吉隆
　　長嶋泰志・宮本朋美
ＯＲＴ：中内・嶋本・大森
検 査 員：山本
看 護 師：吉川・藤野・小柴・松原
小児外来：渡邊浩子

診療内容

一般外来：月～金曜日
小児外来：木曜日午後
検　　査：月～金曜日午後
手　　術：月曜日午前・火曜日終日・木曜日終日

2020年のトピックス・実績

2020年4月　長嶋泰志医師赴任
2020年6月　宮本朋美医師赴任

今後の展望

来年も眼科手術件数の増加と小児眼科の充実を目標としている．コロナ禍で外来患者数・手術件数とも減少したが，高齢化社会となり手術適応例が減少するわけではないので，必ずや増加に転じるようになると思われる．その中で，硝子体手術は確実に増加している．硝子体手術は高度に訓練された技量を要する手術なので，限られた施設でしか行うことができないが，当院では積極的に行っている．白内障手術用機器はセンチュリオン，手術用顕微鏡はサージカルガイダンス付きの最新型が入り，乱視矯正の精度も上がり，北摂地域では最も優れた機種で手術ができる環境が整っているため，高槻病院で行われている白内障手術が秀でた手術であることをアピールしていきたい．2.2mmの極小切開や精度の高い乱視矯正は近隣の大学病院でも行われていない技術でLASIK眼や円錐角膜眼への眼内レンズ挿入も行っている．さらにフェムトセカンドレーザー白内障手術システムが導入され6年が経過した．フェムトセカンドレーザーは大阪府下で6施設あるが，手術用顕微鏡や周辺機器と連動したシステムとしては日本初導入である．今後はホームページの充実，パンフレットの作成，説明会などで手術件数増加に取り組みたい．

近年，斜視や弱視など小児眼科を専門とする眼科医が減少する傾向にある．当院では未熟児網膜症や眼科小児奇形などにも対応できる小児眼科専門医が診療に当たっており，3名の国家資格を持った視能訓練士とともに診療の充実を図っている．

最近は地域に硝子体手術ができる施設が減少しているのが現状だが，当院ではコンステレーションとリサイト付きルメラ手術用顕微鏡などの充実した設備で手術を行っている．経験豊富な硝子体術者が担当し，更に増加するものと思われる．

大学病院にもないような機器が導入され，眼科地域医療をリードし，貢献できる眼科を目指している．

表．診療実績（2020年1月～2020年12月）

（単位：件）

項目名		件数
外来総数	一般外来	11,663
検査総数	蛍光造影検査	19
	視野	605
	光干渉断層計	3,703
手術総数	白内障手術	812
	（再掲）ECCE	8
	（再掲）IOL縫着	8
	強膜内固定	0
	緑内障手術	1
	麦粒腫切開術	3
	霰粒腫切除術	5
	翼状片切除術	19
	腫瘍切除術	4
	斜視手術	0
	内反症手術	0
	眼瞼下垂	2
	硝子体切除術	43
	ケナコルトテノン嚢下注射	22
	硝子体注射	92
	YAGレーザー後嚢切開術	82
	部分・汎網膜光凝固術	52
	未熟児網膜症光凝固術	2

耳鼻いんこう科

スタッフ紹介

常 勤 医　星島秀昭
非常勤医　愛宕利英
　　服部康人
　　稲中優子（2020年7月入職）

診療内容

昨年同様常勤医師1名と大阪医科大学耳鼻咽喉科からの応援医師1名，大学医局出身者2名の応援医師とともに外来診療を実施している．外来診療について月曜日は原則初診患者のみの1診体制，火曜日と木曜日は非常勤医師とともに，2診体制で外来患者，病棟診療に当たっている．木曜日の2診について第1，3，5週を服部医師，第2，4週を愛宕医師の交代で診療に当たっている．火曜日は昨年後半より同じく大阪医科薬科大学（大阪医科大学より改名）病院より荒木医師から稲中医師に変更になった．水曜日は手術日となっており，午後に関しては月曜日に外来手術若しくは検査，火，木，金曜日はエコーガイド下の細胞診検査，内視鏡下生検，検査室の静音と時間を要する特殊聴覚機能検査及び術後の処置などを行っている．入院については，未治療の高血圧や糖尿病などの基礎疾患を有する突発性難聴や顔面神経麻痺症例や，扁桃炎，扁桃周囲膿瘍などの急性上気道感染症患者などの治療を行っており，切開処置を要する深頸部膿瘍や気道狭窄を伴う重度の喉頭浮腫など，緊急に外科的治療を必要とする重症疾患は，大阪医科薬科大学等のより専門性の高い医療機関に治療をお願いしている．

2020年のトピックス・実績

遷延する新型コロナウイルス感染症の関係から，他科と同様当科でも感染受診控えや，緊急事態宣言の発令で，外来患者数の変動がみられたが，各年齢層のワクチン接種普及に伴い流行前の状況に徐々に戻りつつある．

今後の展望

新型コロナウイルス感染症流行の終息とともに，外来患者数及び入院患者数も更に改善が見込めると考えられる．

放射線診断科

スタッフ紹介

主任部長　清水雅史
部　　長　横川修作
医　　員　中森美和
医　　員　松田耕平
非常勤医師　6名
主任部長　髙橋　哲（イメージングリサーチセンター）

診療体制

2020年は，清水雅史主任部長，横川修作部長，中森美和医員，松田耕平医員，非常勤医師6名（神戸大学放射線科1名，大阪医科大学放射線科5名）の診療体制であった．

活動内容

CT・MRIの件数と内訳，血管造影・IVR件数と内訳はそれぞれ表の如くである．

表1．診療体制

	月	火	水	木	金	土
午前	読影	読影/血管造影	読影/血管造影	読影	読影	休診
午後	読影	読影	読影	読影	読影	読影

表2．血管造影・IVR内訳

（単位：件）

部位		IVR	合計
肝	肝癌	40（TAE）	40
		2（動注）	2
胃	胃潰瘍	1（止血）	1
副腎	腺腫	静脈採血	4
子宮	産褥出血	2（止血）	2
総計			49

CTの検査件数，MRI件数は順調に増加している．

血管造影・IVR件数はほぼ同様である．

次年度方針・抱負又は将来展望

CTは320列Aquilion ONEと64列マルチスライスCT2台と16列治療用CTの4台体制で，特に心臓CTの件数は増加している．

MRIはSiemens社製3TMRI Skyraと1.5TMRI Aeraの2台体制で，心臓MRIの撮像も試みている．

腹部血管造影は，CT-like imageを用いて高精度の塞栓術を施行している．

今後とも，病診連携を強化し，地域の画像センター，放射線治療センターとしての役割を務めていかなければならない．

表3．CT検査件数

（単位：件）

	2020-04	2020-05	2020-06	2020-07	2020-08	2020-09	2020-10	2020-11	2020-12	2021-01	2021-02	2021-03	合計
脳	238	273	294	324	380	300	347	386	448	344	387	486	4,207
眼窩	0	3	0	0	4	2	1	0	1	2	1	1	15
副鼻腔	0	6	7	7	6	5	8	2	6	2	7	6	62
中・内耳	1	1	1	3	6	1	2	1	0	2	1	4	23
上中咽頭	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	2	6
頭部その他	0	3	5	4	2	3	2	5	2	2	2	5	35
頭部小児（外傷）	17	30	20	20	13	24	28	30	20	13	23	17	255
鼻 - Ⅲ	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	2	6
耳 - Ⅲ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
頭部小児	9	5	7	6	7	11	24	19	16	11	10	32	157
頭部 CTA	3	3	2	6	5	4	1	6	6	0	2	2	40
頭部～頸部 CTA	0	0	0	0	1	1	2	0	0	1	0	0	5
耳下腺・顎下腺	1	5	1	0	1	1	2	1	2	3	0	2	19
甲状腺	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
頚部その他	2	5	6	4	6	3	2	4	1	8	1	5	47
下咽頭・喉頭	2	2	1	2	0	1	2	3	1	4	0	3	21
頚部小児	1	1	1	0	1	2	0	1	0	2	0	1	10
頚部 CTA	0	1	0	1	1	0	0	2	1	3	1	0	10
胸部	223	188	233	212	226	210	254	241	259	216	224	263	2,749
肩	6	10	8	8	8	13	14	14	12	15	10	19	137
肩アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胸部その他	1	0	0	3	2	0	3	1	0	0	1	2	13
CT 下肺生検	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
頚部上腹部	1	3	4	1	1	2	0	4	0	2	1	4	23
胸部上腹部	29	16	40	37	34	36	40	28	29	36	31	40	396
胸部小児	3	2	1	3	2	4	2	3	1	1	2	2	26
心臓	32	14	24	38	29	26	36	22	33	29	30	45	358
胸部 CTA	0	1	1	1	2	1	2	1	0	0	0	0	9
心臓 - 大動脈	1	1	1	0	3	0	2	3	2	3	3	1	20
Ablation	19	11	25	28	23	26	37	36	30	24	26	25	310
Ablation ＋冠動脈	0	3	2	2	1	0	1	1	0	0	0	3	13
肺塞栓	0	0	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	8
肺塞栓＋深部静脈血栓	3	3	4	2	8	4	1	1	8	4	6	4	48
肝臓～腎臓	13	15	22	14	13	16	25	21	13	18	19	36	225
肝臓～骨盤	231	263	303	296	293	289	331	288	304	242	258	352	3,450
肝臓	15	6	14	18	17	14	20	12	15	8	11	22	172
胆嚢	2	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0	1	7
DIC-CT	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
膵臓	2	6	3	6	6	2	7	4	5	0	3	4	48
腎臓	0	1	2	0	0	2	2	0	4	2	0	0	13
腹部その他	0	2	2	0	6	1	2	3	1	0	1	3	21
腹部小児	1	0	0	3	2	3	2	0	0	1	0	4	16
腹部 CTA	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	3
Colonography	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨盤部	12	9	2	16	11	9	18	10	12	16	21	9	145
骨盤オリーブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右股関節	4	5	5	4	7	5	7	7	10	7	14	10	85
左股関節	4	6	3	4	11	6	4	11	8	11	12	10	90
両股関節	47	21	42	53	39	38	48	49	55	37	38	52	519
骨盤部その他	0	0	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	5
股関節アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨盤小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨盤 CTA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右上腕部	0	4	4	4	0	1	3	2	1	0	2	3	24
左上腕部	2	5	1	6	1	1	0	2	3	3	0	2	26
両上腕部	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	4
右肘関節	0	1	4	7	3	7	5	4	6	5	4	3	49
左肘関節	0	4	1	4	3	2	4	4	2	0	3	1	28
両肘関節	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
右前腕部	1	3	1	2	0	1	1	0	0	0	1	2	12
左前腕部	0	0	2	0	2	1	1	0	0	1	0	0	7
両前腕部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右手関節	2	1	3	6	4	3	7	7	8	7	4	6	58
左手関節	0	1	8	8	9	8	8	7	11	9	6	8	83
両手関節	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右手部	0	1	1	2	2	2	3	4	4	3	2	2	26
左手部	1	1	0	2	1	3	2	0	2	0	7	2	21
両手部	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
右上肢アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左上肢アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
両上肢アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右上肢小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
左上肢小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
両上肢小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右上肢 CTA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左上肢 CTA	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
両上肢 CTA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右大腿部	1	1	0	5	5	1	6	4	4	2	6	1	36
左大腿部	3	1	1	1	4	4	4	0	3	1	1	0	23
両大腿部	1	1	1	0	2	2	0	2	1	0	0	1	11
右膝部	1	3	4	4	9	3	11	1	3	7	8	4	58

	2020-04	2020-05	2020-06	2020-07	2020-08	2020-09	2020-10	2020-11	2020-12	2021-01	2021-02	2021-03	合計
左膝部	10	7	6	6	8	9	7	4	9	3	4	5	78
両膝部	31	12	28	27	22	21	31	26	20	16	17	25	276
右下腿部	2	2	1	3	5	2	2	5	2	3	4	2	33
左下腿部	1	0	1	3	1	2	0	1	0	2	0	0	11
両下腿部	1	1	0	0	1	1	0	1	0	0	1	2	8
右足関節	2	5	4	6	4	3	4	4	2	2	1	6	43
左足関節	3	1	2	6	3	5	3	2	8	6	4	7	50
両足関節	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
右足部	0	1	1	1	2	2	2	1	4	1	4	4	23
左足部	2	2	0	2	3	4	4	4	2	1	1	7	32
両足部	0	0	1	0	1	1	0	0	1	1	1	0	6
右下肢アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左下肢アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
両下肢アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右下肢小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左下肢小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
両下肢小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右下肢 CTA	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
左下肢 CTA	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
両下肢 CTA	2	6	7	12	12	14	10	10	8	7	2	3	93
右下肢（骨盤～下腿）	6	0	4	1	1	2	4	0	0	0	0	3	21
左下肢（骨盤～下腿）	0	2	3	0	1	2	2	1	0	2	2	2	17
両下肢（骨盤～下腿）	38	23	25	24	35	17	27	29	29	20	17	22	306
頚椎	9	6	20	12	7	11	13	12	21	13	10	13	147
胸椎	4	8	4	0	5	2	7	4	4	10	3	3	54
腰椎	29	44	42	58	44	40	53	49	38	30	41	50	518
仙椎	0	0	2	2	0	0	0	3	0	0	0	0	7
脊椎小児	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	3
胸部～骨盤	345	355	403	439	486	472	463	499	510	484	483	590	5,529
大動脈（胸部～骨盤）	62	62	88	93	43	60	78	77	85	78	86	99	911
大動脈（骨盤～下腿）	8	3	5	7	2	1	3	3	1	3	4	4	44
頚部～骨盤	62	54	76	65	65	72	73	59	87	67	71	70	821
広範囲小児	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3
広範囲 CTA	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3
静脈（骨盤～下腿）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
広範囲 肺塞栓	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	3
広範囲 肺塞栓＋深部静脈血栓	5	11	5	4	11	12	9	12	9	14	11	12	115
合計	1,561	1,559	1,849	1,955	1,989	1,865	2,135	2,071	2,198	1,872	1,959	2,449	23,462

表4. MRI検査件数

（単位：件）

	2020-04	2020-05	2020-06	2020-07	2020-08	2020-09	2020-10	2020-11	2020-12	2021-01	2021-02	2021-03	合計
脳＋脳 MRA	209	161	269	263	255	247	330	252	238	221	226	319	2,990
下垂体	9	3	8	5	13	4	6	6	11	7	4	10	86
小脳橋角部	0	2	4	1	1	0	2	1	0	1	2	4	18
上中咽頭	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
副鼻腔	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右眼窩	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
左眼窩	0	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	4
顎関節	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
舌・唾液腺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
頭部 MRA	0	0	0	1	1	0	0	1	1	1	1	0	6
脳・眼窩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
頭部その他	1	1	0	1	0	1	0	2	1	0	0	1	8
脳ドック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
脳	39	32	45	49	63	58	55	47	64	42	42	81	617
脳・小脳橋角部	5	3	1	4	0	3	3	1	3	5	3	4	35
脳・2 方向	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内耳	2	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	7
脳幹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳下腺	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
海馬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
脳梗塞急性期	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
小児脳	49	42	55	45	51	50	56	49	48	51	56	52	604
ドック	0	3	13	10	10	14	17	15	16	12	15	16	141
脳 VSRAD	10	10	12	12	15	24	15	8	10	14	13	16	159
脳＋脳 MRA（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
頭部 MRA（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳ドック（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ドック（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児脳（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
下垂体（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳幹（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児脳＋脊椎（鎮静下）	1	0	3	2	0	4	4	1	5	1	1	2	24
新生児脳（NICU・GCU）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
甲状腺・副甲状腺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
下咽頭・喉頭	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
頚部その他	2	0	5	0	3	5	1	0	1	1	0	1	19
頚部 MRA	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	6
小児頚部	0	0	0	0	1	0	0	1	3	0	0	0	5
頚部 MRA（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	2020-04	2020-05	2020-06	2020-07	2020-08	2020-09	2020-10	2020-11	2020-12	2021-01	2021-02	2021-03	合計
縦隔	5	3	4	4	6	3	3	1	2	1	1	2	35
右乳房	4	1	3	8	2	1	2	2	3	1	2	3	32
左乳房	5	1	2	3	2	3	4	2	3	8	3	6	42
胸部 MRA	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
胸部その他	0	1	4	1	1	1	3	1	1	4	3	2	22
AORTA・胸部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児胸部	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	4
CORONARY	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心筋	4	1	2	4	0	3	4	2	4	1	7	2	34
肝臓	2	0	2	2	8	4	4	5	7	8	4	6	52
胆嚢	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
膵臓	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	3
腎臓	4	1	1	4	3	0	1	1	0	2	1	2	20
副腎	2	2	1	0	3	2	0	0	3	2	1	4	20
MRUrography	0	1	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	6
腹部 MRA	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
腹部その他	0	0	0	1	4	1	0	2	0	0	1	5	14
小児腹部	1	0	2	0	0	2	0	0	1	0	0	1	7
MRCP	65	42	56	60	60	71	72	70	81	52	45	73	747
肝 SPIO	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
AORTA・腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上腹部	2	0	2	3	7	4	4	5	2	2	3	5	39
肝 EOB	7	5	5	3	8	7	10	4	7	5	8	6	75
子宮卵巣部	61	48	60	72	79	81	62	73	81	64	69	75	825
膀胱部	1	5	4	1	3	3	1	4	2	0	1	2	27
前立腺	28	13	24	20	19	21	27	29	35	23	31	29	299
骨盤部 MRA	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
骨盤部その他	4	5	10	9	6	4	5	7	4	3	4	9	70
小児骨盤部	1	0	0	2	2	1	0	0	2	1	0	1	10
骨盤部・CE-MRA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
頚椎	26	19	39	37	43	34	45	43	36	39	31	37	429
胸椎	0	5	6	1	2	4	6	6	7	4	7	4	52
胸腰椎移行部	3	6	4	2	3	6	5	3	6	2	4	4	48
腰椎	86	98	115	104	104	96	101	114	117	115	92	105	1,247
仙椎	2	2	3	5	5	4	2	4	3	1	1	3	35
脊椎その他	0	0	1	1	0	0	1	0	2	0	0	1	6
全脊椎	11	6	5	2	5	5	7	3	5	3	4	5	61
脊椎・ミエロ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
頚椎（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腰椎（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児脊椎	4	5	4	7	10	8	13	9	7	13	7	13	100
右肩関節	4	7	7	7	6	9	9	5	9	5	10	9	87
左肩関節	2	5	6	3	5	9	7	8	4	2	12	8	71
右肘関節	0	0	3	0	1	1	1	0	0	2	0	2	10
左肘関節	0	0	2	1	1	3	1	0	0	0	0	0	8
右手関節	1	0	0	1	4	0	1	1	0	1	0	2	11
左手関節	0	0	0	2	1	1	2	1	4	3	2	4	20
右上腕部	1	1	0	1	1	1	1	0	0	1	0	0	7
左上腕部	2	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5
右前腕部	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	2	5
左前腕部	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2
右手部	1	0	1	1	0	0	1	1	1	5	3	5	19
左手部	1	1	2	3	1	3	0	0	5	0	0	1	17
上肢・CE-MRA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右上肢その他	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3
左上肢その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右小児上肢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左小児上肢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右大腿部	2	1	4	2	1	0	2	2	0	2	3	3	22
左大腿部	1	0	0	1	1	2	0	3	1	0	1	1	11
右下腿部	2	0	0	1	0	1	2	1	1	0	0	2	10
左下腿部	0	0	1	0	1	1	1	0	1	0	0	3	8
右足部	1	4	4	1	1	1	1	2	3	0	1	0	19
左足部	0	2	4	2	1	2	0	0	1	4	0	2	18
右股関節	4	2	9	7	6	6	1	2	6	3	4	5	55
左股関節	2	2	7	3	7	4	3	1	0	5	5	3	42
右膝関節	25	19	32	34	30	32	25	27	28	31	27	23	333
左膝関節	24	19	30	28	27	30	30	22	36	35	27	21	329
右足関節	1	0	0	2	1	0	3	0	0	1	2	1	11
左足関節	1	0	0	1	1	1	2	0	2	1	1	1	11
下肢・MRA	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	4
右下肢その他	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
左下肢その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
右膝関節（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左膝関節（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右小児下肢	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
左小児下肢	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
大動脈	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	3
胸部大動脈	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
腹部大動脈	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全下肢動脈	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	734	597	891	857	901	892	967	856	930	820	794	1,019	10,258

放射線治療科

スタッフ紹介

放射線治療医：常　勤　2名
　　非常勤　2名
放射線治療技師：8名
　うち，放射線治療専門放射線技師　2名
　うち，医学物理師　1名
看護師：4名
　うち，専従　1名

診療内容

放射線治療の主な疾患
　乳がん，肺がん，前立腺がんなど

表．治療内訳

（単位：人・件）

件数	2018年度	2019年度	2020年
新患者数（人）	108	149	174
放射線治療部位数（件）	139	192	238
総照射件数（件）	2,440	3,529	4,051

新患原発部位別患者数			（単位：人）
脳・脊髄	3	3	1
頭頸部	0	1	0
肺・気管・縦隔	27	49	59
食道	3	4	2
胃・十二指腸・小腸	3	0	1
大腸・直腸・肛門	5	4	4
肝・胆・膵	1	4	2
乳腺	51	68	73
泌尿器（含　前立腺）	5	4	14
子宮	9	12	8
その他女性生殖器	0	0	7
骨・軟部腫瘍	0	0	1
悪性リンパ腫	1	0	1
その他造血器	0	0	0
原発不明癌	0	0	0
良性疾患	0	0	0
小児	0	0	0
その他	0	0	1
計	108	149	174

※2020年のみ年報の対象期間が1月1日～12月31日

2020年のトピックス・実績

2020年の実績は表を参照されたい．

常勤医の充実に伴い，新患者数，総照射件数ともに増加がみられた．特に，呼吸器系，前立腺がん，乳腺で患者数の増加がみられた．

今後の展望

高額医療である前立腺がんに対するIMRT，脳転移や肺がんに対する定位照射の件数を増やす．

麻　酔　科

（掲載期間は2020年度となっております）

スタッフ紹介

主任部長　西田隆也
部　　長　中島正順
部　　長　土居ゆみ
理 事 長　内藤嘉之
医　　長　棚田和子
医　　長　丸山祐子
医　　員　齊藤健一
医　　員　中山莉子
6月に中山莉子医師が異動した．

診療内容

手術室及び手術室外で全身麻酔管理症例を担当．それ以外に，リスクの高い患者の区域麻酔，局所麻酔管理を担当した．麻酔科術前外来を，水曜日，木曜日，金曜日の午前中に行った．

ICU患者に対して，担当科と協力して管理を行った．

新型コロナウイルス感染症に関する手術室運営のプロトコール作成及び運営調整を行い，ICU及び救急外来における陽性患者及び疑い患者に対する気管挿管を担当した．

2020年度のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症拡大により4，5月にかけての症例調整があり，年間累計では麻酔科管理症例が3,087例から2,998例に減少した．手術部位別では，開心術の症例数が減少する一方で，整形外科領域の手術件数が増加するなど科別による影響が認められた．

2020年3月にICU管理を担当していた田原医師が退職した．

今後の展望

4月から，後期研修医の井川大輝医師と周術期看護師1名が入職する．

新型コロナウイルス感染症ワクチン接種開始後も，ウイルスの変異などによる定期的な感染者数の増加があり，今後も長期的に手術室運営やICU管理に影響を及ぼすことが考えられる．感染状況に応じて，臨機応変に手術室運営の調整を行う必要がある．

麻酔科常勤医師の減少により，手術件数の増加や緊急手術に対応しにくい状況が続いている．今後も，麻酔科医及び関連スタッフの教育を図るほか，医師確保にも努める必要がある．

引き続き，心臓血管麻酔専門医や集中治療医などの育成に尽力し，周術期看護師の育成，地域連携に協力する．

表1．麻酔方法別

（単位：例）

項　目	症例数
全身麻酔（吸入）	913
全身麻酔（TIVA）	247
全身麻酔（吸入）＋硬・脊，伝麻	1,222
全身麻酔（TIVA）＋硬・脊，伝麻	396
脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔（CSEA）	85
硬膜外麻酔	1
脊髄くも膜下麻酔	114
伝達麻酔	2
その他	18
計	2,998

表2．年齢別

（単位：例）

項目	症例数
～1か月	13
2か月～12か月	88
1歳1か月～5歳	192
6歳～19歳	227
20歳～64歳	1,082
65歳～84歳	1,176
85歳～	220
計	2,998

表3．手術部位別

（単位：例）

項目	症例数
開頭	151
開胸	89
心臓・大血管	136
開胸＋開腹	8
開腹（除：帝王切開）	818
帝王切開	115
頭頸部・咽喉頭	69
胸壁・腹壁・会陰	383
脊椎	116
四肢（含：末梢血管）	1,000
その他	113
計	2,998

リハビリテーション科

スタッフ紹介

欅　　篤（けやき　あつし）
1979年　名古屋大学医学部卒
1986年　京都大学医学部大学院卒
　　京都大学医学博士
副院長，技術部長，リハビリテーションセンター長
リハビリテーション科専門医・指導医・認定臨床医
脳神経外科専門医
認知症専門医・指導医・認知症サポート医
摂食嚥下リハビリテーション認定士
心臓リハビリテーション指導士
初級・呼吸ケアリハビリテーション指導士
サルコペニア・フレイル学会　指導士
日本医師会認定産業医・健康スポーツ医

日本リハビリテーション医学会　代議員
日本リハビリテーション医学会近畿地方会　幹事
日本脳神経外科学会近畿地方会　評議員
日本認知症学会　代議員
日本脳神経外科認知症学会　理事・総務委員長
関西脳神経外科認知症研究会　副代表世話人

診療内容

あらゆる急性期疾患に対応するリハビリテーション医療を行うべく，隣接する愛仁会リハビリテーション病院の回復期病棟，障害児（者）病棟，在宅部門と密接な連携を取り，新生児から高齢者まで，急性期から生活期まで連続したリハビリテーションを行う最初の窓口として機能できるように努めている．

脳卒中をはじめとする脳神経疾患等のリハビリテーション，整形外科の人工関節や脊椎・脊髄疾患にはクリニカルパスを運用した運動器リハビリテーションを，また循環器内科や心臓血管外科，呼吸器外科・内科とも連携し心大血管疾患，呼吸器リハビリテーションを行っている．また2012年秋から“がん患者リハビリテーション料”も算定実施できるようになった．大阪府のがん診療連携拠点病院として，がん患者に外科手術前後のみでなく，化学療法や放射線治療中も機能障害，能力低下を来すことなく治療が受けられるようにリハビリテーション医療を提供している．2020年4月時点で，PT7名，OT5名，ST4名の計16名の療法士が“がんリハビリテーション研修”を受け，がんリハビリテーション料を算定できる体制が整っている．

活動内容

激増する高齢者の誤嚥性肺炎の原因となる嚥下機能障害に積極的に取り組み，入院直後の絶食期間中から鼻咽喉頭ファイバーによりベッドサイドで言語聴覚士や管理栄養士，看護師と嚥下機能の初期評価を行い，栄養提供方法を検討し間接あるいは直接嚥下機能訓練を開始している．頚部嚥下関連筋である舌骨上筋への電気刺激装置も導入された．認知症に対してはリハビリテーションの視点から“初期もの忘れ外来”として特色のある診療を行っている．リハビリテーション科医師が診察を行い，リハビリテーション専門職（理学療法士，作業療法士，言語聴覚士）が神経心理検査のみでなく基本運動能力に加え体組成評価や口腔嚥下機能評価も同時に行う．これは認知症が高齢者の抱えるロコモ，サルコペニアといった運動器障害や誤嚥性肺炎の原因となる摂食嚥下機能障害と密接に関連していることにある．運動機能や摂食嚥下機能が低下すると認知症は確実に進行する．また認知症の進行に伴い運動機能が低下し転倒の危険性が高まり，嚥下機能の低下により誤嚥性肺炎を併発しやすくなるといった負のサイクルに陥る．それぞれの障害を早期に発見し訓練・指導を行うことにより，国民病となっている認知症の発症並びに進行抑制に寄与したいと考えている．

摂食嚥下支援チームを結成し，ST，OT，PTなどリハビリテーション専門職のみでなく看護師や管理栄養士，薬剤師も加わり，カンファレンスとベッドサイドでの嚥下内視鏡検査を行い，昼食時には食形態から食事姿勢を含めた環境，そして摂食嚥下状況をリハビリスタッフと管理栄養士を交えてラウンドするランチ（ミール）ラウンドも行っている．“いつまでも口から食べる楽しみをあきらめない”をモットーに夢のある摂食嚥下支援を行っていきたい．

ロボットスーツHALも導入され，脳卒中後の上肢麻痺や人工膝関節置換術後患者に対し効果的なリハビリテーションも行えるようになった．

2020年のトピックス・実績

年初から新型コロナウイルス感染症の影響を受け，目に見えないウイルスから患者，スタッフを守るため種々の対応並びに制限も必要になった．入院と外来患者の接触機会をできるだけ減らす目的で，一時期外来リハビリテーションを制限させていただいた．また，異なる病棟の患者がリハビリテーション室で交わらないように病棟ごとの時間割制も組んだ．幸いリハビリテーション室やリハビリスタッフを起点とするクラスターの発生を現時点では防げているが，これからも更なる対策の継続が必要である．

実績は技術部リハビリテーション科を参照．

今後の展望

在院日数が短縮する中で急性期病院に特化した効率的かつ質の高いリハビリテーションをこれからも実施していきたい．

Ⅲ

愛仁会リハビリテーション病院

回復期リハビリテーション病棟
障がい者病棟
全264床（内障がい者54床）
訪問リハビリテーション

〒569-1116
大阪府高槻市白梅町5番7号
TEL.072-683-1212

院長　吉田和也

診療部総括

スタッフ紹介

リハビリテーション科は，全てのスタッフが何らかの専門医を保持しており，日本リハビリ医学会専門医を13名，同医学会指導医を4名擁している．吉田和也（日本整形外科学会専門医，院長），砂田一郎（日本脳神経外科学会専門医，副院長），礒島さおり（日本内科学会総合内科専門医，副院長），兒島正裕（日本脳神経外科学会専門医，副院長），清水洋志（日本循環器学会循環器専門医，副院長），越智文雄（日本リハビリ医学会専門医），李　容桂（日本小児科学会専門医），清水富男（日本整形外科学会専門医），住田幹男（日本リハビリ医学会専門医），城戸崎裕介（日本脳神経外科学会専門医），湯川弘之（日本脳神経外科学会専門医），福田和浩（日本神経学会神経内科専門医），和田佳子（日本小児科学会専門医），松岡美保子（日本リハビリ医学会専門医），藤井優子（日本リハビリ医学会専門医），磯山浩孝（日本リハビリ医学会専門医），寺田明佳（日本小児科学会専門医），中島敦史（日本神経学会神経内科専門医），水野佐枝（日本内科学会総合内科専門医）の陣容で診療活動を行った．（資格は代表1つのみ提示，リハビリはリハビリテーションの略）．

診療内容

回復期リハビリ5病棟210床，障がい者病棟1病棟54床（重症心身障がい児病床を含む）にて入院診療を行った．回復期リハビリ5病棟は，回復期リハビリ病棟入院基本料1と病棟専従医による体制強化加算を堅持した．外来診療は入院相談外来に加え，専門外来として脊損外来，装具外来，ボトックス・ITB外来，心大血管疾患リハビリテーション外来（心リハ外来），書類外来，通院リハビリを展開し，さらに4月より骨粗鬆症外来を新たに開設した．また当法人で唯一の歯科では，入院患者の口腔衛生・機能向上に寄与する一環として，大阪府後期高齢者歯科健診，高槻市歯科検診（歯っぴー健診）を導入して，診療の充実を進めた．チーム医療の一環としては，栄養サポートチーム（NST），褥瘡，認知症ケア，脊髄損傷，排尿自立支援，整形外科，摂食機能の各専門チームによる回診を継続した．在宅退院後の患者に対しても高いアウトカムを維持すべく，介護報酬改定に基づいたみなし事業として引き続き訪問リハビリを展開した．ただ新型コロナウイルス感染症の感染拡大による緊急事態宣言が発出された期間は，外来診療の縮小やチームによる病棟回診を休止せざるを得なかった．引き続き三島圏域地域リハビリ地域支援センターや大阪府重度心身障がい児地域生活支援センターの責務も担っており，日本リハビリ医学会の研修施設として専門医の養成にも携わっている．

2020年のトピックス・実績

1年間の退院患者数は新型コロナウイルス感染症による入退院の制限の影響で，1,706名（月平均142.2名）と昨年度より減少した．その分平均在院期間は56.2日（2019年度は53.7日）と前年度より延長している（表1）．主病名のICD-10による疾患大分類では，脳血管疾患を含む循環器疾患が28.7%（前年度26.8%），大腿骨頚部骨折など骨折患者を含む損傷・中毒外因疾患が36.3%（前年度35.5%）と，当院の二大起因疾患の患者はいずれも増加していた（表2）．紹介元では，高槻病院は31.3%（前年度29.2%），高槻市内の他医療機関は41.4%（前年度41.1%）である一方，大阪府下（高槻市外）の医療機関が22.0%（前年度23.3%），大阪府外の医療機関が5.2%（前年度6.3%）と新型コロナウイルス感染症の影響が大きく出て，より近隣の医療圏からの受け入れが多くなっていた．退院後の転帰は自宅退院が76.0%，手術目的や病状悪化による急性期病院への転院は11.9%であった（表3）．診療報酬から計算した居宅等復帰率は89.8%（前年度91.0%）と若干前年より低い比率となった（表4）．学会活動としては，筆頭演者として日本リハビリ医学会総会などに11演題の発表を行った．また1編の論文の投稿（2020年掲載分）を行っている．今年も新たに2名の日本リハビリ医学会専門医を輩出することができた．

今後の展望

2020年は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた年となった．この影響は2021年も止まる気配がないが，徹底した感染対策を施しながら，事業継続計画（BCP）を進める．2021年度からは「3L」（Learn，Lead，Leap）を病院全体のスローガンに掲げ，引き続き「再びその人らしい生活に」の理念の下，日本一のリハビリ専門病院を目指していく．入院診療に関しては，従来どおり回復期リハビリ5病棟の入院基本料1，体制強化加算を堅持するとともに，障がい者病棟の有効な病床利用を進める．

退院後の生活期リハビリでは，フォローアップ率の向上を目指すとともに，地域に向けた当院のリソースを活用するため，通所リハビリの開設や摂食嚥下外来を準備・開始していく．新型コロナウイルス感染症による診療の制約がかかる中，限られた資源と時間を有効に活用して，効率性・生産性を引き上げ，アウトカムを高めていけるよう努力を続けていく．

表1．診療科別・在院期間　退院患者数

診療科	退院患者(名)	平均在院(日)
リハビリテーション科（回復期）	1,143	66.8
リハビリテーション科（障害成人）	246	37.8
リハビリテーション科（小児）	242	23.9
リハビリテーション科（その他）	75	58.8
計	1,706	56.2

表2．疾患大分類（ICD-10）別・診療科別　退院患者数

（単位：名）

	回復期	障害	小児	その他	総計
	計	計	計	計	計
Ⅰ 感染症及び寄生虫症	3	1	0	1	5
Ⅱ 新生物	10	2	0	0	12
Ⅲ 血液造血器疾患及び免疫疾患	0	0	0	0	0
Ⅳ 内分泌栄養代謝疾患	0	0	6	0	6
Ⅴ 精神及び行動疾患	0	0	4	0	4
Ⅵ 神経系疾患	31	60	152	4	247
Ⅶ 眼及び附属器疾患	0	0	6	0	6
Ⅷ 耳及び乳様突起疾患	0	0	0	0	0
Ⅸ 循環器疾患	401	62	1	25	489
Ⅹ 呼吸器疾患	2	0	1	1	4
ⅩⅠ 消化器疾患	2	0	0	0	2
ⅩⅡ 皮膚皮下組織疾患	0	2	0	0	2
ⅩⅢ 筋骨格結合織疾患	128	4	0	14	146
ⅩⅣ 泌尿生殖器疾患	0	0	0	0	0
ⅩⅤ 妊娠分娩産褥期疾患	0	0	0	0	0
ⅩⅥ 周産期疾患	0	0	0	0	0
ⅩⅦ 先天奇形・染色体異常	2	7	65	1	75
ⅩⅧ 症状・徴候・検査異常	0	5	0	0	5
ⅩⅨ 損傷・中毒外因性疾患	487	100	7	25	619
ⅩⅩ 健康状態の影響要因	77	3	0	4	84
	1,143	246	242	75	1,706

表4．在宅復帰率

①対象退院患者数		1,155名
	1．居宅	814名
	2．介護老人福祉施設	14名
	3．介護老人保健施設	82名
	4．他の回復期リハ病棟	1名
	5．4を除く病院，有床診療所	20名
	転棟	12名
	高槻病院	77名
	その他	45名
	6．その他（有料老人ホーム等）	83名
	7．再入院	7名
②	上記①のうち，退院先が居宅等であった	911名
③	居宅等復帰率　100×②/①	89.8%

表3．紹介元医療機関

紹介元医療機関	紹介数	
高槻病院	528名	31.3%
高槻市内	698名	41.4%
大阪府下（高槻市外）	371名	22.0%
大阪府外	87名	5.2%
当院外来	2名	0.1%
計	1,686名	100.0%

退院時の転帰

転帰先	退院数	
自宅退院	1,306名	76.0%
転院	204名	11.9%
うち　高槻病院	99名	5.8%
転所	207名	12.0%
うち　老健施設	86名	5.0%
死亡退院	1名	0.1%

Ⅳ

しんあい病院

〒569-1123
大阪府高槻市芥川町2丁目3番5号
TEL.072-681-5533

院長　家永徹也

診療部総括

スタッフ紹介

常勤医師
外　　科：家永徹也　（1981年卒・院長）
整形外科：辻　充男　（1980年卒・部長）
小 児 科：谷内昇一郎（1979年卒・部長）

診療内容

2018年6月に発生した大阪府北部を震源とする地震等による建物の損壊で，同年11月末で病棟の運用を休止し，以降外来診療のみを継続している．

内科は常勤医が不在のため，高槻病院をはじめ法人内施設，大阪医科大学等からの派遣医師により運営した．

整形外科では，内科や外科で通院しているものの，骨粗鬆症に関して深く関われていなかった方の掘り起こしを行い，定期的な骨塩定量検査と専門的な治療を受けていただくよう，骨粗鬆症マネジャーを中心に看護師と連携して整形外科受診を勧め患者数の増加を図った．そのため骨塩定量検査件数が532件/年（前年比131%）と大幅に増加し，全体的な増収に繋がった．

小児科は，アレルギー専門外来の他，小児予防接種外来を継続して行っている．

訪問診療は，院長を中心に行ってきたが，高槻病院総合内科チームの協力の下，8月より本格的に活動を開始し，月20件前後だった訪問件数が平均43件の実績となった．

健診事業は，特定健診・協会健診・市民検診について対応している．

2020年のトピックス・実績

延べ患者数は，合計30,752人（前年比86%）と前年を下回った．新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の発令により受診控えの傾向があり，特に4，5月の患者数が激減した．

外来の医業収入は，226,755千円（前年比94%）で，全ての診療科で減少した．

今後の展望

休止している病床については，法人内で議論され，来年度中に，しんあい病院は在宅支援診療所として新たに稼働することが決定した．それに向けた準備をするとともに外来診療は，今までどおり受診しやすい病院を目指し，患者本位の心安らぐ医療の提供を行い，かかりつけ医としての役割を果たしていく．

また，骨粗鬆症治療の積極的な取り組みは，患者にも好評であったため，定期的な骨塩定量検査と専門的な治療を受けていただくよう，骨粗鬆症マネジャーを中心に継続していく．

さらに，在宅医療についても高槻病院や愛仁会リハビリテーション病院とシームレスな連携を図るため，また患者や家族にとってより良い支援となるために事例検討会等を検討していく．法人外のケアマネジャーとの連携を図るため勉強会の開催も引き続き行っていく．

表．実績

（単位：人，%，円）

		（1）延べ患者数		（2）平均単価	（3）医業収入	
入外区分	診療科	対象期間実績（延べ数）	1日平均	対象期間実績	実績金額	構成比
外来	内科	15,066	51	7,095	126,463,256	55.8
	小児科	1,354	5	7,371	12,463,188	5.5
	外科	5,026	17	4,827	24,890,364	11.0
	整形外科	8,829	30	7,038	62,938,379	27.8
合計		30,275	103	6,583	226,755,187	

V

しんあいクリニック

診療所

〒569-1035
大阪府高槻市西之川原2丁目46番3号
TEL.072-668-5000

院長　前納一三

しんあいクリニック

スタッフ紹介

医師　1名
看護師（パート）　1名
事務職員　1名
（上記以外で，看護部長，事務長は他施設と兼任）

診療内容・実績

2019年に19床の病床を再開し，2020年1月～6月の入院延べ患者数は，2,464名（表1），1日平均13.5名，病床利用率は71.4% であった．入院患者の紹介元は，高槻病院が100% であった．

2020年1月～12月の外来延べ患者数は，1,325名（表2），1日平均6.5名であった．

2020年のトピックス

高槻病院の後方支援診療所としての役割を担っていたが，新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言の発令により，受診控えがあり，高槻病院でも入院患者数が減少したため当院への紹介も減少した．そのため，6月末で病床は休床し，外来のみとした．

今後の展望

今後は，しんあい病院の病床返上と同時に，当院の閉院を予定している．それまでの間は，外来診療を継続する．

表1．入院延べ患者数

（単位：名）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
患者数	520	502	507	463	376	96	2,464

表2．外来延べ患者数

（単位：名）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
患者数	108	119	126	89	106	109	123	110	100	114	104	117	1,325

Ⅵ

明石医療センター

7:1急性期病院
地域周産期母子医療センター
地域医療支援病院
ICU･HCU/NICU･GCU
全382床

〒674-0063
兵庫県明石市大久保町八木743番33号
TEL.078-936-1101

院長　戸部 智

総合内科

スタッフ紹介

総合内科
主任部長：木南佐織
部　　長：坂本　丞，石丸直人
医　　長：中島隆弘，河野　圭，官澤洋平
医　　員：大西　潤，水木真平，金子昌裕，
白石裕紀子(2020年10月から高槻病院へ移動)，
小野雅敏，尾本仁那，長　陽二郎，濱浪嘉登，
田口涼子（2020年10月入職）

診療内容

外来：内科初診外来は，総合内科指導医と研修中の専攻医が中心となって担当し，プライマリケアの実践を行っている．再診外来は，生活習慣病などの慢性疾患や膠原病，精神疾患，難病に至るまで幅広く診療を行っている．初期研修医の外来は指導医が立ち合い，きめ細かく指導している．
入院：3チーム制でチーム医療を行っている．各チーム指導医2名，専攻医2～3名，初期研修医1名の構成で，屋根瓦式のチーム医療を行い，毎日カンファレンス・回診を行っている．また，多職種とのカンファレンスを定期的に開催している．

総合内科は，幅広い内科疾患の対応及び入院患者のマネージメントを行っている．病歴聴取や身体診察を重視し，適切な検査を行い，総合的な診断・診療を実践し，全人的な医療を行っている．入院診療では，チーム医療による安全で質の高い医療を提供できるよう努めている．

2020年のトピックス・実績

整形外科は高齢者の骨折例など内科的管理を要する例が多く，2020年から大腿骨近位部骨折患者は全例総合内科が入院を担当し，術前後の全身管理を総合内科医が行い，術後の合併症の軽減，入院期間の短縮に寄与している．

また，心不全患者を多く総合内科で受け入れ，特に増加している高齢者心不全の加療を担い，心不全の初期治療から，アドバンス・ケア・プランニング（ACP）までトータルケアに力を入れている．

大腿骨近位部骨折患者，心不全患者の積極的な受け入れなどにより，入院患者が昨年度より1.2倍に増加した．

医学教育・医師育成も当科の重要な役割であり，指導医・専攻医による実践的なハンズオンの指導も含めたレクチャーや，初期研修医による症例提示，臨床的疑問を解決するClinical question，コンピテンシー（医師としての特性や能力）のレクチャー，グラム染色勉強会，英語論文を批判的吟味しながら読み解くジャーナルクラブ，専攻医によるClinical jazz形式での新患外来症例の振り返り検討を定期的に開催している．また，総合内科・プライマリケア領域の医学誌（ホスピタリストや病棟マニュアルなど）の分担執筆を当院指導医中心に担当している．

臨床研究は，医療統計の講師として和歌山県立医科大学下川敏雄教授，英文抄録・論文の作成法や英文校閲・査読の講師として Ben Phillis 先生を定期的に招聘し，症例報告や臨床研究をサポートいただいている．官澤医師，世戸医師（高槻病院に異動）が主導の「高齢者の誤嚥性肺炎・摂食嚥下機能評価」は論文投稿準備中，世戸医師が主導の「高齢整形外科入院患者のポリファーマシーに対する総合内科主導の多職種チームアプローチの検証」は海外学会発表を行い，官澤医師が主導の「心不全で入院した患者における病院総合医と循環器内科医の治療の比較」はデータ解析中，など臨床研究を進めている．また2020年は海外の医学誌に原著論文1編（石丸医師；低体温症患者の院内死亡率予測スコアの精度についての研究），多施設共同研究2編（1編は石丸医師主導），症例報告3編が収載された．

今後の展望

【診療の充実】

救急科との連携により，効率よく，幅広い疾患を受け入れ，心不全診療は循環器内科と連携しながら質の高い診療の充実を図っていく．また高齢者患者が増加しており，地域や他職種の連携を密にし，高齢者診療に力を入れていく．

【資格，キャリアパス】

内科専門研修プログラム・総合診療専門医養成プログラムの基幹病院として専攻医が研修している．内科専攻医は必ず総合内科をローテートすることで，専門医プログラムの必要症例の多くをカバーできる．また現在当科の2名の医師が京都大学大学院医療経済学の教室に研究

員として所属し，臨床医をしながら臨床研究を行い，今後学位の取得を目指している．

【学術活動，臨床研究の推進】

定期的に外部講師から臨床研究のサポートをいただき，質の高い臨床研究の実践を目指し，複数の論文投稿を予定している．また指導医のサポートの下，初期・後期研修医も英文の症例報告など論文作成を実践していく．

表．入院患者の内訳（2020年のみ年報の対象期間が1月1日～12月31日）

（単位：名）

疾患群	2017年度	2018年度	2019年度	2020年
感染症	186	213	264	254
呼吸器疾患	151	210	241	193
循環器疾患	50	127	183	347
消化器疾患	53	76	83	81
糖尿病・内分泌疾患	63	124	64	55
膠原病・アレルギー疾患	74	66	75	79
血液疾患	27	27	31	28
脳・神経疾患	70	65	85	91
腎・泌尿器系疾患	84	70	87	120
整形疾患	0	0	9	176
その他	147	153	221	195
入院患者合計（延べ人数）	905	1,131	1,343	1,619

救　急　科

スタッフ紹介

救急科（2名）

医長：井上　彰　救急科専門医，集中治療専門医

医長：蛯名正智　救急科専門医，集中治療専門医

診療内容

＜救急外来＞

平日日中の救急外来受診患者の初療を担当．初期研修医とともに診療し，救急診療を通してのプライマリケア・救急医学の教育も行っている．

＜その他＞

消防事後検証委員会・MC協議会等への参加，明石ICLSコースの開催，各種教育カンファレンスなどを開催している．

2020年のトピックス・実績

2019年度より新規に救急科を開設．前年度までは研修医が中心となり救急患者の対応が行われていたが，救急科開設に伴い平日日中の救急患者対応を救急科が初期診療を担当する体制となった．救急車の受け入れ件数は増加しており，開設前に比べ約20%増加した（下図）．新型コロナウイルス感染症がまん延している中においても感染対策を行いながら新型コロナウイルス感染症感染患者も含めて救急患者の応需を継続しており，高い応需率を維持している．

救急診療は教育も重要な役目であり，研修医教育にも力を入れている．2019年度から初期研修医の救急科ブロック研修を開始し，内科外科を問わず救急対応を行いながらエビデンスに基づいた標準診療の実践を通して教育を行っている．

消防MC体制への参画や消防事後検証委員会への参加等を通じて地域の消防体制の向上へも貢献しており，明石消防を中心とした地域の消防組織との連携も強化した．

明石ICLSコース，明石MCLSコースなど，各種コースや勉強会への参加も多数行っている．

今後の展望

【診療の充実】

地域の救急医療の基幹病院として，更なる救急診療の質向上やより適切な応需体制の構築を進めていく．

【救急教育】

救急診療を通して初期研修医をはじめとした様々な立場への教育を実践していく．

【地域連携】

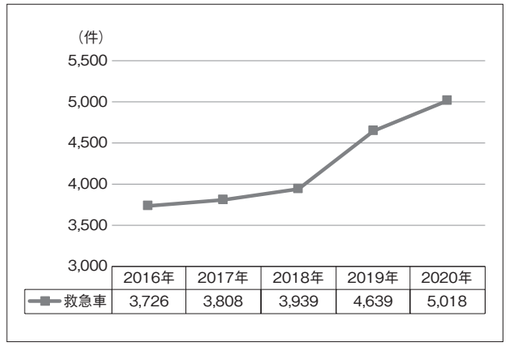
近隣施設との救急医療体制を通した連携や，明石消防を中心に当該地域における病院前診療体制の向上を目指す．

【その他】

・集中治療科と連携した集中治療診療への参画

・各種教育コースへの参画

・災害医療体制の構築



図．救急車受け入れ件数の推移

呼吸器内科

スタッフ紹介

副院長：大西　尚
部　長：吉村　将（～2020年3月），
　　島田天美子（～2020年5月），岡村佳代子
医　長：畠山由記久
医　員：池田美穂
専攻医：高宮　麗，藤本昌大，村上翔子，橋田恵佑（神鋼記念病院より6か月間出向），松岡　佑（神戸市民病院機構西神戸医療センターより3か月間出向），山岡貴志（高槻病院より1年間出向），松尾健二郎，山崎菜々美

診療内容

外来：明石市で唯一の呼吸器内科のある病院（癌専門病院を除く）として毎日呼吸器内科医による外来を行っている．2013年8月新病棟開設に合わせて呼吸器内科外来も1診体制から2診体制に増え，より多くの紹介患者に対応できるようになった．
入院：呼吸器内科は本館5階病棟を主体に入院診療を行っている．入院診療は上記スタッフを中心になされるが，臨床研修制度のため卒後1～2年目の研修医も病棟診療に加わる．

2006年度から当院は後期研修医を募集しているが，2020年には呼吸器内科に5名の後期研修医が新たに加わった．今年は当院内科専門研修プログラムより2名，呼吸器専門研修プログラムの連携として高槻病院から1名，神戸市民病院機構西神戸医療センターより1名，神鋼記念病院より1名が連携病院として当院で研修を行った．

週2回（月，金曜日）チャートカンファレンスで各症例のプレゼンテーション，ディスカッションを行い，その後に病棟を回診している．また水曜日は後期研修医向けのレクチャー兼カンファレンスを行い，相談症例の検討や情報共有を行っている．

2020年のトピックス・実績

今までは内科・呼吸器内科として内科を全般的に診療していたが，2015年4月より総合内科が新設されたため，より専門性をもって診療していくことが求められるようになった．しかし今後も専門性を伸ばしながらも特化しすぎず，「患者から学べ」をモットーにベッドサイド診療の重要性を指導し，患者に起こっている事実や事象・本質を見抜くことを重要視し，現場での最適解を常に模索することを常に努力し呼吸器内科医として幅広く診療を行うことを心掛けていく．

診療対象疾患としては，①肺炎を始めとする呼吸器感染症，②肺癌の診断・治療，③びまん性肺疾患の診断と治療，④気管支喘息発作，COPD急性増悪や気胸など呼吸不全に対する急性期治療，⑤肺気腫，間質性肺炎等による慢性呼吸不全に対する呼吸器リハビリテーション，在宅酸素療法の導入や在宅人工呼吸器療法の導入，⑥睡眠時無呼吸症候群に対するPSG検査（2014年度から入院でのCPAP導入は中止）等が挙げられる（下表）．

2020年は新型コロナウイルス感染症の発生により上半期は受診控えや健診の延期などで外来/入院患者数，検査数ともに大幅に減少したが，院内感染対策の徹底，周知により患者数は下半期にかけて回復基調となった．

2016年7月から医長以上のスタッフが5名体制となっていたが，人事異動などで3名に減少している．しかし熱心な専攻医の奮闘もあり，診療レベル低下を起こすこともなく，むしろ活気ある雰囲気となっており，今後も神戸大学呼吸器内科との連携を図りながら更なる診療体制の強化に取り組む予定である．

病理解剖数は2020年の総数が12件，呼吸器内科からは6件であった．

今後の展望

明石医療センター呼吸器内科は，明石市・加古川市を含む東播磨地域で唯一の呼吸器疾患全般を診療可能な科であり，今後更に地域医療機関との連携が重要と考えている．近隣医院からより信頼されるよう絶え間ない診療を目指し，軽症から重症まで幅広く診療することを心掛けている．呼吸器中核病院として，また呼吸器内科を目指す後期研修医の教育・研鑽の場として今後もますます努力し，魅力的な呼吸器内科を目指していく．

表．診療実績（2020年のみ年報の対象期間が1月1日～12月31日）

呼吸器内科入院患者数（人数は延べ人数）　（単位：名）

年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年
呼吸器内科入院患者数	1,237	1,365	1,248	1,374	1,262	1,246	1,266	1,298

呼吸器疾患の内訳（人数は延べ人数）　（単位：名）

疾患	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年
肺癌	463（127症例）	492（128症例）	382（125症例）	376（143症例）	334（134症例）	352（133症例）	427（169症例）	374（179症例）
胸膜中皮腫	4（4症例）	23（6症例）	31（7症例）	5（4症例）	7（7症例）	5（5症例）	9（8症例）	10（10症例）
肺炎（肺化膿症含む）	191	210	240	247	242	199	176	175
胸膜炎，胸水貯留（細菌性，結核性など）	18	31	33	33	37	46	40	23
SAS（PSG/CPAP）	169（116/53）	210（147/34）	88（88/0）	105（105/0）	113（113/0）	88（88/0）	61（61/0）	55（55/0）
間質性肺炎	92	92	79	121	127	119	116	129
慢性呼吸不全（COPD含む）	57	75	66	54	44	54	51	29
気管支喘息	33	61	47	63	52	47	35	44
気胸	71	57	45	73	72	58	57	93
喀血，血痰など	～	～	35（28症例）	23（21症例）	19（19症例）	24（22症例）	27（27症例）	21（19症例）
その他	129	167	202	281	207	241	267	345

気管支鏡検査数　（単位：件）

年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2020年
件数	304	370	347	329	429	415	424	417	409

胸腔鏡検査数　（単位：件）

年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年
件数	28	28	29	30	26	45	29	37	35

循環器内科

スタッフ紹介

副院長，主任部長：河田正仁
部長：平山恭孝
医長：野田　翼

診療内容

2020年4月はスタッフ6名であったが，9月までに黒田，松浦，藤岡が退職し3名となった．人員の減少とともに2020年半ばから虚血，不整脈関与のない心不全患者入院を総合内科（一部呼吸器内科，腎臓内科）入院に依頼した．月，木，金曜日の心筋シンチは神戸大学非常勤医師に依頼した．PCI は昨年度の9割を維持した．アブレーションは4割となった．ペースメーカ植え込みは8割であった．Holter ECG 所見（足立），心臓外科依頼の経食道心エコー（河田），ペースメーカ外来（平山，足立，岡），冠動脈 CT 所見（河田，野田），心筋シンチ所見（野田，河田）等残った人員で分担して業務に支障のないようにした．

AMI 当番は平山，野田，河田を主術者として，ローテーションの1～2名の研修医の協力を得て3グループで365日受け入れた．しかし，学会参加や休暇取得が困難であった．卒後1～3年目研修医教育はそれぞれにメンターをつけ行った．

2020年のトピックス・実績

論文は共同研究がNEJMに1編採択された．

今後の展望

2021年4月から循環器内科医が5名となり，勤務状況がやや緩和される予定である．循環器内科としては，侵襲的治療を必要とする虚血，不整脈患者入院加療に重点を置き，カテーテルやデバイス治療の症例数維持を目指す．AMIへの時間外緊急対応は科員全員と，ローテーションしてくる後期研修医を含めてオンコール当番を組み維持していく．リクルート活動は持続的に行っていく．

表．活動実績

心臓カテーテル検査・治療件数（2020年）　（単位：件）

項目	件数
CAG（冠動脈造影，PCI含めない）	382
PCI（経皮的冠動脈形成術）	442
緊急PCI	98
待機的PCI	344
ロータブレーター	17
EVT（血管内治療）	114
TAVI（経カテーテル的大動脈弁植え込み術）	9
PTSMA（経皮的中隔心筋焼灼術）	1
下大静脈フィルター	3

不整脈検査・治療報告（2020年）　（単位：件）

項目	件数
心臓電気生理学的検査（アブレーション含まない）	5
経皮的カテーテル心筋焼灼術（カテーテルアブレーション）	155
ペースメーカー植え込み術（新規）	65
ペースメーカー植え込み術（交換）	42
ICD（新規）	4
ICD（交換）	4
心臓再同期療法（CRT）（新規）	1
心臓再同期療法（CRT）（交換）	1
両室ペーシング機能付き植え込み型除細動器（CRT-D）（新規）	0
両室ペーシング機能付き植え込み型除細動器（CRT-D）（交換）	12

消化器内科

スタッフ紹介

名誉院長　澤井繁明
副 院 長　消化器内視鏡センター長　吉田俊一
部　　長　門　卓生
医　　長　安藤純哉（2020年8月退職）　石田　司
　　古松恵介　當銘成友
　　佐々木一就　ベンスレイマン・ヤハヤ
医　　員　益子由佳子（2020年6月復職）
　　田中太郎　大西紘平
専 攻 医（3年目）　徳永貴史
専 攻 医（1年目）　中村碩孝　塩屋暁子
非常勤医　赤松貴子　大学派遣2名

診療内容

2020年4月は医員以上のスタッフ11名（前年より医師2名減）でスタートした．安藤医師が8月から開業に伴い退職，更に1名減となったが6月からは，益子医師の産休育休からの復帰もあり，人員減も外来3ブースでの診療の継続を維持できた．消化管領域に関しては石田医師，胆膵領域に関しては古松医師が中心となり，地域の基幹病院として遜色ないレベルを維持できた．入院診療に関しては，人員減に伴い，若手医師への負担が増加したことは否めないが，入院患者カンファレンス，部長回診を通じて，科として患者の共有に努め，患者の不利益が生じないよう留意した．新型コロナウイルス感染症がまん延している中であったが，発熱患者のトリアージ，発熱外来の併設による水際対策で外来，内視鏡診療とも感染リスクを減じた中で行うことが可能であった．

2020年のトピックス・実績

トピックスは，石田医師主導で行った胃粘膜下腫瘍に対する内視鏡的全層切除術の導入，先進医療としての認定を得られたことであった．当院倫理委員会承認の下，2020年4月に第1例目を行った．以後，症例を重ね，先進医療の申請を行い，2020年5月，施設認定に至った．全国的にも認定施設は非常に限られており，2021年6月（原稿執筆時点）では当院含めて3施設のみとなっている．

内視鏡総件数10,004件（前年比91.4%），食道・胃粘膜下層剥離術110件（前年比90.1%），大腸粘膜下層剥離術53件（前年比94.6%），胆膵内視鏡検査総数554件（前年比97.7%）であった．前年を下回ったが，新型コロナウイルス感染症の影響であった．胆膵内視鏡検査治療は，緊急検査治療の割合が高く，新型コロナウイルス感染症の影響は少なかったと考えられた．

今後の展望

2021年4月からは，高槻病院から中島卓利医師が副院長・消化器内科主任部長として転任，神戸大学消化器内科から松岡晃生医師の配属，内科専攻医3年目として法貴医師（基幹：神鋼記念病院），瀧本医師（基幹：明石医療センター），内科専攻医2年目として川瀬医師（基幹：県立淡路医療センター），石原医師（基幹：高槻病院），内科専攻医1年目として橋本医師（基幹：明石医療センター），安部医師（基幹：明石医療センター）の配属が決定している．人員は前年より増員となるが，内科専攻医の研修を充実させることが重要な課題である．

外来診療，内視鏡診療，救急受け入れ態勢，緊急検査治療態勢の維持，更なる向上が求められる．そのためには，恒常的なスタッフの確保が必要であり，それには，神戸大学消化器内科との連携，交流が不可欠と考える．当科では，神戸大学消化器内科が主宰するそれぞれの研究会，胆膵グループ，消化管グループ，炎症性腸疾患グループ，肝疾患グループに世話人として参加し，連携，交流を深め，安定した人員確保と当科の診療，医師としてのステップアップに繋げたいと考える．

表．主な内視鏡検査・治療件数

（単位：件）

	2017年	2018年	2019年	2020年
上部消化管総数	7,010	6,960	6,909	6,320
食道静脈瘤治療	48	45	34	41
止血術	80	66	56	41
食道・胃ESD	92	105	122	110
胃瘻造設	37	18	20	12
下部消化管総数	3,690	3,525	3,461	3,130
大腸ESD	41	51	56	53
ステント留置	16	12	12	15
胆膵内視鏡総数	608	558	567	554
超音波内視鏡総数	315	235	384	368
嚥下内視鏡	137	103	87	86
内視鏡総件数	11,308	11,043	10,937	10,004

腎 臓 内 科

スタッフ紹介

【常勤医師】
部　長　米倉由利子（2003年卒）
医　長　後藤公彦　（2008年卒）
医　長　大田健人　（2012年卒）
専攻医　石井　圭　（2016年卒）
　　平井俊行　（2018年卒）

【非常勤医師】
西　愼一：神戸大学医学部腎臓内科　教授
河野圭志：神戸大学医学部腎臓内科　助教
平林　顕：神戸大学医学部腎臓内科　医員

診療内容

1）腎炎検査・治療

①経皮的腎生検

腎生検適応であっても，新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受けて入院を忌避する傾向が強く，例年と比較して腎生検件数が少なかった．腎生検適応病態は，慢性糸球体腎炎が圧倒的に多く，ネフローゼ症候群がこれに次ぐ．血管炎など二次性糸球体疾患が，他臓器病態の診療経過中に検尿異常を指摘されて院内他科から当科に紹介されることがあり，早期診断，早期治療に繋がった．

②腎炎治療

・IgA 腎症：活動性の高い症例に対する治療として，ステロイドパルス連続3クール（仙台方式），又はステロイドパルス2か月間隔3クール（Pozzi 方式）のいずれかを，患者の希望により選択している．Pozzi 方式では，週末を利用した短期入院治療が可能であり，患者の社会生活の維持と，病床の効率的な利用に寄与する．

・ネフローゼ症候群，急速進行性糸球体腎炎：2020年は高齢症例が多かった．腎生検不能症例が多く，臨床経過から病態を想定し，患者家族の意思を尊重しながら治療方針を決定した．超高齢であってもステロイド治療により完全寛解，家庭復帰できた症例もあり，今後の超高齢社会では，このように精査・治療の可能性を見定めることが必要になる．一次性ネフローゼ症候群, 血管炎, ループス腎炎においては，免疫抑制剤（シクロスポリン，ミコフェノール酸モフェチル，アザチオプリンなど）や抗体製剤（リツキシマブ）を適切に併用してステロイドの早期減量を図っている．

2）希少疾患の診療

常染色体優性多発性嚢胞腎に対するトルバプタン治療，ファブリー病に対する酵素補充療法を行っている．

3）慢性腎臓病診療

CKD教育入院を軸として透析室看護師による看護師外来（CKD外来）で継続的な腎臓病教育及び腎代替療法に関する情報提供を実施し医師の診療を補完している．2020年は開業医からの紹介数，教育入院症例数が一時期減少したが，感染対策を慎重に行いながら家族も含めた教育を行った．

生体腎移植，献腎移植登録を啓蒙・推進している．2020年には，当院でCKD管理を行ってきた症例が，神戸大学医学部附属病院で先行的腎移植を実施し生着を得た．

例年行っている「いきいき腎臓病教室」は集合開催を見合わせ，代わりに患者教育資料を作成して配布した．

4）腎代替療法，血液浄化

・血液透析，緊急透析，アフェレシス治療：入院透析管理では主科診療の下支え，「入院前よりも良い透析条件での退院」を目指している．通院透析患者は高齢化により ADL の低下，合併症の増加が顕著である．いずれも患者の重症度が高まっている．維持透析患者数の減少に対して，入院透析管理の支障にならない範囲で通院透析患者数を順次拡充する方針である．

特殊血液浄化では，敗血症性ショック時のAN69-ST膜によるCHDを治療選択肢に加え治療の幅を広げた．難治性腹水症例における腹水ろ過濃縮再静注法の依頼が増えている．

・腹膜透析：新規導入2名．血液透析への移行2名（当院で維持透析継続）．細菌性腹膜炎，カテーテルトラブルなど合併症発生時に迅速な対応が行えるように，医師・看護師ともに知識の習得（研究会の視聴，院外研修会への参加），トレーニングを行っている．

2020年のトピックス・実績

・新型コロナウイルス感染症対策：「日本透析医会・日本透析医学会・日本腎臓学会新型コロナウイルス感染対策合同委員会」による，透析室における感染症対策にのっとり対策を行った．全国・県内透析施設での感染症発生状況，感染症例の経過など情報収集を行い，感染のフェーズに応じて対応できるよう準備している．

・糖尿病透析予防外来：糖尿病性腎症患者に対する糖尿病透析予防外来（糖尿病透析予防管理料算定）を開始した．CKD外来と併せて，患者の治療意欲向上，CKD進行抑制に寄与している．

今後の展望

①透析診療の強化

（ア）通院維持透析患者のサルコペニア対策，
　　通院透析患者数拡充．

（イ）腹膜透析患者の増加(新規導入数増加, 長期管理)

②腎炎，ネフローゼ症候群診療の充実

（ア）早期発見・診断・治療介入のための啓蒙

（イ）寛解導入率の向上，
　　高齢者・ハイリスク症例の治療強化

③学会活動

学会発表，論文執筆の活性化

表．実績（2020年のみ年報の対象期間が1月1日～12月31日）

（単位：件）

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年
入院総数	231	269	248	261	252
血液透析新規導入数*	41	47	55	38	40
腹膜透析新規導入数	3	2	0	0	2
血液透析延べ回数	5,519	5,478	4,990	4,304	4,584
経皮的腎生検件数	19	27	30	39	22

＊自科症例のみ

特殊治療　（単位：件）

	2019年度	2020年
持続血液透析/持続血液濾過透析	121	122
LDL吸着療法	7	0
血漿交換療法	0	7
エンドトキシン吸着療法	15	8
顆粒吸着療法	28	9
腹水ろ過濃縮再灌流法	24	41

入院症例内訳　（単位：件）

	入院目的	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年
慢性腎臓病関連	慢性腎臓病教育入院（パス）	33	31	29	21	42
	その他（治療内容調整，急性増悪，感染症など）	66	88	67	102	73
血液透析関連	血液透析新規導入	40	47	55	38	40
	合併症入院（うっ血性心不全，感染症など）	17	35	9	19	26
	ブラッドアクセストラブル（閉塞，感染）	2	1	1	1	5
腹膜透析関連	腹膜透析新規導入	3	2	0	0	2
	PD関連感染症（腹膜炎，出口部・トンネル感染）	1	2	2	2	5
	治療調整，その他	5	5	6	1	0
腎炎治療	IgA腎症	6	3	7	27	19
	一次性ネフローゼ症候群	16	14	13	6	15
	ANCA関連血管炎	8	8	4	8	8
	ループス腎炎	2	0	1	1	1
	紫斑病性腎炎	1	0	2	0	1
	その他の急速進行性糸球体腎炎	0	0	0	0	1
	IgG4関連腎疾患	2	2	0	0	0
	コレステロール塞栓症	データ集計なし				2
	尿細管間質性腎炎	1	0	2	0	0
その他	急性腎傷害（腎後性腎不全含む）	4	3	7	7	8
	電解質異常	データ集計なし				9
	腎生検入院	12	23	19	32	19

（一部病態の重複あり）

腎生検症例病理診断　（単位：件）

	病理診断	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年
一次性糸球体疾患	IgA腎症	6	9	10	17	13
	微小変化型ネフローゼ症候群	2	3	1	5	1
	膜性腎症	2	2	3	3	0
	膜性増殖性糸球体腎炎	0	1	2	1	0
	基底膜異常（アルポート症候群，菲薄基底膜病）	2	1	3	1	1
	巣状分節性糸球体硬化症	0	0	1	1	2
二次性腎疾患	アミロイドーシス	0	1	0	0	0
	ANCA関連血管炎	3	2	1	2	1
	紫斑病性腎炎（IgA血管炎）	1	1	0	0	1
	ループス腎炎	0	1	0	1	0
	肥満関連腎症	0	1	2	1	0
	糖尿病性腎症	1	2	2	2	0
血管病変	良性腎硬化症	0	1	0	1	0
	悪性腎硬化症	0	1	0	0	0
	血栓性微小血管症	0	1	1	0	0
間質性病変	尿細管間質性腎炎	2	0	2	0	1
その他	微小糸球体変化	0	1	0	2	0
	oligomeganephronia	0	0	0	2	0

（一部病態の重複あり）

糖尿病・内分泌内科

スタッフ紹介

千原和夫（主任部長　1945年卒）
中村友昭（医長　2006年卒）
辻本泰貴（医員　2015年卒）

診療内容

2017年4月新規の診療科として開設され，今年は4年目に当たる．医師スタッフは2019年と同じで中村医長と辻本医員は当科所属2年目となり，病院の診療システムに慣れコメディカルとの意思疎通もよりスムーズになったことから，外来診療及び入院患者対応も前年に比べてきめ細やかに，また濃密になったと感じている．病院のミッションであり，また特に当科では力を入れているミッションでもある若手医師の育成に関して，卒後6年目で後期研修医を修了し今年より医員として専門医資格取得を目指す辻本医師を育成するため，月曜日から金曜日の外来診療5枠のうち2枠を辻本医師に担当してもらい，できるだけ多くの紹介患者の診察をできるように取り計らった．また，入院患者の診療も主治医として自ら考え，診断や治療方針を立てられるように，シニアの専門医が先に口を出さないように配慮した．さらに中村医長や千原主任部長が初診で診た患者でも興味深い病態を持つ症例や教育面で勉強になる症例は，入院検査後には辻本医員に担当してもらい，経験と実力が付くように全員で応援した．辻本医員はこれらの配慮に懸命に応え患者の診療に勤しみ病態解明や治療方法でベストを尽くしてくれた．また彼の熱気が我々シニアやコメディカルにも伝わり，当科全体に診療に対する前向きの勢いが出てきたと思える．紹介患者に対する丁寧な返書作成を心掛けることにより紹介外来診療患者数が右肩上がりに増え，また院内他診療科からの紹介やコンサルテーションも増えてきている．他診療科，特に外科系の診療科から周術期の血糖管理依頼件数が増えているが，厭わずに対応するように心掛けている．患者の病態解明や診断，治療指針に関する疑問は，その都度電話や電子カルテ上で情報を共有し解決を図るとともに，毎週月曜日夕方にMicrosoft Teamsを用いてオンライン会議を開催し，症例ごとに検討してきた．

一方，糖尿病の入院患者は，軽症で教育のみの患者は皆無で，ほとんどの患者はかかりつけ医で血糖管理不良なためHbA1c値＞10%となり糖毒性を解除するためのインスリン強化療法を必要とする患者であるが，インスリン治療をしながら自己注射のやり方や糖尿病に関する知識習得を目指す教育入院で，多職種で構成された糖尿病ケアチーム（Diabetes Care Team：DCT）によるクリニカルパスに基づく計画的教育指導を行ってきた．昨年度までは週に1回DCTメンバーが集まり対面で情報共有と意見交換を行っていたが，新型コロナウイルス感染症対応で対面会議は中止，入院及び外来患者を対象とする糖尿病教室も中止せざるを得なかった．また，予定教育入院以外に救急外来から不定期に入院される患者の中に，糖尿病性ケトアシドーシス（DKA）や高浸透圧高血糖症候群（HHS）などの緊急対応が必要な糖尿病患者も含まれており，救急科や総合内科を経由しての転科症例も増えた．

入院及び外来診療においてDCTの活動の重要性が増している．糖尿病認定看護師が担当する療養支援の中で看護師特定行為（インスリン投与量の調整）研修修了看護師によるきめ細やかな患者対面指導は医師の業務負担軽減に貢献している．またフットケアや腎症重症化予防の指導を行う糖尿病療養指導外来，管理栄養士が行う熱心な栄養指導等は糖尿病診療の中核である．また，内分泌疾患の診断に必須の内分泌学的負荷試験に関して，主に外来で施行しているが，静脈ラインの確保や経時的採血などには看護師の補助が欠かせない．

2020年のトピックス・実績

学会活動は，日本糖尿病学会年次学術集会及び近畿地方会，日本内分泌学会学術総会及び近畿地方会，臨床内分泌代謝update，日本間脳下垂体腫瘍学会，日本内科学会近畿地方会に合計11演題を発表し，日本内分泌学会近畿地方会では，辻本医員が優秀演題賞を受賞した．また，臨床内分泌代謝updateと日本間脳下垂体腫瘍学会での発表内容はそれぞれ学会より紙面報告を依頼されプロシーディングを執筆した．診療実績は表に示す．

今後の展望

ポストコロナ時代に本格的な導入が必須とされる遠隔診療及び診療情報の患者・家族との共有手段に向けて，既にグルコース管理に関してスマホを用いるリブレリンクを試用している．医療分野におけるIT化やAI導入などの情報を可及的に収集し消化していきたい．

表．診療実績

（単位：人）

疾患分野	2020年	2019年	2018年
糖尿病			
外来診療	1,716	1,535	1,478
入院患者	327	259	66
甲状腺疾患	465	499	454
副腎疾患	129	132	113
下垂体疾患	37	42	49
副甲状腺・Ca代謝疾患	59	50	65

小　児　科

スタッフ紹介

副院長，主任部長：横山直樹（1988年卒）
部長：梁川裕司（1990年卒）
部長：権東雅宏（1992年卒）
医長：大西徳子（2007年卒）
医員：藤井順子（2012年卒）
非常勤医師他：藤井栄一（神経外来），吉川徳茂（腎外来），亀井直哉（心臓外来：兵庫県立こども病院），松本千佳（臨床心理士）

診療内容

専 門 外 来：1か月健診，シナジス外来，心臓外来，
　　腎外来，神経外来，発達検査，心理相談
小 児 入 院：小児10床
新生児入院：NICU6床，GCU10床
　　新生児特定集中治療室管理料2算定
救 急 外 来：東播磨臨海小児二次救急輪番体制
　　第2・3・5木曜日（明石市内のみ対応）
院　　外：明石市乳幼児健診，明石こどもセンター
　　（児童相談所）検診，学校心臓検診

2020年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症で，紹介患者数・分娩数が減少し，一般外来患者数，入院患者数ともに減少した．

＜診療実績（表1～3）＞
・患児紹介受け入れ件数：（1,582→994）
・一般小児入院数：昨年度より半減（808→396）
・新生児入院数：昨年度より減少（623→553）
・院外新生児搬送入院数：（77→67）
・早産児，低出生体重児の入院数：在胎35週未満（34→26），出生体重2,000g未満（33→29）
・人工呼吸管理件数：（43→39）
・発達検査37件，心理療法54件
・心理士訪問：NICU384件，産科196件，小児科6件

＜トピックス＞
・アレルギー診療の取り組み
　食物負荷試験入院の増加（39→67件↑）

＜教育＞
・初期研修医：院内ローテ研修8名（各1～4か月ごと）を指導
・後期研修医：計5名（神戸大学小児科専門医研修プログラム2名，千船病院プログラム1名，兵庫県立こども病院プログラム2名）を指導
・家庭医研修：総合内科医師1名を指導

＜地域に向けて開催＞
・第354回東播小児臨床談話会　　2020.1.30
　当院より2演題（藤井，権東）発表
以降は新型コロナウイルス感染症の影響で開催延期
・第3回新生児蘇生法Sコース講習会　　2020.2.15
　インストラクター：神足Mw，大西，梁川，横山
以降は新型コロナウイルス感染症の影響で開催延期

今後の展望

新型コロナウイルス感染症の影響からの脱却

○一般小児
・時間外も含め入院受け入れ対応の強化
・アレルギー診療の更なる充実
・予防接種外来の再開

○周産期医療の拡充
・地域周産期母子医療センターとして，ハイリスク分娩・新生児に対する受け入れ強化
・院内分娩数増加に向けて新たな取り組み

○地域貢献
・親と子のすこやか広場，子育てステーション企画
　地域に出向き，医療・育児面での情報提供など
　→現地開催以外の新たな方法を検討

○小児科専門医の育成
・複数の専門医研修プログラムの連携施設として，ローテ後期研修医を積極的に教育，指導し，当院で活躍できる次世代の人材を育てる

表1．一般小児入院（疾患別）

（単位：件）

疾患名	注記	小計
呼吸器系感染症		
肺炎	※RSV，hMPVを除く	23
気管支炎		25
RSV感染症		4
hMPV感染症		1
クループ症候群		8
急性上気道炎・咽頭炎	※付き添い入院例を含む	9
扁桃炎		9
副鼻腔炎		1
百日咳		1
咽後膿瘍		1
		82
消化器系感染症		
感染性胃腸炎	※ロタ，ノロ診断例を除く	17
ノロウイルス感染症		3
細菌性腸炎		10
腸間膜リンパ節炎		4
回腸末端炎		1
急性虫垂炎		6
		41
その他感染症		
尿路感染症	※急性巣状細菌性腎炎含む	26
化膿性リンパ節炎		12
蜂窩織炎・伝染性膿痂疹		7
サイトメガロウイルス感染症	※ITP併発	1
熱源不明発熱		6
突発性発疹症		3
化膿性耳下腺炎		1
		56
アレルギー・血管炎関連		
気管支喘息		33
川崎病		25
アナフィラキシー		3
IgA血管炎	※同一症例	2
リドカインアレルギー疑い	※ブリックテスト	1
食物アレルギー	※負荷試験	67
		131
神経・精神関連		
熱性痙攣		4
胃腸炎関連痙攣		1
無熱性けいれん・てんかん		6
顔面神経麻痺		1
		12
消化器関連		
腸重積症		3
便秘症		3
胆管炎	※胆道閉鎖症葛西術後	1
急性胆嚢胆管炎		1
クローン病		1
		9
内分泌・代謝関連		
アセトン血性嘔吐症	※周期性嘔吐症含む	12
低身長	※負荷試験入院	19
糖尿病	※1型1名；2型1名	2
肥満症	※教育目的	1
ケトン性低血糖症		2
		36
腎・泌尿器関連		
ネフローゼ症候群	※再発例含む	15
IgA腎症		1
		16
新生児関連		
新生児黄疸		2
		2
その他		
21トリソミー	※育児指導目的	1
哺乳不良	※同一症例	2
神経性やせ症		1
気道異物疑い		1
嘔吐症	※L-DOPA副作用	1
乳児体重増加不良	※医療ネグレクト	1
発熱，発疹（原因不明）	※ウイルス感染	3
シェーグレン症候群		1
		11
合計		396

表2．新生児入院（週数・体重別）

（単位：件）

在胎週数	計
30-31週	2
32-34週	24
35-36週	77
37週-	450
計	553

出生体重	計
1,000-1,499g	5
1,500-1,999g	24
2,000-2,499g	75
2,500-3,999g	442
4,000g-	7
計	553

表3．新生児入院（疾患別）

（単位：件）

疾患名	症例数
新生児一過性多呼吸	148
帝切児症候群	88
新生児黄疸	57
前期破水による新生児の障害	43
低出生体重児	38
早産児	34
妊娠糖尿病	34
新生児無呼吸発作	15
新生児嘔吐	12
新生児特発性呼吸窮迫症候群	7
胎便吸引症候群	7
先天性肺炎	7
急性胃粘膜病変	6
糖尿病母体児	5
新生児感染症	5
重症新生児仮死	4
新生児気胸	3
抗痙攣薬服用母体より出生した児	3
先天性水腎症	3
巨大児	3
新生児低血糖	2
ABO不適合溶血性黄疸	2
新生児薬物離脱症候群	2
先天性心疾患	2
ダウン症候群	1
バセドウ病母体児	1
新生児ビタミンK欠乏症	1
新生児低体温症	1
口唇口蓋裂	1
帽状腱膜下血腫	1
先天性サイトメガロウイルス感染症	1
B型肝炎ウイルス感染母体より出生した児	1
その他	19
合計	557

（再入院含む）

放射線科

スタッフ紹介

主任部長　鷲尾哲郎
部　　長　牛尾啓二
非 常 勤　山口雅人　神戸大学放射線科准教授

診療内容

通常の業務はCT，MRI，RIの読影が主である．至急読影にも可能な限り対応している．

IVRは肝癌の治療（TACE），止血術（消化管出血，喀血），CTガイド下生検，ドレナージ，心臓血管外科との大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術を行っている．

2020年のトピックス・実績

読影件数の減少は診療状況を考えると想定内と思われる．

IVR件数の減少は最低限となっている．

今後の展望

人員が不足しており，現状維持が精一杯の状態である．

表1．読影件数

（単位：件）

項目	件数
消化管透視	268
CT	20,797
MRI	5,091
RI	174

表2．IVR件数

（単位：件）

項目	件数
血管系（ステントグラフトなど）	56
TACE	45
止血（消化管出血，喀血）	27
BRTO	1
CTガイド下生検，ドレナージ	21
その他	7
計	157

病理診断科

スタッフ紹介

部　　長：佐野暢哉（病理専門医，細胞診専門医）
医　　員：横川　暢（病理専門医）
非常勤医：仙波秀峰（病理専門医，細胞診専門医）
　　廣瀬隆則（病理専門医，細胞診専門医）
　　上原久典（病理専門医，細胞診専門医）
　　尾矢剛志（病理専門医，細胞診専門医）
　　伊倉義弘（病理専門医，細胞診専門医）
細胞検査士：小段敦美，堀　志穂，梶山和樹，
　　佐川聖羅，杉原彩香
非常勤細胞検査士：渡邉美紀

診療内容

組織診断：診断所要時間短縮，画像所見提示を目的として，Day Pathologyの実施，主要な免疫組織化学染色の院内処理，術中迅速診断，電子カルテ・病理診断システムに支援されたデジタル画像の提示を実施している．

専門性の異なった習熟度の高い非常勤病理医を確保し，診断精度，速度ともに高いレベルで維持されている．

また，腎生検，膵生検，EBUS実施時，技師によるベッドサイドサポート（ROSE）を行っている．

細胞診断：後述のダブルチェック体制をとり，疑陽性以上の症例の細胞像を電子カルテ上に提示している．

Liquid Based Cytologyを導入し，検体処理･診断所要時間の短縮，診断再現性の向上，DNA遺伝子検査への応用を図っている．

病理解剖：全例CPCにて提示し，研修医等，医療スタッフ教育に貢献している．

他科研修医教育：上記CPCに加えて，個々の症例のコンサルテーション，報告を通じて病理，細胞診断に関する教育を行っている．

精度管理：組織診断はほぼ全例，細胞診断は全科疑陽性以上の全例，婦人科材料以外の陰性全例に対し指導医によるダブルチェックを行っている．診断困難例，疑問例については，高槻病院，兵庫県立がんセンター，神戸大学，徳島大学，国立がん研究センター東病院等にコンサルテーションを行っている．

2020年のトピックス・実績

- 組織診断：5,612件，細胞診断：6,352件，病理解剖：12件
- 愛仁会研修プログラムを終了した医員1名が，専門医試験に合格した．
- クリニカルクラークが配備され，診断記録，標本の保存，管理が迅速かつスムーズに実施されるようになった．

今後の展望

Precision medicineを意識した新規診断手技の導入，検体取扱手技の習得を目指す．

表．組織診断数，細胞診断数，解剖数の年別推移

（単位：件）

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
組織診断	1,908	2,482	4,161	5,620	5,466	5,387	5,595	5,337	5,585	5,786	5,757	5,773	6,045	5,612
細胞診断	3,983	4,782	5,314	5,195	5,262	5,574	6,129	6,382	6,890	6,921	6,636	6,481	6,618	6,352
解剖件数	14	11	21	8	10	11	11	7	12	14	8	9	8	12

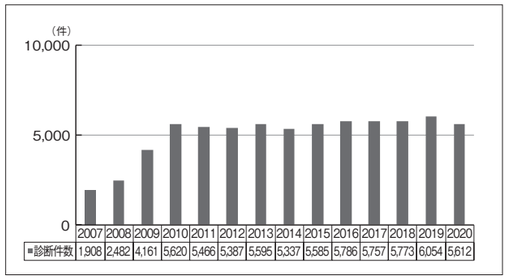


図1．組織診断数年次別推移

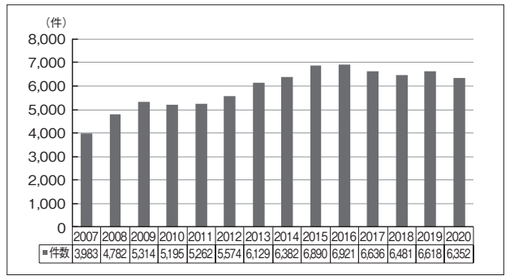


図2．細胞診断数年次別推移

外　　科

スタッフ紹介

副院長・外科主任部長　豊川晃弘
外科部長　常見幸三，　外科部長　沢　秀博
外科医長　水田憲利，　外科医長　福田善之
外科医員　藤木和也，　外科専攻医　菊地拓也，
外科専攻医　中西　崇（2020年10月まで）
後期研修医（2年目）　植松綾乃

診療内容

2001年開院初年度の全手術件数は230件であったが，以後は順調に増加し2016年度には1,000件を超えた．しかし加古川中央市民病院の開設と2018年度に乳腺科が廃止となり手術件数は漸減していたが，スタッフの強化により，2019年度の全手術件数は前年の800件から約900件まで回復した．2020年は新型コロナウイルス感染症がまん延している中にもかかわらず全手術件数は前年から増加し938件になった．当科は常時緊急手術に対応しており，2020年の緊急手術件数は235件あり全体の25%であった．

2020年のトピックス・実績

長年，明石医療センターで責任者を務められていた小菅先生が老健施設へ移動され，豊川が外科責任者となるとともに，ロボット手術・低侵襲手術支援センター長，がん診療支援センター長を務めている．外部から藤木（2014年卒），菊池（2015年卒）を採用した．中西は高槻病院外科専門研修プログラムにより10月に高槻病院に異動となった．病院として低侵襲手術に取り組んでおり，近年，外科でも腹腔鏡下手術が徐々に増加していたが，2019年度から急増し2020年は，切除ができた大腸癌139例のうち，112例（80%）が腹腔鏡下手術症例であった．また，課題であったロボット支援下手術も直腸がんで開始し，11件行った．その他胃癌，膵癌，ヘルニア，急性虫垂炎やイレウス等の手術にも適応を広げている．学術面においては豊川，沢，水田，福田が国内学会，研究会，講演会で発表・司会を行い，1編の英文を含む2編の論文を発表した．また，沢が内視鏡外科技術認定医（膵）を取得した．

今後の展望

近年，低侵襲手術がほぼ標準術式と考えられるようになっており，消化器外科の領域でも腹腔鏡下手術の適応拡大は欠かせない課題である．現在，内視鏡外科の技術認定は2名であるが，取得者増加に向けて外科として取り組んでいる．並行してロボット支援手術の増加を図っていくとともに，がん手術件数の増加を図りたい．

表．外科手術実績（2020年1月1日～2020年12月31日施術分内訳）

（単位：件）

消化器・一般	食道	食道癌	（鏡視下）		0	肝臓	肝切除術 ・肝細胞癌 ・肝内胆管癌 ・転移性肝癌 ・その他	開腹	2区域以上切除	3
			（ロボット支援）		0				区域切除	4
			（縦隔鏡）		0				亜区域切除	1
			（開胸）		0				部分切除	10
		食道腫瘍	（鏡視下）		0			鏡視下	2区域以上切除	0
			（開胸）		0				区域切除	0
		その他	（鏡視下）		0				亜区域切除	0
			（開胸）		1				部分切除	1
	胃	胃癌	（鏡視下）	胃全摘	0		術中RFA・MCT			0
				噴門側胃切除	1		肝嚢胞開窓術			0
				幽門側胃切除	8		経皮的肝灌流化学療法			0
				その他	0		その他			0
			（ロボット支援）	胃全摘	0	胆道	胆道癌手術 ・肝門部領域 ・胆嚢癌 ・遠位胆管癌 ・乳頭部癌 （十二指腸癌含む）	肝切除＋胆道再建		2
				噴門側胃切除	0			膵頭十二指腸切除		6
				幽門側胃切除	0			胆嚢床切除（±胆道再建）		1
			（開腹）	胃全摘	10			胆管切除		0
				噴門側胃切除	0			その他		0
				幽門側胃切除	18		胆嚢摘出術 ・胆石，胆嚢炎 ・その他	開腹		22
				その他	0			鏡視下		178
		胃腫瘍	（鏡視下）		7			単孔式		0
			（開腹）		1		総胆管結石症手術	開腹		0
		その他	（鏡視下）		2			鏡視下		0
			（開腹）		7		合流異常症手術			1
		十二指腸腫瘍			0		その他			1
	小腸	小腸腫瘍	（鏡視下）		3	膵臓・脾臓	膵切除術 ・膵癌（通常型） ・膵腫瘍 ・その他 （膵炎切除例含む）	開腹	膵頭十二指腸切除	6
			（開腹）		2				膵体尾部切除	1
		イレウス	（鏡視下）		6				膵全摘	0
			（開腹）		28				膵中央切除	0
		その他	（鏡視下）		3				膵核出	0
			（開腹）		11			鏡視下	膵頭十二指腸切除	0
	大腸	結腸癌	（鏡視下）		76				膵体尾部切除	2
			（開腹）		19		膵炎手術	膵管減圧術		0
		結腸その他	（鏡視下）		3			その他		0
			（開腹）		9		脾摘術	開腹		1
		直腸癌	（鏡視下）	前方切除術	19			鏡視下		0
				直腸切断術	5		その他			3
				ハルトマン手術	1	臓器移植	肝移植術（生体・脳死）			0
			（ロボット支援）	直腸切除術	11		脳死膵移植術（膵腎同時）			0
				直腸切断術	0	腹壁・その他	鼠径ヘルニア	（鏡視下）		63
			（開腹）	前方切除術	2			（直達）		101
				直腸切断術	1		腹壁瘢痕ヘルニア	（鏡視下）		1
				ハルトマン手術	5			（直達）		11
			その他		1		上部消化管穿孔手術			8
		人工肛門造設術			12		下部消化管穿孔手術			10
		虫垂炎	（鏡視下）		73		審査腹腔鏡			3
			（開腹）		10		スペーサー留置術			0
		その他			15		中心静脈ポート留置術			69
	肛門	痔核			0		その他			51
		痔瘻・肛門膿瘍			3	消化器外科手術件数合計				938
		その他			5					

心臓血管外科

スタッフ紹介

院　　　長：戸部　智（心臓疾患，血管外科担当）
主 任 部 長：林　太郎（心臓疾患，血管外科担当）
センター長：岡本一真（低侵襲心臓血管手術担当）
医　　　長：三里卓也（心臓疾患，血管外科担当）
医　　　長：渡邊俊貴（心臓疾患，血管外科担当）
専　攻　医：当广　遼（心臓疾患，血管外科担当）
専　攻　医：川端　良（心臓疾患，血管外科担当）
専　攻　医：吉谷信幸（心臓疾患，血管外科担当）
後期研修医：久保沙羅（心臓疾患，血管外科担当）

診療内容

心臓疾患：虚血性心疾患,弁膜症(大動脈弁,僧帽弁,三尖弁),不整脈(心房細動 等),先天性心疾患　など
大動脈疾患：急性･慢性大動脈解離,胸部及び腹部大動脈瘤
末梢血管疾患：急性･慢性動脈閉塞,閉塞性動脈硬化症,末梢動脈瘤,下肢静脈瘤,透析患者におけるシャント作製･シャントトラブル　など

2020年のトピックス・実績

2020年の手術件数は，心大血管領域141例，血管外科領域 287例であった．近隣病院や開業医からの緊急手術依頼は，積極的に受け入れている．

各症例で見ると，高齢化社会を反映し，心臓大血管領域では大動脈解離や大動脈瘤などの動脈硬化疾患が増加している．これら大動脈疾患では，胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術を，解剖学的条件が合えば，frailtyやリスクの高い症例で積極的に取り入れている．また，心房中隔欠損症・僧帽弁・三尖弁などの心臓弁膜症症例に対して右小開胸下手術を施行し，低侵襲化を目指している．

経カテーテル的大動脈弁挿入術（TAVI）に関しては，循環器内科や麻酔科，その他関連部署のメンバーからなるハートチームにて症例ごとにカンファレンスを行い，2020年は18症例に施行した．

今後の展望

・大動脈弁狭窄症に対するスーチャーレス人工弁の手技を取り入れ，開胸手術においても低侵襲化を進める．
・新型コロナウイルス感染症の影響で明石市民病院・神戸掖済会病院（垂水区）と定期的に行ってきた紹介患者カンファレンスは開催できなかったが，状況が落ち着けば再開していきたい．
・近隣医療機関との地域連携を強化する．

表．手術症例数

（単位：件）

心臓外科　（単位：件）

先天性心疾患	
ASD	1
ASD+PS	0
ASD+PAPVR	0
VSD	0
VSD+PS	0
VSD+AR	0
VSD+MR	0
VSD+2ch.RV	0
PDA	0
ECD	0
CoA complex	0
IAA complex	0
T/F	0
PA with VSD	0
PA with IVS	0
DORV	0
Taussig-Bing	0
TGA	0
TAPVR	0
Single Ventricle	0
Tricuspid atresia	0
Mitral atresia	0
HLHS	0
AS and/or AR	0
MS and/or MR	0
Rupt.aneurysm of	0
Sinus Valsalva	0
Others（cyanotic）	0
Others（non-cyanotic）	0
計	1

後天性心疾患・胸部大動脈瘤その他

弁膜症		総数	弁形成	CABG 併設
	Aortic	26	0	1
	Mitral	26	20	1
	Tricuspid	1	1	0
	A+M	1	0	0
	A+T	1	0	0
	M+T	26	25	0
	A+M+T	3	3	1
	その他（Pなど）	0	0	0

虚血性心疾患		総数	off pump CABG	動脈グラフト使用例
	単独CABG	10	3	9
	心筋梗塞合併症に対する手術			
	aneurysmectomy・左室形成術	0		
	VSP	3		
	cardiac rupture	2		
	MR（乳頭筋断裂･虚血性）	1		
	その他	0		

不整脈に対する手術（Mazeなど）	18
収縮性心膜炎に対する手術	1
心臓腫瘍（粘液腫など）	0
その他の開心術	4

胸部大動脈瘤		
解離性	Stanford A 急性期	20
	慢性期	6
	Stanford B 急性期	0
	慢性期	1
非解離	上行	0
	基部置換術	0
	弓部	8
	基部＋上行＋弓部	0
	弓部＋下行	0
	下行	0
	胸腹部	1

肺塞栓症	0
ペースメーカー留置	0
計	141

血管外科　（単位：件）

疾患名と術式	大動脈													末梢動脈																	計
	非解離	上行	弓部	下行	胸腹部	腹部	ステント留置	解離性	Stanford A 急性期(2週以内)	慢性期	Stanford B 急性期(2週以内)	慢性期	ステント留置	末梢動脈瘤	急性動脈閉塞	血栓除去	血行再建術	その他・切断	閉塞性動脈硬化症など	血行再建	交感神経切除	ステント・拡張	その他・切断	動静脈瘻	下肢静脈瘤	血管内焼灼術	ストリッピング	結紮術	深部静脈血栓症	内シャント	その他	
	68	0	1	5	0	42	20	18	0	0	1	8	9	8	29	29	0	0	20	16	0	4	0	0	49	35	0	14	0	74	21	287

呼吸器外科

スタッフ紹介

田内俊輔（部長）
光井　卓（医員）

診療内容

原発性肺癌，転移性肺腫瘍などの胸腔内の腫瘍性疾患，気胸，膿胸などの胸腔内病変，縦隔・胸壁疾患等に対して主に手術療法を行う．

2020年のトピックス・実績

2020年8月よりda Vinci Xi Surgical Systemを用いたロボット支援胸腔鏡手術を開始した．また気胸に対するReduced Port Surgeryを行い，より低侵襲な手術を心掛けている．

今後の展望

胸腔鏡手術を含む低侵襲手術から，心臓血管外科をはじめとした他科との連携を含む拡大手術まで行っている．今後も幅広い患者層の受け入れを行っていくため地域との連携を密に行い症例数の確保に努めたい．

表．手術実績（2020年のみ年報の対象期間が1月1日～12月31日）

（単位：件）

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年
原発性肺癌	59	83	70	52	62	58
（うち胸腔鏡下手術）	(54)	(74)	(60)	(42)	(57)	(54)
転移性肺腫瘍	8	4	6	5	7	10
縦隔腫瘍，胸膜・胸壁腫瘍	12	5	7	8	13	7
気胸	25	29	42	47	39	38
感染性疾患（膿胸など）	9	7	6	14	7	7
その他	14	14	24	11	23	23
計	127	142	155	137	151	143

整形外科

スタッフ紹介

整形外科スタッフとしては，松島リハビリ主任部長，伊藤整形外科主任部長，矢野整形外科部長，脇整形外科医長の4名は昨年度と変わらず．レジデント（専攻医）は，3月末まで卒後5年目，後期研修2年目の2名で，4月以降は卒後6年目，後期2年目の2名で，1年間を6名の診療体制で行った．

さらに，後期研修1年目が4月から10月を整形外科専攻で研修していただいた．

松島は関節疾患，伊藤・矢野は脊椎疾患，脇は外傷～救急，専攻医は外傷～救急を中心に診療に当たった．

診療内容

1）外来

整形外科としては，月・水・金曜日の初再診，木曜日の紹介初診という体制で臨んだ．救急科の対応により，手術中などでの人手不足時の診療断りが今年も大幅に減少した．救急科とは密に連携して，外来診療から入院への引継ぎを行った．

2）手術

2020年（1月1日～12月31日）の手術件数は905件で，前年878件より増加を続けている．手術の内訳は外傷が中心であるが，脊椎外科，関節外科，手の外科，小児に至るまで症例は満遍なく，かつ豊富である．緊急度の高い感染症例，麻痺症例，開放骨折や脱臼に加え，小児の骨折や高齢者の大腿骨近位部骨折も準緊急として，可能な限り搬送当日の手術を行うように対応した．外傷手術が救急受け入れの数に応じて増加しており，手術内容も高度になってきている．

症例によっては，指導医を他機関より招聘して行い，更なるレベルアップを試みている．

透析，心疾患，易感染性など重大な内科的合併症を有する患者の手術への対応が引き続き必要とされており，周囲医療施設からの紹介も多い．全身状態が悪いケースが多く，難易度も高くなっているが，内科・麻酔科の強いバックアップと連携で対処している．

2020年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症がまん延している中で，周囲の基幹病院が新型コロナウイルス感染症に追われる中，当科としては整形外科疾患の地域救急医療を担う形となり，波はあったが整形外科疾患の救急対応が多い1年であった．

スタッフ数増加のない中での経年的な実績増加は，救急科の助力，総合内科のバックアップなしでは目標以上の到達が得られなかったと思われる．

ヒップフラクチャーセンターの運用が2年目となり，大腿骨近位部骨折の対応についての初療は救急科と連携し，入院が決定すれば総合内科と連携しながらの診療がスムーズに行えるようになった．1年365日24時間対応を目標に，できる限り患者受け入れを行い，2020年も年末年始とGWといった長期の休暇期間中，増加した準緊急手術への対処として，休祝日中に手術日を設け，準緊急手術施行を行った．麻酔科，手術室看護，病棟看護，技術部にも臨時体制で臨んでいただくことで早期手術，早期離床の目標を敢行することができた．

新型コロナウイルス感染症がまん延している中でweb参加が主ではあったが，学術発表も昨年同様国内外で行っており，研修施設としての役割を十分に果たしている．

今後の展望

2024年に施行される『医師の働き方改革』に向けて，現在のスタッフ数では現行の救急体制を維持することは不可能に近い．救急医療増加，手術増加はここ数年の流れから不可避である．急なスタッフ増員も望めない中，医療縮小という逆行だけは避けていきたい．

産婦人科

スタッフ紹介

副院長，主任部長：宮原義也（1996年卒）婦人科手術，婦人科化学療法，周産期管理，婦人科腫瘍専門医
部長：細谷俊光（1996年卒）婦人科手術，周産期管理
医長：林田恭子（2003年卒）腹腔鏡手術，周産期管理
医長：堀　聖奈（2008年卒）腹腔鏡手術，周産期管理（2020年5月退職）
医長：江島有香（2010年卒）腹腔鏡手術，周産期管理
医員：下川　航（2014年卒）産婦人科全般
後期研修医：嶋村卓人（2016年卒）
後期研修医：北口智美（2016年卒）

診療体制

現在常勤8名で外来，病棟，手術，救急診療を行っている．後期研修医の嶋村医師，北口医師が基幹病院を千船病院とする研修プログラムで当院に入職しており，臨床のみならず研修医教育にも力を注いでいる．

外来は婦人科及び初診は担当医制，産科はフレキシブルな対応が可能な交代制としている．午前2診，午後1診で1日平均100～120名の患者の診察に当たっている．しかし最近は紹介患者増加のためできるだけ外来診察を応援し3診体制をとっており，待ち時間の短縮，患者への丁寧な対応を心掛けている．紹介元である周辺医療機関は主に明石市内であるが，加古川，高砂など東播磨地区，西神戸地区からの外来初診紹介も多く約100件/月に達する．

産科領域においては，新生児集中治療室（NICU）併設のため東播磨地区の周産期医療における中心的基幹施設としての役割を果たしており，妊娠30週以降のハイリスクの母体搬送を24時間体制で受け入れている．また当院で対応困難な高度な周産期管理を必要とする妊産婦は神戸大学医学部附属病院や兵庫県立こども病院と綿密に連絡を取り合うことで問題なく搬送可能となっている．2017年10月より院内助産院を開設し，現在は全分娩の約10%を扱っており今後更に充実させる予定である．さらに 2週間に1回開催する周産期カンファレンスでは，小児科医師，産婦人科医師，助産師，NICU看護師だけではなく，薬剤師，ソーシャルワーカー，臨床心理士が活発な議論を行っている．

婦人科領域においては，良性卵巣腫瘍や子宮筋腫に対する低侵襲な腹腔鏡手術（約20件/月）を行っているだけでなく，悪性腫瘍手術も積極的に行っており，2020年は年間34例の初回悪性腫瘍手術を行った．さらに手術後の治療として，化学療法も行っている．また異所性妊娠（子宮外妊娠：15例），卵巣腫瘍茎捻転，卵巣出血，不正出血などの婦人科救急受け入れにも積極的である．

2020年のトピックス

【産科領域】

腹腔鏡下手術に加え，2020年3月より手術支援ロボット（da Vinci Xi）による手術を開始し，6月までに7例のロボット支援下腹腔鏡下子宮全摘術を行った．ロボット手術に関しての認知度も高まっていることから，今後更に症例数が増加すると予想される．

活動内容

【産科領域】

2020年の分娩件数は約800件であり，NICU併設，小児科医及び麻酔科医常駐のため正常分娩だけでなくハイリスクな母体搬送を積極的に受け入れている．

5室あるLDR室と小児科との連携を充分に活用し，妊産婦の入院生活の環境向上を図るとともに産婦人科全体として統一性のあるevidenceに則った診療を行っている．

また食事その他のサービス部門も充実を図り大変好評である．周産期センター（ママ　アンド　ベビーセンター）の公式インスタグラムも開始し，リアルタイムの情報発信を行っておりフォロワー数も増加している．

【婦人科領域】

当科では子宮筋腫や卵巣嚢腫に対してはできる限り開腹手術よりも低侵襲な腹腔鏡手術を行うことにしており，2020年は腹腔鏡手術件数，子宮鏡手術件数ともに2019年を大きく上回った（下表）．開腹手術は2019年より減少しているが，これは腹腔鏡手術へと移行したためと考えられた（下表）．一方悪性腫瘍に関しては婦人科腫瘍学会専門医が中心となり骨盤内リンパ節郭清，傍大動脈リンパ節郭清を含む根治手術，更に必要な症例には化学療法を行っている．特に子宮頸癌については術後の排尿障害を極力避けるため自律神経を温存する広汎子宮全摘術を行い良好な結果を得ている．また卵巣癌の化学療法では最新の遺伝子診断，免疫チェックポイント阻害

薬，分子標的薬を用いた治療も導入している．女性医学の分野では更年期障害に対するホルモン療法や漢方療法，骨密度検査，子宮脱に対する保存的治療や手術療法も行っている．

今後の展望

①分娩数増加に向けた取り組みとして無痛分娩をできるだけ早く導入する．
②ロボット支援下手術の件数増加．
③腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体癌）の開始．
以上を今後の目標としたい．

また，次世代を担う若手医師の教育も重要と考え，臨床指導だけでなく専門医取得のための学会発表や論文指導も行っている．このように教育体制を整え，後期研修医・専門医にとって魅力的な教育，臨床施設であるよう努力する方針である．

表．手術件数

（単位：件）

	2019年	2020年
開腹手術		
単純子宮全摘術	58	55
附属器摘出術	57	11
子宮筋腫核出術	14	8
悪性腫瘍手術	20	34
異所性妊娠手術	2	2
その他	0	19
合計	151	129
腹腔鏡手術		
子宮全摘術	65	101
卵巣腫瘍摘出術	106	120
子宮筋腫核出術	9	8
ロボット手術	0	7
異所性妊娠手術	8	13
合計	188	249
経腟手術		
円錐切除術	23	39
子宮鏡	30	52
腟式子宮全摘術	15	9
その他	7	18
合計	75	118
帝王切開術		
予定	105	114
緊急	84	81
合計	189	195
総合計	603	691

麻　酔　科

スタッフ紹介

主任部長　三宅隆一郎
部長　岡本健志
　　河合　健
医長　藤島佳世子
　　服部洋一郎（2020年3月退職）
　　松尾佳代子
医員　濱崎　豊
　　松岡基行
　　山崎翔太
　　米田優美
　　小野嘉史
　　小坂真之
　　（兵庫県立姫路循環器病センターより出向）
専攻医　田中　舞
　　森本優佳子
　　菅野　睦
　　山田真士

診療内容

○手術室，アンギオ室，内視鏡室での麻酔業務
○入退院支援での麻酔科術前診察を行い，御家族を含めた麻酔の術前説明・周術期歯科連携の充実を図った．
○集中治療科と協力し集中治療業務を行った．

2020年のトピックス・実績

○麻酔業務の実績と学会発表一覧を別表に示す．
○明石医療センター麻酔科後期研修プログラムに菅野専攻医，山田専攻医の2名が登録し，4年間の麻酔研修を開始した．
○濱崎医員，松岡医員，米田医員，山崎医員が後期研修プログラムを終了して，専門医試験を受験し，全員合格した．来年度より専門医機構認定の麻酔科専門医となる．
○心臓外科麻酔を専門とする神戸麻酔アソシエイツの指導を受けるため麻酔指導医を招聘した．
○周麻酔期看護師2名と麻酔業務を協力して行いながら，実践的なトレーニングを行った．
○明石市消防局所属の救命士の挿管実習・ビデオ喉頭鏡での挿管実習を行った．
○麻酔科プログラムの連携施設の神戸市立医療センター中央市民病院より3か月の麻酔研修を2名受け入れた．
○兵庫県立姫路循環器病センターより麻酔科専門医小坂医員を集中治療科・麻酔科として1年間の受け入れを行った．

今後の展望

兵庫県明石市でも新型コロナウイルス感染症の影響が大きく，今後も非常事態宣言の影響など手術件数の増減を認める可能性はある．しかし，今後も明石地区の急性期外科治療の核となるべく，24時間体制での安全な周術期管理を行っていく．

日本麻酔科学会の専門医研修施設と心臓血管麻酔専門医修練施設として，また集中治療学会の専門医研修指定病院でもあるため，幅広い知識と必要な情報・経験を得られるプログラムを作成している．例年，日本全国より研修希望の麻酔科専攻医を集めている．

今後も関連病院との連携を強化して急性期病院として必要な麻酔科の人員を確保していきたい．

麻酔科が安全かつ満足度の高いlabor analgesiaを提供することで，周産期麻酔の件数と分娩件数の増加を目指していきたい．

緊急手術が690件と多いが，麻酔科としては急な追加症例にも外科医と協力して適切に対応してきた．今後も充実した研修を通して麻酔の人員を確保して，愛仁会の麻酔科医の増強を図り，継続して急性期医療の対応をしていきたい．

表．麻酔科実績

【合　　計】（単位：件）

手　術　件　数	3,061	（うち手術室内　2,928，手術室外　133）
提 供 停 止 症 例 数	0	

【ASA　PS】（単位：件）

予 定 1	2	3	4	5	6（臓器摘出を受ける脳死患者が対象）	合　計
403	1,348	591	29	0	0	2,371
緊 急 1 E	2 E	3 E	4 E	5 E	6E（臓器摘出を受ける脳死患者が対象）	合　計
99	323	235	31	2	0	690
						3,061

【手 術 部 位】（単位：件）

a. 脳神経・脳血管	0	h. 頭頸部・咽喉部	7
b. 胸腔・縦隔	151	k. 胸壁・腹壁・会陰	188
c. 心臓・血管	416	m. 脊椎	94
d. 胸腔＋腹部	0	n. 股関節・四肢（含：末梢神経）	817
e. 上腹部内臓	329	p. 検査	2
f. 下腹部内臓	809	x. その他	54
g. 帝王切開	194	合　計	3,061

【麻　酔　法】（単位：件）

A. 全身麻酔（吸入）	606	F. 硬膜外麻酔	1
B. 全身麻酔（TIVA）	254	G. 脊髄くも膜下麻酔	513
C. 全身麻酔（吸入）+硬・脊，伝麻	822	H. 伝達麻酔	6
D. 全身麻酔（TIVA）+硬・脊，伝麻	676	X. その他	15
E. 脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔（CSEA）	168	合　計	3,061

【年 齢 構 成】（単位：件）

	男性	女性	合計
A. ～1か月	0	0	0
B. ～12か月	0	0	0
C. ～5歳	2	1	3
D. ～18歳	46	21	67
E. ～65歳	510	920	1,430
F. ～85歳	701	622	1,323
G. 86歳～	88	150	238
合　計	1,347	1,714	3,061

【体　　位】（単位：件）

1. 仰 臥 位	1,984
2. 腹 臥 位	130
3. 側 臥 位	358
4. 切 石 位	448
5. 坐　位	0
6. そ の 他	141
合　計	3,061

【偶 発 症 例】（単位：件）

A. 危機的偶発症	1
B. 神経系偶発症（脳・脊髄）	1
C. その他の神経系偶発症	0
D. そ　の　他	0
合　計	2

【性　　別】（単位：件）

男　性	1,347
女　性	1,714
合　計	3,061

集中治療科

スタッフ紹介

多田羅康章
納庄弘基
小野嘉史

診療内容

・集中治療室における患者管理
・ICU入室予定の緊急手術対応（麻酔科対応困難時）
・入退院支援室での周術期外来

2020年のトピックス・実績

納庄医師の心臓麻酔領域での専門医取得.
他施設の認定看護師研修の代行.

今後の展望

・専従医師の増加に伴うICUでの患者滞在期間の短縮
・NPプログラムを含めた看護師特定行為資格者の増加に向けた研修先の提供
・術後患者疼痛管理の強化やAPS回診の開始
・集中治療加算１取得に向けた施設設備面以外での準備

医師卒後臨床研修

明石医療センター臨床研修プログラム（改訂版）

(1) 研修プログラムの概要

1年次は3か月の総合内科，3か月の内科系診療科（総合内科以外より選択），外科系診療科（1年次必修：麻酔科2か月，外科，救急科）（2年間必修：心臓血管外科，整形外科，産婦人科，小児科）の研修を行う．

2年次は，1年次に研修していない必修診療科，精神科，地域医療研修（地域の診療所，夜間休日応急診療所）を行い，残りは選択科目から研修を行う．各研修医の希望を最大限に尊重したフレキシブルな研修スケジュール設定が可能となっている．

(2) 研修協力施設

地域医療研修：「■2020年地域医療研修診療科」に記載

精神科研修：明石土山病院，明石こころのホスピタル，関西青少年サナトリューム

2020年臨床研修医

明石医療センターの2020年の基幹型14名の研修医を表1に提示する．

2020年地域医療研修診療科

地域医療研修（1か月）では，1週間の救急車・夜間休日応急診療所の研修に加えて，地域診療所での研修を実施した．表2に掲示する．

マッチング・研修医募集活動

【研修医募集活動】

・病院ホームページ，レジナビなどの臨床研修病院紹介サイトでの広報
・病院見学
・神戸大学6年生の学外実習
・本院研修中の研修医から後輩たちへの病院紹介
・総合内科個別実習
・WEB病院説明会

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で，例年行っていた院外イベント，院内イベントが全て中止になったため，Teamsを使用し独自でWEB病院説明会を行った．

明石医療センター臨床研修の課題

(1) 研修プログラム

希望診療科を決定するにあたり，1年目で産婦人科・小児科を選択できるようにという希望があり，2020年のプログラムより，1年目から選択できるプログラムに変更となった．2年目の地域医療研修施設に，明石仁十病院を追加し研修の充実を図った．

(2) 研修医

積極的に研修に参加しており，医学生の見学対応など意欲的に取り組んでいる．昨年度同様，研修医代表を各学年に設定し，研修医をまとめたり臨床研修管理委員会に参加し，研修の充実を図るための意見を述べたりなどした．脳神経外科での研修を希望する声があり，近隣病院と連携し2021年度より研修を開始する予定である．

(3) 基本的臨床能力評価試験の実施について

実施日：2020年1月20日（月）

結　果：1年目の点数（440病院中155位，平均点29.89，偏差値51.92），2年目の点数（469病院中131位，平均点31.00，偏差値52.50）

2018年度の1年次臨床能力評価試験の結果と比べ，2019年度の2年次で成績が向上している研修医も見受けられるが，全体的に伸び悩む傾向にある．成績向上のためには，問題に応じた指導方法が望まれる．

今後の展望

2020年より続く新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により，病院説明会やホスピタリストカフェなど例年開催していた医学生向けイベントが行えなかった．今後は今まで同様のイベント以外に，WEBを利用しての病院説明会やイベント等学生招致の方法を考えていく必要がある．

表1．臨床研修医〔基幹型〕

		氏名	卒業年	出身大学	研修後進路
1年次	基幹型	山岡　茉莉	20	東北大学	
		細井　文葉	20	滋賀医科大学	
		稗田　早紀	20	神戸大学	
		前田　葉月	20	神戸大学	
		野々川　結依	20	神戸大学	
		新宮　資央	20	神戸大学	
		朝原　総一朗	20	東海大学	
2年次	基幹型	吉武　壮生舜	19	神戸大学	千船病院
		増田　佳純	19	金沢大学	明石医療センター
		岡田　翼	19	高知大学	神戸大学医学部附属病院
		橋本　宏之	19	神戸大学	明石医療センター
		吉田　安杏	19	神戸大学	大阪大学医学部附属病院
		川村　達也	19	三重大学	神戸大学医学部附属病院
		森口　峻滉	19	神戸大学	ツカザキ病院

表2．地域医療研修診療科

		診療所①	診療所②
9月	岡田	朝原クリニック	尾松医院
	川村	明石仁十病院	石田内科循環器科
	吉田	尾松医院	江本内科循環器科医院
10月	吉武	石田内科循環器科	尾松医院
	増田	明石仁十病院	石田内科循環器科
	橋本	明石仁十病院	そが内科クリニック
	森口	そが内科クリニック	平崎内科循環器科クリニック

表3．病院見学者数・マッチング参加学生推移

（単位：名）

年度	病院見学者数	マッチング参加数	マッチ数	定員
2016	85	18	7	7
2017	73	16	7	7
2018	65	21	7	7
2019	72	21	7	7
2020	66	23	6	6

Ⅶ

尼崎だいもつ病院

回復期リハビリテーション病棟
地域包括ケア病棟
障がい者病棟
全199床

〒660-0828
兵庫県尼崎市東大物町1丁目1番1号
TEL.06-6482-0001

院長　松森良信

診療部総括（病棟，外来）

スタッフ紹介

松森良信（リハビリテーション科，消化器内科，院長），竹中和弘（呼吸器内科），加東　武（リハビリテーション科，整形外科），小牟禮　修（神経内科），中村道三（神経内科），大東陽治（リハビリテーション科），飯野莉和（リハビリテーション科），前野良人（総合診療科），荒川鉄雄（循環器内科），中田秀史（リハビリテーション科），山鳥嘉樹（循環器内科），嶋　聡子（リハビリテーション科），村上昌宏（リハビリテーション科）（2020年7月入職）で診療活動を行った．

また，2020年7月から12月にかけて，専攻医の受け入れも行っている．

診療内容

回復期病院として初めて199床満床（3階障害者病棟29床，4階地域包括ケア病棟60床，5階回復期病棟55床，6階回復期病棟55床）で運用．急性期を脱しても，まだ医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者に対して，多職種がチームを組んで集中的なリハビリテーションを実施し，心身ともに回復した状態で自宅や社会へ戻っていただくために入院医療を展開した．

入院相談外来以外に，内科，呼吸器内科，消化器内科，循環器内科，糖尿病内分泌内科，神経内科，泌尿器科を標榜し，午前診を中心に毎日2～3診体制で外来診療を行った．千船病院小児科の支援の下シナジス外来も継続した．

2020年のトピックス・実績

2018年12月に中国武漢で発生した新型コロナウイルス感染症のパンデミック，感染者の増加を受け，当院でも感染者用の病室，外来発熱患者の診察場所，各種マニュアルの整備等対策を行っていたが，3月末に濃厚接触患者がそうと認知されない間に転院されたり，面会制限中にもかかわらず，発症前の感染家族と無断で接触していた入院患者の発生など感染管理の困難さを痛感した．

1年間の退院患者は1,310名であった（表1）．

病床稼働率は稼働病棟199床に対して，平均198.8名，99.9%であった．

主病名のICD-10による疾患大分類では，3階障害者病棟では，パーキンソン病（37名），ALS（27名），脊髄小脳変性症（11名），進行性核上性麻痺（9名），多系統萎縮症（9名）などの神経難病が112名/158名と大部分を占めた．4階地域包括ケア病棟では，回復期病棟でのリハビリテーションが困難な骨折・脳血管障害，感染症治療後の廃用症候群の患者が多く，整形外科疾患が112名（19.8%）を占めた．5階，6階回復期病棟では，脳血管障害を中心とした循環器系の疾患が242名（41.4%），大腿骨頚部骨折など骨折患者を含む損傷，中毒及びその他の外因の影響が238名（40.7%）と脳血管疾患比率が減少し整形外科疾患の比率が増加した（表2）．

紹介元は病院設立の経緯もあり，尼崎総合医療センターが42.4%を占めたが，50%を割り比率は低下してきている．尼崎市内の他病院が29.8%，兵庫県内（尼崎市外）の病院が11.1%と増加傾向にあり，開院5年が経ち本院が地域に根付いてきた証と考える（表3）．

退院時の転帰は自宅退院が67.2%，病状悪化による急性期病院，療養病院など他病院への転院は13.5%，施設入所が16.9%と自宅退院が減少，転院施設入所が増加している．新型コロナウイルス感染症拡大に伴い外出自粛による転倒等受傷機会の減少，急性期病院での予定手術の減少，病院面会制限による急性期病院からの自宅退院増加等患者動向が変化，受け入れ患者の重症度，認知症比率の増加など患者層の変化の影響が大きいと考える．24名（1.8%）の患者がお亡くなりになった（表4）．

診療報酬から計算した在宅復帰率は，回復期病棟で83.6%，84.6%，地域包括ケア病棟では受け入れ患者層の変化により70%維持に苦労したが，78.8%であり，いずれも診療報酬上の施設基準を満たした（表5）．

外来診療は予約制とし，入院患者の退院時はかかりつけ医へ逆紹介することを原則とした．急性症状以外での受診は紹介状持参患者に限っており，1日当たりの受診患者は平均30.2名であった．

今後の展望

新型コロナウイルス感染症の拡大の中，院内でのアウトブレイク発生を防ぎながら，2020年診療報酬改定により厳しくなった地域包括ケア病棟1の施設基準，回復期リハビリ病棟1の施設基準を堅持しつつ満床に近い利用を達成する．

表1．病棟別・退院患者数，平均在院日数

病棟名	退院患者（名）	平均在院（日）
3階障害者病棟	158	60.7
4階地域包括病棟	567	38.3
5階回復期リハ病棟	309	62.8
6階回復期リハ病棟	276	67.3
総計	1,310	57.3

表2．疾患大分類（ICD-10）別・病棟別退院患者数

（単位：名）

	3階障害者病棟	4階地域包括病棟	5階回復期病棟	6階回復期病棟	総計
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	0	2	1	0	3
Ⅱ．新生物	17	49	0	3	69
Ⅲ．血液及び造血器の疾患	1	6	0	0	7
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	1	47	0	3	51
Ⅴ．精神及び行動の障害	1	6	0	1	8
Ⅵ．神経系の疾患	112	63	2	5	182
Ⅶ．眼及び付属器疾患	0	0	0	0	0
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	0	0	0	0	0
Ⅸ．循環器系の疾患	7	113	129	112	361
Ⅹ．呼吸器系の疾患	5	41	0	1	47
ⅩⅠ．消化器系の疾患	2	31	0	0	33
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	0	8	1	0	9
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	6	79	59	51	195
ⅩⅣ．尿路性器系の疾患	0	8	0	0	8
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産褥期疾患	0	0	0	0	0
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	0	0	0	0	0
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	0	0	0	1	1
ⅩⅧ．症状，徴候，異常検査所見	1	8	0	1	10
ⅩⅨ．損傷，中毒，外因の影響	4	129	109	95	337
ⅩⅩ．傷病及び死亡の外因	0	0	0	0	0
ⅩⅩⅠ．健康状態への影響要因	1	2	7	2	12
総計	158	592	308	275	1,333

表3．紹介元医療機関（入院患者）

紹介元医療機関	紹介数	
尼崎総合医療センター・難病センター	552名	42.4%
（ うち 尼崎総合医療センター ）	493名	37.9%
（ うち 難病センター ）	59名	4.5%
尼崎市内	388名	29.8%
兵庫県（尼崎市外）	145名	11.1%
大阪府	123名	9.4%
他都道府県	5名	0.4%
当院外来	25名	1.9%
ケアプランセンターだいもつ	34名	2.6%
だいもつ訪問診療	30名	2.3%
合計	1,302名	

表4．退院時の転帰

	退院数	
自宅退院	880名	67.2%
転院	177名	13.5%
うち 尼崎総合医療センター	64名	4.9%
転所	222名	16.9%
うち 老健施設	112名	8.5%
死亡退院	24名	1.8%

表5.在宅復帰率

		3階障害者病棟	4階地域包括病棟	5階回復期病棟	6階回復期病棟	総計
①	対象退院患者数	158名	567名	309名	276名	1,310名
1	居宅（自宅・特養・サ高住等）	98名	432名	245名	215名	990名
	再掲：自宅	87名	376名	223名	194名	880名
	再掲：特別養護老人ホーム	4名	3名	4名	3名	14名
	再掲：有料老人ホーム	2名	23名	12名	11名	48名
	再掲：サービス付き高齢者住宅	3名	16名	4名	3名	26名
	再計：他	2名	14名	2名	4名	22名
2	老健	7名	48名	33名	24名	112名
3	転院					
	急性期病院	32名	45名	16名	20名	113名
	慢性期病院	12名	18名	11名	9名	50名
	慢性期強化型病院	2名	2名	3名	1名	8名
	転棟	2名	1名	1名	3名	7名
（参照）	死亡	2名	19名	0名	2名	23名
②	①のうち，退院先が居宅等であった	98名	432名	245名	215名	990名
③	在宅復帰率対象患者	158名	548名	293名	254名	1,253名
④	居宅等復帰率（%）100×②/③	62.0%	78.8%	84.6%	83.6%	73.2%

Ⅷ

井 上 病 院

10:1急性期病院
地域包括ケア病棟
慢性維持透析
訪問診療/訪問看護
全127床
外来透析200床

〒564-0053
大阪府吹田市江の木町16番17号
TEL.06-6385-8651

院長　辻本吉広

循環器内科

スタッフ紹介

常勤医1名　高井栄治　1994年卒業
非常勤の循環器専門医3名（大阪大学医学部2名，大阪市立大学医学部1名）

診療内容

主に透析患者，慢性腎臓病患者の循環器疾患に対して，循環器専門医として，入院，外来診療を行った．循環器合併症に際して，基幹病院と適切に連携を行った．

2020年のトピックス・実績

循環器外来受診患者数は延べ1,509名であった．その内訳は移植腎患者98名，透析患者428名と，腎臓，透析専門病院に特徴的な比率であった．

常勤医が受け持った，循環器入院患者は134名であった．

今後の展望

透析患者では，冠動脈疾患，閉塞性動脈硬化症など動脈硬化性疾患が高頻度で出現している．

虚血性心疾患では，無症候性心筋虚血が多く，急性冠症候群の発症には注意が必要である．適切な時期に，心筋虚血，冠動脈病変の評価，治療が行えるよう医療システムの構築を推進する．検査としては，MRIによる冠動脈精査を行っている．石灰化の影響を受けずに血管内腔，血流の状態を調べることが可能であり，透析患者の冠動脈精査に有用である．造影剤が慎重投与となり冠動脈CTが困難なCKD患者でも施行可能である．また，冠動脈病変の評価のため，冠動脈石灰化スコア測定を開始する．

大動脈弁狭窄症では，病態管理と基幹病院との連携が重要である．治療については，人工弁置換術が中心であり，適切な手術時期の判断が重要である．透析患者における保険診療が開始されたTAVI治療も考慮して診療している．

透析患者での心房細動における抗凝固療法は，現状ワーファリンのみであるが，人工弁患者など以外では禁忌とされている．しかし，心内血栓，脳血栓塞栓症2次予防には必要であると考えている．出血性合併症の懸念があり，導入，管理は慎重に行っている．

血栓塞栓症予防以外に，心不全や透析困難症回避の効用も併せてカテーテルアブレーション治療が期待され，基幹病院と適切に連携している．透析患者のアブレーション治療の成功率，再発率を懸念し，心拍数コントロールの重要性を再認識し，診療を行っている．

透析患者だけではなく，入院，外来の非透析患者に対しても真摯に丁寧な診療を行っている．近隣基幹病院だけでなく，法人内連携も積極的に行っている．

吹田，江坂地域の患者に役立つ医療を提供できる環境を，今後も強化していく方針である．

腎臓内科

スタッフ紹介

辻本吉広　：日本腎臓学会専門医・指導医，日本透析医学会専門医・指導医

藤原木綿子：日本内科学会認定内科医・総合内科専門医，日本透析医学会透析専門医，日本腎臓学会腎臓専門医・指導医

前田忠昭　：日本腎臓学会専門医，日本透析医学会専門医

一居　充　：日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医，日本透析医学会透析専門医・指導医，日本腎臓学会腎臓専門医・指導医，日本医師会認定産業医

園田実香　：日本内科学会認定内科医，日本腎臓学会腎臓専門医

福永　慎　：日本内科学会認定内科医，日本透析医学会透析専門医

奥手祐治郎：日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医，日本腎臓学会専門医

診療内容

（入院病棟）

・対象疾患：腎炎・ネフローゼ症候群（腎生検を含む），急性・慢性腎不全，血液透析や腹膜透析の導入，透析患者の合併症管理

（腎専門外来）月曜－金曜日，専門医による腎専門外来

・対象：糸球体腎炎，多発性のう胞腎，慢性腎臓病

2020年のトピックス・実績

腎炎，ネフローゼを中心とした腎疾患の腎生検診断・治療と，慢性腎不全患者の外来診療，透析導入，合併症加療を行った．新型コロナウイルス感染症の影響により患者が予定入院を避けたがる傾向もあったが，腎生検12件と昨年度と大きく変わらない件数を実施した．

外来透析部門は，透析患者834名の管理を行った．その中でもオーバーナイト透析が前年に引き続き好評を得ており，28名と昨年より8名増加し，増え続けている．その他在宅透析5名，腹膜透析51名の診療を行った．

透析患者の入院部門では，透析導入52件，透析療法の移行8件（HD→PD，PD→HD），透析患者の合併症入院1,307件であった．透析患者の合併症の入院の内訳は，上位3つはシャントトラブルが281件（21.5%），末期腎不全150件（11.5%），ASO100件（7.7%）であった．

特殊血液浄化として，CHDF 5件，腹水濾過濃縮再静注法1件，血漿交換4件を行った．

その他，引き続きCKDチームの活動を行った．内科外来へ通院するCKD5の患者97名へ介入した．腎臓内科医師・看護師（療法選択Ns・PD Ns含む）・社会福祉士・栄養士・リハビリ・臨床工学技士・事務で構成された多職種によるチームが，診察待ち時間に患者に関わっている．時間をかけた均一な療法選択説明や社会福祉相談を行っている．

またCKDの進行を予防するため，CKD3-4の外来通院患者を対象に腎臓リハビリを開始し，21名に介入した．

今後の展望

当院は腎臓に関して幅広く研修していただくために，日本腎臓学会，日本透析医学会，日本糖尿病学会の教育施設として認定されており，腎臓内科医もそろっている．2021年に腹膜透析研修施設の認定も受ける予定であり，今後も若手医師・看護師の育成を続けていきたい．

高齢化社会になっていく今後10年を見据え，当院が実績をもつ幅広い透析の提供を継続して行い，ADL低下や通院困難を減らしていくとともに，維持透析通院困難患者の選択肢を増やしていく．また近隣のクリニックへ啓蒙し，保存時腎不全CKD3からのCKDチーム介入により，腎不全進行抑制にも力を入れていく．

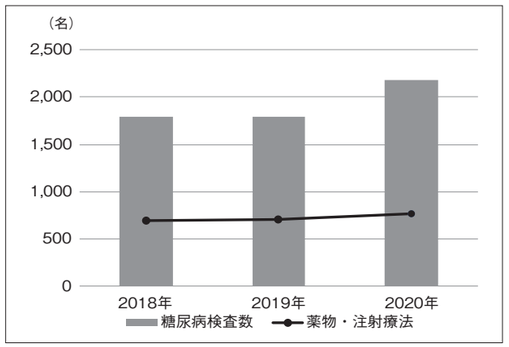
糖尿病内科

スタッフ紹介

2020年は日本糖尿病学会認定教育施設として，研修指導医が1名（土蔵尚子），専門医が3名（下村菜生子，木津あかね，宮部美月）在籍して臨床と研究に従事している．糖尿病療養指導士として9名（管理栄養士が2名，薬剤師が1名，看護師が6名），糖尿病看護認定看護師が1名，フットケア療養指導士が4名活動している．

診療内容

糖尿病専門外来は毎日行う体制で，日本糖尿病学会指導医，専門医による糖尿病の診断・治療を行うとともに，外来糖尿病教室や糖尿病教育入院を担当する．さらに，地域医療を重要視し，糖尿病内科医師全員が他科と協力して一般内科の診断治療や救急対応の担当にも従事している．糖尿病合併症は，全身の合併症を診療する必要があり，他専門科と連携を行っている．糖尿病教育入院は，約1週間の入院期間中に医師，看護師，薬剤師，管理栄養士，理学療法士，臨床検査技師とのチーム教育医療により，糖尿病の知識や自己管理の向上に寄与する．多様な要望に合わせ，　注射手技の獲得や低血糖の対処法の指導など週末短期入院も行う．糖尿病性腎症は，早期の糖尿病性腎症から腎不全治療，透析導入まで一貫した治療が可能で，腎機能に合わせた血糖管理を行っている．フットケア外来は毎週1回開設しており糖尿病合併症管理料の算定ができている．地域の健康増進と疾病予防の目的のため行ってきた健康教室は，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，2020年は開催せず，ホームページや待合室のテレビ放映での啓蒙活動を行った．



図．糖尿病患者数の推移

2020年のトピックス・実績

糖尿病の外来診療では，糖尿病の検査を行った人数は2,173名，薬物・注射療法を行った人数は年間768名と毎年徐々に増加している（図）．透析部門では，通院透析患者の糖尿病患者340名のうち，薬物・注射療法を230名に行った．また糖尿病透析予防指導は，登録者数は33名となり前年度より毎年増加している．フットケア外来では35名に糖尿病合併症管理料の算定がなされた．一方，入院については糖尿病教育クリニカルパスの運用数は33件であった．糖尿病療養指導士の認定試験を9名が受け，認定予定である．

今後の展望

依然として患者数が増加し続けている糖尿病は本院の基幹診療部門である慢性腎不全，人工透析の原疾患として，その初期診療から保存期，透析導入までの切れ目のない医療の重要性は，繰り返し強調されるべきである．糖尿病は種々の血管病変，各種の悪性腫瘍，そして今後更に増加する認知症などとの関連性も明らかであり，その診療の重要性は地域医療のためにゆるぎないものである．今後も糖尿病学の進歩に遅れることなく，最良の医療を提供できる体制を維持していきたい．

消化器内科

スタッフ紹介

2020年も2019年度と同様に，上部消化管内視鏡検査は大野恭太，下村菜生子が，下部消化管内視鏡検査，嚥下内視鏡検査，内視鏡的治療の止血術，大腸ポリープ切除術，内視鏡的胃瘻造設術，胃瘻ボタン交換は大野恭太が担当した．胃瘻造設は辻本吉広，下村菜生子の協力の下に施行した．消化器専門外来は大野恭太が担当した．

診療内容

消化器外来は従来どおり週2回，定期の上部消化管内視鏡検査は週3回，下部消化管内視鏡検査は週2回である．嚥下内視鏡検査は火曜日，あるいは金曜日の午後，胃瘻交換は月2回金曜日午後，内視鏡治療については必要時に随時施行した．非透析患者の消化器関連の入院患者は可能な限り大野が担当していることも2019年度同様であった．

2020年のトピックス・実績

2020年（1/1から12/31，以下同様）の上部消化管内視鏡検査は458例であり，前年度（2019/4/1から2020/3/31，以下同様）の588例より減少となった．また下部消化管内視鏡検査は2020年216例であり，前年度260例より，やはり減少となった．原因は新型コロナウイルス感染症の流行で検査を縮小せざるを得なかったことに他ならない．消化管出血の内視鏡的止血術は11例，大腸ポリープ切除術は38例であり，やはり減少となった．嚥下内視鏡検査は13例（前年度8例）とこちらは増加した．内視鏡的胃瘻造設術が8例（前年度は16例），胃瘻交換が37例（前年度は33例）であった．胃瘻交換の大半は院外の施設からの紹介患者であり，法人（愛仁会）の老健施設からの依頼が多かったが，他施設や在宅からの紹介も本院での造設例以外の症例が増えてきている．

今後の展望

消化器外科の無い本院での消化器内科の活動には限界があることには変わりない．特に緊急性のある胆道系の疾患を扱うためには，複数の熟達した消化器内科医と，そのバックアップとなる消化器外科の存在が必須であるため対応できない．また緊急での外科対応が，ある確率で必要となる腸閉塞は，仮に内科単独で完結可能な症例であっても，切れ目のない経過観察とそれに付随した対応が必要であり，今の体制では受け入れ困難である．本院の消化器内科は，本院の維持透析患者の消化管出血が本院で対応できるか否かの見極めのために存在意義があると考える．しかし繰り返して検査を行っても，出血原の同定ができないために，他院へ転送する症例もあった．抗血栓剤を内服している患者が多く，微細な病変から繰り返し出血するケースも多かった．嚥下内視鏡検査は嚥下造影検査に比べて，ベッドサイドで被爆することなく容易に施行でき，これからますます増加してくる誤嚥性肺炎の患者の嚥下機能の評価，嚥下リハビリの効果判定には有力なメソッドであり，今回は大幅に増加した．誤嚥性肺炎を本院で積極的に診療する体制が整い，今後も安定した需要が見込まれる．下部消化管内視鏡検査においては本院で検査が再開されて6年目となり，2回目，3回目の大腸内視鏡検査を希望されるリピーターの増加が検査数の維持，増加に大切である．消化器外科がないことから，内視鏡検査，治療において事故を起こさない安全な対応を行うことに，十分な注意をもって施行している．これまでのところ大腸ポリペクトミー後の出血での緊急内視鏡検査は1例限りであり，穿孔などのトラブルで他院へ緊急搬送するような事態は全く来していない．他の内視鏡手技においても外科対応が必要なトラブルはゼロであることを更新できている．今後もこの安全な内視鏡検査，内視鏡的治療を維持することに努めたい．

透析内科

スタッフ紹介

常勤透析専門医や常勤腎臓内科医及び糖尿病専門医が中心となって，約610名の患者の透析回診を行っている．

診療内容

当院には外来透析200床の透析ベッドがあり，常勤透析専門医が中心となって透析管理を行っている．

基本的に1名の患者に対してデータ回診医1名と透析管理医師2名で回診しており，複数の目で患者の状態を把握できる診療体制となっている．

様々な透析合併症の早期発見を行うために，回診医の指示などにより各種アセスメントの充実，様々な指導が行われている．

2020年のトピックス・実績

2018年9月からオーバーナイト透析を開始した．2020年は，オーバーナイト透析患者20名から28名まで増加した．また至適透析を勧め，臨床工学技士と連携し，オンラインHDFが，2020年38.8%から53.9%へ増加した．

また透析棟6階では，水素水使用による透析を開始し，疲労の改善が見られるか数値化して確認していく予定である．

感染管理については，全体研修を行い，透析室においてビニールカーテン廃止や消毒物品の適正化及び消毒液のエタプラスゲル使用状況を確認し，標準予防策を徹底した．

高齢化に伴い誤嚥性肺炎患者が増加し，口腔ケアの重要性が高まっている．このため透析通信で，定期的な歯科受診が大切であると伝え，今後近隣の歯科受診紹介を勧めていく．

2020年は新型コロナウイルス感染症により感染管理の更なる徹底が必要となった．血液透析治療は週に3回通院があり，集団での同フロア利用のため他者と接触しやすい環境である．また医療従事者も患者と接する機会が多く，日頃から感染予防策を心掛けることを互いに認識するよい機会ともなった．

その他に2020年より入院透析患者の安定した食事摂取を確保し，病棟でのケアを安定して行うことを目的に，午後透析を開始した．それに伴い透析日は透析後疲労感が強く積極的なリハビリが困難であったところが，午前中の透析前にリハビリを行えるようになり，安定したリハビリが施行できるようになっている．

今後の展望

維持透析患者の高齢化により，これまでのような広域からの透析患者の集客が難しくなってきている．これまでは送迎サービスによる集患に頼ってきたが，近隣クリニックのほとんどが送迎サービスを行うようになっており，送迎サービスによる集患も厳しくなってきている．

また北摂地域は日本でも有数の腎臓内科医の多い地域となっており，地域基幹病院から保存期の状態で紹介されることが減少している．

以上の状況を踏まえて下記の取り組みを開始している．

透析患者の新たな集患を目的に，オーバーナイト透析を立ち上げ順調に進んでいる．希望者があれば引き続き行えるような体制を準備している．また当院の強みである医療と介護の連携をいかして，在宅医療としての腹膜透析診療の強化を行っていくため，内科外来での腎代替療法への取り組みに注力している．こちらも多職種が連携して，透析の療法選択を行った上で腹膜透析も選択できる環境が整ってきており，引き続き取り組んでいく予定である．

外　科

スタッフ紹介

藤原一郎
福永　慎

診療内容

・血液透析関連手術
・腹膜透析関連手術
・その他：鼠径ヘルニア，内痔核など簡単手術

2020年のトピックス・実績

・新型コロナウイルス感染症拡大により今まで経験したことのない不安の中で手術を行うこととなり，感染予防に労力を必要とした．
・手術件数は合計で41件減少した．今回の集計が1月から12か月集計に改定されたこともあるが，年度集計でも22件減になっている．
・大きな変化はAVF作成が18件減少したことである．これは以前から多くのご紹介をいただいていた施設がAVF作成を自病院で開始したことによるものだと思われる．

今後の展望

当院の血液透析や腹膜透析患者のアクセスを引き続き維持していきたい．近隣の新規透析クリニックのアクセストラブルの治療にも積極的に取り組み，医療連携を密に行っていきたい．

表．2020年外科手術件数

（単位：件）

AVF　70件（▲42）	造設	43	CAPD　44件（▲3）	SMAP	17
	再建	10		チューブ留置	1
	瘤切除	1		出口部作成	17
	静脈バイパス	0		出口部変更	0
	血流抑制	4		抜去	8
	バンデング解除	0		腸管癒着剥離術，固定	1
	血栓除去	0	留置型Wルーメン　50件（△4）	留置，入れ替え	29
	閉鎖	12		抜去	21
AVG　70件（▲2）	造設	39	その他　22件（△2）	鼠径ヘルニア（腹腔鏡）	9
	バイパス	12		鼠径ヘルニア（切開）	3
	抜去	6		痔核切除	0
	置換	6		ジオン硬化療法	3
	血栓除去	6		CVポート	4
	閉鎖	1		虫垂切除	0
動脈表在化　0件（△0）		0		腹壁瘢痕ヘルニア	0
				PTX	0
				アテローム切除	3
				その他，創処置	0
			総計		256

心臓血管外科

スタッフ紹介

副院長・心臓血管外科主任部長　谷村信宏
　心臓血管外科専門医・修練指導者
　日本外科学会指導医・専門医
　日本脈管学会認定脈管専門医
　日本胸部外科学会評議員・認定医（正会員）
　ICD（インフェクションコントロールドクター）
　日本フットケア･足病医学会評議員，フットケア指導士及び学会認定師
　近畿外科学会評議員
　日本心臓血管外科学会，日本血管外科学会，
　日本静脈学会　など

診療体制

主に末梢血管外科診療を行っているが，必要に応じて一般外科診療・外科救急診療にも対応している．

手術・血管内治療

月曜日：下肢静脈瘤硬化療法，局所麻酔下小手術
火曜日：全身麻酔下血管外科手術
水曜日：血管内治療
金曜日：血管内治療，全身麻酔下血管外科手術
　緊急手術に関しては，随時対応している．

活動内容及びトピックス

1. 患者数の推移
　外来患者数は年ごとに増加していた．また，紹介患者は院内紹介だけでなく，院外からの紹介が増加しており，血管外科診療における施設間連携も功を奏していると思われる．
2. 血管造影室使用状況（血管造影及び血管内治療）
　下肢血管内治療症例数は昨年度とほぼ同等であった．しかし，大阪府下でも有数の血管内治療実施施設となっていることに変わりはない．スタッフとしては，住友病院･大阪市立大学医学部附属病院からの非常勤医師だけでなく，放射線科 森本副院長を始め，放射線科及び看護部の多大な協力に感謝している．
3. 外科的手術症例の推移
　手術に関しては，2020年は昨年度と比べて大きく増加した．当院の末梢血管症例においては，透析を伴った重症例が多いため，血管内治療で対応することが多かった．しかし，麻酔科常勤医が2人になったこと、また神経ブロックを多用する低侵襲麻酔で，高齢者・重症患者に対しても安全に手術を行うことができるため，他院で手術不能とされた症例でも，必要に応じて手術することが可能である．これらの成績は，学会等でも積極的に発表しており，可能な限り外科的血行再建術に移行するように方針転換してきた成果が徐々に功を奏している．また血管の高度石灰化を伴った重症下肢虚血が多いため，必然的にdistal bypass手術や内膜摘除術が重要となり，当科での十八番でもある．全国的にも，重症透析例に対する末梢血管手術を行っている施設が少ないため，今後も積極的に進めていきたいところである．さらに，足部壊死に対する下肢切断も形成外科医の協力の下，自科で行うことによって，包括的高度慢性下肢虚血（CLTI）に対する一貫治療を行っている．
4. 脊髄刺激療法（SCS）の導入
　麻酔科のご協力の下，慢性疼痛，特に下肢虚血による疼痛コントロールを目的に，脊髄刺激療法（SCS）を導入した．残念ながら今年も実施症例がなかったが，今後症例数を増加させるようにしていきたい．

今後の展望

1. 今後も院内スタッフ教育に力を入れ，地域医療面でも市民公開講座や研究会等を主催して地域連携を深めたい．そのほか，当院で主催している北大阪フットケア勉強会，更に関西血管外科倶楽部やOASIS（大阪重症虚血肢救済に対する集学的シンポジウム）等に参加して関西の血管治療医やフットケアに携わる医療従事者と広く連携しており，今後もこの活動を更に広めていきたい．
2. 学会及び研究会等にて引き続き発表を行っており，愛仁会井上病院の知名度も上がってきている．今後も引き続き活動を広めていきたい．
3. 当院は元々透析患者の診療が得意であり，他施設ではまねのできない部分である．この強みをいかし，今後も透析症例の重症下肢虚血に対して積極的に診療を行いたい．
4. 今後当院での診療拡大を図るべく，新たな人材確保にも留意したい．

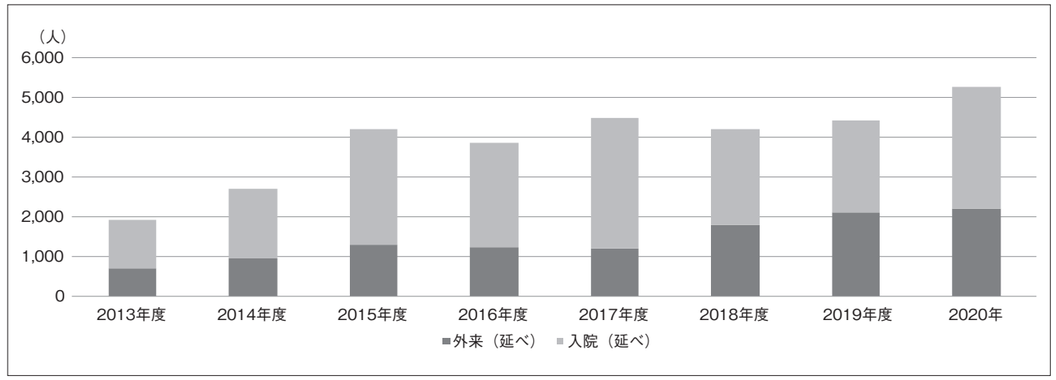


図1．患者数の年次推移（2020年のみ年報の対象期間が1月1日～12月31日）

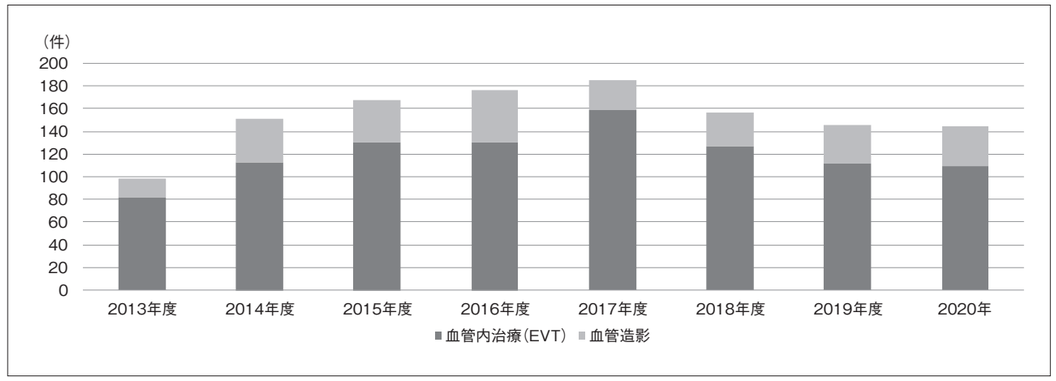


図2．血液造影及び血管内治療の年次推移（2020年のみ年報の対象期間が1月1日～12月31日）

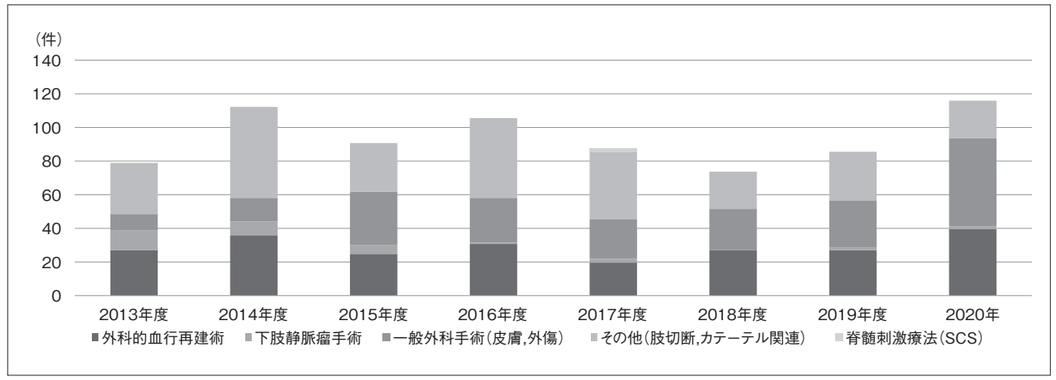


図3．手術症例数の推移（2020年のみ年報の対象期間が1月1日～12月31日）

整形外科

スタッフ紹介

整形外科担当副院長　佐藤宗彦

診療内容

①透析整形外科，②関節疾患，③脊椎脊髄疾患，④外傷・骨折，⑤骨粗鬆症に対する診療を行っている．

それぞれに対し，保存加療・手術加療を行っている．

2020年のトピックス・実績

Ⅰ：トピックス

骨粗鬆症に対する有効性が最も高い骨形成促進薬であるロモソズマブは，当院の導入症例が世界で最も多いため，様々な情報発信を行った．

Ⅱ：実績

①手術：件数は月平均13.4件であった．2019年9月より高槻病院の平中崇文センター長を招聘し，人工膝関節手術をしていただいている．手術時間も驚くほど短く，出血も少量で，侵襲も少なく，患者満足度の高い手術である．

②入院：1日平均入院患者数は，32.3人であった．地域包括ケア病棟が開設された後，入院患者が増加している．

③外来：1日平均外来患者数は，68.7人であった．2017年12月よりDXAが導入され，骨粗鬆外来をスタートし，骨粗鬆患者が著しく増加した．

④学術：学会・研究会発表が各1件，講演が17件であった．講演を聴いていただいた医師・コメディカルに当院を紹介され初診した患者も多かった．

今後の展望

①手術：救急を始めとし，前記全ての分野における前進．特に平中崇文先生のお力をお借りしたハイレベルな人工膝関節手術，並びに当院の従来からの特色である脊椎手術を多くの患者に提供していきたい．

②入院：新型コロナウイルス感染症対応のため使用できる病床が限られており，在院日数を減らすことが求められている．したがって回転率向上を目指していく．

③外来：救急を始めとし，全ての分野における前進．特にDXAの有効利用による骨粗鬆症患者の増患・個別化精密医療の推進．

④学術：透析整形疾患の研究．一般整形疾患の患者啓発活動の更なる前進．骨粗鬆症研究の推進．

表．手術症例

（単位：件）

症例	件数
手術症例（うち透析患者）	161 (59)
関節外科	79 (13)
人工関節　股関節	3
膝関節	41 (3)
膝関節再置換術	1
足関節	1
人工骨頭挿入術　股関節	9 (2)
股関節周囲骨折整復固定術	15 (7)
肩腱板手術	3
膝肩関節滑膜切除半月板手術（鏡視下含む）	6 (1)
関節形成術	0
その他	0
関節リウマチ足	0
手の外科	24 (21)
手根管症候群	16 (15)
バネ指	5 (4)
腱縫合・移行	2 (1)
その他	1 (1)

症例	件数
脊椎外科	14 (7)
頚椎	4 (4)
胸腰椎	1
腰椎	9 (3)
外傷外科	19 (6)
骨折整復固定術	19 (6)
腱縫合術	0
切断術	11 (10)
大腿	5 (5)
下腿	4 (3)
足趾	0
断端形成	2 (2)
抜釘術	8
脱臼整復術	2
その他	4 (2)

泌尿器科

スタッフ紹介

2019年度より引き続き，常勤医師1名の診療体制となっている．

診療内容

外来診療，入院診療及び手術加療を行っている．詳細は後述する．

2020年のトピックス・実績

尿路悪性腫瘍手術（副腎，腎，膀胱，前立腺，陰嚢）を行っている．昨年度に引き続き，経直腸的前立腺生検，経尿道的手術，尿管ステント留置術，腎瘻造設術などを行っている．

表．手術件数

（単位：件）

手術名称	件数
皮膚切開（長径 10cm 未満）	4
創傷処理（筋膜未達 5cm 未満）	1
膀胱腫瘍摘出術	2
包茎手術（環状切除術）	4
経皮的腎（腎盂）瘻造設術	1
経尿道的尿管ステント留置術	21
経尿道的尿管ステント抜去術	3
膀胱悪性腫瘍術（経尿道・電解質溶液利用）	6
経尿道的前立腺手術（電解質溶液利用）	3
腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	4
総計	49

また，昨年度に引き続き，腎腫瘍に関しては腹腔鏡下手術も積極的に行っている．

2020年泌尿器科手術件数を以下に示す．

今後の展望

2021年度より右梅院長が着任され，泌尿器科は2名体制となる予定である．外来診療枠の増設を行い，更なる外来患者の獲得に努めていく．

また，手術では，2021年度より経尿道的尿管結石破砕術（f-TUL）を導入する予定である．引き続き，前立腺生検，経尿道的手術や腹腔鏡手術も継続し，更なる手術件数の上昇を目指したい．

放射線科

スタッフ紹介

森本　章
田中佐織
応援スタッフ
読影：非常勤医師　3名
透析シャントPTA：常勤内科医師　1名
　　非常勤医師　4名

診療内容

（画像診断）

CT・MRIなどの検査依頼が他科の医師からあった場合に，最も適切な撮影方法を診療放射線技師に指示し，安全で最適な検査を提供し，撮影されたCT・MRIの検査報告書を速やかに作成するよう心掛けている．シャントPTA治療の件数増加でCT・MRIの検査報告書の即時対応が難しくなっていたが，7月から田中医師が着任し（週3回）即時対応できる検査の比率も増加している．

（透析シャント PTA 治療）

狭窄や閉塞が原因で生じているシャントトラブルに対し，カテーテル治療を行っている．予約受付スタッフによる適切な予約振り分けにより，1時間/件の予約枠はほぼ埋まっている状態となっている．シャント血栓性閉塞の連絡が入った場合も準緊急で予約外での対応を行っている．

昨年血管造影室にエコー装置を購入していただき，9割以上の症例を造影併用エコー下PTAで行うことで，術者の被曝も大幅に低減している．

2020年のトピックス・実績

2018年件数

CT	4,580件
MRI	1,903件
シャントPTA	1,040件

2019年件数

CT	4,804件
MRI	1,710件
シャントPTA	1,160件

2020年件数

CT	5,067件
MRI	1,856件
シャントPTA	1,231件

今後の展望

2020年の診療報酬改定でシャントPTAは保険点数自体が33%減少したが，症例数増加と算定2要件の取り漏れがないようにすることでその影響は最小限にしてきた．2003年購入の血管造影装置がサービスエンドとなるため装置更新が必要となり，更新に伴いアンギオ室が使用できなくなる期間が発生するが，その影響を最小限にできるよう，エコー下PTAの対応強化を進めていきたい．

画像診断に関しても地域医療に更に貢献できるよう，地域連携室との連携強化を進めていく予定である．

麻　酔　科

スタッフ紹介

2020年1月からも，坂本 元主任部長と稲田拓治部長の2人体制で麻酔業務を行っている．

2020年のトピックス・実績

1．活動実績

麻酔科管理症例数は，356件であった．昨年と比較して微減となった．356件のうち，重症に該当する患者は249件（69.9%）であった．全身麻酔症例数は，336件であり同様に昨年と比較して微減であった．微減の原因としては，新型コロナウイルス感染症の世界的大流行のため，特に4月～6月の活動実績の低下が原因と考えられた．麻酔科管理症例数の82.3%に，エコーガイド下神経ブロックか硬膜外麻酔を併用した．

2．麻酔科認定病院

2019年4月より麻酔科医2人体制になり，より安全に麻酔管理が行えるようになったことと麻酔科管理症例数の増加により，2020年4月より日本麻酔科学会麻酔科認定病院に認定された．

3．術後回復力強化の継続

従来から行っている肺保護換気の徹底による術後呼吸機能の上昇，絶飲絶食時間の短縮による栄養，免疫力強化，早期離床を促し，回復促進を目指している．

4．論文執筆

臨床麻酔Vol.44/NO.12（2020-12）に，坂本主任部長が執筆した［低心機能を伴う維持透析患者の麻酔管理－デクスメデトミジンを用いた鎮静と超音波ガイド下腕神経叢ブロックが奏効した2症例－］が掲載された．

今後の展望

1．麻酔科管理症例数の増加が急務

当院は，2019年4月より麻酔科医2人体制となっている．そのため，24時間365日いつでも麻酔を引き受けられる体制となった．一方で，外科系診療科の体制に2020年も変化がないため，大幅な手術件数の増加は期待できない．今後，外科系診療科医師の増員や新たな外科系診療科の新設が早急に求められる．

2．臨床研究の充実

現在進行中のテーマは，“透析患者の術後除水量に関する研究”，“術中PEEPとリクルートメントの至適圧に関する研究”，“安全な迅速導入のための酸素投与法の研究”である．

3．自己研鑽

今後も学術集会での発表及び論文の執筆を積極的に行う．学術集会の発表は，1人年1回以上を目標とする．

4．その他

ホームページやYouTubeなどを積極的に利用し，井上病院の認知度を広めることと外科系医師との連携をより深めることで，手術件数と麻酔件数を更に上昇させていけるように努力したい．

表1．麻酔方法別

（単位：件）

方法	件数
全身麻酔	55
全身麻酔＋硬・伝麻	281
伝達麻酔	11
その他	9
計	356

表2．ASA　PS（リスク分類）

（単位：件）

分類	件数
1（健康）	24
2（軽症）	80
3（重症）	237
4（瀕死）	7
1－4（緊急）	8

表3．年齢別

（単位：件）

年齢	件数
～18歳	0
～65歳	79
～85歳	246
86歳～	31

リハビリテーション科

スタッフ紹介

リハビリテーション科
担当副院長　佐藤宗彦
リハビリテーション科
科長　山口勝生
主任　松藤勝太
主任　田邉晃平
＜理学療法士＞　15名
＜作業療法士＞　1名
＜言語聴覚士＞　2名
＜健康運動指導士＞　2名

診療内容

①地域包括ケア病棟の運営
②入院患者のリハビリテーション
③外来患者のリハビリテーション
④透析患者の“いつまでも元気にプロジェクト”
⑤法人内の医療・介護施設と一体化したリハビリテーション運営

2020年のトピックス・実績

①2020年4月から作業療法士の確保・環境整備により，PT・OT・ST三位一体のリハビリテーション遂行という悲願を達成できた．それにより疾患別リハビリテーションの施設基準が上がり，脳血管・廃用症候群がⅢからⅡとなったので，スタッフのモチベーションという点からも，収益の点からも，大きな進歩となった．
②2020年4月からリハビリテーション室が従来の2倍の広さとなり，窓も大きく，明るく広いリハビリ室となった．さらに3階に移動することにより，病棟からリハビリ室への患者移動の利便性が大きく向上した．
③2018年1月より地域包括ケア病棟の施設基準Ⅰを取得した．開設以来，PTの山﨑勇人を中心として順調に運営している．
④透析患者の健康寿命延伸のため，“いつまでも元気にプロジェクト”という，健康度チェック・生活運動指導を行っている．
⑤誤嚥性肺炎治療プロジェクトの一環として，入院患者の嚥下リハビリテーションにも力を入れている．研修を受けて，吸引実施資格取得したPT 4名，ST 1名がおり，プロジェクトに貢献している．
⑥腎臓リハビリテーションを行っている．CKDの患者の治療を，リハビリテーションという面からもサポートしており，重要な役割を果たしている．

今後の展望

①作業療法士を3名体制にすることによって，脳血管・廃用症候群のリハビリテーション施設基準をⅡからⅠとし，スタッフのモチベーションの向上・収益の向上を目指す．
②需要の多い訪問リハビリテーションを開始する．
③地域包括ケア病棟を更に発展させる．具体的には，様々な部署との連携・家庭訪問などの積極的実施等により，稼働率100%を達成し，在宅復帰率70%以上をキープする．
④透析患者の健康寿命延伸という目的に対し，リハビリテーション科として，運動・作業・言語聴覚嚥下機能の向上という視点から，三位一体の最大限の貢献を行う．臨床研究も更に推進していく．
⑤腎・糖尿病・骨粗鬆症専門病院として，それぞれ腎臓・糖尿病・骨粗鬆症リハビリテーションに力を入れていく．
⑥病院として誤嚥性肺炎治療に力を入れるとの方針があり，言語聴覚士もチームの一員として最大限のパフォーマンスを発揮する．胃瘻造設術加算施設基準と経口摂取回復促進加算取得を目指す．実績で示した吸引実施資格取得したPTを増やしていく．
⑦愛仁会グループ施設の力添えもあり，リハビリテーション科の人的資源であるスタッフも，年々充実してきている．新たな仲間も増えお互い切磋琢磨している．モチベーションの高いスタッフが，三位一体となり，明るく広くなったリハビリ室を活かし，ポテンシャルを最大限に発揮していきたい．

リウマチ科

スタッフ紹介

リウマチ科担当副院長
佐藤宗彦
日本リウマチ財団登録ケア看護師　3名

診療内容

関節リウマチ患者に対する，投薬・手術・リハビリテーション加療を行っている．

2020年のトピックス・実績

①当院では，約480名の関節リウマチ・乾癬・強直性脊椎炎患者の継続加療を行っており，そのうち約330名に生物学的製剤・JAK阻害剤を使用している．バイオシミラーを含む9種類の生物学的製剤，5種類のJAK阻害剤を患者の症状に応じて，適切に使い分け使用している．

②学術的には，講演が28件であった．講演を聴いた医師・コメディカルに当院を紹介され初診した患者も多かった．

今後の展望

①北摂の関節リウマチの拠点病院になるように，600名の関節リウマチ・乾癬・強直性脊椎炎患者の継続加療を目指していく．

②リウマチケアナース，薬剤師，リウマチ科に従事する事務職員など，モチベーションの高いスタッフに恵まれており，“リウマチチーム医療によるリウマチ患者のトータルケアの推進”を基本理念として，臨床でも学術部門でも更なる高みを目指していく．

③医療経済的にも，バイオシミラーなども導入し，永続的な高品質の医療を追求していく．

眼　科

スタッフ紹介

眼科医　5名（常勤1名，非常勤4名）
検査員　3名

診療内容

外眼部疾患から眼底疾患までの診療を行い，必要時には症状に応じて専門医へ紹介している．

2020年のトピックス・実績

白内障手術や光凝固術のほか，硝子体注射治療も行っている．

視野検査	813件
白内障手術	110件
硝子体注射	47件
YAGレーザー	16件
レーザー光凝固術	18件

白内障手術，硝子体注射は兵庫医科大学からの非常勤医師とともに行っている．

第3水曜日の午後には視覚障害申請のための外来を行っている．

今後の展望

透析患者，糖尿病患者の眼合併症の診断・治療を適切に行い，長期に通院を継続できる眼科を目指す．また，白内障手術を積極的に行っていく．

Ⅸ

井上病院附属診療所

健診センター
ケアプランセンター
ヘルパーステーション

〒564-0053
大阪府吹田市江の木町14番11号
TEL.06-6386-9525

院長　石津弘視

井上病院附属診療所　腎移植外来

スタッフ紹介

非常勤医師　5名
看　護　師　2名（非常勤1名）
認定レシピエント移植コーディネーター　1名
（井上病院附属診療所看護・保健科長兼任）
看 護 助 手　1名
移 植 事 務　2名

業務内容

大阪大学医学部附属病院で腎移植手術を受けた後の患者の長期的なフォローアップを行っている．移植腎が長期に生着することを目的とし，移植腎が機能喪失する前に生命を失うことがないよう，癌検診の充実，合併症予防に力を入れており，患者ごとに個別的な定期検査スケジュールを計画している．

移植月に患者面談を実施し，療養生活への支援を行っている．

患者の高齢化により，在宅療養生活を送るのが困難なケースの増加が認められ，ケアマネージャー，訪問看護ステーションと連携を図り，在宅での療養生活支援を協力し行っている．

2020年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症の流行により，外来受診間隔を延長するなど，外来での待合環境を整え，アウトブレイクが発生しないような環境設定を心掛けた．また，それに伴い，発熱時の対応も他施設では受診を断られるケースも多く，感染対策に留意しながら実施した．2020年は当施設での新型コロナウイルス感染症のPCR陽性は認めなかった．

他施設へ転院された患者が，現状の報告と現在の治療に対する方針について相談に来られるケースが数例あった．

今後の展望

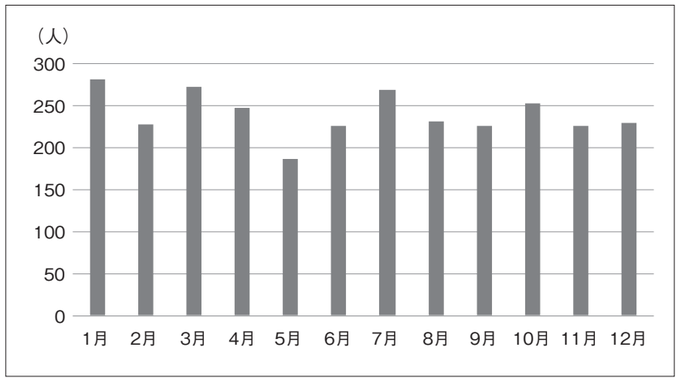
新型コロナウイルス感染症の流行は，しばらく継続すると考えられ，腎移植後患者は免疫抑制剤服用ため増悪のリスクも高く，医療従事者，患者ともに感染制御に関する知識を持ち，対応していくことが必要である．

移植外来は非常勤医師で診療を行っているため，看護力の質の高さが求められ，看護体制の強化を図っていく必要がある．

表．移植後定期検査の実施率

検査項目	実施率
胸部レントゲン	92.9%
心電図	89.6%
胸部CT	92.9%
腹部CT	91.0%
副甲状腺エコー	68.4%
IMT/PWV	75.5%
腹部エコー	79.2%
胃カメラ ＊1	40.1%
便潜血	81.1%
乳癌検診	51.1%
子宮がん検診	46.7%

＊1：隔年検査対象の方を含む



図．2020年月別外来受診者

X

井上診療所

慢性維持透析
外来透析30床

〒567-0046
大阪府茨木市南春日丘7丁目9番19号
TEL.072-620-0700

院長　辻本大治

井 上 診 療 所

スタッフ紹介

今期の人員配置は，以下のとおりであった．
医師：4名（辻本大治施設長，非常勤医師3名）
看護師：8名，准看護師：2名，看護助手：3名
臨床工学技士：7名
事務職員：1名

診療内容

透析ベッド数30床で午前，午後の透析を実施している．オンラインHDF対応コンソール15台．HD対応15台である．

老健ひまわり入所者への透析治療と近隣の通院患者や老人ホームからの透析患者を受け入れている．また，旅行者にも対応している．

2020年のトピックス・実績

2020年は，世界的に広がる新型コロナウイルス感染症の猛威の中，度重なる感染拡大の状況に応じて，柔軟に感染防止・予防策を実践した．そのような状況で2020年の透析延べ件数は15,218件（前年度15,586）で前年度の延べ件数を368件下回る結果となった．※以下（　　）内は前年度数を示す．

透析患者の内訳は，外来患者件数が5,713 件（7,120），老健ひまわり利用の患者件数が9,505件（8,466）で老健ひまわり利用の患者件数が増加した（表1）．

2020年12月の実患者数は97名（108）で，前年度より11名の減少となった．2020年は年間で転入が38名（45）であり，そのうち井上病院からは16名（23）で他施設からは 22名（22）と井上病院からの転入が減少した．一方，転出が28名（20），死亡が21名（30）であり，前年度と比較して死亡数は減少したが，転出数が増加した．

また，患者数のうち外来通院患者35名（42），老健ひまわり利用の患者数62名（66）で，前年同様に老健ひまわり利用の患者数が占める割合は高くなっている．

2019年度より患者数の増加に伴う透析生産性が増加して，透析室の拡充（増床計画）を検討していたが，2020年6月の透析生産性3.5を最高点に夏場以降は患者数が減少した．特に老健ひまわり利用の患者数が大幅に減少したため，患者確保については，老健ひまわりと共同で近隣医療機関や居宅支援事業所への営業活動を継続した．

また，透析患者の重症化を抑えるためにKt/Vを比較して，透析時間と透析条件の見直しを行った．長時間透析への移行に向けて，看護師や臨床工学技士の業務内容を見直し，早出シフトの導入や他職種連携を強化することで，透析治療の円滑化を進めた．その結果，2020年12月で4時間以上透析の割合が71.5%（54%）へと増加した．

また，2020 年はオンライン血液透析濾過が延べ件数5,814 件（6,070）であった（表 2）．

今後の展望

2021年は，前年の経験を活かし，状況別の新型コロナウイルス感染症の感染防止・予防策を標準化するために，老健ひまわりと一体的に感染状況に応じたシミュレーション訓練の実施やBCPの策定を進め，組織的な感染対策を徹底する．また，職員や患者へのワクチン接種を速やかに進めることで，感染拡大を予防する．

井上病院との連携や同一敷地内にある老健ひまわりとの一体的な運営を行い，経営改善に向けて，以下の点を重点的に取り組む．

①感染防止・予防策を徹底し，感染状況に応じて柔軟に対応できる職員応援体制を整備する．
②透析患者のフットケアの充実を図る．
③2022年4月診療報酬改定に速やかに対応できるように準備を進める．
④管理職・監督職の育成，新たな役職者の育成を行う．
⑤中期事業戦略の執行管理を徹底する．

表1．透析患者数（利用者数）とコンソール1台当たりの生産性

（単位：人）

	外来患者数		ひまわり利用者数		合計	生産性（/1台）
	実人員	延べ数	実人員	延べ数		
2019年度合計	583	7,120	742	8,466	15,586	3.4
2020年1月	42	526	64	726	1,252	3.2
2月	43	502	65	759	1,261	3.4
3月	42	517	67	787	1,304	3.4
4月	41	515	68	804	1,319	3.3
5月	41	499	68	802	1,301	3.4
6月	43	490	70	828	1,318	3.5
7月	41	473	70	873	1,346	3.4
8月	38	433	68	826	1,259	3.3
9月	38	470	66	801	1,271	3.2
10月	37	441	66	796	1,237	3.2
11月	36	417	65	715	1,132	3.1
12月	35	430	62	788	1,218	3.1
2020年合計	477	5,713	799	9,505	15,218	3.3

表2．オンライン透析件数

（単位：件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2019年	483	427	453	433	457	549	579	581	523	535	531	519	6,070
2020年	486	451	469	484	495	488	511	494	497	485	453	499	5,812

統　計　総　括

愛仁会グループ活動統計

千船病院

入院

入院延べ患者数
100,768 人
（前年比 3.9%減）

1日平均入院患者数	275	人
新入院患者数	10,328	人
退院患者数	10,341	人
病床利用率	94.3	%
平均在院日数	9.8	日
入院平均単価	72,922	円

新生児数

延べ新生児数	9,273	人
分娩数	2,122	人

新患者数

初診料算定対象患者数
18,883 人

外来

外来延べ患者数
193,242 人
（前年比 10.2%減）

1日平均外来患者数	795	人
外来平均単価	10,659	円

紹介

開業医紹介数
11,578 件

救急搬送数
5,348 件

入院救急搬送数	1,862	件
外来救急搬送数	3,486	件

手術件数

合計
3,373 件

内科	10	件
外科	663	件
脳神経外科	63	件
泌尿器科	457	件
整形外科	720	件
産婦人科	1,352	件
眼科	66	件
耳鼻咽喉科	39	件
麻酔科	3	件

剖検数

剖検数	11	件
剖検率	6.2	%

死亡数

死亡数
178 人

尼崎だいもつ病院

入院

入院延べ患者数
71,509 人
（前年比 0.8%増）

1日平均入院患者数	195.3	人
新入院患者数	1,302	人
退院患者数	1,303	人
病床利用率	98.2	%
平均在院日数	54.9	日
入院平均単価	37,665	円

新患者数

初診料算定対象患者数
256 人

外　来

外来延べ患者数
5,435 人
（前年比 31.8%減）
1日平均外来患者数 **22** 人
外来平均単価 **13,090** 円

紹　介

開業医紹介数
1,468 件

剖 検 数

剖検数	0	件
剖検率	0	%

死 亡 数

死亡数
24 人

高槻病院

入　院

入院延べ患者数
158,798 人
（前年比 7.3%減）

1日平均入院患者数	434	人
新入院患者数	14,870	人
退院患者数	14,865	人
病床利用率	91.0	%
平均在院日数	10.7	日
入院平均単価	83,369	円

新 生 児 数

延べ新生児数
8,770 人

分娩数
1,072 人

外　来

外来延べ患者数
244,740 人
（前年比 8.8%減）
1日平均外来患者数 **1,007** 人
外来平均単価 **17,133** 円

紹　介

開業医紹介数
26,363 件

新 患 者 数

初診料算定対象患者数
26,713 人

手 術 件 数

合計
5,563 件

小児外科	315	件	腎移植科	51	件
呼吸器外科	83	件	整形外科	1,175	件
心臓血管外科	275	件	産婦人科	861	件
消化器外科	609	件	眼科	980	件
消化器内科	7	件	急性期外科	0	件
循環器内科	2	件	乳腺外科	156	件
呼吸器内科・糖尿病内分泌内科	0	件	脳神経外科	135	件
不整脈内科	597	件	小児脳神経外科	93	件
小児科	17	件	泌尿器科	389	件
耳鼻咽喉科	6	件			
皮膚科	167	件			
形成外科	175	件			
麻酔科	8	件			

剖 検 数

剖検数	5	件
剖検率	1.7	%

死 亡 数

死亡数
292 人

愛仁会リハビリテーション病院

入　院

入院延べ患者数
94,370 人
（前年比 1.1%減）

1日平均入院患者数	258	人
新入院患者数	1,686	人
退院患者数	1,706	人
病床利用率	95.9	%
平均在院日数	55.6	日
入院平均単価	42,101	円

新 患 者 数

初診料算定対象患者数
435 人

死 亡 数

死亡数
1 人

外　来

外来延べ患者数
3,663 人
（前年比 21.2%減）

1日平均外来患者数	15	人
外来平均単価	16,547	円

しんあい病院

入　院

入院なし

新患者数

初診料算定対象患者数
1,534 人

外　来

外来延べ患者数
30,752 人
（前年比 16.0%減）

1日平均外来患者数	105	人
外来平均単価	6,617	円

しんあいクリニック

入　院

入院延べ患者数
2,563 人
（前年比 58.8%減）

1日平均入院患者数	18	人
新入院患者数	83	人
退院患者数	98	人
病床利用率	94.8	%
平均在院日数	28.3	日
入院平均単価	13,278	円

新患者数

初診料算定対象患者数
154 人

外　来

外来延べ患者数
1,323 人
（前年比 35.0%減）

1日平均外来患者数	5	人
外来平均単価	6,955	円

明石医療センター

入　院

入院延べ患者数
127,738 人
（前年比 5.5%減）

1日平均入院患者数	349	人
新入院患者数	11,392	人
退院患者数	11,398	人
病床利用率	91.4	%
平均在院日数	11.2	日
入院平均単価	77,164	円

新生児数

延べ新生児数	1,897	人
分娩数	775	人

新患者数

初診料算定対象患者数
21,396 人

外　来

外来延べ患者数
142,093 人
（前年比 7.4%減）

1日平均外来患者数	585	人
外来平均単価	20,526	円

紹　介

開業医紹介数
13,058 件

救急搬送数
5,019 件

入院救急搬送数	2,813	件
外来救急搬送数	2,206	件

手術件数

合計
3,353 件

内科	11	件
循環器内科	123	件
消化器内科	56	件
外科	918	件
心臓血管外科	504	件
呼吸器外科	140	件
整形外科	909	件
産婦人科	692	件

剖検数

剖検数	12	件
剖検率	3.4	%

死亡数

死亡数
353 人

井上病院

入　院

入院延べ患者数
36,218 人
（前年比 6.7%減）

1日平均入院患者数	99	人
新入院患者数	2,170	人
退院患者数	2,186	人
病床利用率	77.9	%
平均在院日数	16.6	日
入院平均単価	51,039	円

新患者数

初診料算定対象患者数
5,266 人

統計総括

外　来

外来延べ患者数

54,477 人

（前年比 2.8%減）

1日平均外来患者数 **185** 人

外来平均単価 **20,563** 円

紹　介

開業医紹介数

1,716 件

手術件数

合計

738 件

外科	257 件	泌尿器科	50 件
整形外科	164 件	眼科	161 件
		内科	18 件
		血管外科	86 件
		麻酔科	2 件

あいわクリニック

入　院

入院なし

新患者数

初診料算定対象患者数

102 人

外　来

外来延べ患者数

2,845 人

（前年比 74.3%増）
※2019 年 6 月より稼働

1日平均外来患者数 **12** 人

外来平均単価 **2,365** 円

外部研修・研究実績

千船病院

口頭発表 (2020/1/1～2020/12/31)

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
1	第230回日本内科学会近畿地方会	たこつぼ型心筋症様の収縮障害を呈した急性心筋梗塞の1例	’20/12	Web	診療部 循環器内科	甲斐幸樹，足立和正， 宮井祐也，高橋典子， 濱田晶子，二宮幸三， 板垣　毅，尾崎正憲
2	第63回日本糖尿病学会年次学術集会	出血性胃潰瘍を合併し，大量輸血を要した糖尿病性ケトアシドーシスの一例	’20/10	Web	診療部 糖尿病内分泌科	好木康明，中島進介， 大島令子，佐藤洋幸， 髙橋哲也
3	第10回近畿肥満外科治療研究会	糖尿病・減量外科における周術期管理について	’20/10	Web	診療部 糖尿病内分泌科	中島進介
4	第30回日本内分泌学会臨床内分泌代謝Up date	Plummer病治療後にインスリン離脱しえた急性発症1型糖尿病の1例	’20/11	Web	診療部 糖尿病内分泌科	佐々木百合子，中島進介， 髙橋哲也
5	第30回日本内分泌学会臨床内分泌代謝Up date	当院で施行されたスリーブ胃切除後の糖尿病非寛解例例に対する薬物療法の現状について	’20/11	Web	診療部 糖尿病内分泌科	佐々木百合子，藤林令子， 中島進介，髙橋哲也， 北濱誠一（外科）
6	第30回日本内分泌学会臨床内分泌代謝Up date	インスリン治療中の肥満患者におけるスリーブ状胃切除術の効果	’20/11	Web	診療部 糖尿病内分泌科	中島進介，藤林令子， 佐々木百合子，髙橋哲也， 北濱誠一（外科）
7	日本消化器病学会近畿支部第113回例会	EUS-FNAにてリンパ脈管筋腫症（LAM）と診断した後腹膜腫瘤の一例	’20/10	公募	診療部 消化器内科	南條　望，船津英司， 瀧本　将，名方勇介， 羽鳥広隆，板東正貴， 那賀川　峻
8	日本消化器病学会近畿支部第113回例会	G-CSF産生胃癌の一例	’20/10	公募	診療部 消化器内科	瀧本　将，那賀川　峻， 南條　望，名方勇介， 羽鳥広隆，板東正貴， 船津英司
9	第50回日本腎臓学会西部学術大会	急性妊娠脂肪肝に伴う尿崩症に対し，帝王切開・多量補液で改善した1例	’20/10	Web	診療部 腎臓内科	山本真有佳，中西昌平， 高木泰尚，宇高千恵， 服部英明
10	第14回内科学セミナー	診断・治療に苦慮した結核性髄膜炎の症例における当院での対応	’20/11	Web	診療部 総合内科	上門弘亘，二宮幸三， 依藤兼太郎，藤田芳正
11	第84回日本循環器病学会	It’s time to consider bariatric surgery in Japanese patients	’20/7	Web	診療部 外科	北濱誠一
12	肥満外科治療Program by ZOOM	肥満外科治療の安全な導入に向けて	’20/9	Web	診療部 外科	北濱誠一
13	第63回日本糖尿病学会年次学術集会	糖尿病に対する外科治療：腹腔鏡下スリーブ術137症例の成績	’20/10	Web	診療部 外科	北濱誠一，松下和子， 桃野鉄平，三原俊彦， 大浦康宏，山元康義， 向井友一郎，佐藤洋幸， 中島進介[1)]，髙橋哲也[1)] 1）糖尿病内分泌内科
14	肥満の内科と外科の連携 -地域連携も含めて-	肥満・糖尿病に対する外科治療の実際	’20/12	吹田市	診療部 外科	北濱誠一
15	第75回日本消化器外科学会総会	腹腔鏡下スリーブ術とGERD：修正RY胃バイパス術の短期成績	’20/12	和歌山市	診療部 外科	北濱誠一，桃野鉄平， 三原俊彦，大浦康宏， 山元康義，向井友一郎
16	第22回西淀小児科懇話会	重症ケトン性低血糖症を呈した幼児の2例	’20/7	大阪市	診療部 小児科	横山陽子，福田祥直， 桝田千晶，川村　葵， 福田拓弥，武田紗季， 住吉倫卓，井上翔太， 甲斐智彦，榎本真由子， 木原沙紀，水野洋介， 横田知之，牟禮岳男， 西野昌光，吉井勝彦

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
17	第22回西淀小児科懇話会	当院におけるCOVID-19への取り組み ～周産期・小児～	’20/7	大阪市	診療部 小児科	横田知之，桝田千晶， 福田祥直，横山陽子， 福田拓弥，川村　葵， 武田紗季，住吉倫卓， 井上翔太，甲斐智彦， 榎本真由子，木原沙紀， 水野洋介，牟禮岳男， 西野昌光，吉井勝彦
18	第22回西淀小児科懇話会	胎児胸水で緊急帝王切開となった双胎児	’20/7	大阪市	診療部 小児科	福田祥直，桝田千晶， 横山陽子，川村　葵， 福田拓弥，武田紗季， 住吉倫卓，井上翔太， 甲斐智彦，榎本真由子， 木原沙紀，水野洋介， 横田知之，牟禮岳男， 西野昌光，吉井勝彦
19	第22回西淀小児科懇話会	下肢の運動障害・便秘で受診した8歳男児の一例	’20/7	大阪市	診療部 小児科	桝田千晶，福田祥直， 横山陽子，川村　葵， 福田拓弥，武田紗季， 住吉倫卓，井上翔太， 甲斐智彦，榎本真由子， 木原沙紀，水野洋介， 横田知之，牟禮岳男， 西野昌光，吉井勝彦
20	第281回小児科学会兵庫県地方会	検鏡検査は陰性で培養検査で診断に至ったケルスス禿瘡の1例	’20/9	神戸市 (Web)	診療部 小児科	福田拓弥，牟禮岳男， 桝田千晶，川村　葵， 武田紗季，住吉倫卓， 井上翔太，榎本真由子， 藤坂方葉，木原沙紀， 水野洋介，横田知之， 西野昌光，吉井勝彦
21	第281回小児科学会兵庫県地方会	背部痛と便秘で受診し下肢運動障害を来したEwing肉腫の1例	’20/9	神戸市 (Web)	診療部 小児科	桝田千晶，牟禮岳男， 川村　葵，福田拓弥， 武田紗季，住吉倫卓， 井上翔太，榎本真由子， 藤坂方葉，木原沙紀， 水野洋介，横田知之， 西野昌光，吉井勝彦
22	第336回NMCS例会	PPHNを呈した先天梅毒の一例	’20/10	大阪市 (Web)	診療部 小児科	横山陽子，福田祥直， 桝田千晶，川村　葵， 福田拓弥，武田紗季， 住吉倫卓，井上翔太， 甲斐智彦，古林真佐美， 榎本真由子，藤坂方葉， 木原沙紀，水野洋介， 横田知之，牟禮岳男， 西野昌光，吉井勝彦
23	第93回日本整形外科学会学術集会	TKAのおける内外反ストレスの許容性は術後の関節可動域に影響を及ぼす	’20/6	Web	診療部 整形外科	鄭　克真，田中秀弥， 蓑田正也，松田　茂
24	第57回日本リハビリテーション医学会学術集会	大腿骨頚部骨折患者の入院時栄養状態は術後経過に影響を及ぼすか	’20/8	京都市	診療部 整形外科	松田　茂
25	Great Expectations Online -Live Seminar-2020	TKAにおける前後不安定性を回避する手技～内側安定性の重要性～	’20/9	Web	診療部 整形外科	鄭　克真
26	JOSKAS 2020 Beyond2020 - Harmony and Progress-	Advanced Gap Sizerを用いた内側を回旋中心とした後顆の骨切りはMeasured Resection法TKAにおいて術後成績に良好な影響を与える	’20/12	神戸市	診療部 整形外科	鄭　克真，蓑田正也， 松田　茂
27	第34回日本泌尿器内視鏡学会総会	輸血を要した若年特発性腎出血の1例	’20/11	Web	診療部 泌尿器科	楊　東益，新開康弘， 樋口喜英，川口理作
28	第108回日本泌尿器科学会総会	当院における高度肥満患者の結石保有率とメタボリックシンドローム（Me+S）についての検討	’20/12	神戸市	診療部 泌尿器科	楊　東益，新開康弘， 樋口喜英，川口理作

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
29	第72回日本産科婦人科学会学術集会	子宮頸部円錐切除直後に妊娠し，産後外来した月経で頸管狭窄による子宮留血症を発症した一例	’20/4	Web	診療部 産婦人科	北　采加，村越　誉， 小倉直子，河谷春那， 加嶋洋子，細川雅代， 山﨑　亮，大木規義， 安田立子，稲垣美恵子， 岡田十三，本山　覚， 吉田茂樹
30	第72回日本産科婦人科学会学術集会	SBARに対する新しい客観的な評価方法	’20/4	Web	診療部 産婦人科	岡田十三，加嶋洋子， 佐伯信一郎，佐藤華子， 細川雅代，山﨑　亮， 大木規義，安田立子， 稲垣恵美子，村越　誉， 本山　覚，吉田茂樹
31	第142回近畿産婦人科学会学術集会	当院における早期子宮体癌に対する腹腔鏡下手術と開腹手術の比較検討	’20/6	Web	診療部 産婦人科	三木玲奈，吉田　茂樹， 田邉　文，佐伯信一朗， 山﨑　亮，稲垣恵美子， 安田立子，大木規義， 村越　誉，岡田十三
32	第142回近畿産婦人科学会学術集会	尿管損傷を防ぐロボット支援腹腔鏡下子宮全摘術	’20/6	Web	診療部 産婦人科	山﨑　亮，大木規義， 北井沙和，河谷春那， 三木玲奈，小倉直子， 小川紋奈，北口智美， 田邉　文，加嶋洋子， 佐伯信一朗，佐藤華子， 細川雅代，安田立子， 稲垣恵美子，村越　誉， 岡田十三，吉田茂樹
33	第142回近畿産婦人科学会学術集会	スパチュラ，ベッサルシーラーを用いたda Vinci TLHの定型化	’20/6	Web	診療部 産婦人科	大木規義，北井沙和， 河谷春那，三木玲奈， 小倉直子，北口智美， 田邉　文，佐藤華子， 佐伯信一郎，加嶋洋子， 山﨑　亮，細川雅代， 安田立子，稲垣恵美子， 村越　誉，岡田十三， 吉田茂樹
34	日総合研セミナー	胎児心拍数モニタリング判読ざんまい	’20/7	Web	診療部 産婦人科	岡田十三
35	第43回日本産婦人科手術学会	Informativeな手術合併症「safety lineへの意識」	’20/11	Web	診療部 産婦人科	細川雅代
36	第35回日本女性医学学会学術集会	当院における妊娠糖尿病褥婦の外来管理と転帰	’20/11	東京都	診療部 産婦人科	安田立子，河谷春那， 北井沙和，山﨑　亮， 稲垣恵美子，村越　誉， 岡田十三
37	第35回日本女性医学学会学術集会	当院で経験した脳梗塞・深部静脈血栓症から発見された卵巣明細胞癌症例	’20/11	東京都	診療部 産婦人科	河谷春那，安田立子， 北井沙和，山﨑　亮， 稲垣恵美子，村越　誉， 岡田十三
38	第35回日本女性医学学会学術集会	子宮頸部円錐切除直後に妊娠し，産後外来した月経で頸管狭窄による子宮留血症を発症した一例	’20/11	東京都	診療部 産婦人科	北　采加，村越　誉， 小倉直子，河谷春那， 加嶋洋子，細川雅代， 山﨑　亮，大木規義， 安田立子，稲垣美恵子， 岡田十三，本山　覚， 吉田茂樹
39	第35回日本女性医学学会学術集会	術前診断し得た高齢女性の子宮捻転の一例	’20/11	東京都	診療部 産婦人科	田邉　文，登村友里， 山﨑友雄，黄　豊羽， 小嶋伸恵，森田宏紀， 安田立子，稲垣恵美子， 村越　誉，岡田十三
40	第60回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	TLHデバイス選択と安全な手術戦略	’20/12	Web	診療部 産婦人科	大木規義

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
41	第60回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	「脂肪を切らないLatzko展開」による，内腸骨節郭清ラインの可視化	’20/12	Web	診療部 産婦人科	大木規義，山﨑　亮， 胡　脩平，大和奈津子， 二木ひとみ，荻本圭佑， 北　采加，嶋村卓人， 田中美喜歩，中川公平， 細川雅代，城　道久， 安田立子，稲垣恵美子， 村越　誉，岡田十三， 吉田茂樹
42	第60回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	行き先が視える剥離切離～ロボット支援下子宮全摘～	’20/12	Web	診療部 産婦人科	山﨑　亮，大木規義， 瀧川　若，荒木裕子， 苔原つばさ，二木ひとみ， 小倉直子，河谷春那， 北井沙和，小川紋奈， 中川公平，杉野祥代， 加嶋洋子，佐藤華子， 細川雅代，安田立子， 稲垣恵美子，村越　誉， 岡田十三，吉田茂樹
43	第60回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	卵管間膜内に発症した子宮内膜症性のう胞の1例-子宮内膜症の発生機序についての検討を加えて-	’20/12	Web	診療部 産婦人科	嶋村卓人，大木規義， 山﨑　亮，加嶋洋子， 荻本圭佑，江島有香， 下川　航，吉田茂樹
44	第60回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	腹腔鏡下子宮全摘術に尿管ステントが有効であった2例	’20/12	Web	診療部 産婦人科	加嶋洋子，稲垣恵美子， 小川紋奈，田邉　文， 北口智美，北井沙和， 嶋村拓人，細川雅代， 山﨑　亮，安田立子， 大木規義，村越　誉， 岡田十三，吉田茂樹
45	第60回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	スパチュラ，ベッサルシーラーを用いたda Vinci TLHの定型化	’20/12	Web	診療部 産婦人科	加嶋洋子，大木規義， 瀧川　若，杉野祥代， 中川公平，河谷春那， 小川紋奈，小倉直子， 北井沙和，細川雅代， 山﨑　亮，安田立子， 稲垣恵美子，村越　誉， 岡田十三，吉田茂樹
46	第60回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	骨盤神経叢の可視化による，確実な自立神経温存手技	’20/12	Web	診療部 産婦人科	大木規義，山﨑　亮， 胡　脩平，大和奈津子， 二木ひとみ，荻本圭佑， 北　采加，嶋村卓人， 田中美喜歩，中川公平， 細川雅代，城　道久， 安田立子，稲垣恵美子， 村越　誉，岡田十三， 吉田茂樹
47	第72回日本産科婦人科学会	産科麻酔における合併症と急変対応	’20/4	Web	診療部 麻酔科	魚川礼子
48	第1回日本周産期麻酔科学会	無痛分娩医療の導入	’20/8	Web	診療部 麻酔科	魚川礼子
49	第25回日本心臓血管麻酔学会学術大会	心タンポナーゼを契機に診断された右心房原発血管肉腫の麻酔経験	’20/9	Web	診療部 麻酔科	角　千里
50	第40回日本臨床麻酔学会	覚せい剤中毒の妊婦における全身麻酔の経験	’20/11	Web	診療部 麻酔科	山田真唯子，魚川礼子， 星野和夫，大山泰幸， 金岡由起，河野克彬

論文発表（2020/1/1～2020/12/31）

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	部署名	著　者
1	HeartRhythm Case Reports	Effect of the interatrial connection on the isolation line of the right pulmonary vein	6 (9)	583-587, 2020	診療部 循環器内科	Hirayama Y, Adachi K, Kawata M

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	部署名	著　者
2	日本病院総合診療医学会雑誌	抗プロラクチン療法が著効した周産期心筋症の1例	16(5)	360-366, 2020	診療部 総合内科	二宮幸三，栗本浩行， 尾崎正憲，濱田晶子， 依藤兼太郎，船津英司， 髙橋哲也，金　鐘一
3	大阪救急	胆石イレウスによる食道破裂の1例	101	15-20, 2020	診療部 外科	向井友一郎，桃野鉄平， 三原俊彦，大浦康宏， 北濵誠一，山元康義
4	医学のあゆみ	肥満に対する手術の実際	274	955-959, 2020	診療部 外科	北濵誠一
5	ANTICANCER RESEARCH	Association Between FOXP3/CD8 Lymphocyte Ratios and Tumor Infiltrating Lymphocyte Levels in Different Breast Cancer Subtypes	40(4)	2141-2150, 2020	診療部 病理診断科	REIKO FUKUI, YUKIE FUJIMOTO, TAKAHIRO WATANABE, NATSUKO INOUE, AYAKO BUN, TOMOKO HIGUCHI, MICHIKO IMAMURA, KOJI MORIMOTO, SEIICHI HIROTA, YASUO MIYOSHI
6	ANTICANCER RESEARCH	Prognostic Significance of Neutrophil-to-lymphocyte Ratio in Luminal Breast Cancers With Low Levels of Tumour-infiltrating Lymphocytes	40(5)	2871-2880, 2020	診療部 病理診断科	AYAKO BUN, YUKIE FUJIMOTO, TOMOKO HIGUCHI, ATSUSHI SATA, REIKO FUKUI, HIROMI OZAWA, YOSHIMASA MIYAGAWA, MICHIKO IMAMURA, TAKAHIRO WATANABE, YASUO MIYOSHI
7	World Journal of Surgical Oncology	A case of planar-type GIST of the sigmoid colon showing diverticular structure with perforation	18(1)	125, 2020	診療部 病理診断科	Yuka Shintaku, Yuya Asano, Takahiro Watanabe, Takako Kihara, Eri Ishikawa, Yuan Jiayin, Neinei Kimura, Koji Kinoshita, Seiichi Hirota
8	愛仁会医学研究誌	発熱，意識レベル低下で発症した急性巣状細菌性腎炎の小児2症例	51	21-23, 2020	診療部 小児科	古林真佐美，牟禮岳男， 川村　葵，山本香織， 福田拓弥，角谷哲基， 河野一誠，武田紗季， 東口素子，井上翔太， 榎本真由子，水野洋介， 下村真由美，西野昌光， 吉井勝彦
9	愛仁会医学研究誌	発症早期と誤認した重症心身障がい児の膿胸の1例	51	17-20, 2020	診療部 小児科	岩田康平，牟禮岳男， 榎本真由子，水野洋介， 下村真由美，西野昌光， 吉井勝彦
10	日本周産期・新生児医学会雑誌 in press	妊娠中に発見されたIC期上皮性卵巣癌合併妊娠2症例についての検討	56	282-289, 2020	診療部 産婦人科	京本　萌，安田立子， 小川紋奈，村越　誉， 吉田茂樹
11	日本頭痛学会誌	月経時片頭痛の集中的治療	47	152-155, 2020	診療部 産婦人科	稲垣恵美子
12	JA Clin Rep	A rare case of atropine-resistant bradycardia following sugammadex administration	6(1)	18, 2020	診療部 麻酔科	Yoshida T, Sumi C, Uba T,Miyata H, Umegaki T, Kamibayashi T
13	日本産科婦人科学会雑誌	産科麻酔における合併症と急変対応	72	1759-63, 2020	診療部 麻酔科	魚川礼子

著書発表（2020/1/1～2021/12/31）

No.	著　書　名	出版社・地名	版・刷	掲載頁，年	部署	著　者
1	［新版］助産業務要覧アドバンス編 助産サービスの提供体制 院内助産・助産師外来	日本看護協会出版会/東京	3	60-67，2020	診療部 産婦人科	岡田十三
2	妊産婦の保健指導 トラの巻 助産師の指導・説明に役立つ回答・アドバイス集 妊娠中・末期 難産予防　難産は予防できますか（解説・特集）	メディカ出版/大阪	夏季増刊	159-163，2020	診療部 産婦人科	岡田十三
3	ペリネイタルケア 無痛分娩の麻酔合併症 総論	メディカ出版/大阪	39	1171-3，2020	診療部 麻酔科	魚川礼子
4	ペリネイタルケア 無痛分娩の麻酔合併症 致死的合併症論	メディカ出版/大阪	39	1174-7，2020	診療部 麻酔科	魚川礼子

その他（2020/1/1～2020/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
1	第84回日本循環器学会学術集会	Ventricular Arrhythmia 3　座長	’20/7	Web	診療部 循環器内科	足立和正
2	第10回近畿肥満外科治療研究会	一般講演　座長	’20/10	Web	診療部 糖尿病内分泌科	髙橋哲也
3	肥満の内科と外科の連携	特別講演　座長	’20/12	Web	診療部 糖尿病内分泌科	髙橋哲也
4	第22回西淀小児科懇話会	座長	’20/7	大阪市	診療部 小児科	吉井勝彦
5		無痛分娩導入	’20/10	広島市	診療部 麻酔科	魚川礼子

高槻病院

口頭発表（2020/1/1～2020/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
1	第60回日本呼吸器内科学会学術講演会	気胸を初発症状とした悪性胸膜中皮腫の一例	’20/9	Web	診療部 呼吸器内科	福井宗文，山岡貴志， 高宮　麗，山田　潤， 小濵みずき，梅谷俊介， 中村美保，上領　博， 船田泰弘，大隈宏通， 椎名祥隆，大久保貴子， 伊倉義弘
2	第103回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	減感作療法中に発症した好酸球性胃腸炎の一例	’20/1	大阪市	診療部 消化器内科	石原美崎
3	第103回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	右側結腸に発症した全周性潰瘍性病変を伴う虚血性大腸炎の1例	’20/1	大阪市	診療部 消化器内科	伊藤裕貴
4	第112回日本消化器病学会近畿支部例会	肝粘液性嚢胞性腺腫（MCN）の一例	’20/2	Web	診療部 消化器内科	金丸薫子
5	第42回日本癌局所療法研究会	手術と化学療法により無再発生存が得られている腹膜播種を伴う膵体部癌の1例	’20/5	誌上	診療部 消化器内科	金丸薫子
6	第3回Kobe IBD Clinical Conference	当院における重症潰瘍性大腸炎に対するタクロリムス投与症例	’20/9	神戸市	診療部 消化器内科	西川浩介
7	第74回日本食道学会学術集会	診断に難渋した多発リンパ節転移・膵転移・胆管転移を伴う食道扁平上皮癌の一例	’20/12	Web	診療部 消化器内科	伊藤裕貴
8	第14回神戸内科学セミナー	びまん性肺胞出血，重症腎障害を呈した顕微鏡的多発血管炎の症例における当院での対応	’20/11	Web	診療部 循環器内科	影山達也，片平龍太郎， 田中友望，湯口　賢， 佐野浩之，村井直樹， 中島健爾
9	第130回日本循環器学会近畿地方会	γグロブリン大量療法およびステロイド療法が奏功したと考えられた急性心筋炎の1例	’20/11	Web	診療部 循環器内科	神末真由，上村航也， 佐々木　諭，湯口　賢， 佐野浩之，松寺　亮， 村井直樹，中島健爾， 安部博昭，髙岡秀幸
10	第227回日本内科学会近畿地方会	抗GAD抗体陽性で経過観察中のバセドウ病に発症した緩徐進行1型糖尿病の1例	’20/3	京都（中止）	診療部 糖尿病内分泌内科	浅井麻由，平賀千尋， 陳　慶祥
11	第57回日本糖尿病学会近畿地方会	高血糖で流産となったがCSII導入しコントロール良好となった若年2型糖尿病の一例	’20/10	Web	診療部 糖尿病内分泌内科	影山智子，平賀千尋， 岡　亜希子，吉田健一， 陳　慶祥
12	第63回日本糖尿病学会学術集会	当院で経験した1型糖尿病とバセドウ病を合併した症例	’20/10	Web	診療部 糖尿病内分泌内科	平賀千尋，陳　慶祥
13	第21回日本内分泌学会近畿支部学術集会	当院で経験した1型糖尿病とバセドウ病を合併した症例	’20/11	Web	診療部 糖尿病内分泌内科	平賀千尋，岡　亜希子， 吉田健一，陳　慶祥
14	第84回日本循環器学会	Relationship between Spatiotemporal Electrogram Dispersion and Complex Fractionated Atrial Electrogram in Patients with Non-Paroxysmal Atrial Fibrillation	’20/7	Web	診療部 不整脈内科	Kensuke Sakata, Soichiro Yamashita, Kohei Yamashiro
15	日本不整脈心電学会　夏季EP Web講演会	New Ablation Strategy for Persistent Atrial Fibrillation with CARTOFINDER®	’20/8	Web	診療部 不整脈内科	山城荒平，高橋良英
16	日本不整脈心電学会　夏季EP Web講演会	ビデオライブ2　持続性心房細動に対するカテーテルアブレーション：spacio-temporal dispersion electrogram adlation	’20/8	Web	診療部 不整脈内科	山城荒平，藤生克仁
17	日本不整脈心電学会　夏季EP Web講演会	Beyond PVⅠ　～PVⅠの先に求めるもの～	’20/8	Web	診療部 不整脈内科	熊谷浩一郎，高橋良英， 増田正晴，山城荒平

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
18	心電学関連研究会2020	電極カテーテルの心筋コンタクトと局所記録心電図の関係：シミュレーションによる検討	’20/12	Web	診療部 不整脈内科	坂田憲祐，山城荒平
19	23rd EAFONS(East Asian Forum of Nursing Scholars)	A Phenomenological Description of the Experience of Suffering from Long-term Chronic Disease: The Structure of Living with Illness	’20/1	タイ	診療部 精神科	杉林　稔
20	第120回臨床実践の現象学研究会	小児・新生児科熟練看護師による患児の非言語的メッセージ読み取り能力についての現象学的研究	’20/2	豊中市	診療部 精神科	杉林　稔
21	第67回日本病跡学会	病跡学の水底　精神病者を歌う茂吉	’20/8	下野市	診療部 精神科	杉林　稔
22	日本精神病理学会第43回大会	うつ病と暦時間「あとの祭り」と「きのうの祭り」	’20/10	Web	診療部 精神科	杉林　稔
23	第61回日本臨床細胞学会総会・春期大会	肺原発滑膜肉腫の1例	’20/6	Web	診療部 病理診断科	井本智子，飯塚梨沙， 平尾美智，谷口由美， 仲谷武史，大久保貴子， 伊倉義弘，岩井泰博， 岡部英俊
24	第109回日本病理学会	繰り返す難治性気胸を主病像とし，食道狭窄を合併した悪性胸膜中皮腫の一剖検例	’20/7	Web	診療部 病理診断科	大久保貴子，伊倉義弘， 福井崇文[1)]，梅谷俊介[1)]， 大隈宏通[2)]，谷本直紀[3)]， 岡部英俊[4)]，岩井泰博 1）呼吸器内科 2）呼吸器外科 3）消化器内科 4）和行会西洞院仏光寺クリニック病理診断科
25	第123回日本小児科学会	食物経口負荷試験に用いる少量加熱全卵粉末の研究開発から上市にむけての活動	’20/8	Web	診療部 小児科	榎本真宏[1・2)]， 谷内昇一郎，岡藤郁夫[3)]， 田中裕也[4)]，笠井和子[4)]， 西野昌光[5)]，高松伸枝[6)]， 柳田紀之[7)]，海老澤元宏[8)] 1）高槻病院小児科 2）株式会社たまこな 3）神戸市立医療センター中央市民病院小児科 4）兵庫県立こども病院アレルギー科 5）千船病院小児科 6）別府大学食物栄養科学部 7）国立病院機構相模原病院小児科 8）国立病院機構相模原病院臨床研修センター
26	第69回日本アレルギー学会	当院で経験したFood protein-induced enterocolitis syndrome（FPIES）の11例	’20/9	Web	診療部 小児科	今出　礼，谷内昇一郎， 松井美樹，郷間　環， 多賀陽子，榎本真宏， 西野昌光[1)]，石森真吾， 起塚　庸 1）千船病院小児科
27	第62回日本小児神経学会学術集会	Two cases of cerebral cavernous malformations in the cerebellar vermis with slow progression（緩徐な臨床経過を呈した小児の小脳虫部綿状血管腫の2例）	’20/9	Web	診療部 小児科	服部有香，藤永貴大[1)]， 宇津木玲奈，有田英之[1)]， 前野和重[1)]，大西　聡， 起塚　庸，宇都宮英綱[2)]， 原田敦子[3)] 1）脳神経外科 2）帝京大学医学部附属病院放射線科 3）小児脳神経外科
28	JSA/WAO Joint Congress 2020	当院で経験したFPIESの10例	’20/9	Web	診療部 小児科	今出　礼，谷内昇一郎， 松井美樹，小山智志， 郷間　環，多賀陽子， 榎本真宏， 西野昌光（千船病院）， 石森真吾，起塚　庸

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
29	第40回日本川崎病学会	川崎病既往のない右巨大感動脈瘤血栓閉塞による急性心筋梗塞を呈した一例	’20/10	Web	診療部 小児科	内山敬達，大西　聡， 石森真吾，起塚　庸， 南　宏尚
30	第48回日本小児神経外科学会	Proteus mirabilis 髄膜炎に多発性脳腫瘍を併発した新生児の一例	’20/11	Web	診療部 小児科	松浦　想，宇津木玲奈[1)]， 藤永貴大[2)]，有田英之[2)]， 前野和重[2)]，大西　聡， 石森真吾，起塚　庸， 原田敦子[1)] 1）小児脳神経外科 2）脳神経外科
31	Europian society of Human Genetics 2020	A female case of antenatal Bartter’s Syndrome with a novel variant in MAGED2 manifesting with severe polyhydramnios and intrauterine fetal death.	’20/6	Web	診療部 新生児科	Miwako Nagasaka, Yuka Yotsumoto, Satoshi Nakago, China Nagano, Naoya Morisada, Kandai Nozu, Kazumoto Iijima, Tomoko Tamaoki
32	とことん新生児セミナー2020	母乳で母と子を何十年先まで健康に～がんばっているお母さんをねぎらい支える～	’20/9	Web	診療部 新生児科	菊池　新
33	American society of Human Genetics meeting 2020	Assessment of upper limb muscles in patients with Fukuyama muscular dystrophy: noninvasive assessment using ultrasound and shear wave elastography.	’20/10	Web	診療部 新生児科	Miwako Nagasaka, Mariko Taniguchi, Risa Harada, Tetsushi Yamamoto, Yoshitada Sakai, Hiroki Kurahashi, Ryosuke Kuroda, Kazumoto Iijima, Tatsushi Toda
34	日本人類遺伝学会第65回大会	著明な羊水過多をきたし子宮内胎児死亡となったMAGED2変異による胎児期Bartter症候群の一例	’20/11	Web	診療部 新生児科	長坂美和子，四本由郁， 長野智那，森貞直哉， 野津寛大，飯島一誠， 玉置知子
35	第57回日本小児外科学会	先天性食道閉鎖症術後に生じた右肋骨慢性骨髄炎の経過-続報-	’20/9	Web	診療部 小児外科	久松千恵子， 高成田祐希，服部健吾， 津川二郎，西島栄治
36	第57回日本小児外科学会	LPEC術中に偶発的に発見されたmesodiverticular bandの一例	’20/9	Web	診療部 小児外科	辻　恵未，岩渕瀬怜奈， 服部健吾，久松千恵子， 西島栄治
37	第57回日本小児外科学会	僕がどのようにして小児外科医になったか，そして．．．	’20/9	Web	診療部 小児外科	服部健吾
38	第73回日本胸部外科学会学術集会	自然気胸に対してリインフォースカートリッジを使用した手術の治療成績の検討	’20/11	Web	診療部 呼吸器外科	大隈宏通，椎名祥隆
39	第61回日本肺癌学会学術集会	同一肺葉内転移を認めた肺原発滑膜肉腫の1例	’20/11	岡山市	診療部 呼吸器外科	大隈宏通，椎名祥隆
40	第73回日本胸部外科学会	呼吸器外科医のための心臓大血管の解剖	’20/10	名古屋市	診療部 心臓・大血管センター	大北　裕
41	第42回日本癌局所療法研究会	手術と化学療法により無再発生存が得られている腹膜播種を伴う膵体部癌の1例	’20/5	Web	診療部 消化器外科	金丸薫子，岡崎太郎， 谷本直紀，田中聡志， 岩渕瀬怜奈， 大和田善之，細野雅義， 川崎健太郎，中島卓利
42	第42回日本癌局所療法研究会	胃癌，肝内胆管癌，前立腺癌の同時性三重複癌の1例	’20/5	Web	診療部 消化器外科	田中聡志，岡崎太郎， 大和田善之， 岩渕瀬怜奈，細野雅義， 川崎健太郎

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
43	第92回日本胃癌学会	術後に第Ⅷ凝固因子インヒビターによる後天性血友病を発症した胃癌と噴門部癌の2例	’20/7	Web	診療部 消化器外科	川崎健太郎，朝倉　力， 田中聡志，岩渕瀬怜奈， 細野雅義，大和田義之， 岡崎太郎，家永徹也， 藤野泰宏[1)]，冨永正寛[1)] 1）兵庫県立がんセンター 消化器外科
44	第57回日本小児外科学会	乳児期に先天性間葉芽腎腫の集学的治療を受け19歳時に偶然発見された後腹膜腫瘤の一例	’20/9	Web	診療部 消化器外科	田中聡志，服部健吾， 岩渕瀬怜奈， 高成田祐希， 久松千恵子，津川二郎， 西島栄治
45	第56回日本腹部救急医学会	術後長期生存を得た高齢者の残胃びまん性大細胞型B細胞リンパ腫横行結腸瘻の穿孔の一例	’20/10	Web	診療部 消化器外科	宮崎稜介，川崎健太郎， 大和田善之， 岩渕瀬怜奈，田中聡志， 細野雅義，岡崎太郎， 家永徹也
46	第56回日本腹部救急医学会	子宮頸癌術後放射性腸炎に合併したPress Through Package（PTP）誤飲による回腸穿孔の1例	’20/10	Web	診療部 消化器外科	岩渕瀬怜奈，細野雅義， 川崎健太郎，田中聡志， 大和田善之，岡崎太郎， 家永徹也
47	第56回日本腹部救急医学会	10年前の人工血管吻合部から形成した仮性動脈瘤が十二指腸に穿破した1例	’20/10	Web	診療部 消化器外科	田中聡志，大和田善之， 川崎健太郎， 岩渕瀬怜奈，細野雅義， 岡崎太郎
48	第28回日本乳癌学会学術総会	Breast carcinoma with choriocarcinomatous featuresの1例	’20/10	Web	診療部 乳腺外科	三成善光
49	第28回日本乳癌学会学術総会	妊娠中期より術前化学療法を行い術後3か月で脳転移を起こした妊娠期乳がんの1例	’20/10	Web	診療部 乳腺外科	下山京子
50	日本人類遺伝学会第65回大会	BRCAコンパニオン診断によりBRCA1 inconclusiveと判断された症例への対応の問題	’20/11	Web	診療部 乳腺外科	下山京子
51	第79回日本脳神経外科学会	遺残原始舌下神経動脈の同側頸動脈病変に対し頸動脈内膜剥離術を行った一例	’20/9	Web	診療部 脳神経外科	有田英之，宇津木玲奈， 藤永貴大，中村夏樹， 原田敦子[1)]，前野和重 1）小児脳神経外科
52	第48回日本小児神経外科学会	硬膜下腹腔シャント術後にpericatheter cystを形成した一例	’20/11	Web	診療部 脳神経外科	中村夏樹，大熊尚美， 宇津木玲奈，藤永貴大[1)]， 有田英之[1)]，前野和重， 宇都宮英綱[2)]，原田敦子 1）脳神経外科 2）帝京大学放射線科講座
53	第48回日本小児神経外科学会	pial AVFを認めたcapillary malformation-arteriovenous malformationの家族例	’20/11	Web	診療部 脳神経外科	前野和重，宇津木玲奈[1)]， 原田敦子[1)]，藤永貴大， 有田英之，宇都宮英綱[2)] 1）小児脳神経外科 2）帝京大学医学部放射線科
54	第36回日本脳神経血管内治療学会学術総会	プラチナコーティングステント開発における実験的検討	’20/11	京都市	診療部 脳神経外科	前野和重，中村夏樹， 川本有輝，有田英之， 堀内一臣[1)]，渡辺善一郎[1)]， 渡邉一夫[1)] 1）総合南東北病院脳神経外科
55	第16回Craniosynostosis研究会	頭蓋骨縫合早期癒合症術後の児に対する放射線被曝軽減の試み	’20/11	さいたま市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子，川本有輝， 中村夏樹[1)]，有田英之[1)]， 前野和重[1)]，髙橋　哲[2)]， 久徳茂雄[3)]，上田晃一[4)] 1）高槻病院脳神経外科 2）高槻病院イメージング リサーチセンター 3）市立奈良病院再建形成外科 4）大阪医科大学形成外科

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
56	第16回Craniosynostosis研究会	矢状縫合早期癒合症を合併したSotos症候群の一例	’20/11	さいたま市	診療部 小児脳神経外科	川本有輝，中村夏樹， 有田英之，前野和重， 原田敦子，久徳茂雄， 上田晃一
57	第5回頭蓋形状誘導療法研究会	頭の形外来での質問や疑問についてエビデンスと経験に基づいて考える	’20/11	さいたま市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子，岡本豊子， 高松亜子，金子　剛
58	第48回日本小児神経外科学会	硬膜下腹腔シャント術後にpericatheter cystを形成した一例	’20/11	Web	診療部 小児脳神経外科	中村夏樹，大熊尚美， 宇津木玲奈，藤永貴大， 有田英之，前野和重， 宇都宮英綱，原田敦子
59	第48回日本小児神経外科学会	18トリソミーに合併した脊髄髄膜瘤の治療	’20/11	Web	診療部 小児脳神経外科	宇津木玲奈，中田有紀， 岸上　真，四本由郁， 山中　巧，原田敦子
60	第48回日本小児神経外科学会	偶発的に認めた頭蓋骨腫瘤性病変から診断に至ったMcCune-Albright症候群の12歳男児例	’20/11	Web	診療部 小児脳神経外科	土肥周平，宇津木玲奈， 大西　聡，石森真吾， 起塚　庸，伊倉義弘， 本田美紗，柴田浩憲， 長谷川奉延，玉置知子， 原田敦子
61	第48回日本小児神経外科学会	Proteus mirabilis髄膜炎に多発性脳膿瘍を併発した新生児の一例	’20/11	Web	診療部 小児脳神経外科	松浦　想，宇津木玲奈， 藤永貴大，有田英之， 前野和重，大西　聡， 石森真吾，起塚　庸， 原田敦子
62	第48回日本小児神経外科学会	頭部手術後の乳児に対する放射線被曝軽減の試み	’20/11	Web	診療部 小児脳神経外科	原田敦子，宇津木玲奈， 藤永貴大，有田英之， 前野和重
63	第19回日本再生医療学会	変形性膝関節症に対する脂肪組織由来再生細胞（ADRC）関節内注射の早期臨床成績と関節鏡視下所見について	’20/3	Web	診療部 整形外科	尾ノ井勇麿，平中崇文， 田中聡一，藤代高明， 岡本剛治
64	第93回日本整形外科学会学術総会（オンライン学術総会）	Relathionship between medial meniscus posterior root tear and spontaneous osteonecrosis of the knee.	’20/6	Web	診療部 整形外科	Tanaka Toshikazu, Hiranaka Takafumi, Thar Chan[1)], Fujishiro Takaaki, Anjiki Kensuke, Nagata Naosuke, Kitazawa Daiya, Kotoura Ken 1)Mandalay, Myanmar
65	11th current concepts in Knee Joint Replacement（Insall seminar）	TKA failure, now and before	’20/7	Web	診療部 整形外科	平中崇文
66	11th current concepts in Knee Joint Replacement（Insall seminar）	TKA in tibial plateau flacture - It’s a new story	’20/7	Web	診療部 整形外科	平中崇文
67	11th current concepts in Knee Joint Replacement（Insall seminar）	COnversion form UKA to TKA - Like virgin?	’20/7	Web	診療部 整形外科	平中崇文
68	11th current concepts in Knee Joint Replacement（Insall seminar）	VItamin R Poly - Once and Forever	’20/7	Web	診療部 整形外科	平中崇文
69	11th current concepts in Knee Joint Replacement（Insall seminar）	PCL - role in the contmporary TKA	’20/7	Web	診療部 整形外科	平中崇文
70	Taiwan Webinar: Oxford Advanced User Forum	Win at the beginning: The key of case selection	’20/7	Web	診療部 整形外科	平中崇文
71	Taiwan Webinar: Oxford Advanced User Forum	Leave no one behind: How do I manage complications	’20/7	Web	診療部 整形外科	平中崇文
72	Knee Arthroplasty Discussion Meeting	Why Persona: Needs for an Anatomical Knee System	’20/10	Web	診療部 整形外科	平中崇文

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
73	Knee Arthroplasty Discussion Meeting	Bearing Options: Experiences in Medial Congruent	’20/10	Web	診療部 整形外科	平中崇文
74	Knee Arthroplasty Discussion Meeting	Clinical Outcome: My Persona Story	’20/10	Web	診療部 整形外科	平中崇文
75	Knee Arthroplasty Discussion Meeting	Master Oxford: My Surgical Tips and Pearls	’20/10	Web	診療部 整形外科	平中崇文
76	Knee Arthroplasty Discussion Meeting	Oxford Experience: Case Discussion	’20/10	Web	診療部 整形外科	平中崇文
77	第4回日本リハビリテーション医学会　秋季大会	私の勧める変形性膝関節治療-アライメント，軟部組織バランス，関節形態を温存した表面修復術	’20/11	神戸市	診療部 整形外科	平中崇文
78	JOSKAS-JOSSM2020	Radiographical decision aidによるUKAの適応判断の検者間一致	’20/12	神戸市	診療部 整形外科	平中崇文，安喰健祐，田中聡一，長田尚介，北澤大也，琴浦　健，藤代高明，岡本剛治
79	JOSKAS-JOSSM2020	Treatment of tibial fracture after medial Oxford UKA	’20/12	神戸市	診療部 整形外科	安喰健祐，平中崇文，田中聡一，長田尚介，北澤大也，琴浦　健，藤代高明，岡本剛治
80	JOSKAS-JOSSM2020	KA インプラントサイズは患者の体格から予測できるか？	’20/12	神戸市	診療部 整形外科	長田尚介，平中崇文，安喰健祐，田中聡一，北澤大也，琴浦　健，藤代高明，岡本剛治
81	JOSKAS-JOSSM2020	外側単顆型人工膝関節置換術における脛骨の矢状方向骨切りの位置と膝蓋骱との関係	’20/12	神戸市	診療部 整形外科	北澤大也，平中崇文，安喰健祐，田中聡一，長田尚介，琴浦　健，藤代高明，岡本剛治
82	JOSKAS-JOSSM2020	オックスフォード型単顆膝人工関節置換術の術後合併症とその対策	’20/12	神戸市	診療部 整形外科	琴浦　健，平中崇文，安喰健祐，田中聡一，長田尚介，北澤大也，藤代高明，岡本剛治
83	Taiwan_Oxford Discussion Meeting	Win at the beginning: The key of case selection	’20/12	Web	診療部 整形外科	平中崇文
84	Taiwan_Oxford Discussion Meeting	Leave no one behind: How do I manage complications	’20/12	Web	診療部 整形外科	平中崇文
85	Taiwan_Oxford Discussion Meeting	Why Persona: Needs for an Anatomical Knee System	’20/12	Web	診療部 整形外科	平中崇文
86	Taiwan_Oxford Discussion Meeting	Bearing Options: Experiences in Medial Congruent	’20/12	Web	診療部 整形外科	平中崇文
87	Taiwan_Oxford Discussion Meeting	Clinical Outcome: My Persona Story	’20/12	Web	診療部 整形外科	平中崇文
88	Taiwan_Oxford Discussion Meeting	Master Oxford: My Surgical Tips and Pearls	’20/12	Web	診療部 整形外科	平中崇文
89	Taiwan_Oxford Discussion Meeting	Oxford Experience: Case Discussion	’20/12	Web	診療部 整形外科	平中崇文
90	第53回日本臨床腎移植学会	移植腎生検の276件の検討	’20/2	東京都	診療部 腎移植科	客野宮治
91	爪白癬診療セミナーin 三島	ホスラブコナゾールの使用経験	’20/9	高槻市	診療部 皮膚科	笹瀬玲奈

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
92	第71回日本皮膚科学会中部支部学術大会	手掌部紅斑の病理組織像が診断の一助となった成人Still病の1例	’20/10	Web	診療部 皮膚科	山田はるひ，笹瀬玲奈，瀬戸英伸，神野定男[1)] 1）高槻病院膠原病内科
93	第71回日本皮膚科学会中部支部学術大会	Wells症候群の1例	’20/10	Web	診療部 皮膚科	笹瀬玲奈，山田はるひ，瀬戸英伸
94	第12回日本創傷外科学会総会・学術集会	新生児の先天性腹壁破裂に対し人工真皮を併用した陰圧閉鎖療法を行った1例	’20/12	Web	診療部 形成外科	黒川憲史，千田恵理奈[1)] 1）市立奈良病院
95	第42回日本産婦人科手術学会	主題1　産科手術の神髄 直腸腟瘻・第4度会陰裂傷の修復～骨盤臓器脱の後腟壁形成を応用する手技	’20/2	京都市	診療部 産婦人科	小辻文和，大石哲也
96	第42回日本産婦人科手術学会	私たちの行うNTR：恥骨頸部筋膜巻出し法は腟尖部の吊り上げは不要である	’20/2	京都市	診療部 産婦人科	大石哲也，加藤大樹，柴田貴司，徳田妃里，小辻文和
97	第142回近畿産科婦人科学会学術集会	妊娠中の子宮頸部細胞診により性器ヘルペス初感染が診断された1症例	’20/6	大阪市	診療部 産婦人科	西川茂樹，小寺知揮，柴田貴司，加藤大樹，中後　聡
98	第142回近畿産科婦人科学会学術集会	妊娠30週に子宮体部静脈瘤が自然破綻した1例 ～開腹に至る臨床経過～	’20/6	大阪市	診療部 産婦人科	福岡泰教，徳田妃里，細野佐代子，飯塚徳昭，菅田佳奈，北　采加，西川茂樹，小寺知揮，柴田貴司，加藤大樹，中後　聡，大石哲也，小辻文和
99	第25回日本心臓血管麻酔学会学術大会	自己弁温存大動脈基部置換術において，弁形成後の経食道心エコー検査で大動脈弁逆流が悪化した2症例	’20/9	Web	診療部 麻酔科	丸山祐子，西田隆也，棚田和子，齊藤健一，中山莉子
100	第25回日本心臓血管麻酔学会学術大会	内科的に回収困難な下大静脈フィルターを人工心肺使用下に抜去した症例	’20/9	Web	診療部 麻酔科	齊藤健一，西田隆也，中山莉子，棚田和子，丸山祐子
101	第25回日本心臓血管麻酔学会学術大会	開心術の人工心肺離脱直後に大量肺内出血をきたした症例	’20/9	Web	診療部 麻酔科	西田隆也，丸山祐子，中山莉子，齊藤健一，棚田和子
102	第25回日本心臓血管麻酔学会学術大会	Kommerell憩室を有する右側大動脈弓の一例	’20/9	Web	診療部 麻酔科	棚田和子，西田隆也，丸山祐子，中山莉子，齊藤健一
103	第25回日本心臓血管麻酔学会学術大会	術中経食道心エコーで捉えられた冠動脈左室瘻の一例	’20/9	Web	診療部 麻酔科	中山莉子，齊藤健一，丸山祐子，棚田和子，西田隆也
104	第5回日本心臓リハビリテーション学会　近畿地方会	ICU-AWと不整脈により心リハに難渋した心筋梗塞後の心破裂症例	’20/2	大阪市	診療部/技術部 リハビリテーション科	竹本堅一，欅　篤
105	第8回日本脳神経HAL研究会	当院脳外科専従病棟におけるHALの利用状況	’20/2	福岡市	診療部/技術部 リハビリテーション科	高田知穂，欅　篤
106	第10回日本腎臓リハビリテーション学術大会	外来透析患者に対する運動療法の3か月効果	’20/2	東京都	診療部/技術部 リハビリテーション科	本郷裕士，欅　篤
107	第47回日本集中治療医学会学術大会	当院PICUでの離床と運動機能の回復との関係	’20/3	Web	診療部/技術部 リハビリテーション科	飯塚崇仁，欅　篤
108	第47回日本集中治療医学会学術大会	当院ICUにおける人工呼吸器患者に対する複数人セラピスト介入効果の検証	’20/3	Web	診療部/技術部 リハビリテーション科	清水和也，欅　篤

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
109	心臓リハビリテーション学会学術集会	ICU-AWと不整脈を発症した心筋梗塞後の心破裂患者を外来心臓リハビリに移行することができた症例	’20/7	Web	診療部/技術部 リハビリテーション科	竹本堅一，欅　　篤
110	心臓リハビリテーション学会学術集会	心臓血管外科術後歩行自立日数に影響を与える因子	’20/7	Web	診療部/技術部 リハビリテーション科	丸本翔馬，欅　　篤
111	第4回日本脳神経外科認知症学会学術総会	もの忘れ外来診療のためのエッセンシャル講習会　講演：認知症の予防と薬物・非薬物療法	’20/8	Web	診療部 リハビリテーション科	欅　　篤
112	第57回日本リハビリテーション医学会	認知症外来患者におけるサルコペニアと認知機能の関連	’20/8	京都市	診療部/技術部 リハビリテーション科	欅　　篤，村川佳太
113	第57回日本リハビリテーション医学会	脂肪組織由来再生幹細胞治療における臨床症状改善例の術前の身体的特徴	’20/8	京都市	診療部/技術部 リハビリテーション科	村川佳太，欅　　篤
114	第57回日本リハビリテーション医学会	外来透析患者に対する運動療法の効果の検証	’20/8	京都市	診療部/技術部 リハビリテーション科	本郷裕士，欅　　篤
115	第57回日本リハビリテーション医学会	社会的フレイルを併発するアルツハイマー型認知症は日常生活遂行度に影響を与える	’20/8	京都市	診療部/技術部 リハビリテーション科	村川佳太，欅　　篤
116	第32回大阪府理学療法学術大会	気腫合併肺線維症により在宅酸素療法を導入し，動作指導に工夫を要した一例	’20/9	大阪市	診療部/技術部 リハビリテーション科	間遠有希，欅　　篤
117	第32回大阪府理学療法学術大会	CPA後に呼吸器管理となりICU-AWを呈したが早期運動療法を実施し自宅退院可能となった例	’20/9	大阪市	診療部/技術部 リハビリテーション科	服部芳和，欅　　篤
118	第79回日本脳神経外科学会	シンポジウム　認知症に対する脳神経外科医の役割：口腔・摂食嚥下機能と身体運動機能を併せて評価するリハビリテーションセンターでの認知症診療	’20/10	岡山市	診療部 リハビリテーション科	欅　　篤
119	第4回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	脳卒中片麻痺者に対する急性期リハビリテーションの効果と課題	’20/11	神戸市	診療部/技術部 リハビリテーション科	山木健司，欅　　篤
120	第4回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	人工単顆置換術後の身体機能回復への術前栄養状態の影響	’20/11	神戸市	診療部/技術部 リハビリテーション科	村川佳太，欅　　篤
121	第4回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	フレイルと呼吸機能低下の合併が心臓血管外科術後のリハビリテーション治療経過に与える影響	’20/11	神戸市	診療部/技術部 リハビリテーション科	本郷裕士，欅　　篤

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
122	第48回日本小児神経外科学会	頭位性頭蓋変形に対する理学療法士の指導とその効果についての検討	’20/11	Web	診療部/技術部 リハビリテーション科	山崎元晴，欅　　篤
123	第65回日本透析医学会	当院外来通院患者における腎臓リハビリテーションの取り組みについて	’20/11	Web	診療部/技術部 リハビリテーション科	加藤尚也，欅　　篤

論文発表（2020/1/1～2020/12/31）

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	部署名	著　者
1	愛仁会医学研究誌	脊髄圧迫の非定型症状　脊髄円錐症候群（Atypical Manifestation of Spinal Cord Compression: Conus Medullaris Syndrome）	51	27-30, 2020	診療部 呼吸器内科	Fukui Takafumi, Tsutsumi Takahiko, Tsunemitsu Ayako
2	World J Gastroenterol.	Optimal treatment strategies for hepatic portal venous gas: A retrospective assessment	26(14)	1628-1637, 2020	診療部 消化器内科	Masanori Gonda, Tatsuya Osuga, Yoshihiro Ikura, Kazunori Hasegawa, Kentaro Kawasaki, Takatoshi Nakashima
3	Dig Liver Dis.	Endoscopic detection of the lead-point of intussusception associated with ileal Burkitt's lymphoma	53(5)	652-653, 2020	診療部 消化器内科	Kaoruko Kanamaru, Chieko Hisamatsu, Tatsuya Osuga, Yoshihiro Ikura
4	BMC Cardiovasc Disord.	Refractoriness to subcutaneous implantable cardioverter defibrillator after frequent therapies for ventricular fibrillation storms in a Brugada syndrome case	20(1)	134, 2020	診療部 不整脈内科	Nakao Y, Suenari K, Yamashiro K, Nakagawa H, Shiode N
5	母子保健	子がNICUに入院した母親が抱きやすい不安とは　母子分離が長かった母子への支援	6月号	7, 2020	診療部 精神科心理室	小寺智子
6	子どもの虐待とネグレクト	周産期からの虐待予防-周産期医療から地域，保育所まで切れ目のない親子の関わりを考える-	22(2)	134-142, 2020	診療部 精神科心理室	小寺智子
7	日本病跡学雑誌	斎藤茂吉のまなざし　精神医学を鍛錬する溶鉱炉としての病跡学	100	52-60, 2020	診療部 精神科	杉林　稔
8	質的心理学フォーラム	Re:リ・コロン［再論］第11号特集「病いの語り」再考　臨床実践者からの意見	12	70-73, 2020	診療部 精神科	杉林　稔
9	臨床実践の現象学	母であり看護師である女性が関節リウマチを患うこと	3(2)	15-17, 2020	診療部 精神科	杉林　稔
10	Int J Gynecol Pathol	Malignant Lymphoma of the Ovary: A Diagnostic Pitfall of Intraoperative Consultation	39(1)	79-83, 2020	診療部 産婦人科・病理診断科	Iizuka N, Ikura Y, Fukuoka Y, Shibata T, Okamoto M, Kamiya A, Oishi T, Kotsuji F, Iwai Y
11	Mol Clin Oncol	Infantile macrocephaly and multiple subcutaneous lipomas diagnosed with PTEN hamartoma tumor syndrome: A case report	12(4)	329-335, 2020	診療部 小児科・小児脳外科・小児外科・病理診断科	Yotsumoto Y, Harada A, Tsugawa J, Ikura Y, Utsunomiya H, Miyatake S, Matsumoto N, Kanemura Y, Hashimoto-Tamaoki T
12	World J Gastroenterol	Optimal treatment strategies for hepatic portal venous gas: A retrospective assessment	26(14)	1628-1637, 2020	診療部 消化器内科・病理診断科	Gonda M, Osuga T, Ikura Y, Hasegawa K, Kawasaki K, Nakashima T

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	部署名	著　者
13	Hemodial Int	Dextran deposition in reticuloendothelial organs in hemodialysis patients: A forgotten adverse effect of low-molecular weight dextran	24(3)	E46-E49, 2020	診療部 病理診断科	Yokokawa T, Ikura Y, Okabe H, Iwai Y
14	日本集中治療医学会雑誌	声門下腔狭窄症に対して喉頭気管部分切除・甲状軟骨気管吻合術（partial cricotracheal resection, PCTR）の術後管理を行った小児15例の検討	27(6)	467-471, 2020	診療部 小児科	藤崎拓也，起塚　庸，大西　聡，篠本匡志，内山敬達，津川二郎，西島栄治，南　宏尚
15	日本小児救急医学会雑誌	体外式持続陰圧換気法による呼吸補助療法が奏功した重症特発性縦隔気腫の4歳児例	19(3)	323-327, 2020	診療部 小児科	小山智史，石森真吾，篠本匡志，大西　聡，起塚　庸，内山敬達，南　宏尚
16	日本小児腎不全学会雑誌	生後1カ月時に拡張型心筋症に伴うショックにより末期腎不全に至り，持続血液透析導入後に腹膜透析へ移行した1例	40	230-234, 2020	診療部 小児科	松井美樹，石森真吾，大西　聡，服部健吾，起塚　庸，津川二郎，内山敬達，南　宏尚
17	日本小児アレルギー学会誌	アナフィラキシーで入院した小児救急201例における二相性反応について	34(2)	205-213, 2020	診療部 小児科	李　崇至，谷内昇一郎，松井美樹，多賀陽子，郷間　環，榎本真宏，今出　礼，西野昌光
18	愛仁会医学研究誌	FreeStyleeリブレによるFlash Glucose Monitoringを実施した高インスリン性低血糖症の1例	51	31-34, 2020	診療部 新生児小児科	西田敬弘，長坂美和子，田村　誠，片山義規
19	日本新生児成育医学会雑誌	「赤ちゃんにやさしい病院」認定施設のNICU/GCUにおける母乳育児支援の現状	32(2)	353-360, 2020	診療部 新生児小児科	菊池　新，畑崎喜芳[1)]，永山善久[1)]，河野芳功[1)]，近藤裕一[1)] 1）一般社団法人日本母乳の会BFNICUワーキングチーム
20	日本新生児成育医学会雑誌	正期産児の黄疸管理 -母乳育児支援を念頭に	32(2)	2-8, 2020	診療部 新生児小児科	片山義規
21	Journal of human genetics	A case of a parthenogenetic 46,XX/46,XY chimera presenting ambiguous genitalia	65(8)	705-709, 2020	診療部 新生児小児科	Rie Kawamura, Takema Kato, Shunsuke Miyai, Fumihiko Suzuki, Yuki Naru, Maki Kato, Keiko Tanaka, Miwako Nagasaka, Makiko Tsutsumi, Hidehito Inagaki, Tomoaki Ioroi, Makiko Yoshida, Tomoya Nao, Laura K Conlin, Kazumoto Iijima, Hiroki Kurahashi, Mariko Taniguchi-Ikeda
22	日本小児外科学会雑誌	小児縦隔気腫9例の臨床像と治療アルゴリズムの検討	56(7)	1082-1087, 2020	診療部 小児外科	田中聡志，服部健吾，岩渕瀬怜奈，高成田祐希，渡部　彩，辻　恵未，久松千恵子，津川二郎，西島栄治
23	小児外科	【小児内視鏡外科手術の術中・術後合併症と対策】横隔膜ヘルニア手術時のポートによる肺損傷	52(11)	1167-1171, 2020	診療部 小児外科	服部健吾
24	日本小児外科学会雑誌	小児複雑性虫垂炎における治療法の検討 治療成績とinterval appendectomy脱落予測因子を踏まえて	56(4)	370-375, 2020	診療部 小児外科	久松千恵子，辻　恵未，畠山　理
25	胸部外科	肺原発上皮筋上皮癌の1例	73	708, 2020	診療部 呼吸器外科	椎名祥隆，吉村雅裕，田内俊輔

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	部署名	著　者
26	日本心臓血管外科学会雑誌	弁尖自由縁を温存し大動脈一尖弁を二尖弁化した1例	49(3)	99-101, 2020	診療部 心臓血管外科	川端　良，常深孝太郎，岡　隆紀，大北　裕
27	Ann Cardiothorac Surg.	Frozen elephant trunk with Frozenix prosthesis	9(3)	152-163, 2020	診療部 心臓・大血管センター	Yutaka Okita
28	Ann Vasc Dis.	Does It Matter? Commentary on "Prosthetic Graft Dilation at the Aortic Arch in the Era of Hybrid Aortic Surgery"	13(2)	108, 2020	診療部 心臓・大血管センター	Yutaka Okita
29	J Thorac Cardioasc Surg.	Current status of open surgery for acute type A aortic dissection in Japan	Online ahead of print.	doi:10.1016/j.jtcvs.2020.09.147, 2020	診療部 心臓・大血管センター	Yutaka Okita
30	愛仁会医学研究誌	小腸脂肪腫が先進部となり腸重積を来した1例	51	35-38, 2020	診療部 消化器外科	岩渕瀬怜奈，川崎健太郎，朝倉　力，田中聡志，大和田善之，細野正義，岡崎太郎，家永徹也
31	癌と化学療法	手術と化学療法により無再発生存が得られている腹膜播種を伴う膵体部癌の1例	47	2248-50, 2020	診療部 消化器外科	金丸薫子，岡崎太郎，谷本直紀，田中聡志，岩渕瀬怜奈，大和田善之，細野雅義，川崎健太郎，中島卓利
32	癌と化学療法	胃癌，肝内胆管癌，前立腺癌の同時性三重複癌の1例	47	2345-2348, 2020	診療部 消化器外科	田中聡志，岡崎太郎，大和田善之，岩渕瀬怜奈，細野雅義，川崎健太郎
33	International Journal of Colorectal Disease	Does anastomotic leakage after rectal cancer resection worsen long-term oncologic outcome?	35(7)	1243-1253, 2020	診療部 消化器外科	Hiroshi Hasegawa, Takeru Matsuda, Akira Arimoto, Kimihiro Yamashita, Masayasu Nishi, Nobuhisa Takase, Masayoshi Hosono, Tetsu Nakamura, Satoshi Suzuki, Yoshihiro Kakeji
34	小児の脳神経	術後管理に難渋した乳児期発症頭蓋咽頭腫の1例	45(4)	365-372, 2020	診療部 小児脳神経外科	宇津木玲奈，木本優希，福屋章梧，有田英之，前野和重，江國　哲，大西　聡，起塚　庸，宇都宮英綱，原田敦子
35	脳神経外科ジャーナル	頭蓋骨縫合早期癒合症に対する内視鏡支援下縫合切除術の初期治療経験	29	498-505, 2020	診療部 小児脳神経外科	原田敦子，久徳茂雄，木本優希，宇津木玲奈，藤永貴大，有田英之，前野和重，上田晃一
36	愛仁会医学研究誌	オックスフォード型単顆膝人工関節置換術の術後合併症とその対策	51	61-63, 2020	診療部 整形外科	琴浦　健，岡本剛治，藤代高明，田中聡一，安喰健祐，長田尚介，北澤大也，平中崇文
37	整形外科	経験と考察　外側型変形性膝関節症に対する外側専用単顆型人工膝関節の脛骨外側プラトーへの適合性	71(5)	419-421, 2020	診療部 整形外科	北澤大也，平中崇文，田中聡一，藤代高明，岡本剛治
38	臨床整形外科	人工知能による整形外科手術ナビゲーション	55(8)	925-931, 2020	診療部 整形外科	小橋昌司，八木直美，平中崇文
39	JOSKAS	外側人工膝単顆置換術の術後短期成績	45(3)	769-773, 2020	診療部 整形外科	飛田祐一，平中崇文，尾ノ井勇磨，藤田雅広，藤代高明
40	骨折	大腿骨転子部骨折術後のCT評価において頸部前捻角は臥位Budin撮影と比較して過小評価され得る	42(2)	523-527, 2020	診療部 整形外科	西田亮太，平中崇文，尾ノ井勇磨，高瀬恭平，飛田祐一

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	部署名	著　者
41	骨折	外側大腿皮神経麻痺を合併した上前腸骨棘裂離骨折に対し観血的治療を行った1例	42(2)	464-466, 2020	診療部 整形外科	尾ノ井勇磨，飛田祐一，西田亮太，高瀬恭平，藤田雅広，平中崇文
42	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	MicroplastyによるOxford UKAにおいて大腿骨後顆骨切り量は薄く大腿骨コンポーネントは伸展位設置となる傾向がある	63(1)	71-72, 2020	診療部 整形外科	北澤大也，岡本剛治，平中崇文
43	臨床整形外科	人工膝関節全置換術施行例における前十字靱帯と外側大腿脛骨関節軟骨の状態についての検討	55(2)	155-159, 2020	診療部 整形外科	琴浦　健，田中聡一，岡本剛治，藤代高明，安喰健祐，長田尚介，北澤大也，平中崇文
44	J Knee Surg.	Approximately 30% of Functioning Anterior Cruciate Ligaments Are Sacrificed for Knee Arthroplasty	33(7)	655-658, 2020	診療部 整形外科	Takafumi Hiranaka, Yuichi Hida, Takaaki Fujishiro, Tomoyuki Kamenaga, Kenichi Kikuchi, Ryo Yoshikawa, Shotaro Tachibana, Koji Okamoto
45	Clin Orthop Surg.	A Novel Technique for Varus Tibial Cutting for Oxford Unicompartmental Knee Arthroplasty	12(4)	554-557, 2020	診療部 整形外科	Takafumi Hiranaka, Toshikazu Tanaka, Takaaki Fujishiro, Kenjiro Okimura, Rika Shigemoto, Shotaro Araki, Ryo Okada, Ryohei Nako, Koji Okamoto
46	J Orthop Surg (Hong Kong)	Morphometric analysis of medial and lateral tibia plateau and adaptability with Oxford partial knee replacement in a Japanese population	28(2)	2.3095E+15	診療部 整形外科	Kamenaga T, Hiranaka T, Hida Y, Fujishiro T, Okamoto K
47	Eur J Orthop Surg Traumatol.	A subcutaneous arthroscopic portal closure technique without thread exposure	30(2)	383-385, 2020	診療部 整形外科	Hiranaka T, Tanaka T, Fujishiro T, Anjiki K, Nagata N, Kitazawa D, Kotoura K, Okamoto K
48	Clin Orthop Surg.	The Medial Eminence Line for Predicting Tibial Fracture Risk after Unicompartmental Knee Arthroplasty	12(2)	166-170, 2020	診療部 整形外科	Yoshikawa R, Hiranaka T, Okamoto K, Fujishiro T, Hida Y, Kamenaga T, Sakai Y
49	Bone Joint J.	Tibial shape and size predicts the risk of tibial plateau fracture after cementless unicompartmental knee arthroplasty in Japanese patients	102-B(7)	861-867, 2020	診療部 整形外科	Hiranaka T, Yoshikawa R, Yoshida K, Michishita K, Nishimura T, Nitta S, Takashiba K, David Murray
50	Knee	MRI-determined preoperative lateral meniscus degeneration is not associated with adverse mid-term clinical results after mobile-bearing unicompartmental knee arthroplasty	27(4)	1279-1284, 2020	診療部 整形外科	Tanaka T, Hiranaka T, Anjiki K, Fujishiro T, Okamoto K
51	Surg Radiol Anat.	The tibial lateral axis is a novel extraarticular landmark for detection of the tibial anteroposterior axis	42(10)	1195-1202, 2020	診療部 整形外科	Hiranaka T, Tanaka T, Fujishiro T, Anjiki K, Nagata N, Kitazawa D, Kotoura K, Okamoto K
52	Clin Biomech (Bristol, Avon)	Extent of in vivo sagittal bearing movement and its relationship with tibial posterior slopes in Oxford mobile-bearing unicompartmental knee arthroplasty	Online ahead of print.	doi: 10.1016/j.clinbiomech.2020.105148, 2020	診療部 整形外科	Kamenaga T, Hida Y, Hiranaka T, Tanaka T, Okimura K, Tsubosaka M, Kuroda Y, Nakano N, Hayashi S, Niikura T, Kuroda R, Matsumoto T

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	部署名	著　者
53	J Orthop Sci.	Evaluation of the accuracy of acetabular cup orientation using the accelerometer-based portable navigation system	25(4)	612-617, 2020	診療部 整形外科	Hayashi S, Hashimoto S, Takayama K, Matsumoto T, Kamenaga T, Fujishiro T, Hiranaka T, Niikura T, Kuroda R
54	J Orthop Sci.	Intraoperative pelvic movement is associated with the body mass index in patients undergoing total hip arthroplasty in the supine position	25(3)	446-451, 2020	診療部 整形外科	Kamenaga T, Hayashi S, Hashimoto S, Takayama K, Fujishiro T, Hiranaka T, Kuroda R, Matsumoto T
55	Knee	Bilateral unicompartmental knee arthroplasty for windswept knee osteoarthritis: A report of 13 cases	27(6)	1715-1720, 2020	診療部 整形外科	Tanaka T, Hiranaka T, Okimura K, Fujishiro T, Okamoto K
56	J Knee Surg.	Validation of the Macroscopic Anterior Cruciate Ligament Status Using the Oxford Classification System in Relation to Cartilage Defects on the Medial Tibial Plateau in Osteoarthritic Knees	Online ahead of print.	doi: 10.1055/s-0040-1721032	診療部 整形外科	Hiranaka T, Hida Y, Tanaka T, Okimura K, Fujishiro T, Okamoto K
57	J Arthroplasty	Anterior Cruciate Ligament Deficiency is Not Always a Contraindication for Medial Unicompartmental Knee Arthroplasty: A Retrospective Study in Nondesigner's Japanese Hospital	36(2)	495-500, 2020	診療部 整形外科	Kikuchi K, Hiranaka T, Kamenaga T, Hida Y, Fujishiro T, Okamoto K
58	J Knee Surg.	Preoperative Condition of the Patellofemoral Joint Does Not Negatively Impact Surgical Outcomes of Lateral Unicompartmental Knee Arthroplasty in the Short Term	Online ahead of print.	doi: 10.1055/s-0040-1718606, 2020	診療部 整形外科	Fujita M, Hiranaka T, Kamenaga T, Tsubosaka M, Nakano N, Hayashi S, Kuroda R, Matsumoto T
59	Knee	Is postoperative flexion angle genuinely better in unicompartmental knee arthroplasty than in total knee arthroplasty? A comparison between the knees in the same patients	27(6)	1907-1913, 2020	診療部 整形外科	Hiranaka T, Tanaka T, Fujishiro T, Anjiki K, Nagata N, Kitazawa D, Kotoura K, Okamoto K, Chan Thar
60	J Orthop Sci.	Effectiveness of an accelerometer-based portable navigation for intraoperative adjustment of leg length discrepancy in total hip arthroplasty in the supine position	Online ahead of print.	doi: 10.1016/j.jos.2020.11.003, 2020	診療部 整形外科	Anjiki K, Kamenaga T, Hayashi S, Hashimoto S, Kuroda Y, Nakano N, Fujishiro T, Hiranaka T, Niikura T, Kuroda R, Matsumoto T.
61	Transplantation	A Nationwide Survey of Hepatitis E Virus Infection and Chronic Hepatitis in Heart and Kidney Transplant Recipients in Japan	104(2)	437-444, 2020	診療部 腎移植科	Miyaji Kyakuno
62	Nephron	Recurrence of Proliferative Glomerulonephritis with Monoclonal Immunoglobulin G Deposits with a Striated Ultrastructure	39(1)	61-65, 2020	診療部 腎移植科	Miyaji Kyakuno
61	日本小児皮膚科学会雑誌	水痘ワクチンの関与が示唆された幼児帯状疱疹の1例	39(1)	61-65, 2020	診療部 皮膚科	菊澤亜夕子，大桑慎子，瀬戸英伸
62	日本形成外科学会	抗がん剤の血管外漏出に対してデクスラゾキサン投与後3年を経て皮膚壊死を認めた1例	40(10)	535-542, 2020	診療部 形成外科	朝井まどか，黒川憲史，千田恵理奈
63	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research	遅発性症状を伴った非瘢痕子宮の完全破裂　1症例報告と発症機序（Complete rupture of unscarred uterus with delayed symptoms: Case report and possible mechanism）	46(8)	1456-1459, 2020	診療部 産婦人科	Nishikawa Shigeki, Shibata Takashi, Kato Hiroki, Kotsuji Fumikazu, Nakago Satoshi
64	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research	Treatment strategy for failed repair of uterine rupture: cleansing an abscess via the cervical canal	46(7)	1207-1210, 2020	診療部 産婦人科	Fukuoka Y, Katou H, Shibata T, Tokuda H, Iizuka N, Nakago S

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	部署名	著　者
65	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research	A disadvantage of cesarean section en caul: Umbilical velamentous insertion, a risk factor and proposed mechanism of neonatal anemia	46(1)	173-175, 2020	診療部 産婦人科	Shibata T, Nakago S, Nishikawa S, Fukuoka Y, Iizuka N, Kotsuji F
66	日本小児麻酔学会誌	乳児の喉頭微細術に対するプロポフォールによる自発呼吸温存全静脈麻酔17例の検討	26(1)	41-45, 2020	診療部 麻酔科	中山莉子，土居ゆみ，齊藤健一
67	臨床麻酔	特発性血小板減少性紫斑病を合併した妊婦における緊急帝王切開の麻酔管理	44(7)	999-1001, 2020	診療部 麻酔科	西田隆也，田原慎太郎，中島正順
68	Journal of Clinical Rehabilitation	NICUでのリハビリテーション	29	550-555, 2020	診療部 リハビリテーション科	欅　　篤，飯塚崇仁，俵屋章則，片山義規

著書発表 (2020/1/1～2020/12/31)

No.	著　書　名	出版社・地名	版・刷	掲載頁，年	部署	著　者
1	精神科臨床の自由	星和書店/東京	初版	全352頁, 2020	診療部 精神科	杉林　稔
2	NICUでのリハビリテーションJournal of Clinical Rehabilitation		29(6)	550-555, 2020	診療部 新生児小児科	欅　　篤，飯塚崇仁，俵屋章則，片山義規
3	（第1章）新生児の所見とその評価　早産児の特徴 （解説/特集）Late preterm児 with NEO 秋季増刊	メディカ出版/大阪		24-28, 2020	診療部 新生児小児科	池上 等
4	（第1章）新生児の所見とその評価　早産児の特徴 （解説/特集）早産児の特徴 with NEO 秋季増刊	メディカ出版/大阪		29-35, 2020	診療部 新生児小児科	池上 等
5	気道分泌物の性状異常 with NEO 秋季増刊	メディカ出版/大阪		164-168, 2020	診療部 新生児小児科	片山義規
6	NICUからの退院支援 with NEO	メディカ出版/大阪	12月号	77-79, 2020	診療部 新生児小児科	片山義規
7	呼吸器系の疾患　慢性肺疾患（CLD） 別冊with NEO きほんの新生児疾患21	メディカ出版/大阪		50-56, 2020	診療部 新生児小児科	榎本真宏
8	赤ちゃんのかゆみとケア　【"with NEO"プレゼンツ 赤ちゃんの能力・生理・発達】	メディカ出版/大阪	33(5)	719-723, 2020	診療部 新生児小児科	榎本真宏

その他 (2020/1/1～2020/12/31)

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
1	第3回　Kobe IBD Clinical Conference	“多数の病変を呈した腸管型ベーチェット病の検討”　上記演題座長	’20/9	神戸市	診療部 消化器内科	大須賀達也
2	第84回日本循環器学会	トピックス：小児心臓Ⅰ　先天性心疾患術後の不整脈整理とカテーテルアブレーションの適応	’20/7	Web	診療部 不整脈内科	山城荒平
3	日本不整脈心電学会　夏季EP Web講演会	ビデオセッション3　持続性心房細動に対するsingle ring box isolationとMarshall静脈アブレーション　座長，演者	’20/8	Web	診療部 不整脈内科	座長：山城荒平 演者：髙月誠司
4	第56回日本小児外科学会近畿地方会	一般演題Ⅱ　消化管2	’20/8	京都市	診療部 小児外科	服部健吾

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
5	第84回日本循環器学会	Plenary Session 15　Surgical Strategy for Non-Atherosclerotic Aortic Diseases	’20/7	Web	診療部 心臓・大血管センター	Chairperson: Yutaka Okita, Kenji Minatoya (Department of Cardiovascular Surgery, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto)
6	第84回日本循環器学会	ディベート3　大動脈疾患におけるコントラバーシー　座長	’20/7	Web	診療部 心臓・大血管センター	大北　裕， 加地修一郎（神戸市立医療センター中央市民病院循環器内科）， ディスカッサント： 圷　宏一（日本医科大学循環器内科）， 加地修一郎（神戸市立医療センター中央市民病院循環器内科）， 湊谷謙司（京都大学大学院医学研究科心臓血管外科学）， 田崎淳一（京都大学医学部附属病院循環器内科）
7	第38回日本脳腫瘍学会学術集会	Pier-4-1 BRAF, clinical	’20/11	広島市	診療部 脳神経外科	有田英之
8	小児神経外科教育セミナー2020	小児の水頭症・頭蓋内嚢胞性疾患	’20/7	Web	診療部 小児脳神経外科	原田敦子
9	第40回日本脳神経外科コングレス　プレナリーセッション	小児水頭症における最良の手術とデバイスの選択	’20/8	Web	診療部 小児脳神経外科	原田敦子
10	第79回日本脳神経外科学会総会	女性脳神経外科医としてのワーク・ライフ・バランス	’20/10	岡山市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子
11	第48回日本小児神経外科学会	一般口演　頭蓋骨縫合早期癒合症	’20/11	Web	診療部 小児脳神経外科	原田敦子
12	第48回日本小児神経外科学会ランチョンセミナー	赤ちゃんの頭の形と頭蓋形状矯正ヘルメット　―脳神経外科医が知っておくべき知識―	’20/11	Web	診療部 小児脳神経外科	原田敦子
13	爪白癬診療セミナーin三島	一般演題　ホスラブコナゾールの使用経験	’20/9	高槻市	診療部 皮膚科	瀬戸英伸
14	第57回日本リハビリテーション医学会	一般口演56 教育 産学連携	’20/8	京都市	診療部 リハビリテーション科	欅　　篤
15	第4回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	一般演題5　高次脳機能障害	’20/11	神戸市	診療部 リハビリテーション科	欅　　篤
16	第39回日本認知症学会学術集会	専門医試験対策講座1　認知症ケアに必要な社会制度・資源・倫理の理解	’20/11	名古屋市	診療部 リハビリテーション科	欅　　篤

愛仁会リハビリテーション病院

口頭発表 (2020/1/1～2020/12/31)

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	第57回日本リハビリテーション医学会学術集会	FIM認知項目からみた当院のクモ膜下出血患者の特徴	’20/8	Web	診療部リハビリテーション科	城戸﨑裕介
2	第57回日本リハビリテーション医学会学術集会	当院のクモ膜下出血症例における高齢者と准高齢者の相違	’20/8	Web	診療部リハビリテーション科	城戸﨑裕介
3	The 59th International Spinal Cord Society Annual Scientific Meeting	Rehabilitation outcomes in the elderly patients with incomplete cervical spinal cord injury	’20/9	Web	診療部リハビリテーション科	松岡美保子
4	第68回小児神経学会近畿地方会	人工呼吸管理を要する医療的ケア児への在宅療養支援の実績報告	’20/10	大阪市	診療部リハビリテーション科	李　容桂
5	第27回日本排尿機能学会	リハビリテーション科医による脊髄損傷患者の尿路管理	’20/10	Web	診療部リハビリテーション科	松岡美保子
6	第23回臨床脳神経外科学会	髄腔内バクロフェン投与（ITB）療法による異常発汗の改善	’20/11	Web	診療部リハビリテーション科	砂田一郎
7	第4回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	ITB療法で異常な発汗が改善した脳卒中の3例	’20/11	神戸市	診療部リハビリテーション科	砂田一郎
8	第4回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	回復期からみた急性期脊損治療の尿路管理	’20/11	神戸市	診療部リハビリテーション科	住田幹男
9	第4回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	回復期における外傷性頸髄損傷Frankel C患者の歩行予測因子	’20/11	神戸市	診療部リハビリテーション科	松岡美保子
10	第4回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	在宅脊髄損傷患者における新型コロナウイルスの影響	’20/11	神戸市	診療部リハビリテーション科	松岡美保子
11	第4回日本リハビリテーション医学会秋期学術集会	回復期リハビリテーション病棟の歯科治療による摂食の向上とADLの関係	’20/11	神戸市	診療部リハビリテーション科	磯山浩孝

論文発表 (2020/1/1～2020/12/31)

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	部署名	著　者
1	愛仁会医学研究誌	メトホルミン長期投与下に発症した亜急性連合性脊髄変性症の1例	51	39－42, 2020	診療部リハビリテーション科	清水洋志
2	日本小児科学会雑誌	歩ける医療的ケア児4症例の在宅療養支援の実績報告	124	1101-1106, 2020	診療部リハビリテーション科	李　容桂
3	一橋大学機関リポジトリ	回復期リハビリテーション医療の原価計算（商学博士論文として）		1-164, 2020	診療部リハビリテーション科	磯山浩孝

その他 (2020/1/1～2020/12/31)

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
1	令和2年度大阪府障がい者地域医療ネットワーク推進事業実施連絡会研修会	CORONAVIRUS-19による国家非常事態宣言の影響	’20/10	Web	診療部リハビリテーション科	住田幹男
2	令和2年度大阪府障がい者地域医療ネットワーク推進事業実施連絡会研修会	なぜ今高齢者の脊髄損傷か	’20/10	Web	診療部リハビリテーション科	住田幹男
3	令和2年度大阪府障がい者地域医療ネットワーク推進事業実施連絡会研修会	高齢で受傷された脊髄損傷者の在宅生活の特徴について	’20/10	Web	診療部リハビリテーション科	松岡美保子
4	第4回日本リハビリテーション医学会秋期学術集会	脳卒中上肢・下肢機能障害に対する治療戦略について/教育講演座長	’20/11	神戸市	診療部リハビリテーション科	磯山浩孝
5	第4回日本リハビリテーション医学会秋期学術集会	脳卒中3/一般演題座長	’20/11	神戸市	診療部リハビリテーション科	磯山浩孝

明石医療センター

口頭発表 (2020/1/1～2020/12/31)

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
1	第11回日本プライマリケア連合学会学術大会	Ship stranding after oreration:クラミジア頸管炎に虫垂炎を合併した一例	’20/8	Web	診療部 総合内科	石丸直人
2	第11回日本プライマリケア連合学会学術大会	誤嚥性肺炎に対する包括的介入	’20/8	Web	診療部 総合内科	官澤洋平
3	第11回日本プライマリケア連合学会学術大会	特異的な症状に乏しく，初期診断が困難であった感染性大動脈瘤の一例	’20/8	Web	診療部 総合内科	田邊　皓
4	第60回日本呼吸器学会学術講演会	市中肺炎におけるmultiplexPCR法を用いた非定型肺炎病原体の予測	’20/9	Web	診療部 総合内科	石丸直人
5	第90回日本感染症学会西日本地方会学術集会	繰り返す発熱の精査中に明らかになった肺炎球菌莢膜特異抗体産生不全症の一例	’20/11	Web	診療部 総合内科	石丸直人
6	日本内科学会第230回近畿地方会	ステロイド治療が奏功した好酸球増多症候群に冠攣縮性狭心症を合併した1例	’20/12	Web	診療部 総合内科	長　陽二郎
7	明石市新型コロナウイルス会議	新型コロナウイルス感染症のCT画像	’20/3	明石市	診療部 呼吸器内科	大西　尚
8	明石市新型コロナウイルス会議	新型コロナウイルス感染症の診断	’20/6	明石市	診療部 呼吸器内科	大西　尚
9	明石市新型コロナウイルス会議	新型コロナウイルス感染症の診断	’20/7	明石市	診療部 呼吸器内科	大西　尚
10	明石市新型コロナウイルス会議	新型コロナウイルス感染症の特徴と診断	’20/7	明石市	診療部 呼吸器内科	大西　尚
11	びまん性肺疾患勉強会	症例提示	’20/7	Web	診療部 呼吸器内科	藤本昌大
12	びまん性肺疾患勉強会	症例提示	’20/7	Web	診療部 呼吸器内科	村上翔子
13	明石市公衆衛生協会秋季研修会	新型コロナウイルス感染症の話題提供	’20/9	明石市	診療部 呼吸器内科	大西　尚
14	第13回播磨喘息連携研究会	最近の喘息治療について～吸入薬からバイオ製剤まで～	’20/10	Web	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
15	第7回神戸呼吸器内科勉強会	Nocardia otitiscariarumによる肺ノカルジア症の一例	’20/10	Web	診療部 呼吸器内科	前田葉月，藤本昌大， 畠山由記久， 松尾健二郎， 山崎菜々美，村上翔子， 山岡貴志，髙宮　麗， 池田美穂，岡村佳代子， 大西　尚
16	第8回神戸呼吸器内科勉強会	気管支喘息の基礎のキソ	’20/10	Web	診療部 呼吸器内科	畠山由記久
17	第44回KLDC-Kobe chest disease conference	関節リウマチの治療経過中に両肺多発粒状影が出現し急性呼吸不全をきたした一例	’20/10	Web	診療部 呼吸器内科	髙宮　麗
18	重症喘息講演会in明石	当院におけるバイオ製剤の使用状況	’20/11	Web	診療部 呼吸器内科	大西　尚

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
19	m3 web講演会　PF-ILD webセミナー	症例から学ぶ進行性線維化を伴う間質性肺疾患	’20/12	Web	診療部 呼吸器内科	大西　尚
20	LungCancer Web Meeting in Kobe	コンパニオン診断の現状と工夫	’20/12	Web	診療部 呼吸器内科	髙宮　麗
21	第31回びまん性肺疾患勉強会	症例提示	’20/12	Web	診療部 呼吸器内科	髙宮　麗
22	第26回日本心臓リハビリテーション学会	急性心筋梗塞患者のCPXでのPeakV02時のBorg指数過小評価についての検討	’20/7	Web	診療部 循環器内科	河田正仁
23	第113回日本消化器病学会近畿支部例会	診断に難渋した5-アミノサリチル酸による薬剤性間質性肺炎を来した潰瘍性大腸炎の一例	’20/10	誌上	診療部 消化器内科	塩屋暁子，石田　司， 中村碩孝，徳永貴史， 大西紘平，田中太郎， 益子由佳子， ヤハヤ・ベンスレイマン， 佐々木一就，富銘成友， 古松恵介，安藤純哉， 門　卓生，吉田俊一
24	第14回神戸内科学セミナー	急性胆嚢炎に対する内視鏡的ステント留置術の有用性	’20/11	神戸市	診療部 消化器内科	橋本宏之，古松恵介
25	第105回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	胃全摘後の為診断に難渋下総胆管結石を併発した下部胆管がんの一例	’20/12	京都市	診療部 消化器内科	田中太郎，古松恵介
26	第105回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	ダブルバルーン小腸内視鏡で観察し得た健常成人発症のサイトメガロ小腸炎の1例	’20/12	京都市	診療部 消化器内科	中村碩孝，石田　司， 塩屋暁子，徳永貴史， 大西紘平，田中太郎， 益子由佳子， ヤハヤ・ベンスレイマン， 佐々木一就，富銘成友， 古松恵介，門　卓生， 吉田俊一
27	兵庫県病院薬剤師会WEBセミナー	高尿酸血症の病態と治療～なぜ治療するのか～	’20/9	Web	診療部 腎臓内科	米倉由利子
28	第50回日本腎臓学会西部学術大会	血清カルシウム濃度が二相性の経過をとった，横紋筋融解症に併発した急性腎障害の一例	’20/10	Web	診療部 腎臓内科	後藤公彦
29	第50回日本腎臓学会西部学術大会	悪性リンパ腫による高カルシウム血症に対してゾレドロン酸投与が奏効した透析患者の一例	’20/10	Web	診療部 腎臓内科	石井　圭
30	第65回日本透析医学会学術集会・総会	ピルジカイニド中毒により不整脈を呈しCHD管理を行ったCKD急性増悪の1例	’20/11	Web	診療部 腎臓内科	寺田菜々子
31	田辺三菱製薬web講演会	超高齢社会における腎疾患診療（保存期管理と腎炎診療）	’20/12	Web	診療部 腎臓内科	米倉由利子
33	第57回日本糖尿病学会近畿地方会	当院におけるインスリンデグルデク/リラグルチド配合注の使用経験	’20/10	Web	診療部及び看護部 糖尿病・内分泌内科	中村友昭，津崎好美， 辻本泰貴，千原和夫
34	第57回日本糖尿病学会近畿地方会	SAP導入の1型糖尿病でSGLT2阻害薬併用中に発症した正常血糖ケトアシドーシスの症例	’20/10	Web	診療部及び看護部 糖尿病・内分泌内科	辻本泰貴，中村友昭， 木南佐織，津崎好美， 千原和夫
35	第57回日本糖尿病学会近畿地方会	アルツハイマー型認知症を伴う1型糖尿病患者へのリアルタイムCGMの活用	’20/10	Web	診療部及び看護部 糖尿病・内分泌内科	津崎好美，真城真弓， 大岩明日香，辻本泰貴， 中村友昭，千原和夫

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
36	第93回日本内分泌学会学術集会	糖質コルチコイドによる正のフィードバック機構の関与が想定されるクッシング病	’20/7	Web	診療部 糖尿病・内分泌内科	辻本泰貴，志智大城，福岡秀規，中村友昭，神澤真紀，石田敦士，山田正三，小川　渉，高橋　裕，千原和夫
37	第229回日本内科学会近畿地方会	急性心不全を契機に発見された先端巨大症の一例	’20/9	Web	診療部 糖尿病・内分泌内科	辻本泰貴，中村友昭，近都正章，佐野暢哉，谷口理章，神澤真紀，千原和夫
38	第63回日本糖尿病学会年次学術集会	免疫チェックポイント阻害薬による非小細胞肺癌の治療中に異なった発症様式および病態を示した1型糖尿病の2症例	’20/10	Web	診療部 糖尿病・内分泌内科	辻本泰貴，中村友昭，隅田健太郎，畠山由紀久，大西　尚，千原和夫
39	第63回日本糖尿病学会年次学術集会	外来糖尿病患者におけるiCGM導入後のHbA1c，体重の変化に関する検討	’20/10	Web	診療部 糖尿病・内分泌内科	中村友昭，辻本泰貴，千原和夫
40	第30回臨床内分泌代謝Update	大動脈解離を合併した原発性両側副腎皮質大結節性過形成の家族例	’20/11	Web	診療部 糖尿病・内分泌内科	辻本泰貴，中村友昭，小畠正樹，福岡秀規，重村克己，藤澤正人，神澤真紀，森本晶子，千原和夫
41	第30回臨床内分泌代謝Update	クッシング病術後に精神症状を生じた1例	’20/11	Web	診療部 糖尿病・内分泌内科	鈴木正暉，山本雅昭，堀本誠也，木村　敦，石田敦士，山田正三，辻本泰貴，千原和夫，福岡秀規，小川　渉
42	第30回臨床内分泌代謝Update	当院で妊娠出産管理を行った21-水酸化酵素欠損症合併妊娠の一例	’20/11	Web	診療部 糖尿病・内分泌内科	中村友昭，辻本泰貴，千原和夫
43	第21回日本内分泌学会近畿支部近畿支部学術集会	肩関節鏡下術の術後に高血圧クリーゼによるカテコラミン心筋症の低心機能を発症した褐色細胞腫の症例	’20/11	Web	診療部 糖尿病・内分泌内科	辻本泰貴，中村友昭，千原和夫
44	第120回日本外科学会定期学術集会	当院における保存的加療を施行した急性胆嚢炎症例の経過	’20/8	Web	診療部 外科	沢　秀博，吉永　駿，中西　崇，安藤正恭，福田善之，水田憲利，常見幸三，小管浩文，豊川晃弘
45	第120回日本外科学会定期学術集会	当院における85歳以上の超高齢者大腸癌手術症例の検討	’20/8	Web	診療部 外科	水田憲利，吉永　駿，中西　崇，安藤正恭，福田善之，沢　秀博，常見幸三，小管浩文，豊川晃弘
46	第75回日本消化器外科学会総会	急性胆嚢炎に対するEGBS留置後の大気的腹腔鏡下胆嚢摘出術の検討	’20/12	Web	診療部 外科	沢　秀博，中西　崇，安藤正恭，福田善之，水田憲利，常見幸三，小管浩之，豊川晃弘
47	第75回日本消化器外科学会総会	当院における切除不能進行・再発胃癌に対する免疫チェックポイント阻害薬の使用経験	’20/12	Web	診療部 外科	水田憲利，中西　崇，安藤正恭，福田善之，沢　秀博，常見幸三，小管浩文，豊川晃弘
48	第73回日本胸部外科学会定期学術集会	適応拡大を主眼においた胸腔鏡下僧帽弁手術の標準化	’20/10	Web	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真
49	第25回日本Advanced Heart &Vascular Surgery/OPCAB研究会	胸腔鏡下僧帽弁手術のセットアップ	’20/12	東京都	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真
50	第63回関西胸部外科学会学術集会	心室中部閉塞性肥大型心筋症による難治性心室頻拍に対し，心外膜アブレーションおよび心筋切除術が著効した1例	’20/8	Web	診療部 心臓血管外科	渡邊俊貴

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
51	第50回日本心臓血管外科学会学術総会	Type2エンドリーク予防目的の術中腰動脈塞栓を施行した腹部ステントグラフと内挿術	’20/8	Web	診療部 心臓血管外科	渡邊俊貴
52	第69回神戸心臓外科研究会	三尖弁弁輪形成術後に右冠動脈狭窄を来した一例	’20/11	Web	診療部 心臓血管外科	川端　良
53	胸部外科学会	デジタル胸腔ドレナージシステムによる肺葉切術/区域切除術後の胸腔内圧設定についての検討	’20/4	Web	診療部 呼吸器外科	三井　卓
54	第134回中部日本整形外科災害外科学会	当院におけるリスフラン関節脱臼骨折の治療成績	’20/4	Web	診療部 整形外科	重本理花
55	第93回日本整形外科学術総会	大腿骨頚部骨折Garden分類stage1に対する骨接合後の骨頭壊死 - 外反変形には整復が必要か -	’20/6	Web	診療部 整形外科	脇　貴洋
56	第46回骨折治療学会学術集会	非転位型大腿骨頚部骨折に対する整復の重要性：Garden分類stage1の骨頭壊死率と外反変形の関係性	’20/9	Web	診療部 整形外科	脇　貴洋
57	第46回骨折治療学会学術集会	当院における小児上腕骨顆上骨折の治療成績	’20/9	Web	診療部 整形外科	重本理花
58	第46回骨折治療学会学術集会	大腿骨頸部骨折におけるHansson Pinloc Systemを用いた骨接合術後の大腿外側部痛に関する検討	’20/9	Web	診療部 整形外科	飯盛信哉
59	第49回日本脊椎脊髄病学会学術集会	当院における化膿性脊椎炎の治療-手術に至る危険因子の検討-	’20/9	Web	診療部 整形外科	矢野智則
60	第22回日本骨粗鬆症学会	テリパラチド週2製剤（テリボンオートインジェクター®）の使用経験～入院時導入の意義とその有用性～	’20/10	Web	診療部 整形外科	脇　貴洋
61	OTA2020 Annual Meeting（アメリカ学会）	Relationship Between Femoral Head Osteonecrosis and Posterior Tilt and/or Valgus Deformity in Garden I Femoral Neck Fracture in Elderly Patients: Let’s Do Reduction for Nondisplaced Femoral Neck Fractures	’20/10	Web	診療部 整形外科	脇　貴洋
62	第135回中部日本整形外科災害外科学会	骨形成不全症に伴う小児肘頭骨折の1例	’20/10	Web	診療部 整形外科	横田和斗
63	第72回日本産科婦人科学会学術講演会	当初卵巣癌と診断されたが後日悪性リンパ腫と判明した2症例	’20/4	Web	診療部 産婦人科	宮原義也
64	第72回日本産科婦人科学会学術講演会	妊娠32週緊張性血胸を契機に診断された，遺伝性出血性末梢血管拡張症の1例	’20/4	Web	診療部 産婦人科	堀　聖奈
65	第60回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	①子宮内外同時妊娠に対し腹腔鏡手術を行い生児を得た1例 ②腹腔鏡下手術で治療しその後生児を得ることができた卵管間質部妊娠の1例 ③双胎妊娠に合併した熟成のう胞性奇形腫の1例	’20/12	Web	診療部 産婦人科	林田恭子
66	第60回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	①砕石位での腹腔鏡手術後に発症した両下腿コンパートメント症候群の一例 ②広間膜腔内に発育した子宮内膜症性嚢胞の一例	’20/12	Web	診療部 産婦人科	江島有香
67	第25回日本心臓血管麻酔学会学術大会	上行大動脈人工血管置換術後のグラフト内血栓に対して人工心肺補助下に血栓除去術を施工した一例	’20/9	Web	診療部 麻酔科	濱崎　豊
68	第26回日本心臓血管麻酔学会学術大会	感染性心内膜炎・僧帽弁置換術後の房室間溝部左室仮性瘤に対して左室仮性瘤パッチ閉鎖術を施行した一例	’20/9	Web	診療部 麻酔科	松岡基行

論文発表 (2020/1/1～2020/12/31)

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	部署名	著　者
1	Asia Pacific Family Medicine	Heckerling's criteria to distinguish community-acquired pneumonia in a Japanese primary care setting: observational Study	18(2)	2020	診療部 総合内科	石丸直人
2	Journal of general and family medicine	Hypothermia in a Japanese subtropical climate: Retrospective validation study of severity score and mortality prediction	21	134-139, 2020	診療部 総合内科	石丸直人
3	An Official Journal of the Japan Primary Care Association	Learning from Clinical Research Experience in a Community Hospital - How to Continue Clinical Research in a Community Hospital	43	151-154, 2020	診療部 総合内科	石丸直人
4	日本呼吸器学会誌	市中肺炎におけるmultiplex PCR法を用いた非定型肺炎病原体の予測	9 (増刊)	149, 2020	診療部 総合内科	石丸直人
5	Journal of hospital medicin	Patient Preferences for Physician Attire: A Multicenter Study in Japan	15	204-210, 2020	診療部 総合内科	多施設研究共著 （石丸直人）
6	J Gen Fam Med	Physicians' prediction for the assessment of atypical pathogens in respiratory tract infections	21	226-234, 2020	診療部 総合内科	多施設研究共著 （石丸直人，木南佐織）
7	Cancer Management and Research	Feasibility Study of Adjuvant Chemotherapy with Carboplatin and Nab-Paclitaxel for Completely Resected NSCLC	12	777-782, 2020	診療部 呼吸器内科	Naoko Katsurada, Motoko Tachihara, Yukihisa Hatakeyama, Kiyoko Koyama, Masako Yumura, Tatsunori Kiriu, Ryota Dokuni, Daisuke Hazama, Shuntaro Tokunaga, Daisuke Tamura, Kyosuke Nakata, Masatsugu Yamamoto, Hiroshi Kamiryo, Kazuyuki Kobayashi, Yugo Tanaka, Yoshimasa Maniwa, Yoshihiro Nishimura
8	呼吸臨床	間質性肺炎との鑑別に苦慮したChiari奇形に伴う慢性誤嚥性肺炎の1例	4(7)	1-6, 2020	診療部 呼吸器内科	吉岡潤哉，大西　尚， 二ノ丸　平，畠山由記久， 岡村佳代子，吉村　将
9	日本呼吸器学会誌	高アンモニア血症，意識障害をきたした膿胸の1例	9	379-382, 2020	診療部 呼吸器内科	吉岡潤哉，大西　尚， 畠山由記久， 岡村佳代子， 吉村　将，秦　明登
10	N Engl J Med.	ELDERCARE-AF Committees and Investigators. Low-Dose Edoxaban in Very Elderly Patients with Atrial Fibrillation.	383	1735-1745, 2020	診療部 循環器内科	Okumura K, Akao M, Yoshida T, Kawata M, Okazaki O, Akashi S, Eshima K, Tanizawa K, Fukuzawa M, Hayashi T, Akishita M, Lip GYH, Yamashita T
11	膵臓	high risk stigmataを有するIPMN経過観察焦慮委の予後からみたガイドラインの検証	35(3)	2020	診療部 消化器内科	酒井　新[1)]，古松恵介 1) 神戸大学
12	日本内分泌学会雑誌	中枢性尿崩症で発症し1年半で汎下垂体機能低下症を来したIgG4関連下垂体炎の1例	96 Suppl. HPT	1-4, 2020	診療部 糖尿病・内分泌内科	辻本泰貴，中村友昭， 谷口理章，神澤真紀， 甲村英二，千原和夫

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	部署名	著　者
13	J Clin Endocrinol Metab	Cardiac Myxoma Caused by Fumarate Hydratase Gene Deletion in Patient With Cortisol-Secreting Adrenocortical Adenoma	105(6)	1957-1962, 2020	診療部 糖尿病・内分泌内科	Suda K, Fukuoka H, Yamazaki Y, Shigemura K, Mukai M, Odake Y, Matsumoto R, Bando H, Takahashi M, Iguchi G, Fujisawa M, Oka M, Ono K, Chihara K, Sasano H, Ogawa W, Takahashi Y
14	愛仁会医学研究誌	低身長を契機に診断された下垂体茎断裂症候群の1例	52	50-53, 2020	診療部 小児科	梁川裕司，藤井順子， 大西徳子，権東雅宏， 横山直樹
15	愛仁会医学研究誌	進行再発大腸がんへの薬物療法の変遷と進化	51	89-93, 2020	診療部 外科	豊川晃弘
16	Asia-Pacific journal of clinical oncology	A new monitoring tool CLIP test for progression of oxaliplatin-induced peripheral neuropathy: A multicenter prospective study	16	257-262, 2020	診療部 外科	Keiko Kamei, Tadashi Ohnishi, Ken Nakata, Katsuki Danno, Atsushi Ohkawa, Yasuhiro Miyake, Satoshi Okawaki, Mutsumi Fukunaga, Akihiro Toyokawa, Tetsuhito Hamada, Junichi Shindoh, Akiyoshi Kanazawa
17	日本心臓血管外科学会雑誌	Shaggy aortaを伴う解離性大動脈瘤に対する二期的ハイブリッド手術を施行した一例	50	44-48, 2020	診療部 心臓血管外科	渡邊俊貴
18	骨折	大腿骨転子下骨折に対するロングガンマネイルの治療成績	42(4)	1244-1247, 2020	診療部 整形外科	黒島康平
19	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	当院におけるリスフラン関節脱臼骨折の治療成績	63(6)	873-874, 2020	診療部 整形外科	重本理花
20	骨折	当院における逆行性髄内釘を用いた60歳以上の高齢者大腿骨遠位部骨折の治療成績	42(3)	1008-1012, 2020	診療部 整形外科	安喰健祐
21	骨折	Hansson pinlocを用いた大腿骨頸部骨折の骨接合術の治療成績（前向き調査での中期報告）	42(3)	919-922, 2020	診療部 整形外科	松島真司

著書発表 (2020/1/1～2020/12/31)

No.	著　書　名	出版社・地名	版・刷	掲載頁，年	部署	著　者
1	【症例から学ぶ栄養素欠乏　小粒だけど大事なあいつ】症例クイズ　解決しない古代病	南山堂/東京	102(2)	144-145, 2020	診療部 総合内科	水木真平
2	Clinician Update ： ホスピタリストが押さえておくべき20論文をセレクト．Hospitalist	メディカルサイエンスインターナショナル/東京	8(1)	188-195, 2020	診療部 総合内科	官澤洋平，石丸直人
3	Clinician Update ： ホスピタリストが押さえておくべき20論文をセレクト．Hospitalist	メディカルサイエンスインターナショナル/東京	8(2)	338-345, 2020	診療部 総合内科	官澤洋平，石丸直人
4	Clinician Update ： ホスピタリストが押さえておくべき20論文をセレクト．Hospitalist	メディカルサイエンスインターナショナル/東京	8(3)	584-591, 2020	診療部 総合内科	官澤洋平，石丸直人
5	Clinician Update ： ホスピタリストが押さえておくべき20論文をセレクト．Hospitalist	メディカルサイエンスインターナショナル/東京	8(4)	928-935, 2020	診療部 総合内科	官澤洋平，石丸直人
6	Shared Decision Making（共同意思決定）を中動態の視点で考える（特集 摂食・嚥下障害の意思決定支援）（摂食・嚥下の意思決定モデルにもいろいろある）	南山堂/東京	102(7)	842-846, 2020	診療部 総合内科	官澤洋平

No.	著　書　名	出版社・地名	版・刷	掲載頁，年	部署	著　者
7	病院総合医チームPresents 実践!使える論文 My Top 5 ： 高齢者入院診療編	プライマリ・ケア ： 実践誌/大阪	5(2)	64-66, 2020	診療部 総合内科	官澤洋平
8	これまでの誤嚥性肺炎診療の歴史. 大浦誠（編）終末期の肺炎	南山堂/東京	1	2-7, 2020	診療部 総合内科	官澤洋平
9	In The Clinic: Acute colonic diverticulitis（翻訳）	Annals of internal medicine/アメリカ	168	ITC65-80, 2020	診療部 総合内科	官澤洋平
10	In The Clinic: Heart failure（翻訳）	Annals of internal medicine/アメリカ	168	ITC81-96, 2020	診療部 総合内科	官澤洋平，水木真平
11	In The Clinic: Clostridioides difficile Infection（翻訳）	Annals of internal medicine/アメリカ	169	ITC49-64, 2020	診療部 総合内科	官澤洋平
12	In The Clinic: Parkinson Disease（翻訳）	Annals of internal medicine/アメリカ	169	ITC81-96, 2020	診療部 総合内科	官澤洋平，水木真平

その他（2020/1/1～2020/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
1	CPVS（Clinical Physiology of Vital Signs）	第52回CPVS（Clinical Physiology of Vital Signs）講習会	’20/6	Web	診療部 総合内科	河野　圭
2	CPVS（Clinical Physiology of Vital Signs）	第53回CPVS（Clinical Physiology of Vital Signs）講習会	’20/9	Web	診療部 総合内科	河野　圭
3	神戸肺高血圧研究会		’20/2	神戸市	診療部 呼吸器内科	大西　尚
4	神戸新聞　奥様手帳	じわじわと進行する肺MAC症	’20/4	神戸新聞社	診療部 呼吸器内科	畠山由記久
5	Lung Cancer Online Seminar	EGFR遺伝子変異陽性肺癌治療アップデート　closing remarks	’20/7	明石市	診療部 呼吸器内科	大西　尚
6	神戸新聞　健康つうしん	過敏性肺炎を知っていますか	’20/7	神戸新聞社	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
7	Lung Cancer Online Seminar	EGFR遺伝子変異陽性肺癌治療アップデート～オシメルチニブが果たす役割	’20/7	Web	診療部 呼吸器内科	大西　尚
8	NonCommunicable Diseases Conference in Akashi on-line	糖尿病治療の最新の話題　心房細動治療 UP TO DATE　COVID-19に関する話題提供	’20/9	Web	診療部 呼吸器内科	大西　尚
9	Lung Cancer Zoom Seminar in AKASHI	小細胞肺癌の治療の変遷	’20/10	Web	診療部 呼吸器内科	大西　尚
10	第13回播磨喘息連携研究会	日常診療におけるトリプル製剤の早期投与の意義について	’20/10	Web	診療部 呼吸器内科	大西　尚
11	Lung Cancer Online Symposium in Kobe	肺臓炎の管理ポイント	’20/12	Web	診療部 呼吸器内科	畠山由記久
12	第31回びまん性肺疾患勉強会		’20/12	Web	診療部 呼吸器内科	大西　尚

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
13	LC Web liveセミナーin Hyogo	非小細胞肺癌の治療戦略	’20/12	Web	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
14	Akashi Medical Conference on Lung Cancer	免疫チェックポイント阻害薬による皮膚障害マネジメント	’20/12	Web	診療部 呼吸器内科	大西　尚
15	第35回CVIT近畿地方会	Young Investigator Award（YIA）症例検討①（コメンテーター）	’20/10	Web	診療部 循環器内科	河田正仁
16	KCJL2020	Live 6 Peripheral―（コメンテーター）	’20/12	大阪市	診療部 循環器内科	河田正仁
17	Virtual lecture in St. Luke’s Quezon city	Underwater EMR	’20/7	Web	診療部 消化器内科	石田　司
18	内視鏡治療懇話会	胃粘膜下腫瘍に対する内視鏡的胃全層切除術の経験	’20/11	神戸市	診療部 消化器内科	石田　司
19	第105回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	座長	’20/12	京都市	診療部 消化器内科	石田　司
20	1st VIRTUAL SUMMIT Diagnosis and Treatment of Colorectal Polyps	How should we do ESD procedures	’20/12	Web	診療部 消化器内科	石田　司
21	Renal onlin seminar in Kobe	猛暑を契機としたRA系阻害薬による高カリウム血症が疑われた症例	’20/10	神戸市	診療部 腎臓内科	米倉由利子
22	Lokelma Online Symposium	高カリウム血症の新たな潮流	’20/10	Web	診療部 腎臓内科	米倉由利子
23	中外製薬社内勉強会	コロナ下の消化器癌治療	’20/4	神戸市	診療部 外科	豊川晃弘
24	大鵬薬品社内勉強会	コロナ下の消化器癌治療	’20/10	神戸市	診療部 外科	豊川晃弘
25	神戸消化器癌フォーラム2020	胃癌に対する最新集学的治療	’20/11	神戸市	診療部 外科	豊川晃弘
26	外科医のための化学療法講座～大腸癌編～	進行・再発大腸癌化学療法における 有効な薬剤を使い切るコツ	’20/12	Web	診療部 外科	豊川晃弘
27	第50回日本心臓血管外科学会総会	エキスパートが分析する「術中危機的状況」（座長・その他）	’20/8	福島市	診療部 心臓血管低浸襲治療センター	岡本一真

井上病院

口頭発表 (2020/1/1～2020/12/31)

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
1	透析　Web Live Seminar ～カルニチン療法の適正使用を考える～	運動と栄養で改善する透析患者の予後 -カルニチンの効果も含めて-	’20/7	Web	診療部 内科	辻本吉広
2	第4回日本CKD-MBD研究会 学術集会・総会	血液透析患者の血管石炭化と認知機能の推移との関連	’20/10	豊中市	診療部 内科	辻本吉広，庄司哲雄， 佐々木けやき，宮部美月， 園田実香，一居　充， 木津あかね，西澤良記， 絵本正憲，稲葉雅章
3	HIF-PHI 検討会 ～HIF-PHIを臨床に活かす～	当院における腎性貧血の新治療戦略	’20/10	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
4	阪神地区　透析WEBシンポジウム	当院における腎性貧血治療の新治療戦略	’20/10	Web	診療部 内科	辻本吉広
5	第65回日本透析医学会学術集会	運動習慣とn-3系多価不飽和脂肪酸摂取の透析患者の認知機能推移への影響	’20/11	Web	診療部 内科	辻本吉広
6	第65回日本透析医学会学術集会	透析病院での災害対策	’20/11	Web	診療部 内科	辻本吉広
7	令和2年度大阪府医師会医学会総会	血液透析患者における血管石炭化と認知機能の関連についての検討	’20/11	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
8	LOKELMA　新発売記念WEB講演会	明日をかえる腎臓病治療＆いつまでも元気にプロジェクト	’20/11	Web	診療部 内科	辻本吉広
9	第31回日本老年医学会近畿地方会	高齢透析患者への多職種での取り組み -いつまでも元気にプロジェクト-	’20/11	Web	診療部 内科	辻本吉広
10	慢性腎臓病WEBカンファレンス	透析患者の健康寿命延命をめざして -いつまでも元気にプロジェクト-	’20/12	吹田市	診療部 内科	辻本吉広
11	夜間頻尿診療セミナー	井上病院のAST，ICTの活動	’20/10	大阪市	診療部 消化器内科	大北恭平
12	第63回日本甲状腺学会学術集会	バセドウ病の治療中に減量目的のため過剰な筋力トレーニングを行い横紋筋融解症を来した一例	’20/11	Web	診療部 消化器内科	大野恭太
13	Dialysis Online Symposium	透析患者の処方を再考する	’20/10	Web	診療部 透析内科	下村菜生子
14	第6回北大阪フットケア勉強会 in Web	CKD-MBD診療における鉄含有リン吸着薬 ～スクロオキシ水酸化鉄の役割～	’20/10	Web	診療部 透析内科	福永　慎
15	第65回日本透析医学会学術集会	透析シャントの中心静脈狭窄，閉塞症例の検討	’20/11	Web	診療部 透析内科	福永　慎
16	Webライブセミナー	透析患者がいつまでも元気に過ごすためには～サルコペニア・睡眠・疲労への対策～	’20/12	吹田市	診療部 透析内科	下村菜生子
17	第63回日本糖尿病学会年次学術集会	糖尿病患者のeGFR経年的変化に影響する因子は腎機能によって変化する	’20/10	Web	診療部 糖尿病内科	木津あかね
18	第65回日本透析医学会学術集会	当院における過去45年間の維持血液透析患者の変遷	’20/11	Web	診療部 糖尿病内科	木津あかね
19	第65回日本透析医学会学術集会	当院の糖尿病透析患者でリラグルチド使用例における効果の検討	’20/11	Web	診療部 糖尿病内科	下村菜生子

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
20	第65回日本透析医学会学術集会	透析患者と非透析患者の誤嚥性肺炎の比較 ～リハ栄養をふまえて～	’20/11	Web	診療部 糖尿病内科	下村菜生子
21	第65回日本透析医学会学術集会	血液透析患者における血糖コントロール指標とサルコペニアとの関連	’20/11	Web	診療部 糖尿病内科	土蔵尚子
22	第65回日本透析医学会学術集会	糖尿病血液透析患者におけるTime in rangeの検討	’20/11	Web	診療部 糖尿病内科	佐々木けやき
23	第65回日本透析医学会学術集会	血管石炭化と認知機能の変化との関連	’20/11	Web	診療部 糖尿病内科	宮部美月
24	Diabetes Online Conference	糖尿病性腎臓病を考慮した2型糖尿病の治療戦略	’20/11	Web	診療部 糖尿病内科	木津あかね
25	第2回地域で腎臓を守るための研究会in Web	当院における糖尿病透析予防外来の取り組み	’20/12	大阪市	診療部 糖尿病内科	木津あかね
26	CKD Webカンファレンス	令和の時代に考える腎専門病院のCKD保存期から透析期へのアプローチ	’20/4	Web	診療部 腎臓内科	藤原木綿子
27	CKD Webカンファレンス	オルケディア錠（HD/PD）の使用経験	’20/4	Web	診療部 腎臓内科	一居　充
28	ADPKD Webセミナー	多発性のう胞腎外来の立ち上げ ～現在そしてこれから～	’20/9	Web	診療部 腎臓内科	藤原木綿子
29	第65回日本透析医学会学術集会	オーバーナイト透析移行前後での疲労感の比較	’20/11	Web	診療部 腎臓内科	前田忠昭
30	第65回日本透析医学会学術集会	当院でのEPS発症頻度についての調査 ～412例のPD治療症例を振り返って～	’20/11	Web	診療部 腎臓内科	藤原木綿子
31	第65回日本透析医学会学術集会	シナカルセトからエボカルセトへの切り替え前後の比較検討	’20/11	Web	診療部 腎臓内科	一居　充
32	第65回日本透析医学会学術集会	維持血液透析患者における鉄代謝と生命予後の検討	’20/11	Web	診療部 腎臓内科	一居　充
33	第65回日本透析医学会学術集会	血液透析患者におけるVSRADと認知機能の関連	’20/11	Web	診療部 腎臓内科	園田実香
34	第65回日本透析医学会学術集会	人生100年時代におけるPDの利点を再考する	’20/11	Web	診療部 腎臓内科	一居　充
35	第65回日本透析医学会学術集会	血液透析患者における血清IGF-1低値と総死亡，心血管イベント発生およびその後の死亡との関連：DREAMコホート	’20/11	Web	診療部 腎臓内科	中舎璃乃
36	慢性腎臓病WEBカンファレンス	増え続けるCKD ～透析までの期間をのばすためには～	’20/12	吹田市	診療部 腎臓内科	藤原木綿子
37	RA online web conference	炎症・免疫コントロールとPRO改善のマリアージュ～患者に選ばれるリウマチ治療～	’20/6	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
38	Lilly RA Web Conference	炎症・免疫コントロールとPRO改善のマリアージュ～患者に選ばれるリウマチ治療～	’20/7	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
39	整形外科医の立場からリウマチ治療を考える会	炎症・免疫コントロールとPRO改善のマリアージュ～患者に選ばれるリウマチ治療～	’20/7	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
40	リウマチWebセミナー	Withコロナ時代におけるRA治療 ～患者に寄り添う治療を目指して～	’20/8	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
41	RA Web Seminar	Withコロナ時代におけるRA治療 ～患者に寄り添う治療を目指して～	’20/8	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
42	テリパラチドBS　ネット フォーラム	脆弱性骨折なき令和を目指して	’20/9	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
43	リウマチWebセミナー	Withコロナ時代におけるRA治療 ～患者に寄り添う治療を目指して～	’20/9	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
44	Eisai Immunology Web Seminar	コロナ禍におけるリウマチ治療薬の選択	’20/9	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
45	イベニティWEB講演会 in 大阪 -骨卒中を防ぐための治療戦略 -	脆弱性骨折なき令和をめざして ～ロモソズマブの有効性と安全性～	’20/9	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
46	リウマチWebセミナー	COVID-19環境下におけるRA治療	’20/9	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
47	ヒュミラインターネットライ ブセミナー	～withコロナ時代における新しい治療戦略 ～高齢RA患者のリスク低減を目指したアダ リムマブ単剤療法の可能性	’20/9	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
48	PADOCの会	痛みとトリガーポイントについて	’20/10	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
49	中国地区整形外科関節リウマ チセミナー	炎症・免疫コントロールとPRO改善のマリ アージュ ～患者に選ばれるリウマチ治療～	’20/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
50	リウマチWebセミナー	Withコロナ時代におけるRA治療 ～患者に寄り添う治療を目指して～	’20/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
51	第22回日本骨粗鬆症学会	ロモソズマブの有効性と安全性 ～310例の使用経験から～	’20/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
52	リウマチWebセミナー	COVID-19環境下におけるRA治療	’20/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
53	骨粗鬆症NEXT Web講演会	脆弱性骨折なき令和を目指して ～ロモソズマブの有効性と安全性～	’20/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
54	New Normal of Osteoporosis Treatment-脆弱性骨折の無い 人生100年時代を目指して-	脆弱性骨折なき令和を目指して ～ロモソズマブの有効性と安全性～	’20/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
55	リウマチWebセミナー	Withコロナ時代におけるRA治療 ～患者に寄り添う治療を目指して～	’20/10	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
56	第65回日本透析医学会学術集 会	骨粗鬆症を合併した透析患者に対するロモ ソズマブの短期安全性の検討	’20/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
57	第65回日本透析医学会学術集 会	骨粗鬆症を合併した透析患者に対するイバ ンドロネート注の短期成績	’20/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
58	第65回日本透析医学会学術集 会	関節リウマチを有する透析患者に対する生 物学的製剤ならびにJAK阻害剤による治療	’20/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
59	第65回日本透析医学会学術集 会	骨形成促進薬	’20/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
60	第65回日本透析医学会学術集 会	骨形成促進薬の骨量増加効果と安全性	’20/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
61	Osteoporosis Premium Seminar in NAGOYA	脆弱性骨折なき令和を目指して ～ロモソズマブの有効性・安全性～	’20/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
62	Lilly PsA Online Seminar	整形外科医からみたPsAの現状と治療	’20/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
63	SRG s Meeting～Suita Sustainable RA treatment GOALs～	関節リウマチで気をつけるべき事 ～安全性・ステロイド性OPについて～	’20/11	吹田市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
64	Osteoporosis Live Symposium	Withコロナ時代の骨粗鬆症治療	’20/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
65	Re-Bone NEXT Seminar in 城 東Ⅱ-脆弱性骨折の無い人生 100年時代を目指して-	脆弱性骨折なき令和をめざして ～ロモソズマブの有効性と安全性～	’20/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
66	リウマチWebセミナー	Withコロナ時代におけるRA治療 ～患者に寄り添う治療を目指して～	’20/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
67	住之江区医師会WEB講演会	脆弱性骨折なき令和をめざして ～ロモソズマブの有効性と安全性～	’20/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
68	Meet the JAK Expert ONLINE in Okayama	炎症・免疫コントロールとPRO改善のマリ アージュ～患者に選ばれるリウマチ治療～ [ディスカッションパート]リウマチとJAK	’20/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
69	イベニティWEB講演会 in 大阪 ～骨粗鬆症治療戦略最前線～	脆弱性骨折なき令和をめざして ～当院における骨粗鬆症治療戦略～	’20/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
70	リンヴォック適正使用推進イ ンターネットライブセミナー	リンヴォック適正使用について-JAK阻害薬 リンヴォックの適した症例とは-	’20/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
71	Osteoporosis Premium Seminar in 大阪	脆弱性骨折なき令和をめざして ～ロモソズマブの有効性・安全性～	’20/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
72	イベニティNEXTセミナー 愛媛 -人生100年時代を目指して, 健康寿命を考える-	脆弱性骨折なき令和をめざして ～ロモソズマブの有効性と安全性～	’20/12	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
73	リウマチWebセミナー	Withコロナ時代におけるRA治療 ～患者に寄り添う治療を目指して～	’20/12	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
74	RA Web Seminar	リウマチ治療 From 2020	’20/12	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
75	熊本骨粗鬆症WEB講演会	脆弱性骨折なき令和をめざして ～ロモソズマブの有効性と安全性～	’20/12	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
76	骨粗鬆症治療を考える会 in 能登～リモートでの新しいか たち～	脆弱性骨折なき令和をめざして ～ロモソズマブの有効性と安全性～	’20/12	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
77	Simponi Seminar for Health Care Professional Web Seminar 自分らしい毎日を，関節リウ マチ患者さんの手に	患者に寄り添う治療 -スタッフとのコミュニケーション-	’20/12	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
78	富山県骨粗鬆症Web講演会	脆弱性骨折なき令和をめざして ～ロモソズマブの有効性と安全性～	’20/12	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
79	Eisai Immunology Web Seminar	高齢者リウマチの概要と治療選択について	’20/12	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
80	第65回日本透析医学会学術集 会	非血栓性閉塞VAIVT後の経過	’20/11	Web	診療部 放射線科	森本　章
81	第65回日本透析医学会学術集 会	バスキュラーアクセス（PTA）（安全・確 実なVAIVTをめざして）	’20/11	Web	診療部 放射線科	森本　章

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市・方法	部署名	発表者
82	第24回日本透析アクセス医学会学術集会	バルーンカテーテルの変遷 VAIVTで生じる問題を回避する方法	’20/11	大阪市	診療部 放射線科	森本　章，福永　慎， 岩田　愛，三木優子， 中舎璃乃，藤原一郎， 谷村信宏，辻本吉広
83	第61回日本脈管学会総会	Distal bypassでの末梢側石炭化病変に対する内膜摘除術	’20/10	Web	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
84	第65回日本透析医学会学術集会	透析患者におけるバイパス末梢側石灰化病変に対する対策	’20/11	Web	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
85	第65回日本透析医学会学術集会	透析患者における末梢動脈疾患～予防・早期発見の重要性と治療課題～	’20/11	Web	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
86	第48回日本血管外科学会学術総会 第31回日本血管外科学会教育セミナー	透析患者CLIに対するdistal bypassでの末梢側石炭化病変に対する対策	’20/11	Web	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
87	第1回日本フットケア・足病医学会年次学術集会	透析CLI症例に対する遠位静脈cuffによる大腿-膝下膝窩動脈バイパスの経験	’20/12	横浜市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
88	第65回日本透析医学会学術集会	VAIVT抵抗性を示す肘部深部静脈交通枝の狭窄に対する肘部バイパス術の検討	’20/11	Web	診療部 外科	藤原一郎
89	第24回日本透析アクセス医学会学術集会	大腿静脈アプローチによる中心静脈狭窄ステント留置後にAVG再建をした一例	’20/11	大阪市	診療部 外科	藤原一郎
90	日本麻酔科学会第67回学術集会	安全な迅速導入のための酸素投与法の検討	’20/7	Web	診療部 麻酔科	稲田拓治
91	第65回日本透析医学会学術集会	透析・緩和ケアチーム発足の試み	’20/11	Web	診療部 麻酔科	稲田拓治
92	日本臨床麻酔学会第40回大会	段階的腹膜透析導入法の術後に肺水腫を発症し緊急透析を要した一例	’20/11	Web	診療部 麻酔科	坂本　元

論文発表（2020/1/1～2020/12/31）

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	部署名	著　者
1	大阪難病研究財団 平成29年度～平成30年度　研究報告集	糖尿病血液透析患者の持続血糖モニターによる新規血糖指標の探索		24-2-19 382-385	診療部 内科	佐々木けやき
2	腎と透析	自己血管内シャントの血栓閉塞VAIVT後の開存期間の検討	89巻別冊	135-138， 2020	診療部 放射線科	森本　章，山村みどり， 福永　慎，三木優子， 岩田　愛，大北恭平， 藤原一郎，大道武史， 辻本吉広
3	臨床透析	血行再建術　透析患者の救肢をめざす distal bypass	36(7)	684・48～ 690・54， 2020	診療部 心臓血管外科，外科	谷村信宏，藤原一郎， 山本浩詞，安宅啓二[1)] 1）住友病院血管内治療センター
4	愛仁会医学研究誌	繰り返す人工血管内シャントの血栓閉塞に対してPTFEパッチ形成術が有効であった1例	51	53-56， 2020	診療部 心臓血管外科，外科	谷村信宏
5	日本透析医学会雑誌	血液透析患者における前腕ループグラフト老朽化に対する皮弁形成グラフト部分置換術の有効性	53(6)	305-311， 2020	診療部 外科	藤原一郎
6	臨床麻酔	低心機能を伴う維持透析患者の麻酔管理-デクスメデトミジンを用いた鎮静と超音波ガイド下腕神経叢ブロックが奏功した2症例-	44(12)	1640- 1642，2020	診療部 麻酔科	坂本　元，稲田拓治， 花田論史

著書発表（2020/1/1～2020/12/31）

No.	著　書　名	出版社・地名	版・刷	掲載頁，年	部署	著　者
1	NURSINGRAPHICUS EX 疾患と看護⑧ 腎/泌尿器/内分泌・代謝	メディカ出版	第1版	43-55， 2020	診療部 内科	辻本吉広

その他（2020/1/1～2020/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
1	CKD Webカンファレンス	司会	’20/4	豊中市	診療部 内科	辻本吉広
2	夕刊フジ	【ブラックジャックを探せ】慢性腎臓病と糖尿病性腎臓病の治療に尽力	’20/7	産業経済新聞社	診療部 内科	辻本吉広
3	チーム医療	2020　VOL.36 NO.7　臨床透析	’20/7	日本メディカルセンター	診療部 内科	辻本吉広
4	北摂透析医療を考える会	座長	’20/9	豊中市	診療部 内科	辻本吉広
5	Dialysis Online Symposium	座長	’20/10	Web	診療部 内科	辻本吉広
6	第6回北大阪フットケア勉強会in Web	開会・閉会の挨拶	’20/10	Web	診療部 内科	辻本吉広
7	低亜鉛血症オンライン講演会	司会	’20/10	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
8	透析を受けている患者さんへ運動栄養睡眠を管理してサルコペニアの予防と疲労回復をはかりましょう	小野薬品工業株式会社　冊子	’20/11	小野薬品工業株式会社	診療部 内科　他	辻本吉広，下村菜生子， 藤原木綿子，松藤勝太， 李　寿恵，梅田　純
9	豊能医療圏CKDカンファレンス～地域で取り組む腎臓病対策～	座長	’20/11	豊中市	診療部 内科	辻本吉広
11	バフセオ錠新発売 ～腎性貧血治療の新たな選択肢～	座長	’20/11	Web	診療部 内科	辻本吉広
12	DKD Expert Web Conference ～豊能医療圏のDKD治療・連携推進に向けて～	座長	’20/11	Web	診療部 内科	辻本吉広
10	Baxter情報誌「スマイル」	巻頭特集　拡大スペシャル版　なんでも相談室	’20/12	バクスター株式会社	診療部 内科　他	辻本吉広，下村菜生子， 藤原木綿子，一居　充 看護部 上田恵利子，山崎由美， 白澤　瞳，竿谷留美
13	メディカルアフェアーズ医薬品への助言，提案，評価等	メディカルアドバイザー	’20/12	吹田市	診療部 内科	辻本吉広
14	第2回地域で腎臓を守るための研究会in Web	座長	’20/12	Web	診療部 内科	辻本吉広
15	大日本住友製薬株式会社　社内研修会	講師	’20/8	吹田市	診療部 糖尿病内科	木津あかね
16	メディカルアフェアーズ医薬品への助言，提案，評価等	メディカルアドバイザー	’20/12	吹田市	診療部 糖尿病内科	土蔵尚子
17	第344回臨床心臓病研修会	CKD保存期 ～透析における治療・連携～	’20/10	大阪市	診療部 腎臓内科	藤原木綿子

外部研修・研究実績

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
18	リンヴォック適正使用推進インターネットライブセミナー	座長	’20/11	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
19	リウマチWebセミナー	座長	’20/11	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
20	RA　Web　Seminar	司会	’20/12	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
21	熊本骨粗鬆症WEB講演会	座長	’20/12	Web	診療部 整形外科	佐藤宗彦
22	中外製薬　社内研修会	講師	’20/12	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
23	日本透析アクセス医学会	座長	’20/11	大阪市	診療部 放射線科	森本　章
24	大塚製薬　社内研修会	透析患者PADに対する対策	’20/10	吹田市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
25	第12回フットケア指導士認定試験	試験監督	’20/11	大阪市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
26	第1回日本フットケア・足病医学会年次学術集会	フットケア指導士交流集会　コメンテーター	’20/12	横浜市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏

医療業績集 2020

発行日　2022年12月31日
発行所　社会医療法人愛仁会
年報事務局
〒555-0001　大阪府大阪市
西淀川区佃2丁目2番46号
TEL (06) 6375-0660　FAX (06) 6375-0560
https://www.aijinkai.or.jp/

社会医療法人愛仁会
www.aijinkai